

神戸市 障がい者生活実態調査 調査結果報告書

令和8年6月

神戸市

<目次>

1 調査の概要	1
2 調査結果	3
(1) 回答者の属性等	3
(2) 障害の状況について	11
(3) 暮らしの状況について	17
(4) 施設の利用状況について	19
(5) 地域での生活・活動について	25
(6) 日常の外出や移動について	31
(7) 就労状況について	37
(8) 日中活動などについて	56
(9) 相談支援の利用について	61
(10) 障害のある人に対する差別や理解などについて	72
(11) 災害時のことについて	81
(12) 福祉サービスについて	89
(13) 消費生活について	91
(14) 障害児の状況	93
(15) 介助・介護・支援者の状況	98
(16) 意見・要望	104
3 調査結果まとめ	105
(1) 暮らしに関する結果と考察	105
(2) 就労についての結果と考察	107
(3) 相談支援についての結果と考察	108
(4) 差別・偏見についての結果と考察	109
(5) 災害対応などについての結果と考察	109
(6) 障がい児についての結果と考察	110

1 調査の概要

(1) 調査の目的

障害者基本法に基づく「神戸市障がい者保健福祉計画」、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく「第7期神戸市障がい福祉計画・第3期神戸市障がい児福祉計画」を一体的に策定した現在の「神戸市障がい者プラン」の計画期間は令和8年度までとなっていることから、令和8年度中に、新たな「神戸市障がい者プラン」を策定する予定としている。そのため、障害者の現在の生活状況、必要な福祉ニーズ、就労の状況・意識等、神戸市の障害者における様々な状況を把握し、新たな「神戸市障がい者プラン」策定の基礎資料の1つとすることを目的として本調査を実施した。

		令和 3年度 ~ 5年度	6年度 ~ 8年度	9年度 ~ 11年度	12年度 ~ 14年度
神戸市障がい者プラン	市町村障害者計画 (障害者基本法)	神戸市障がい者保健福祉計画		次期神戸市障がい者保健福祉計画	
	市町村障害福祉計画 (障害者総合支援法)	第6期神戸市 障がい福祉計画	第7期神戸市 障がい福祉計画	第8期神戸市 障がい福祉計画	第9期神戸市 障がい福祉計画
	市町村障害児福祉計画 (児童福祉法)	第2期神戸市 障がい児福祉計画	第3期神戸市 障がい児福祉計画	第4期神戸市 障がい児福祉計画	第5期神戸市 障がい児福祉計画

(2) 調査対象及び調査方法

身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、発達障害者（障害児を含む）から無作為抽出し、郵送による配布・回収でアンケート調査を実施した。

回答方法は、配布した紙の調査票を郵送で返送する方法のほか、インターネットでエクセルファイルをダウンロードし、メールで回答する方法も設定した。

(3) 回収状況

【調査時期】

令和7年10月～11月

【回収状況】

集計期間：令和7年12月1日到着分まで（投函期限：令和7年11月21日）

発送数	有効回答数	有効回答率
10,714	4,792 (うちメール回答 43)	44.7%

【調査対象別回収状況】

表 記		配布数	有効回答数	表 記		配布数	有効回答数
全体		10,714	4,792	重複障害（身体・療育・精神）		1,250	1,253
1	身体のみ	4,099	1,604	7	身体+知的	—	675
2	身体のみ（64 歳以下）	—	773	8	身体+精神	—	261
3	身体のみ（65 歳以上）	—	809	9	知的+精神	—	210
4	知的のみ	2,059	656	10	身体+知的+精神	—	107
5	精神のみ	2,000	710	11	難病	800	726
6	精神のみ（うち入院）	331	64	12	発達障害	75	639
				13	強度行動障害	100	92
				14	その他	—	293

※本調査の対象は、障害種別などの指標に基づき、それぞれの層で標本を無作為抽出する形で選んでいる。具体的には、身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、自立支援医療の精神通院受給者、また、複数の手帳等の所持者等から、年齢別のバランスなども配慮したうえで対象者を抽出している。

※調査は無記名で実施しており、配布時の対象者の障害種別等の区分は回答票から把握できないため、表中の有効回答数については、調査で障害種別等を聞く問の回答により集計している。そのため、配布数と有効回答数が直接対応していないことにより、配布数に対して有効回答数が上回っている区分がある。

集計にあたっては、以下の手帳所持・診断区分により基本クロス集計を行っている。

手帳所持・診断区分		表 記
1	問 6 で「身体障害者手帳」のみを回答	身体のみ
2	1 のうち年齢が 64 歳以下	身体のみ（うち 64 歳以下）
3	1 のうち年齢が 65 歳以上	身体のみ（うち 65 歳以上）
4	問 6 で「療育手帳」のみを回答	知的のみ
5	問 6 で「精神障害者保健福祉手帳」または「自立支援医療受給」のみを回答	精神のみ
6	5 のうち入院患者（問 11 で「病院」を回答）	精神のみ（うち入院）
7	問 6 で「身体障害者手帳」と「療育手帳」を回答	身体+知的
8	問 6 で「身体障害者手帳」と「精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給」を回答	身体+精神
9	問 6 で「療育手帳」と「精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給」を回答	知的+精神
10	問 6 で「身体障害者手帳」と「療育手帳」と「精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給」を回答	身体+知的+精神
11	問 6 で「特定医療費（指定難病）受給」「小児慢性特定疾病医療」を回答または問 7(1)で「公費負担対象外の特定疾患（難病）」を回答	難病
12	問 7(1)で「発達障害（神経発達症）」を回答	発達障害
13	問 7(1)で「強度行動障害」を回答	強度行動障害
14	問 6 で手帳・受給者証の回答がなく、11、12 に該当しないもの	その他

（4） 報告書の見方

- ・図表中の数値については、割合を表す数値はすべて％であり、単位の表示は省略している。
- ・割合を表す数値については、四捨五入により小数点以下第 1 位までの表示としており、見かけの合計値が 100％にならない場合がある。
- ・集計に用いた標本数は図表中に「n＝」と表示している。
- ・集計にあたり、選択肢を選ぶ設問で無回答だったものについては、「無回答」カテゴリーに区分して集計を行っている。
- ・図表中、帯グラフについては、煩雑になることを避けるために、基本的に 3％未満の数値の表示を省略している。

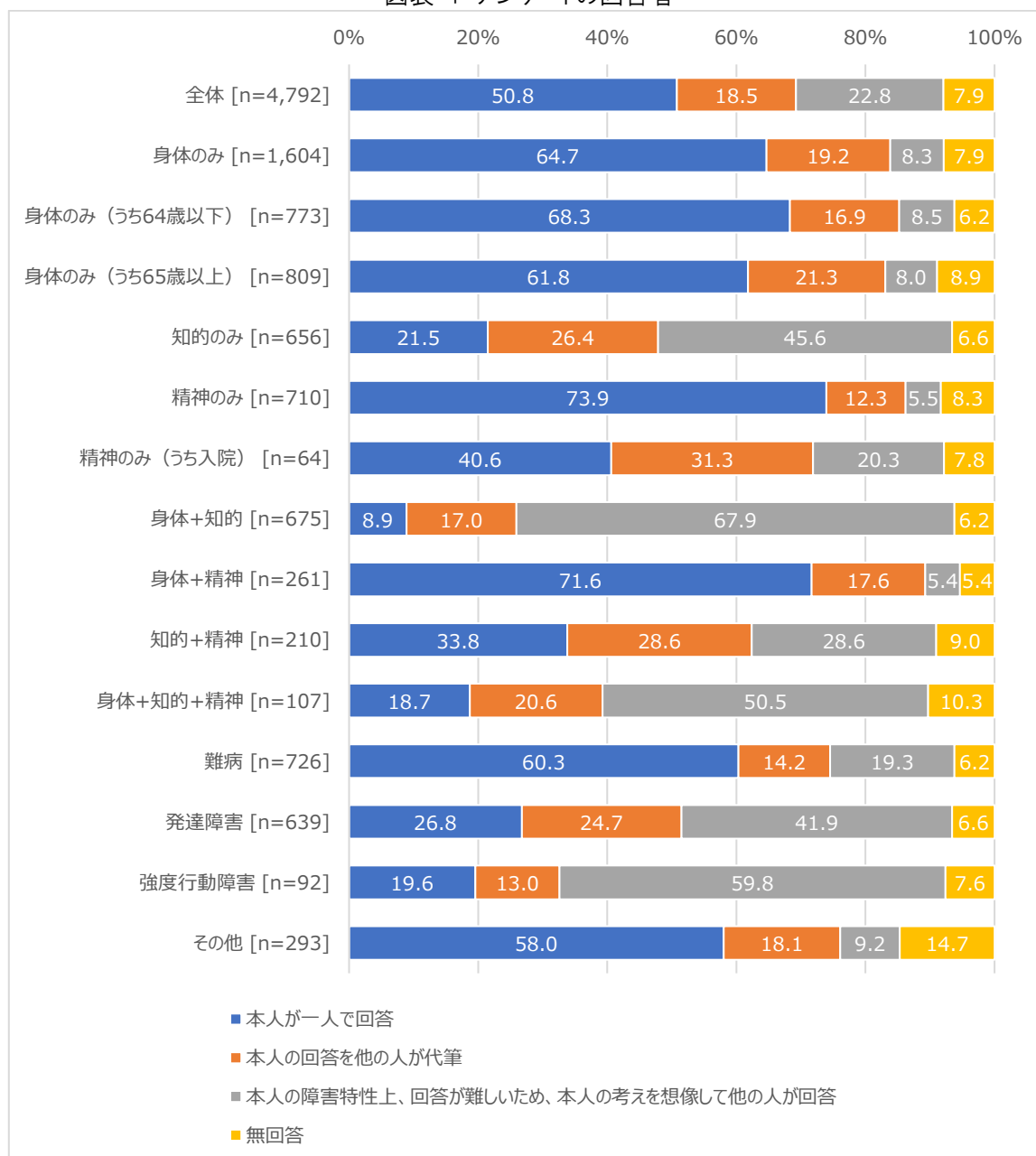
2 調査結果

(1) 回答者の属性等

① アンケートの回答者

アンケートの回答者は、「本人が一人で回答」が 50.8%、「本人の障害特性上、回答が難しいため、本人の考えを想像して他の人が回答」が 22.8%、「本人の回答を他の人が代筆」が 18.5%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体+知的」等で「本人の障害特性上、回答が難しいため、本人の考えを想像して他の人が回答」の割合が高くなっている。

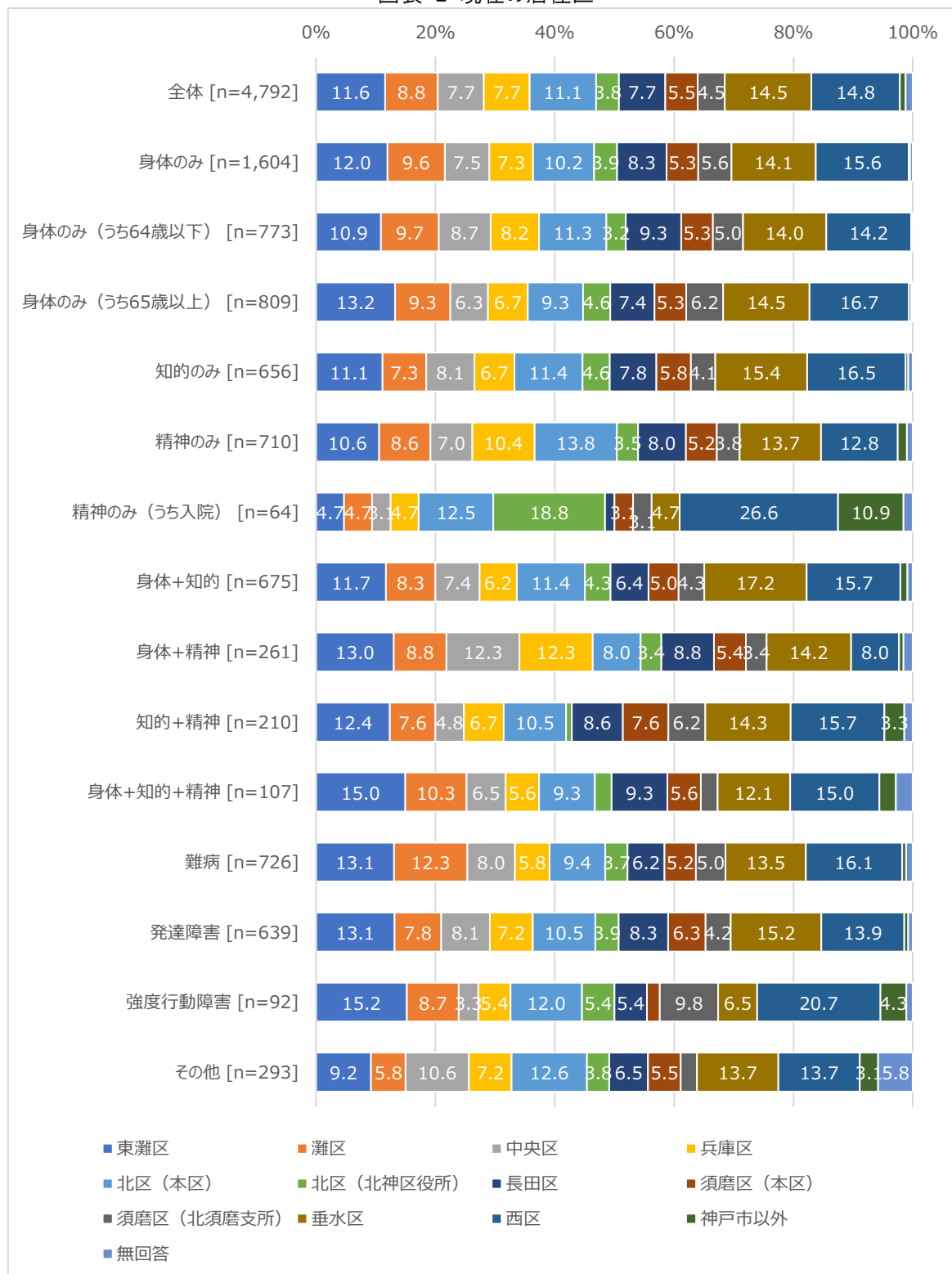
図表 1 アンケートの回答者



②現在の居住区

現在の居住区は、「西区」が 14.8%、「垂水区」が 14.5%、「東灘区」が 11.6%、「北区（本区）」が 11.1%等となっている。

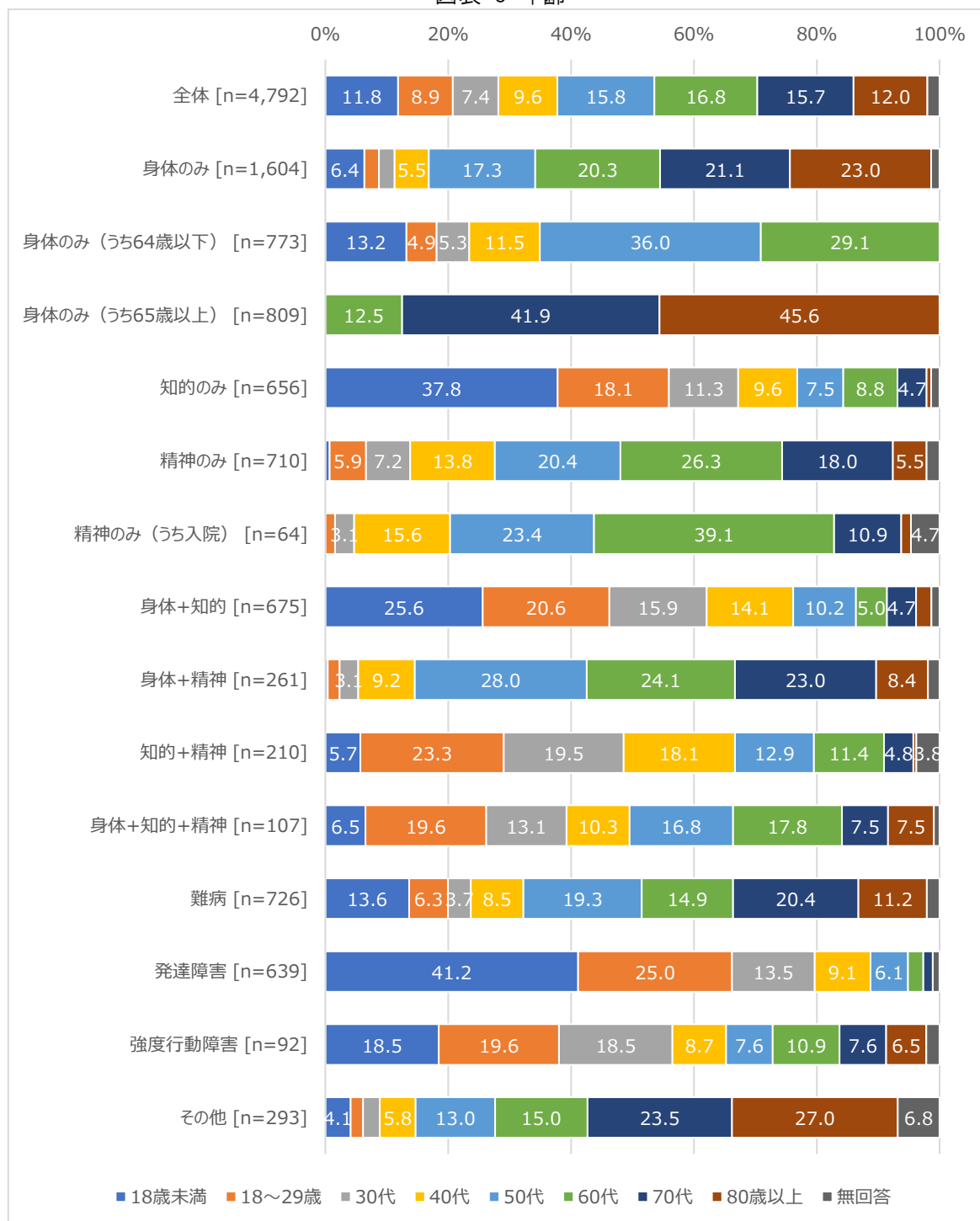
図表 2 現在の居住区



③年齢

対象者の年齢は、「60代」が16.8%、「50代」が15.8%、「70代」が15.7%等で、50代以上の割合が高くなっている。手帳所持・診断区分で見ると、「発達障害」「知的のみ」「身体+知的」で「18歳未満」の割合が高くなっている。

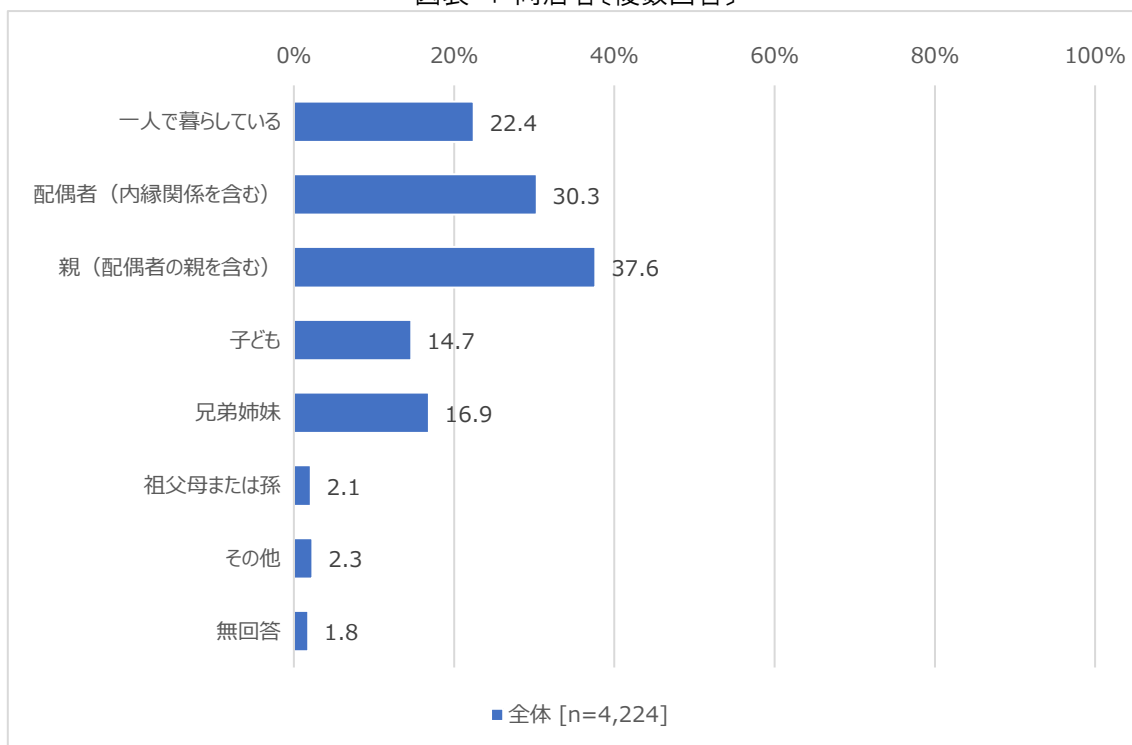
図表 3 年齢



④同居者

同居者は、「親（配偶者の親を含む）」が 37.6%、「配偶者（内縁関係を含む）」が 30.3%、「兄弟姉妹」が 16.9%等となっている。「一人で暮らしている」は 22.4%となっている。「精神のみ」「身体+精神」は「一人で暮らしている」割合が他の障害種別に比べて高くなっている。

図表 4 同居者〔複数回答〕

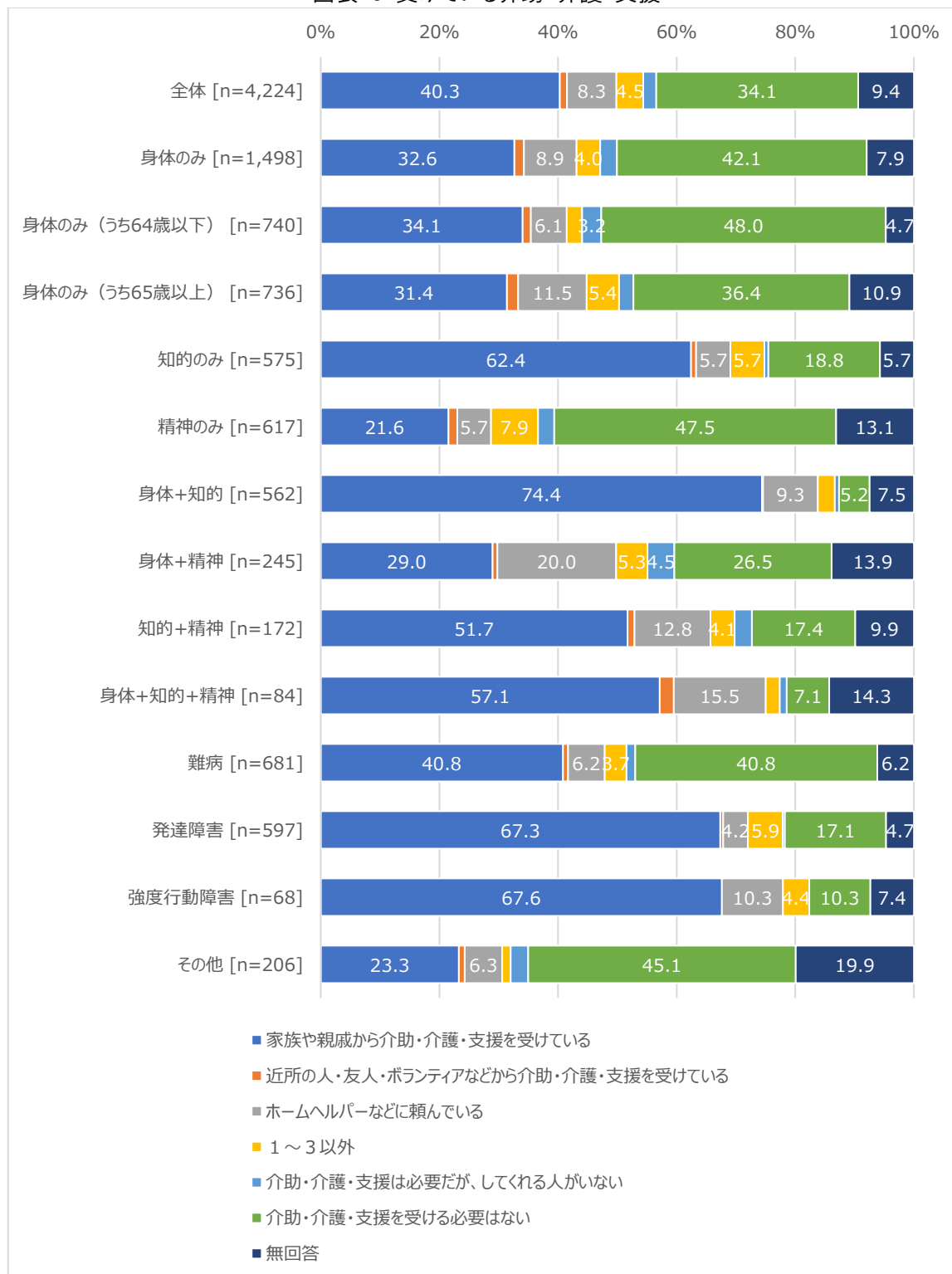


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,224	1,498	740	736	575	617	562	245	172	84	681	597	68	206
一人で暮らしている	22.4	25.3	21.9	29.1	8.7	36.3	6.8	37.1	22.7	21.4	16.0	7.5	8.8	31.6
配偶者（内縁関係を含む）	30.3	45.5	37.0	53.9	1.4	36.8	3.2	39.6	9.3	4.8	44.8	3.4	16.2	33.0
親（配偶者の親を含む）	37.6	18.6	35.9	1.1	82.8	21.1	81.1	11.0	59.9	57.1	31.7	85.1	66.2	14.6
子ども	14.7	22.3	20.8	23.8	1.6	17.7	1.2	14.7	4.1	3.6	20.9	2.5	4.4	21.8
兄弟姉妹	16.9	8.0	14.7	1.2	41.9	5.7	37.2	4.1	22.7	25.0	14.4	39.7	27.9	10.2
祖父母または孫	2.1	1.5	1.6	1.5	4.7	1.9	2.5	0.0	2.9	3.6	1.0	5.2	2.9	1.9
その他	2.3	1.7	1.6	1.5	3.1	0.6	4.3	3.3	1.2	8.3	0.7	1.5	4.4	4.4
無回答	1.8	1.5	1.1	1.6	1.2	1.6	1.6	1.6	3.5	3.6	1.3	1.5	1.5	5.8

⑤受けている介助・介護・支援

受けている介助・介護・支援については、「家族や親戚から介助・介護・支援を受けている」の割合が40.3%と高く、一方、「介助・介護・支援を受ける必要はない」が34.1%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体+知的」「発達障害」「強度行動障害」「知的のみ」等で「家族や親戚から介助・介護・支援を受けている」の割合が高くなっている。

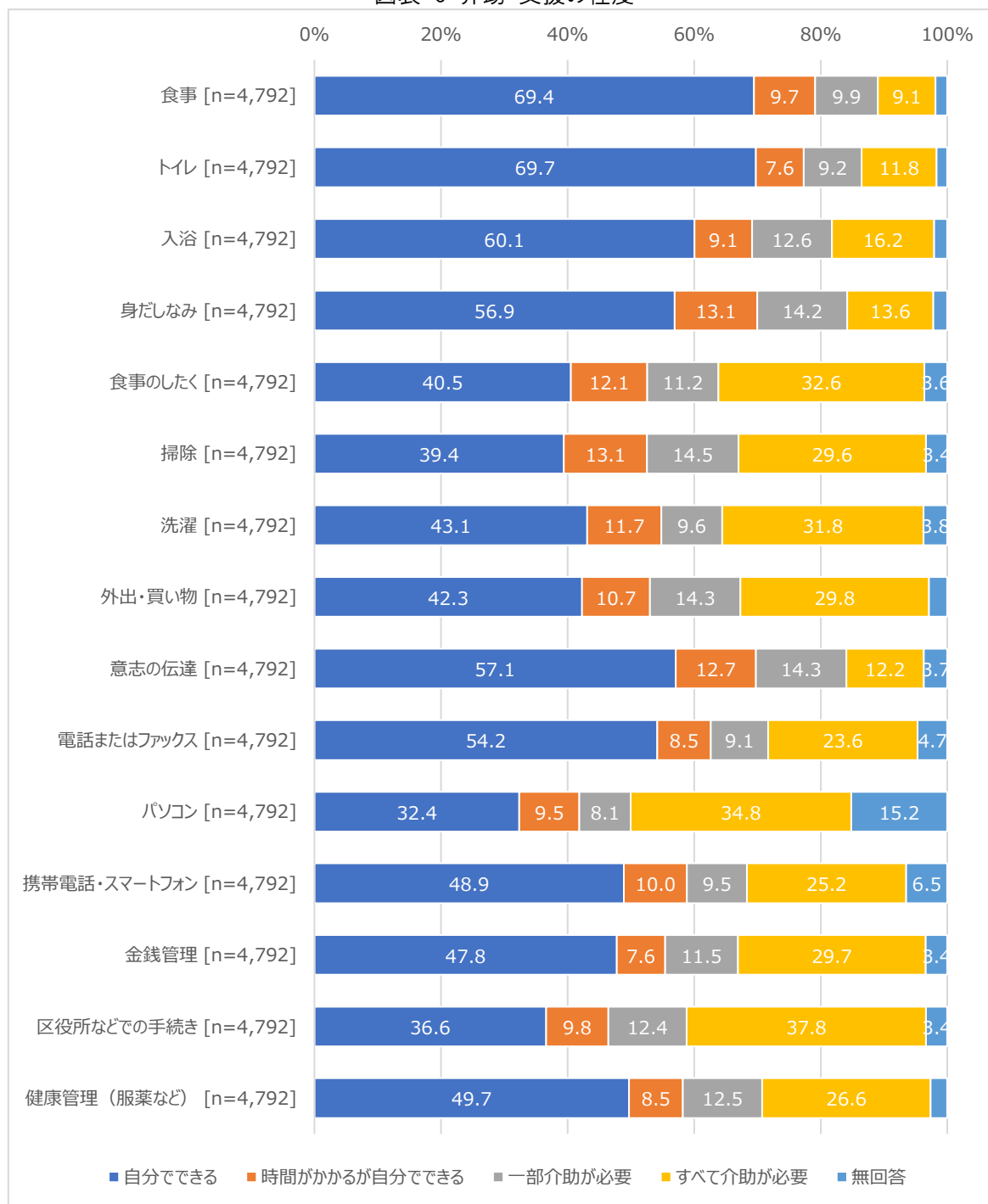
図表 5 受けている介助・介護・支援



⑥ 介助・支援の程度

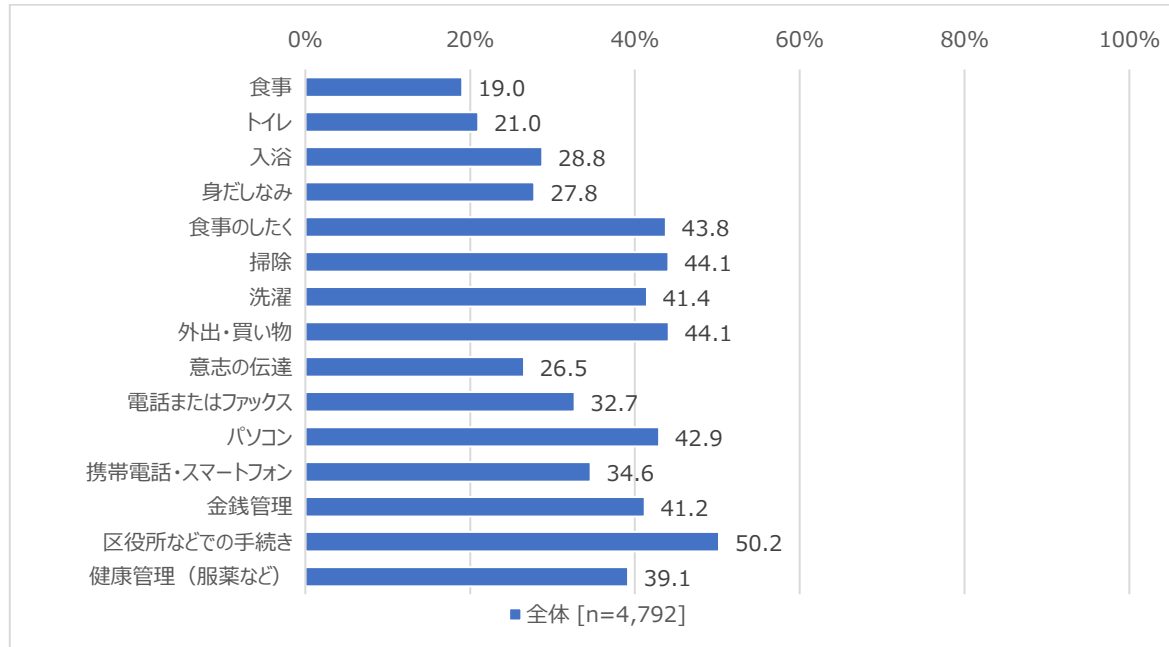
生活動作等の介助・支援の必要性の程度について聞いたところ、「食事」等では、「自分でできる」の割合が高くなっている。一方、「区役所などでの手続き」等については、「介助が必要（一部介助が必要・すべて介助が必要）」の割合が高くなっている。

図表 6 介助・支援の程度



介助・支援の程度について、「一部介助が必要」「すべて介助が必要」を回答した人の割合を、手帳所持・診断区分で見ると、「身体+知的」「強度行動障害」等で各項目の割合が高くなっている。また、年齢区分では、18 歳未満で割合が高く、高齢の年齢層では年齢が上がるほど割合の高くなる傾向が見られる。居住区分では、入所施設やグループホーム等の居住者で割合の高くなる傾向が見られる。

図表 7 介助・支援が必要(一部介助が必要・すべて介助が必要)の回答割合



手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
食事	19.0	11.8	11.0	12.6	19.8	5.4	20.3	61.0	12.3	13.8	44.9	22.5	23.6	54.3	7.8
トイレ	21.0	13.5	13.8	13.2	25.2	4.9	23.4	64.9	10.7	14.3	49.5	24.5	26.8	58.7	9.9
入浴	28.8	22.0	19.1	24.6	34.9	10.4	34.4	72.0	23.8	21.0	57.9	31.5	35.4	68.5	16.0
身だしなみ	27.8	18.5	17.7	18.8	39.0	10.3	28.1	72.6	16.9	26.7	57.0	28.0	40.8	73.9	13.0
食事のしたく	43.8	31.0	29.1	32.6	65.5	25.6	71.9	85.9	39.1	60.5	69.2	39.4	64.9	81.5	25.9
掃除	44.1	34.7	30.8	38.3	59.3	26.2	53.1	84.0	43.3	57.1	70.1	41.3	61.8	81.5	24.6
洗濯	41.4	30.9	28.8	32.8	63.0	19.7	54.7	84.3	36.0	47.6	63.6	39.5	65.4	80.4	24.9
外出・買い物	44.1	37.0	31.8	41.9	59.3	22.7	59.4	83.7	40.2	50.0	69.2	42.4	57.3	83.7	27.6
意志の伝達	26.5	11.3	10.9	11.5	47.9	10.3	23.4	71.7	13.0	44.8	49.5	22.5	48.8	69.6	9.6
電話またはファックス	32.7	19.5	17.9	20.9	55.3	14.2	46.9	78.4	16.9	41.9	58.9	28.4	54.3	73.9	16.7
パソコン	42.9	30.3	22.4	38.2	62.0	30.3	71.9	81.8	31.0	55.7	68.2	35.5	56.2	78.3	30.0
携帯電話・スマートフォン	34.6	23.3	16.3	30.2	52.1	19.6	68.8	76.1	20.7	39.0	56.1	29.5	45.5	73.9	23.9
金銭管理	41.2	23.1	21.2	25.0	72.3	25.1	71.9	87.1	23.8	64.8	72.9	32.8	72.3	80.4	21.5
区役所などでの手続き	50.2	35.3	30.5	40.2	83.4	29.2	75.0	92.1	38.3	71.4	74.8	39.4	80.8	82.6	33.4
健康管理（服薬など）	39.1	23.7	21.1	26.0	64.2	21.8	71.9	83.9	26.1	56.2	69.2	33.5	67.8	80.4	24.2

図表 8 介助・支援が必要(一部介助が必要・すべて介助が必要)の回答割合(年齢別)

年齢区分 (単位: %)	全体	18歳未満	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
n=	4,792	567	428	355	460	757	803	750	576
食事	19.0	40.0	35.0	27.0	22.6	11.0	9.8	10.0	14.8
トイレ	21.0	48.3	35.3	29.0	23.7	11.1	10.6	11.5	17.5
入浴	28.8	56.1	40.4	34.4	28.5	17.6	18.1	20.5	31.6
身だしなみ	27.8	56.6	47.4	40.3	29.3	17.6	15.4	15.5	23.8
食事のしたく	43.8	77.2	60.0	58.3	46.5	30.9	30.6	30.4	41.3
掃除	44.1	74.4	59.3	53.5	45.4	31.0	31.5	33.3	46.2
洗濯	41.4	80.4	57.9	55.2	41.3	27.3	25.9	29.3	40.5
外出・買い物	44.1	76.2	54.0	52.1	41.5	30.1	33.7	34.8	49.3
意志の伝達	26.5	58.2	48.6	45.6	29.1	17.0	11.8	12.3	17.2
電話またはファックス	32.7	70.2	53.0	46.8	32.2	19.2	17.4	18.4	30.6
パソコン	42.9	67.9	53.0	50.7	41.1	29.6	33.0	38.0	47.0
携帯電話・スマートフォン	34.6	61.6	43.0	41.7	31.3	22.3	25.4	26.3	40.6
金銭管理	41.2	81.1	62.6	59.2	45.4	25.8	26.4	25.7	33.7
区役所などでの手続き	50.2	90.5	73.8	64.8	50.7	32.9	33.0	36.3	50.3
健康管理(服薬など)	39.1	83.1	60.5	53.8	38.5	22.7	23.3	24.8	34.5

図表 9 介助・支援が必要(一部介助が必要・すべて介助が必要)の回答割合(居住形態別)

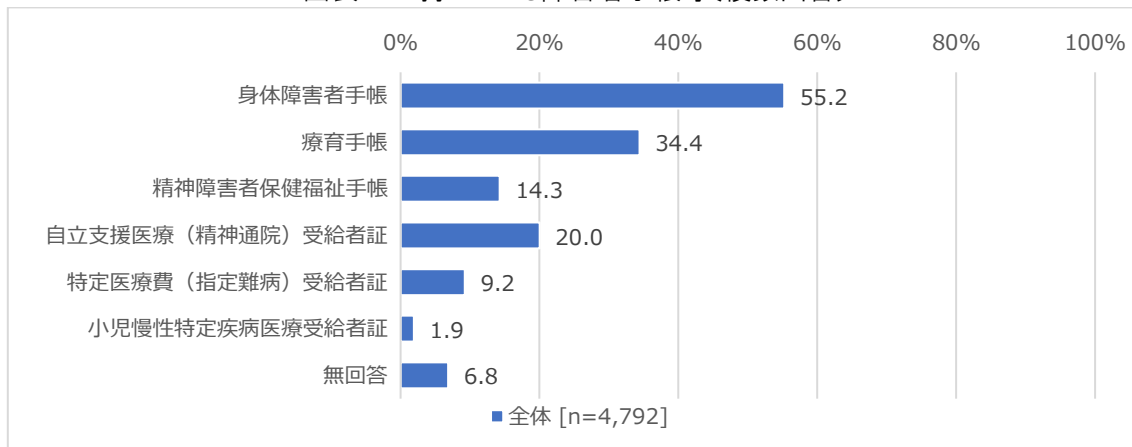
居住区分 (単位: %)	全体	持家	公社・公団(都市再生機構)などの賃貸住宅	市営住宅・県営住宅などの公営住宅	民間の賃貸住宅・借家	グループホーム	児童の入所施設	障害者支援施設	高齢者向け施設	救護施設	病院(精神科病院を含む)	その他
n=	4,792	2,738	203	501	695	121	10	100	110	17	171	43
食事	19.0	19.0	11.3	11.6	10.8	24.8	50.0	67.0	37.3	11.8	35.7	34.9
トイレ	21.0	19.9	15.3	12.0	12.1	32.2	70.0	72.0	61.8	23.5	38.0	37.2
入浴	28.8	26.1	20.7	22.4	20.4	45.5	70.0	86.0	80.0	41.2	48.5	46.5
身だしなみ	27.8	27.6	20.7	16.0	17.6	47.1	70.0	77.0	67.3	29.4	42.7	41.9
食事のしたく	43.8	43.2	33.0	31.3	31.9	81.8	80.0	86.0	83.6	82.4	68.4	60.5
掃除	44.1	42.6	38.9	36.7	35.8	69.4	80.0	84.0	86.4	47.1	59.1	62.8
洗濯	41.4	42.1	33.5	28.3	31.1	54.5	80.0	85.0	80.9	41.2	62.0	53.5
外出・買い物	44.1	43.4	34.0	35.7	33.8	69.4	80.0	88.0	83.6	64.7	63.2	62.8
意志の伝達	26.5	26.2	19.7	19.0	18.8	50.4	70.0	71.0	43.6	29.4	33.9	37.2
電話またはファックス	32.7	32.7	25.6	20.0	21.4	65.3	90.0	81.0	61.8	64.7	49.1	46.5
パソコン	42.9	40.4	42.9	37.1	33.2	80.2	80.0	83.0	76.4	100.0	64.9	58.1
携帯電話・スマートフォン	34.6	33.0	30.0	25.9	22.4	69.4	80.0	80.0	68.2	100.0	60.2	51.2
金銭管理	41.2	40.2	32.0	29.3	29.1	83.5	80.0	89.0	74.5	94.1	64.3	65.1
区役所などでの手続き	50.2	49.4	43.3	40.5	38.7	90.1	80.0	89.0	86.4	94.1	69.0	67.4
健康管理(服薬など)	39.1	37.7	29.6	26.9	27.2	76.0	80.0	88.0	80.0	88.2	68.4	60.5

(2) 障害の状況について

①持っている障害者手帳等

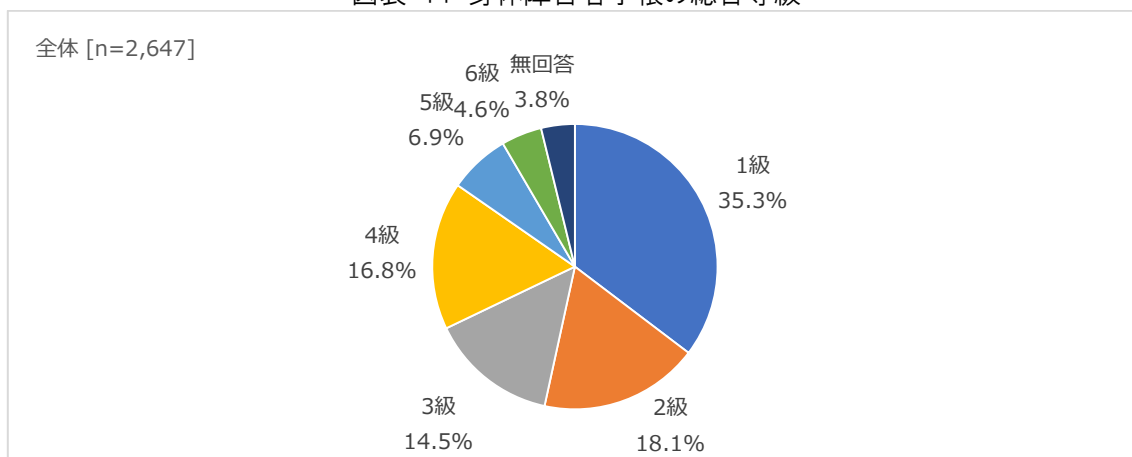
持っている障害者手帳や受給者証について聞いたところ、「身体障害者手帳」が 55.2%、「療育手帳」が 34.4%、「自立支援医療（精神通院）受給者証」が 20.0%等となっている。

図表 10 持っている障害者手帳等〔複数回答〕



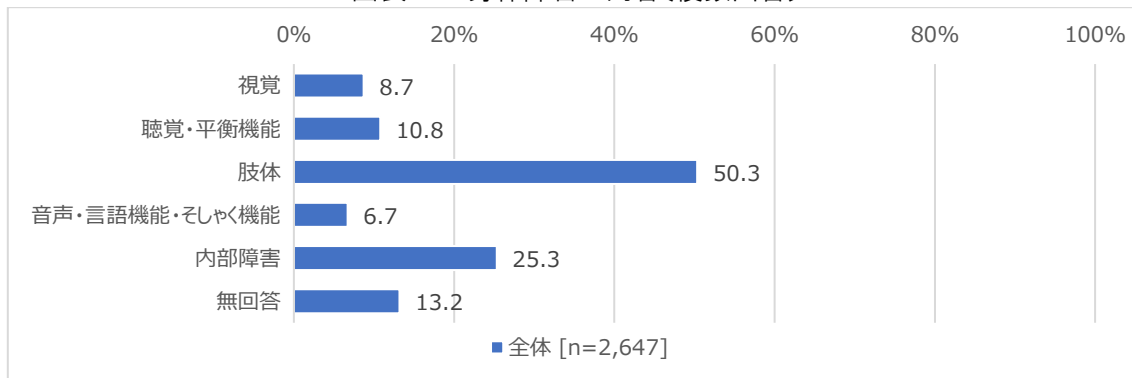
身体障害者手帳の所持者に総合等級を聞いたところ、「1 級」が 35.3%となっている。

図表 11 身体障害者手帳の総合等級



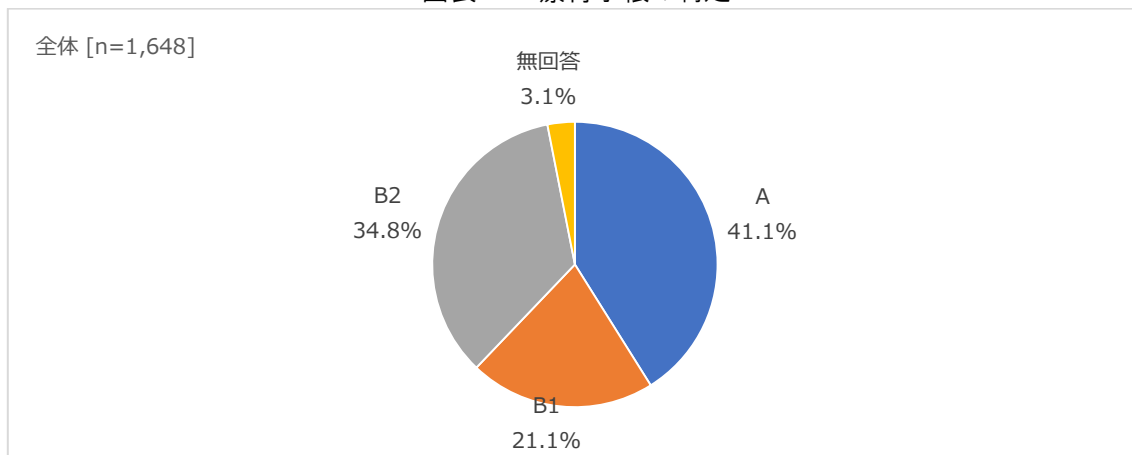
身体障害者手帳の所持者に障害の内容を聞いたところ、「肢体」が 50.3%、「内部障害」が 25.3%等となっている。

図表 12 身体障害の内容〔複数回答〕



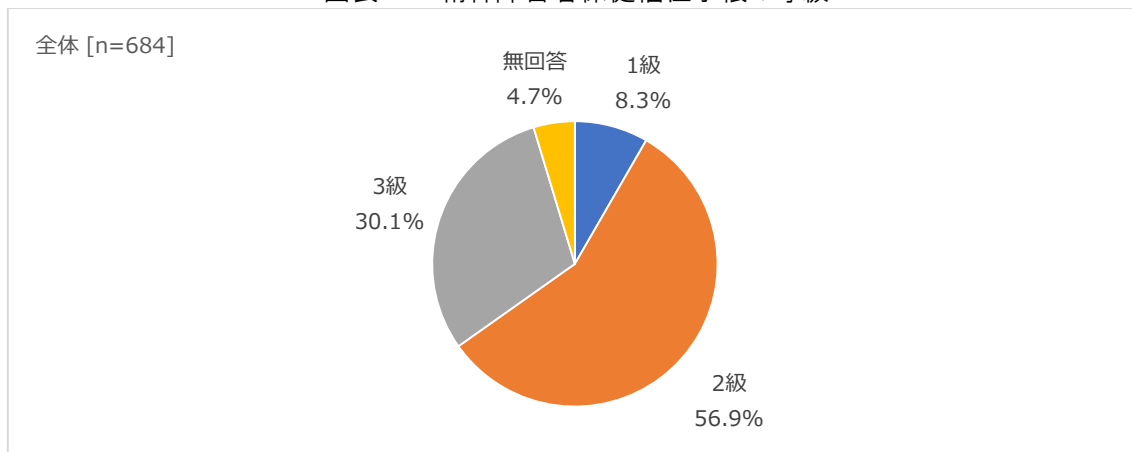
療育手帳の所持者に判定を聞いたところ、「A」が41.1%、「B2」が34.8%、「B1」が21.1%となっている。

図表 13 療育手帳の判定



精神障害者保健福祉手帳の所持者に等級を聞いたところ、「2 級」が56.9%、「3 級」が30.1%、「1 級」が8.3%となっている。

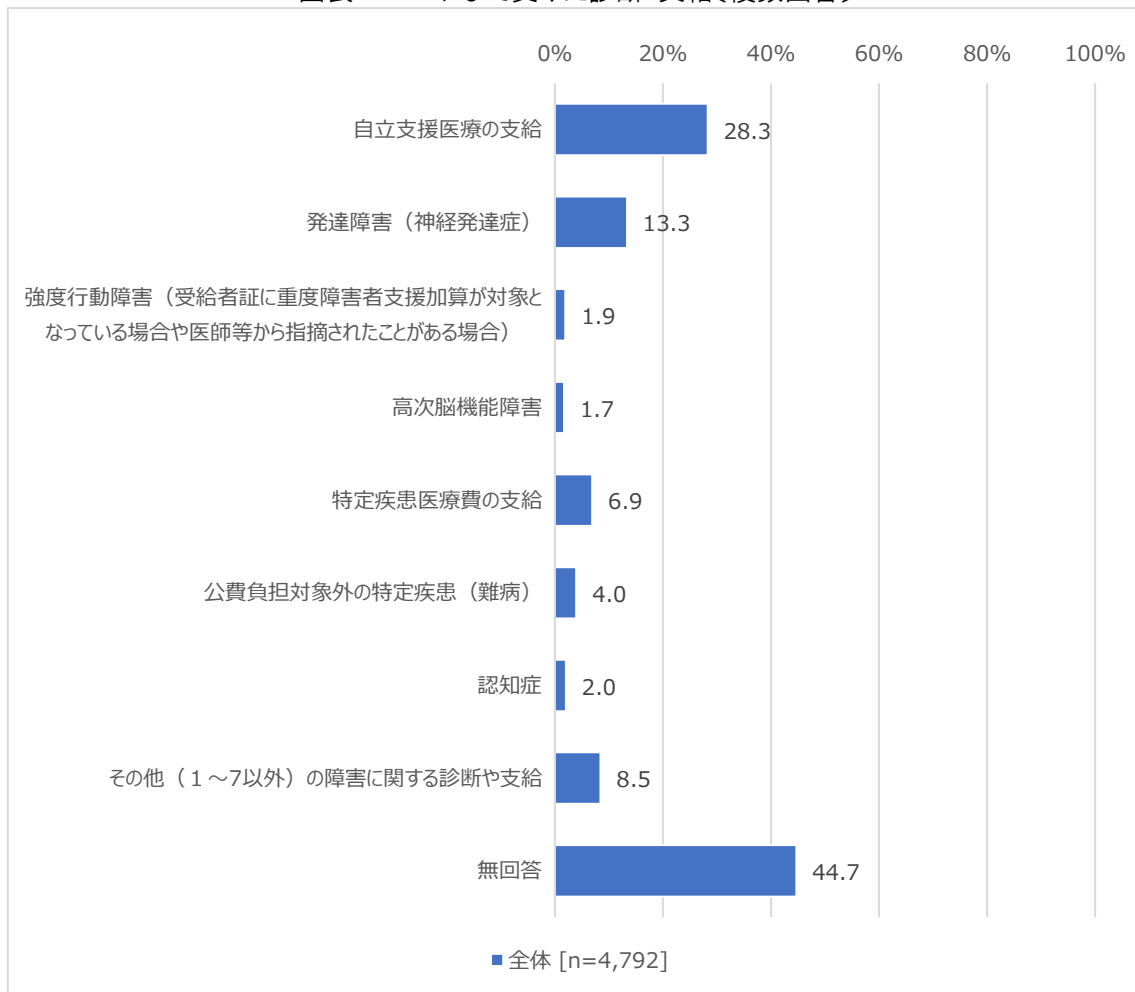
図表 14 精神障害者保健福祉手帳の等級



②これまで受けた診断・支給

これまで受けた診断・支給について聞いたところ、「自立支援医療の支給」が28.3%、「発達障害（神経発達症）」が13.3%等となっている。

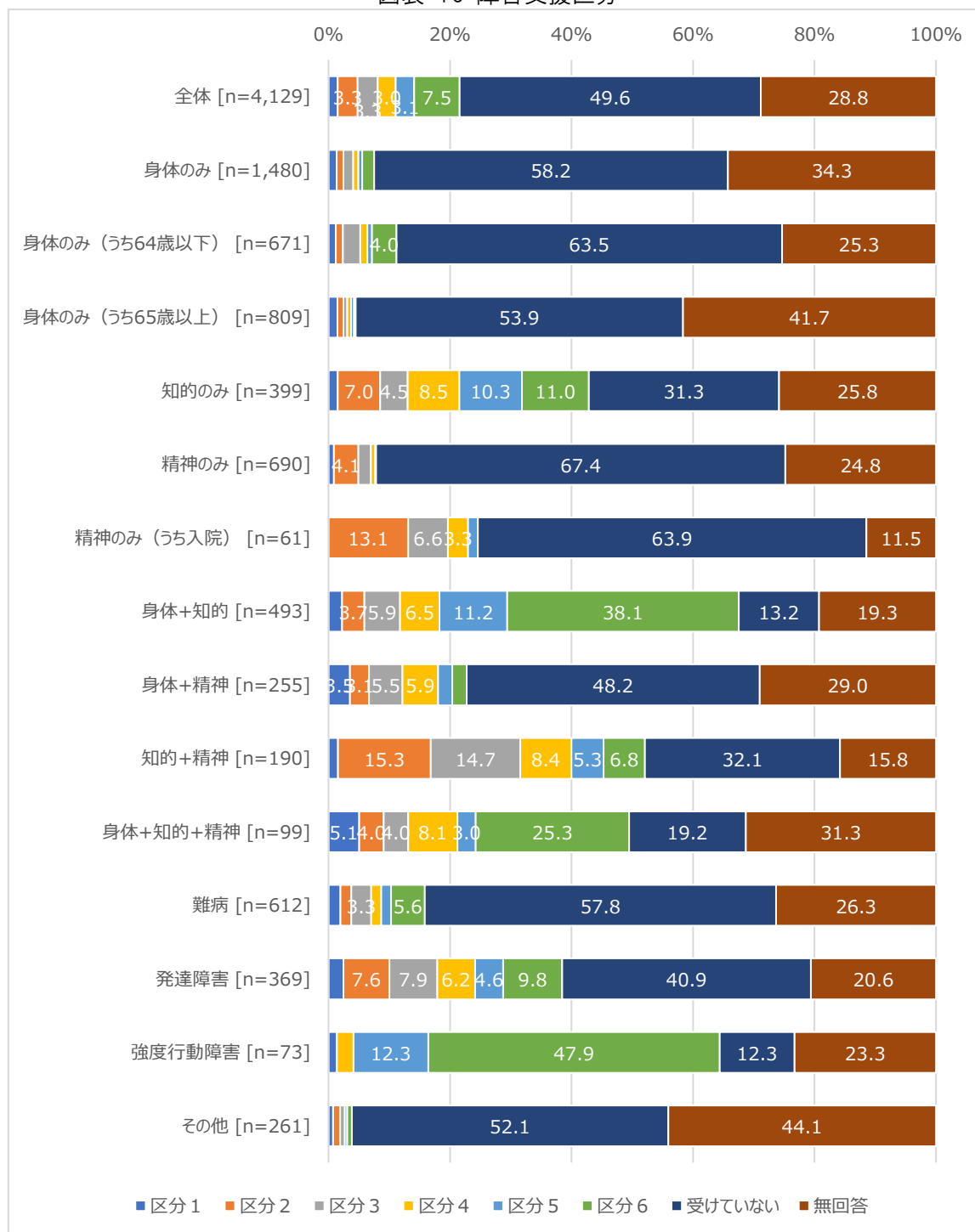
図表 15 これまで受けた診断・支給〔複数回答〕



③障害支援区分

障害支援区分は、「受けていない」が49.6%となっており、区分認定のある人については、「区分6」が7.5%等となっている。「身体+知的」「身体+知的+精神」「強度行動障害」については「受けていない」が1～2割になっており、区分6の割合が高くなっている。

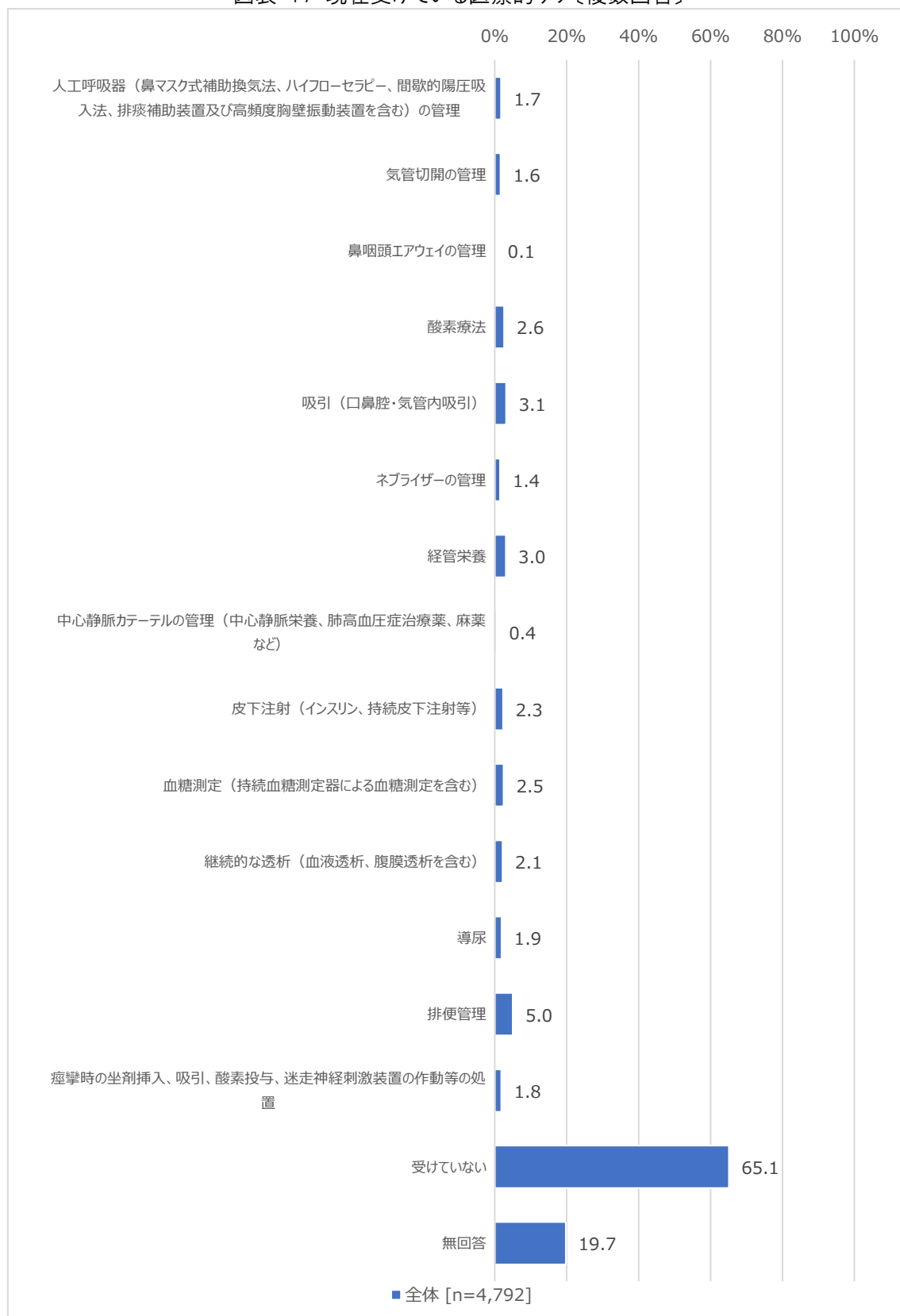
図表 16 障害支援区分



④現在受けている医療的ケア

現在受けている医療的ケアについては、「受けていない」が65.1%となっている。受けている人については、「排便管理」が5.0%、「吸引（口鼻腔・気管内吸引）」が3.1%、「経管栄養」が3.0%等となっている。特に「身体+知的」「身体+知的+精神」において受けているという回答割合が高くなる。

図表 17 現在受けている医療的ケア〔複数回答〕

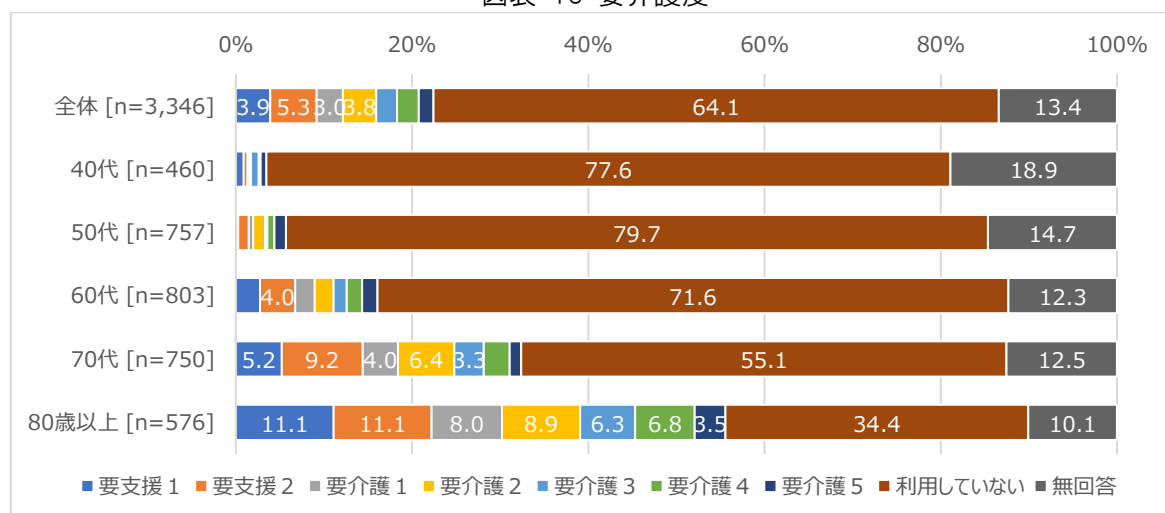


手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラピー、間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置及び高頻度胸壁振動装置を含む）の管理	1.7	1.7	2.2	1.4	0.2	0.1	0.0	6.5	1.5	0.0	1.9	5.2	0.8	3.3	0.3
気管切開の管理	1.6	0.9	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0	8.1	0.0	0.0	6.5	5.4	0.6	2.2	0.0
鼻咽頭エアウェイの管理	0.1	0.2	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
酸素療法	2.6	3.2	3.1	3.1	0.0	0.3	0.0	9.2	0.8	0.0	1.9	8.3	1.4	3.3	1.0
吸引（口鼻腔・気管内吸引）	3.1	1.9	2.3	1.6	0.3	0.4	0.0	14.1	1.1	0.5	10.3	8.5	1.4	6.5	0.7
ネブライザーの管理	1.4	0.6	0.9	0.2	0.2	0.0	0.0	7.7	0.4	0.0	5.6	5.1	1.1	2.2	0.0
経管栄養	3.0	2.7	3.4	2.1	0.0	0.0	0.0	13.2	0.8	0.0	8.4	8.8	1.3	1.1	0.7
中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など）	0.4	0.7	0.3	1.1	0.0	0.1	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.3	1.1	0.0
皮下注射（インスリン、持続皮下注射等）	2.3	3.1	3.8	2.5	0.9	1.1	0.0	1.0	3.8	1.4	4.7	6.5	0.9	3.3	0.0
血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	2.5	3.3	2.8	3.8	1.8	3.2	0.0	1.0	3.4	1.0	3.7	3.0	1.6	4.3	1.0
継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	2.1	4.6	5.3	3.8	0.2	0.0	0.0	0.7	8.0	0.0	1.9	5.5	0.3	2.2	0.3
導尿	1.9	2.6	2.6	2.5	0.2	0.1	1.6	4.7	2.3	0.0	2.8	2.6	0.6	1.1	1.4
排便管理	5.0	5.0	5.4	4.6	1.8	1.7	7.8	13.8	3.1	0.5	17.8	9.2	3.4	9.8	3.1
痙攣時の坐剤挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置	1.8	0.5	0.9	0.0	0.3	0.4	0.0	8.6	0.0	1.4	12.1	3.4	1.9	3.3	0.0
受けていない	65.1	62.5	66.2	59.2	75.2	75.2	67.2	53.0	58.6	72.9	38.3	57.3	76.1	59.8	58.0
無回答	19.7	18.3	13.1	23.2	20.3	18.3	23.4	18.2	23.8	22.4	25.2	10.5	15.8	17.4	35.2

⑤介護保険サービスの利用

介護保険サービスの利用について聞いたところ、「利用していない」が64.1%となっている。サービス利用者の要介護度については、「要支援2」が5.3%、「要支援1」が3.9%、「要介護2」が3.8%等となっている。年齢別で見ると、年齢層が上がるほど介護保険サービスの利用割合の高くなる傾向が見られる。また40代50代でも2割程度が利用している状況にある。

図表 18 要介護度

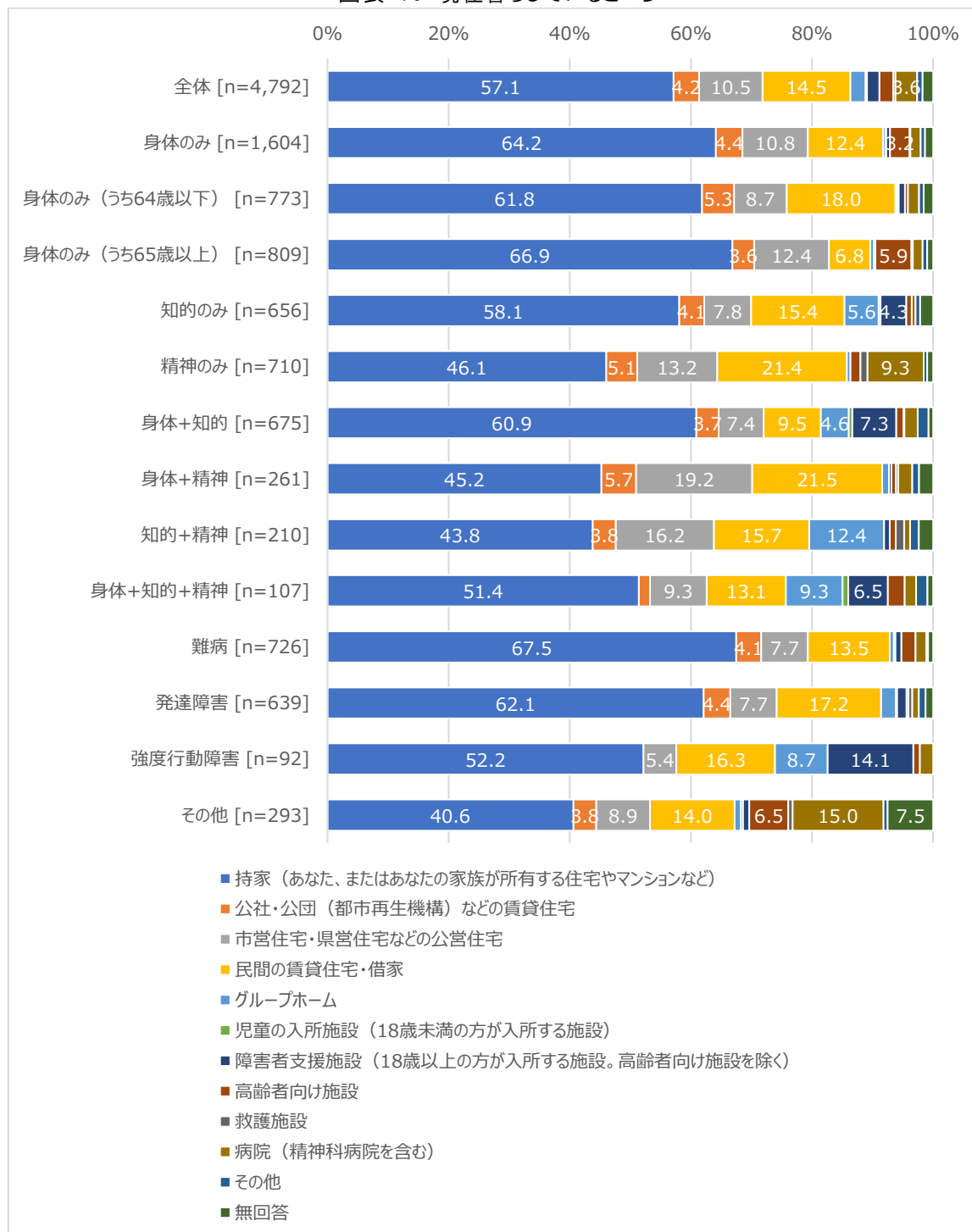


(3) 暮らしの状況について

①現在暮らしているところ

現在暮らしているところについては、「持家」の割合が 57.1%と最も高く、次いで、「民間の賃貸住宅・借家」が 14.5%、「市営住宅・県営住宅などの公営住宅」が 10.5%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的+精神」「身体+精神」「精神のみ」で「持家」の割合が比較的低く、「身体+精神」「精神のみ」は「民間の賃貸住宅・借家」の割合が高くなっている。「知的+精神」「身体+知的+精神」はグループホームが 1 割程度と高くなっている。「身体のみ」（うち 65 歳以上）は高齢者向け施設への入居、「精神のみ」は入院がそれぞれ他と比べて高くなっている。

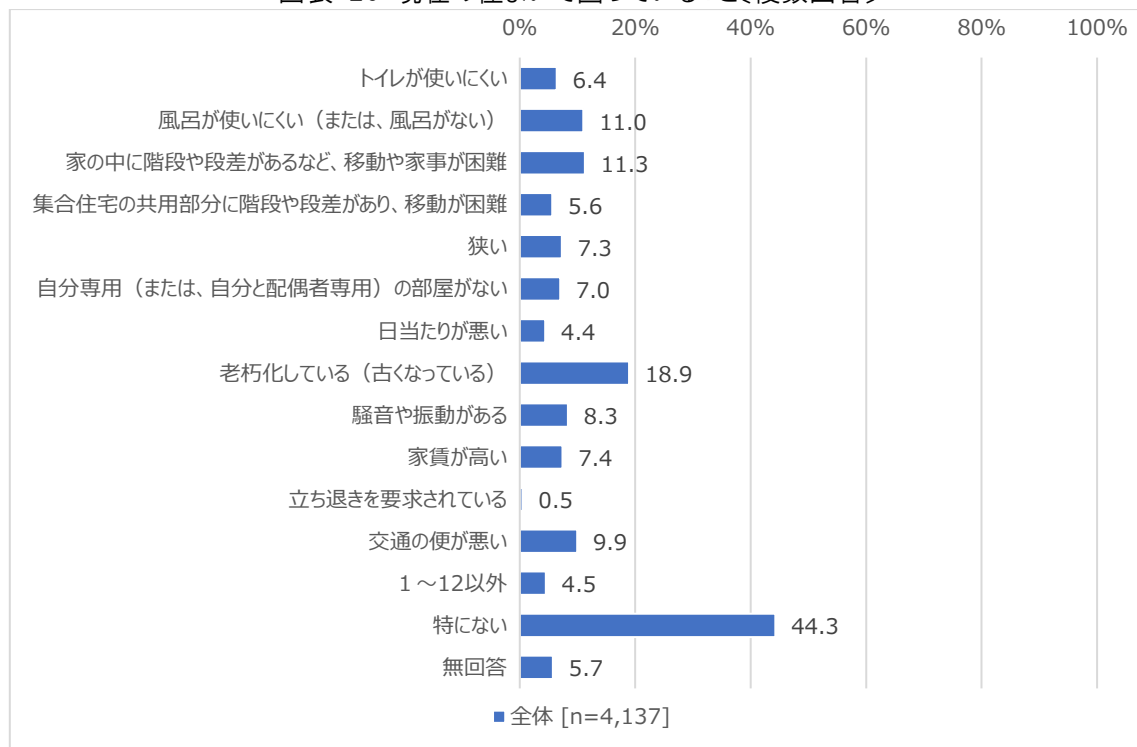
図表 19 現在暮らしているところ



②現在の住まいで困っていること

持家、賃貸住宅等に暮らしている人に、現在の住まいで困っていることを聞いたところ、「特にない」が44.3%となっている。困っていることとしては、「老朽化している（古くなっている）」が18.9%、「家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難」が11.3%、「風呂が使いにくい（または、風呂がない）」が11.0%等となっている。

図表 20 現在の住まいで困っていること〔複数回答〕



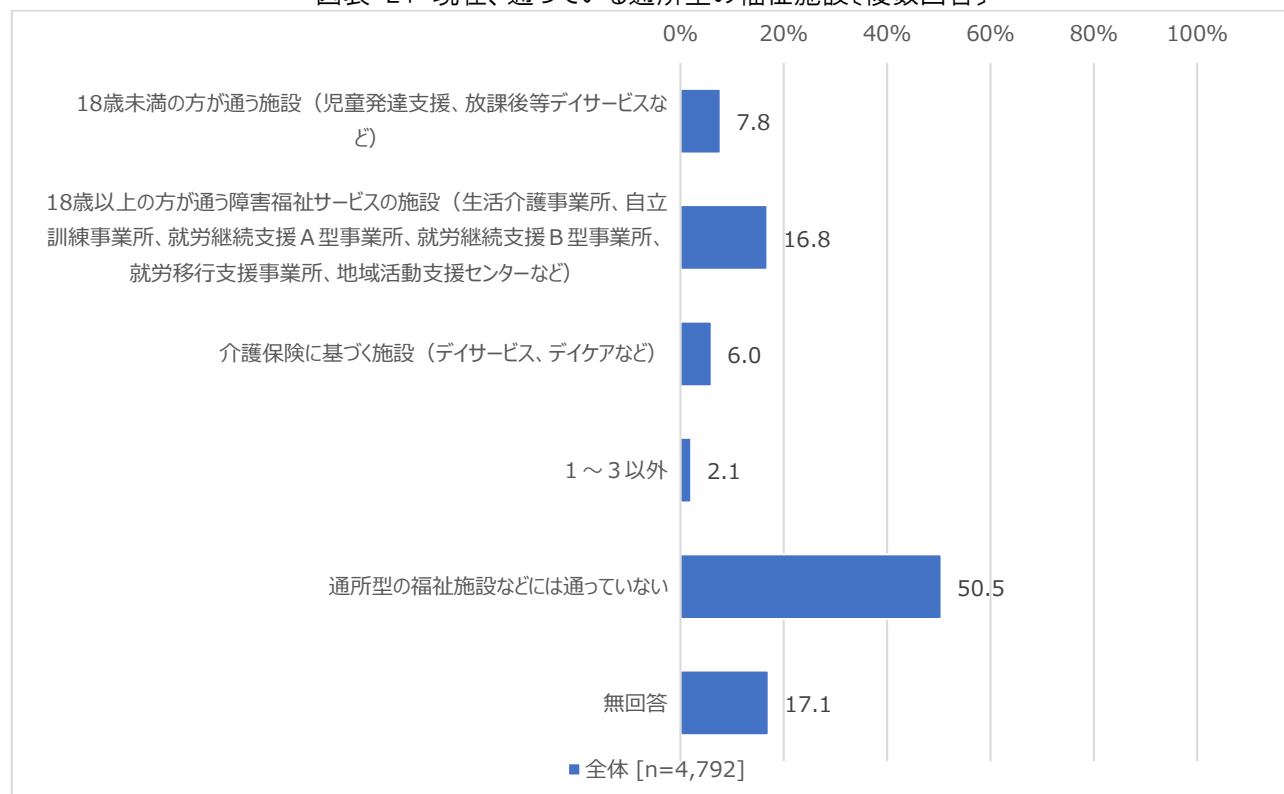
手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,137	1,471	725	725	560	609	550	239	167	81	674	584	68	197
トイレが使いにくい	6.4	6.7	7.3	5.9	4.8	6.6	9.5	9.2	5.4	4.9	5.9	5.8	10.3	3.0
風呂が使いにくい（または、風呂がない）	11.0	11.0	9.5	12.3	5.0	9.4	18.7	17.2	11.4	17.3	10.8	6.5	10.3	10.2
家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難	11.3	14.0	11.9	15.9	2.9	8.0	17.1	16.7	7.8	19.8	15.6	5.0	14.7	7.1
集合住宅の共用部分に階段や段差があり、移動が困難	5.6	7.3	6.6	7.9	1.3	5.3	6.5	9.6	3.0	8.6	6.1	2.6	5.9	5.1
狭い	7.3	4.7	5.8	3.3	8.4	8.5	11.6	10.5	9.0	7.4	7.3	10.6	7.4	6.1
自分専用（または、自分と配偶者専用）の部屋がない	7.0	4.4	6.3	2.3	12.9	6.1	12.0	2.5	8.4	12.3	7.3	13.5	17.6	4.1
日当たりが悪い	4.4	3.3	3.7	3.0	4.3	6.2	4.2	7.1	8.4	4.9	3.7	5.8	4.4	3.6
老朽化している（古くなっている）	18.9	18.7	18.1	19.4	17.0	25.0	12.4	25.5	22.2	24.7	17.1	17.0	25.0	17.3
騒音や振動がある	8.3	6.6	8.0	5.1	8.0	13.3	4.5	13.8	12.6	9.9	8.0	10.3	10.3	7.1
家賃が高い	7.4	6.7	8.3	4.8	6.8	10.3	5.8	10.9	6.6	11.1	7.7	8.7	7.4	6.6
立ち退きを要求されている	0.5	0.4	0.3	0.4	0.2	1.0	0.2	0.0	0.6	2.5	0.1	0.0	0.0	1.5
交通の便が悪い	9.9	10.1	9.8	10.2	6.3	12.3	9.6	12.1	12.0	14.8	11.3	10.4	16.2	7.6
1～12以外	4.5	5.2	5.7	4.7	2.0	4.4	5.8	5.9	7.2	6.2	5.2	4.5	8.8	3.0
特にない	44.3	43.9	45.8	42.8	53.9	42.9	39.1	31.8	42.5	32.1	43.2	45.7	32.4	45.7
無回答	5.7	5.5	4.3	6.5	5.4	3.9	7.1	7.1	4.8	11.1	4.2	4.6	5.9	9.6

(4) 施設の利用状況について

①現在、通っている通所型の福祉施設

現在、通所型の福祉施設等に通っているかどうかを聞いたところ、「通所型の福祉施設などには通っていない」が50.5%となっている。通っている人の通所先としては、「18歳以上の方が通う障害福祉サービスの施設（生活介護事業所、自立訓練事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、地域活動支援センターなど）」が16.8%、「18歳未満の方が通う施設（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）」が7.8%となっている。障害種別では、「知的のみ」「身体+知的」「身体+知的+精神」「発達障害」「強度行動障害」でそれぞれの年齢に応じた通所施設を利用している割合が高くなる。

図表 21 現在、通っている通所型の福祉施設〔複数回答〕

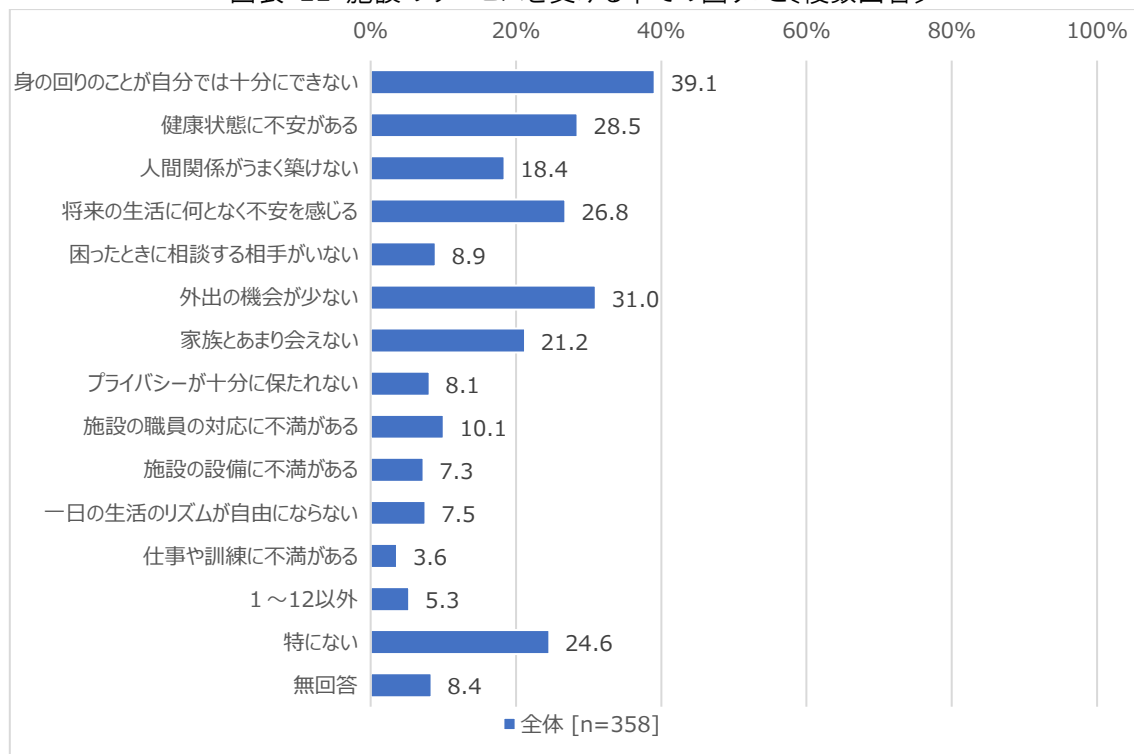


手帳所持・診断区分 (単位: %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
18歳未満の方が通う施設（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）	7.8	2.5	5.2	0.0	26.4	0.3	0.0	20.6	0.4	2.9	3.7	8.8	30.2	16.3	2.0
18歳以上の方が通う障害福祉サービスの施設（生活介護事業所、自立訓練事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、地域活動支援センターなど）	16.8	3.2	5.3	1.4	30.8	8.0	1.6	42.4	13.0	50.5	47.7	8.4	24.4	39.1	5.1
介護保険に基づく施設（デイサービス、デイケアなど）	6.0	10.3	0.0	20.5	1.5	4.4	0.0	2.8	8.8	1.4	4.7	6.6	0.3	3.3	6.5
1～3以外	2.1	2.4	3.2	1.7	1.8	1.4	3.1	2.8	3.4	1.9	2.8	1.9	1.6	1.1	1.0
通所型の福祉施設などには通っていない	50.5	60.8	70.4	52.2	31.4	68.6	84.4	21.6	54.4	32.4	23.4	61.0	36.0	30.4	50.2
無回答	17.1	20.9	16.0	24.7	8.4	17.3	10.9	10.5	21.5	11.0	18.7	13.2	7.5	10.9	35.8

②施設のサービスを受ける中での困りごと

入所施設やグループホームで暮らしている人に、施設のサービスを受ける中での困りごとを聞いたところ、「身の回りのことが自分では十分にできない」が39.1%、「外出の機会が少ない」が31.0%、「健康状態に不安がある」が28.5%、「将来の生活に何となく不安を感じる」が26.8%等となっている。一方、「特にない」は24.6%となっている。

図表 22 施設のサービスを受ける中での困りごと〔複数回答〕

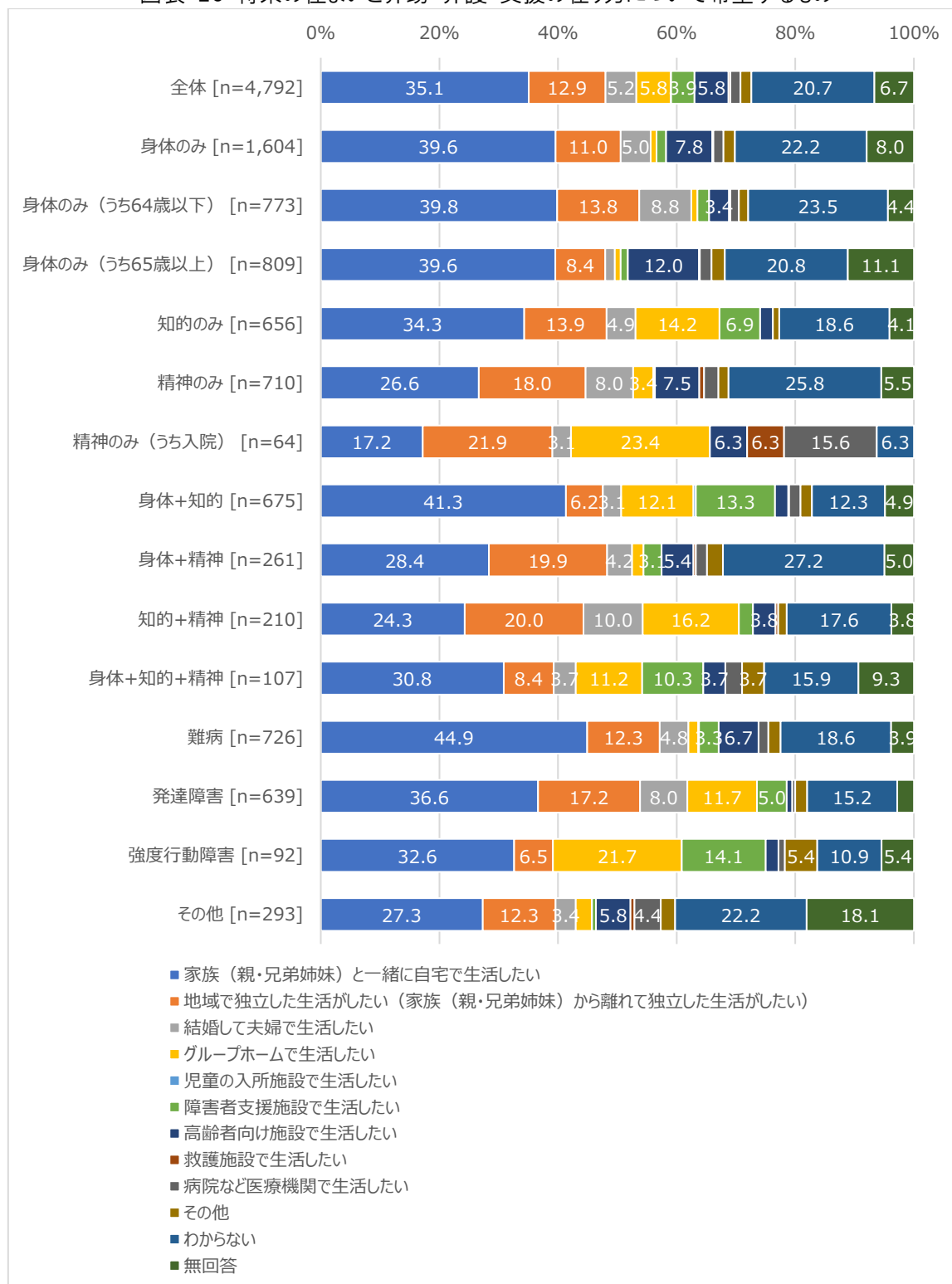


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	358	73	16	57	73	24	93	7	33	21	31	33	22	28
身の回りのことが自分では十分にできない	39.1	39.7	50.0	36.8	30.1	37.5	47.3	0.0	39.4	38.1	35.5	36.4	54.5	46.4
健康状態に不安がある	28.5	37.0	31.3	38.6	23.3	29.2	28.0	14.3	21.2	23.8	45.2	33.3	27.3	35.7
人間関係がうまく築けない	18.4	12.3	12.5	12.3	26.0	41.7	11.8	0.0	27.3	28.6	12.9	18.2	31.8	7.1
将来の生活に何となく不安を感じる	26.8	26.0	31.3	24.6	28.8	41.7	23.7	14.3	30.3	14.3	12.9	33.3	18.2	35.7
困ったときに相談する相手がいない	8.9	5.5	6.3	5.3	5.5	16.7	12.9	0.0	9.1	9.5	9.7	15.2	9.1	10.7
外出の機会が少ない	31.0	39.7	50.0	36.8	20.5	33.3	35.5	0.0	18.2	28.6	29.0	18.2	31.8	46.4
家族とあまり会えない	21.2	17.8	25.0	15.8	20.5	29.2	24.7	14.3	15.2	23.8	3.2	36.4	22.7	25.0
プライバシーが十分に保たれない	8.1	13.7	12.5	14.0	8.2	8.3	4.3	14.3	6.1	4.8	3.2	6.1	4.5	10.7
施設の職員の対応に不満がある	10.1	12.3	12.5	12.3	4.1	16.7	14.0	0.0	6.1	0.0	22.6	18.2	0.0	14.3
施設の設備に不満がある	7.3	6.8	12.5	5.3	6.8	4.2	9.7	14.3	6.1	9.5	6.5	12.1	9.1	3.6
一日の生活のリズムが自由にならない	7.5	15.1	6.3	17.5	4.1	8.3	8.6	0.0	3.0	0.0	3.2	6.1	9.1	7.1
仕事や訓練に不満がある	3.6	1.4	6.3	0.0	8.2	4.2	2.2	0.0	6.1	0.0	3.2	12.1	4.5	3.6
1～12 以外	5.3	4.1	0.0	5.3	2.7	4.2	10.8	0.0	0.0	0.0	6.5	3.0	0.0	7.1
特にない	24.6	20.5	12.5	22.8	32.9	8.3	21.5	28.6	39.4	23.8	9.7	33.3	4.5	21.4
無回答	8.4	9.6	0.0	12.3	12.3	8.3	4.3	14.3	6.1	4.8	6.5	3.0	27.3	10.7

③将来の住まいと介助・介護・支援のあり方について希望するもの

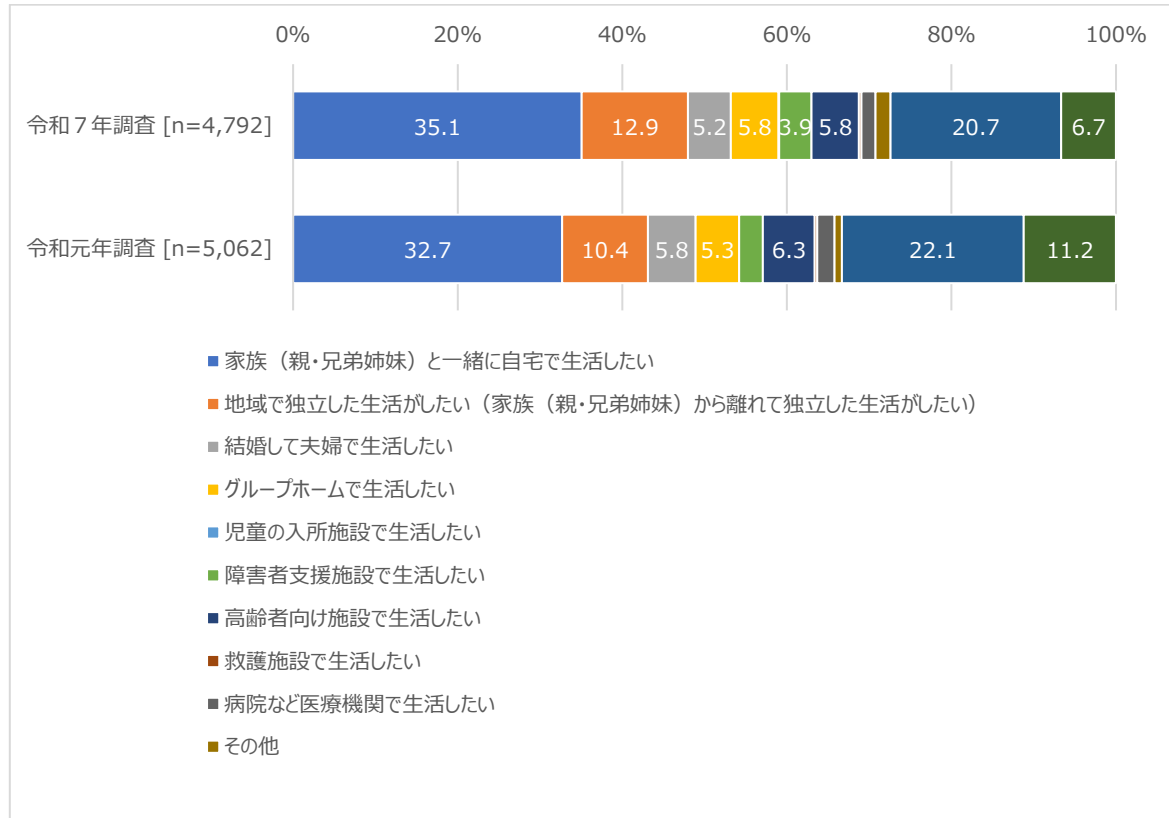
将来の住まいと介助・介護・支援のあり方についての希望としては、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」が35.1%となっている。一方、「地域で独立した生活がしたい（家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい）」は12.9%となっている。「精神のみ」「精神のみ（うち入院）」「身体+精神」「知的+精神」など精神障がいを含む方に「地域で独立した生活がしたい（家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい）」の希望が他の障がい種別と比べて高くなっている。

図表 23 将来の住まいと介助・介護・支援の在り方について希望するもの



将来の住まいと介助・介護・支援のあり方についての希望について、前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」「地域で独立した生活がしたい（家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい）」の割合がやや上昇しているものの、それほど大きな変化はない。

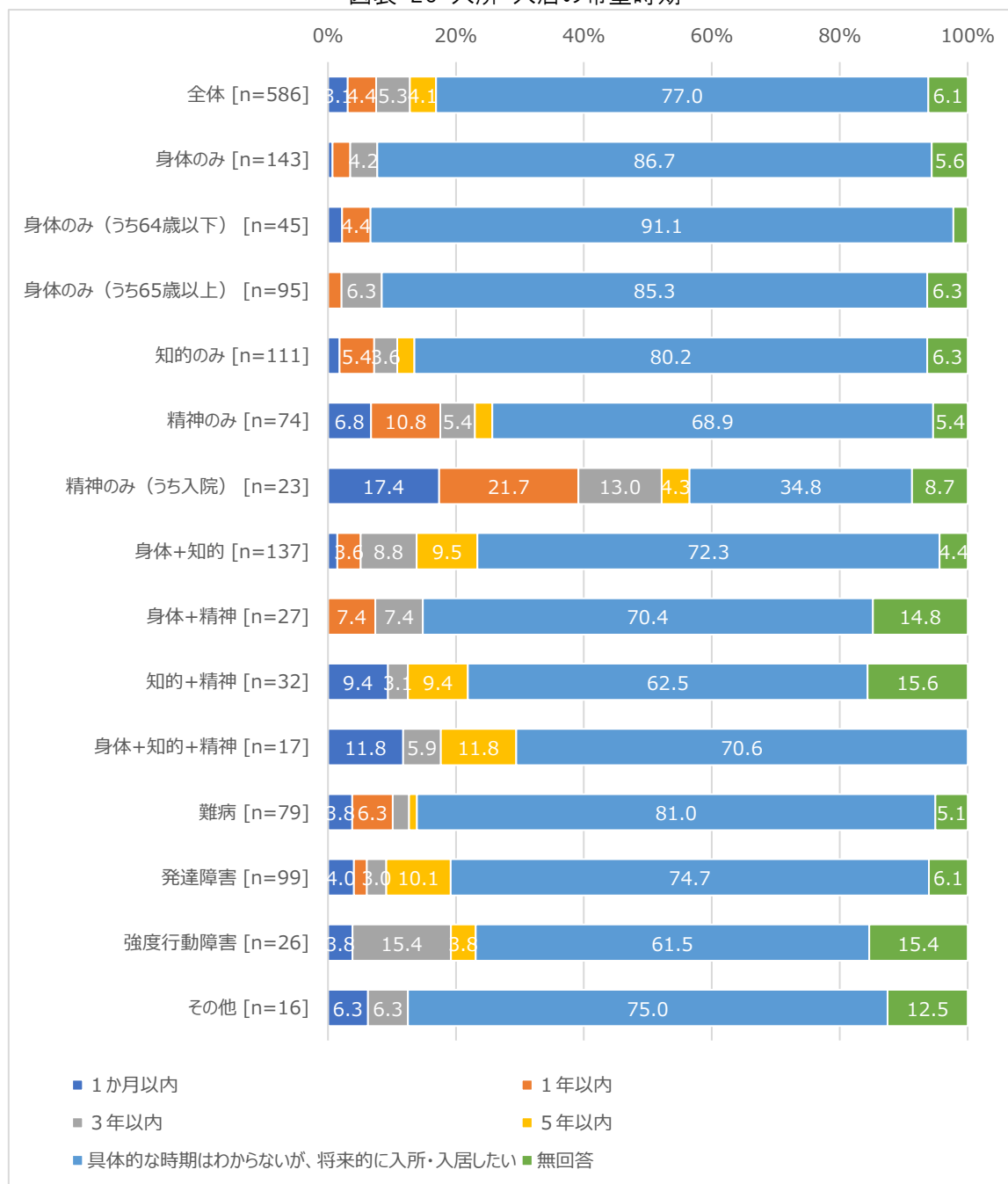
図表 24 将来の住まいと介助・介護・支援の在り方について希望するもの（前回調査比較）



④入所・入居の希望時期

グループホームや施設での生活を希望する人に、入所・入居の希望時期を聞いたところ、「具体的な時期はわからないが、将来的に入所・入居したい」の割合が77.0%と高くなっている。「精神のみ（うち入院）」は他の障がい種別と比べて具体的な入所・入居希望時期を回答している割合が高い。

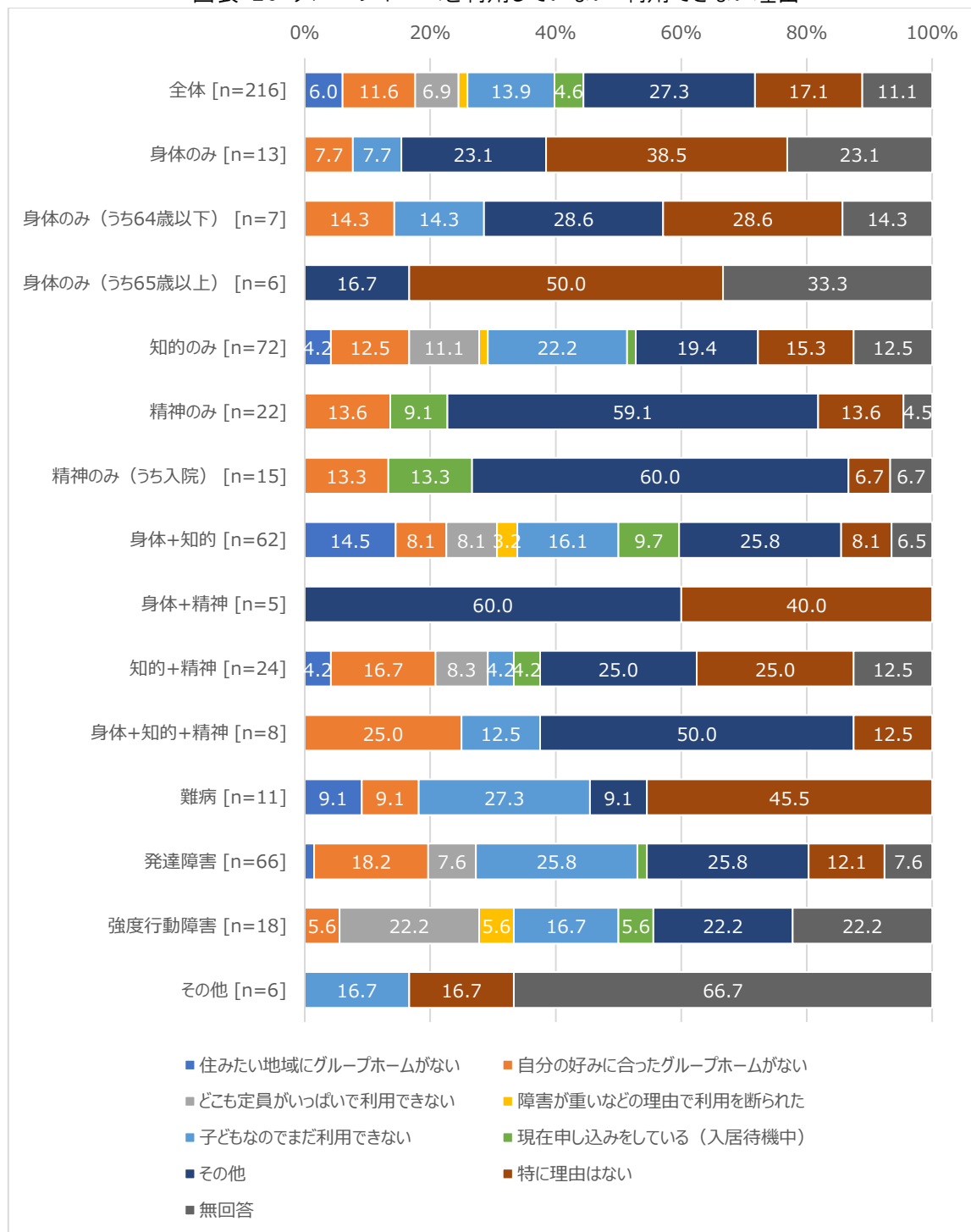
図表 25 入所・入居の希望時期



⑤グループホームを利用していない・利用できない理由

グループホームでの生活を希望する人で、現在グループホームで生活していない人に、グループホームを利用していない・利用できない理由を聞いたところ、「特に理由はない」が17.1%、「子どもなのでまだ利用できない」が13.9%、「自分の好みに合ったグループホームがない」が11.6%等となっている。

図表 26 グループホームを利用していない・利用できない理由



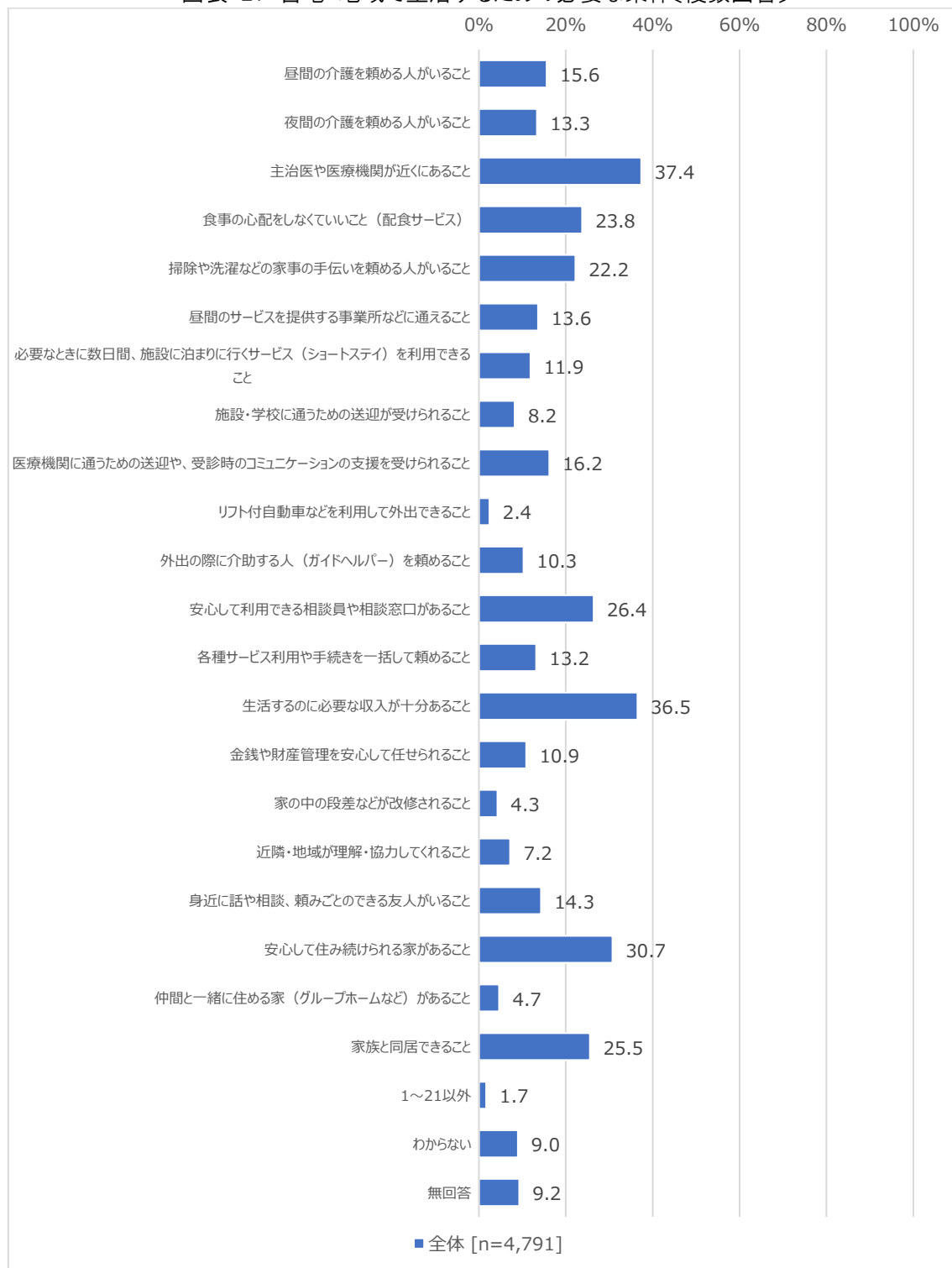
※本問は「その他」の割合が比較的高くなっているが、回答としては、親が健在で現在は同居できている、親が元気なうちは自宅で暮らす、将来的に必要なが現在は不要、といった回答が多くなっている。

(5) 地域での生活・活動について

①自宅・地域で生活するための必要な条件

自分が自宅・地域で生活するために必要な条件について聞いたところ、「主治医や医療機関が近くにあること」が37.4%と最も高く、次いで、「生活するのに必要な収入が十分あること」が36.5%、「安心して住み続けられる家があること」が30.7%、「安心して利用できる相談員や相談窓口があること」が26.4%、「家族と同居できること」が25.5%等となっている。

図表 27 自宅・地域で生活するための必要な条件〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,791	1,603	772	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
昼間の介護を頼める人がいること	15.6	14.0	11.3	16.9	12.3	10.4	23.4	28.4	13.8	10.5	27.1	20.4	12.1	28.3	14.0
夜間の介護を頼める人がいること	13.3	11.3	9.5	13.2	11.3	7.9	12.5	27.6	8.8	12.9	28.0	17.1	10.5	26.1	10.9
主治医や医療機関が近くにあること	37.4	42.8	40.5	45.2	20.7	42.1	20.3	32.9	45.6	35.7	42.1	46.6	28.3	27.2	30.0
食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）	23.8	21.2	16.1	26.2	28.0	23.8	45.3	26.4	22.6	30.5	26.2	21.5	26.1	28.3	18.8
掃除や洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること	22.2	20.5	17.4	23.7	26.5	21.4	26.6	25.8	23.0	30.5	25.2	19.7	26.8	25.0	15.4
昼間のサービスを提供する事業所などに通えること	13.6	6.9	4.4	9.1	22.9	6.6	12.5	31.7	6.5	23.3	26.2	12.0	20.3	39.1	5.5
必要なときに数日間、施設に泊まりに行くサービス（ショートステイ）を利用できること	11.9	9.4	5.3	13.1	10.7	3.9	0.0	31.4	8.8	9.5	16.8	16.0	11.7	25.0	5.5
施設・学校に通うための送迎が受けられること	8.2	4.3	6.2	2.2	13.3	2.3	1.6	24.9	1.9	7.1	18.7	9.8	17.4	17.4	2.4
医療機関に通うための送迎や、受診時のコミュニケーションの支援を受けられること	16.2	17.8	15.9	19.8	11.6	11.5	17.2	19.6	19.2	21.9	22.4	20.7	15.0	15.2	10.9
リフト付自動車などを利用して外出できること	2.4	2.9	2.5	3.3	0.6	1.0	1.6	5.0	1.9	1.0	2.8	3.6	0.8	3.3	1.7
外出の際に介助する人（ガイドヘルパー）を頼めること	10.3	7.8	7.3	8.2	12.8	3.9	17.2	22.1	9.2	16.7	17.8	9.4	12.7	27.2	4.4
安心して利用できる相談員や相談窓口があること	26.4	24.1	22.7	25.6	28.8	29.0	17.2	26.4	27.6	36.2	30.8	25.3	34.9	23.9	17.7
各種サービス利用や手続きを一括して頼めること	13.2	12.4	13.0	11.7	14.5	12.1	9.4	15.0	12.3	20.0	13.1	13.4	16.4	9.8	8.9
生活するのに必要な収入が十分あること	36.5	35.5	43.4	28.2	38.6	44.8	40.6	26.1	41.8	43.3	29.9	38.2	46.6	26.1	24.6
金銭や財産管理を安心して任せられること	10.9	4.1	4.8	3.5	23.6	9.6	26.6	15.6	5.4	29.0	17.8	5.8	24.7	14.1	9.2
家の中の段差などが改修されること	4.3	5.6	5.7	5.4	0.5	3.4	1.6	6.1	6.1	1.9	3.7	5.5	1.1	3.3	1.7
近隣・地域が理解・協力してくれること	7.2	6.7	9.6	4.1	10.7	5.2	3.1	9.5	6.5	9.0	6.5	6.2	12.1	6.5	4.1
身近に話や相談、頼みごとのできる友人がいること	14.3	13.6	16.3	11.2	16.5	20.6	15.6	7.9	13.4	18.1	8.4	12.9	22.7	12.0	12.6
安心して住み続けられる家があること	30.7	30.6	38.0	23.9	30.9	38.2	25.0	23.9	33.3	31.4	20.6	33.7	36.5	25.0	22.9
仲間と一緒に住める家（グループホームなど）があること	4.7	1.6	1.9	1.4	10.5	1.8	6.3	9.8	1.1	11.0	7.5	1.2	7.2	17.4	3.8
家族と同居できること	25.5	27.3	29.3	25.7	27.4	20.8	9.4	30.1	23.4	19.5	27.1	32.6	31.3	29.3	17.1
1～21 以外	1.7	2.0	2.6	1.5	0.8	2.4	0.0	1.9	2.3	1.0	1.9	1.5	1.6	2.2	0.7
わからない	9.0	9.5	11.1	7.9	9.6	9.3	4.7	5.8	8.4	5.2	8.4	6.6	5.2	5.4	14.0
無回答	9.2	9.2	7.9	10.5	6.3	9.6	9.4	6.5	9.6	7.6	15.0	7.6	6.3	7.6	22.5

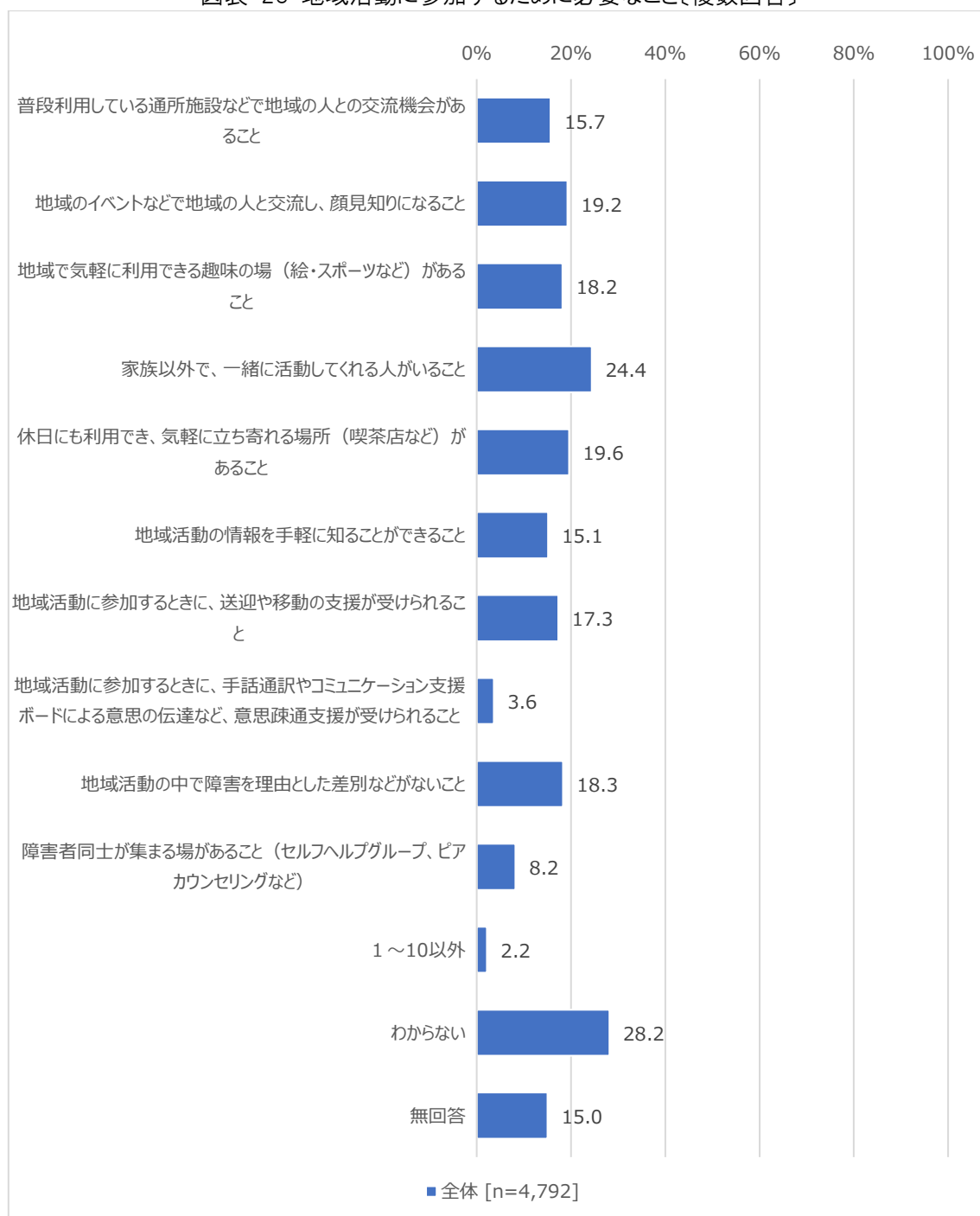
②地域活動に参加するために必要なこと

地域活動に参加するために必要だと思うことについて聞いたところ、「家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること」が24.4%、「休日にも利用でき、気軽に立ち寄れる場所（喫茶店など）があること」が19.6%、「地域のイベントなどで地域の人と交流し、顔見知りになること」が19.2%、「地域活動の中で障害を理由とした差別などがないこと」が18.3%等となっている。

「障害者同士が集まる場があること（セルフヘルプケアグループ、ピアカウンセリング）など」については、「知的＋精神」「発達障害」「身体＋知的」などで他の障がい種別と比べてやや高くなっている。

「地域活動に参加するときに、送迎や移動の支援が受けられること」については「身体＋知的」「強度行動障害」に高くなる。

図表 28 地域活動に参加するために必要なこと〔複数回答〕

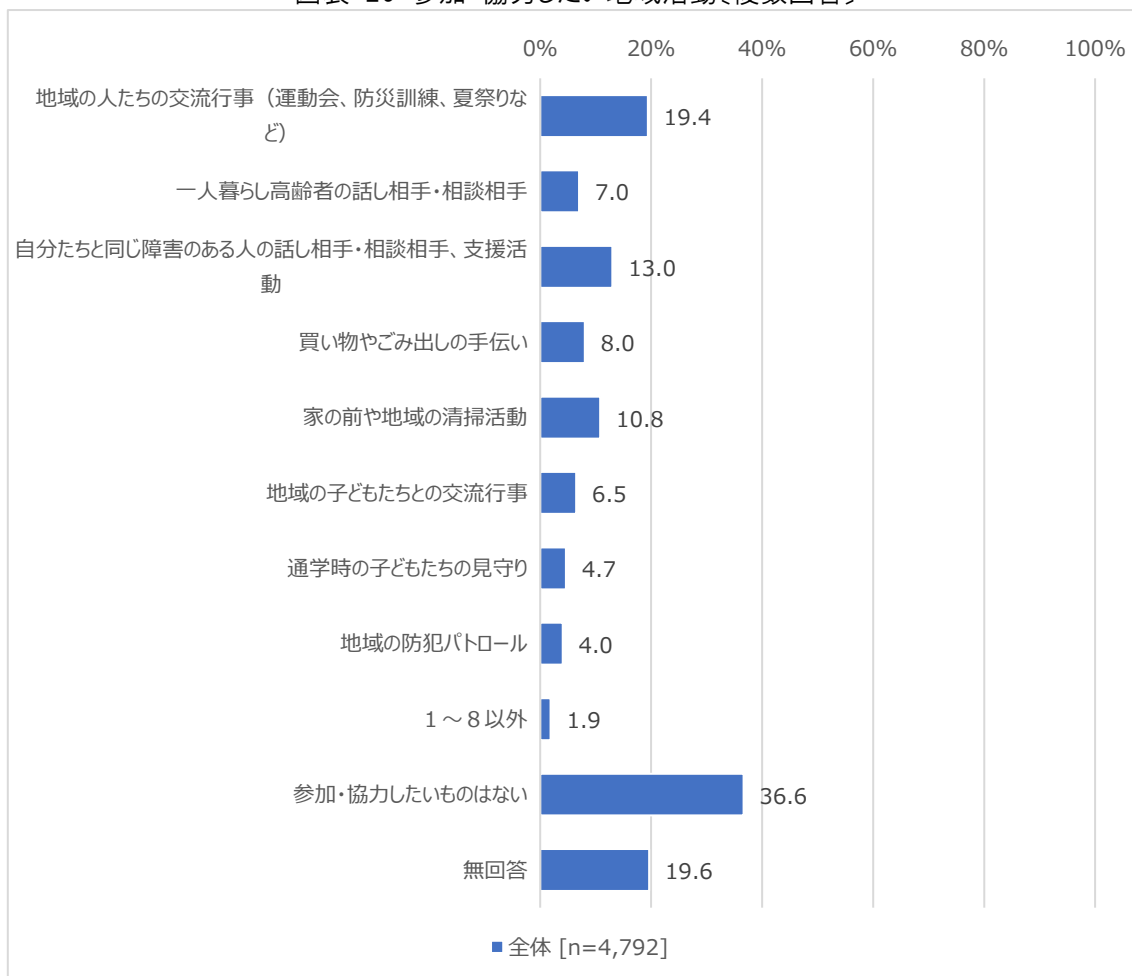


手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
普段利用している通所施設などで地域の人との交流機会があること	15.7	10.3	8.4	12.4	20.6	9.4	14.1	33.6	12.6	18.1	26.2	14.5	20.8	34.8	11.6
地域のイベントなどで地域の人と交流し、顔見知りになること	19.2	18.8	20.3	17.6	19.5	16.2	10.9	25.8	15.3	19.0	20.6	21.8	23.2	25.0	11.6
地域で気軽に利用できる趣味の場（絵・スポーツなど）があること	18.2	19.3	19.8	19.0	19.1	18.9	18.8	13.5	18.4	14.8	12.1	21.5	22.1	16.3	14.7
家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること	24.4	17.2	21.1	13.8	34.9	17.3	18.8	42.8	21.1	30.5	35.5	24.7	37.6	41.3	14.3
休日にも利用でき、気軽に立ち寄れる場所（喫茶店など）があること	19.6	19.5	21.6	17.4	19.4	21.7	21.9	18.5	20.3	18.6	14.0	22.2	20.3	16.3	14.0
地域活動の情報を手軽に知ることができること	15.1	18.4	20.2	17.1	12.0	14.2	9.4	13.0	14.6	11.4	5.6	17.1	14.4	15.2	13.7
地域活動に参加するときに、送迎や移動の支援が受けられること	17.3	16.2	15.0	17.4	17.8	10.6	17.2	31.6	16.5	13.8	25.2	19.4	17.8	30.4	10.9
地域活動に参加するときに、手話通訳やコミュニケーション支援ボードによる意思の伝達など、意思疎通支援が受けられること	3.6	3.4	4.8	2.2	4.6	1.7	1.6	6.5	3.8	6.2	3.7	1.7	6.4	3.3	1.7
	18.3	13.2	20.1	6.9	30.2	13.5	9.4	30.2	18.4	27.6	18.7	16.9	31.8	32.6	7.8
障害者同士が集まる場があること（セルフヘルプグループ、ピアカウンセリングなど）	8.2	5.7	7.0	4.4	11.7	6.8	9.4	13.0	9.6	15.2	12.1	7.2	15.2	14.1	3.4
1～10以外	2.2	1.9	1.7	2.0	0.8	2.0	1.6	3.0	3.8	4.3	3.7	2.8	2.0	1.1	2.7
わからない	28.2	28.2	30.4	26.0	29.7	34.8	46.9	19.9	29.9	30.0	23.4	24.4	26.4	21.7	28.0
無回答	15.0	17.3	12.0	22.2	8.8	16.1	6.3	10.5	14.6	12.4	19.6	12.9	8.6	14.1	28.3

③参加・協力したい地域活動

今後、参加・協力したい地域活動としては、「参加・協力したいものはない」が36.6%となっている一方、「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）」が19.4%等となっている。

図表 29 参加・協力したい地域活動〔複数回答〕

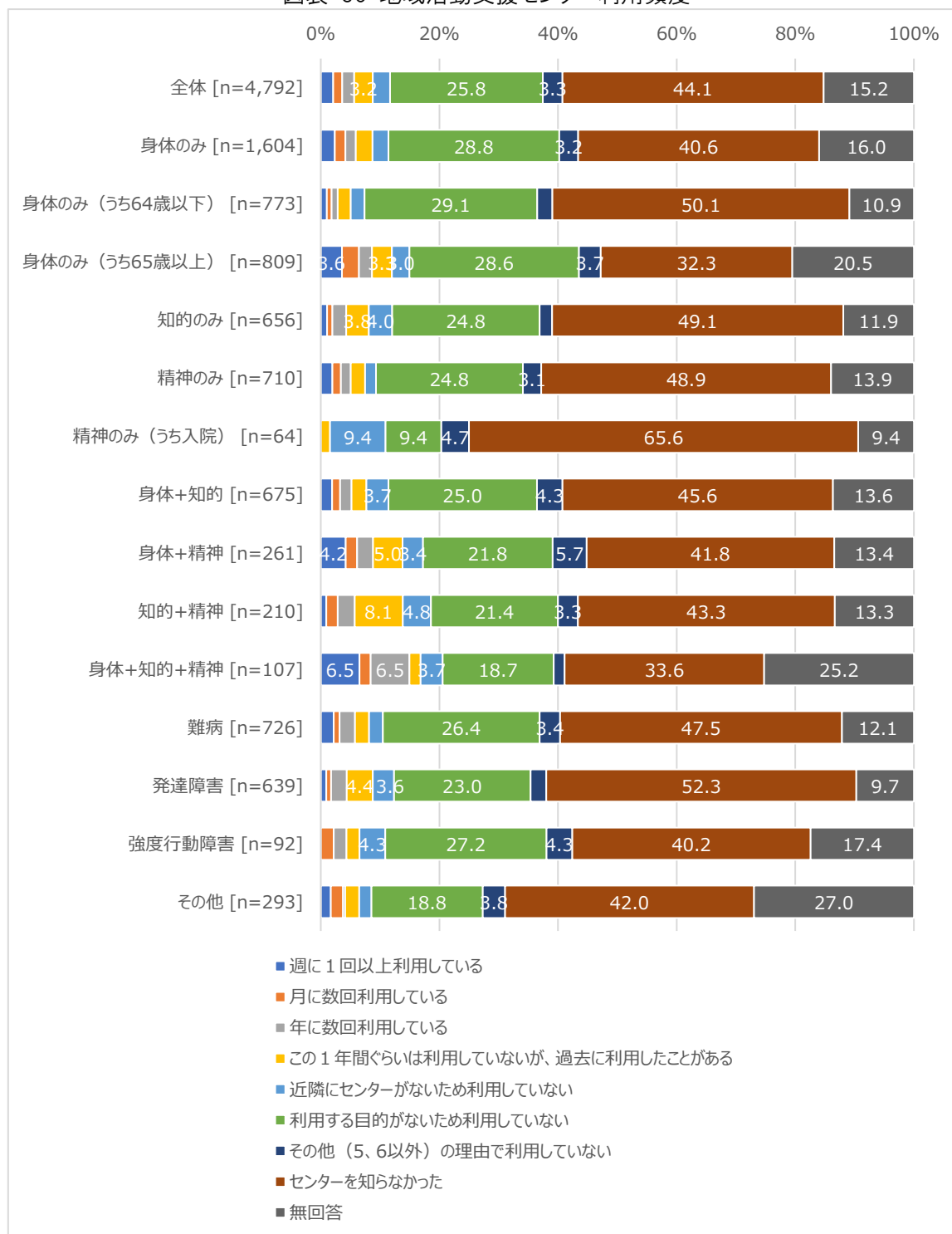


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）	19.4	16.3	19.1	14.1	27.7	14.5	18.8	27.3	16.5	21.0	17.8	21.9	27.9	30.4	10.6
一人暮らし高齢者の話し相手・相談相手	7.0	8.8	7.9	9.6	2.4	8.2	3.1	3.6	11.5	5.7	3.7	8.8	2.7	3.3	7.8
自分たちと同じ障害のある人の話し相手・相談相手、支援活動	13.0	14.0	19.1	9.1	15.7	10.4	7.8	13.2	16.1	18.6	13.1	13.6	17.4	16.3	5.5
買い物やゴミ出しの手伝い	8.0	8.5	9.3	7.8	8.4	8.6	10.9	6.4	7.7	7.1	5.6	7.9	9.5	9.8	6.8
家の前や地域の清掃活動	10.8	11.3	10.1	12.6	11.0	11.8	9.4	7.0	9.6	11.0	9.3	12.9	12.5	12.0	10.2
地域の子どもたちとの交流行事	6.5	6.2	8.9	3.8	7.8	5.8	3.1	8.0	3.8	6.2	2.8	8.8	8.5	7.6	4.1
通学時の子どもたちの見守り	4.7	5.5	7.5	3.6	2.6	5.1	1.6	2.2	4.6	2.9	2.8	6.2	2.5	2.2	6.1
地域の防犯パトロール	4.0	4.1	4.9	3.3	3.2	4.2	1.6	2.4	4.6	5.2	2.8	4.4	3.3	6.5	3.8
1～8以外	1.9	1.9	2.2	1.6	1.7	1.4	3.1	1.6	3.1	1.9	4.7	2.9	2.2	2.2	2.0
参加・協力したいものはない	36.6	35.3	36.4	34.0	37.5	42.8	50.0	34.7	39.8	40.0	33.6	32.2	37.2	31.5	33.8
無回答	19.6	20.7	13.7	27.3	14.3	18.5	12.5	20.6	14.9	16.2	30.8	16.8	13.0	19.6	32.8

④地域活動支援センターの利用頻度

地域活動支援センターをどれぐらい利用しているかを聞いたところ、「センターを知らなかった」の割合が44.1%と高くなっており、また、「利用する目的がないため利用していない」が25.8%となっている。

図表 30 地域活動支援センター利用頻度

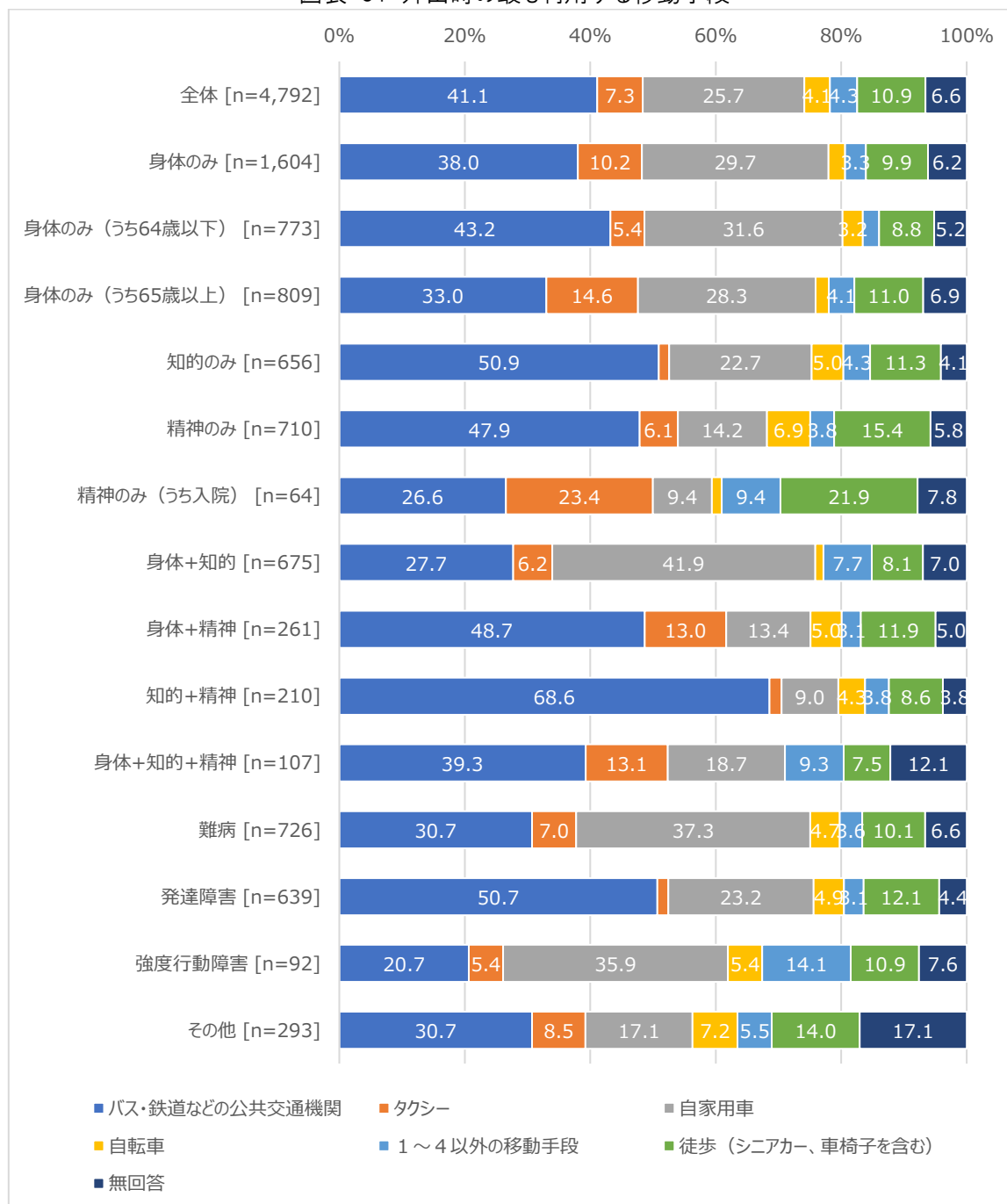


(6) 日常の外出や移動について

①外出時の最も利用する移動手段

外出時の最も利用する移動手段としては、「バス・鉄道などの公共交通機関」が41.1%、「自家用車」が25.7%等となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的のみ」「精神のみ」「精神+身体」「知的+精神」「発達障害」で「バス・鉄道などの公共交通機関」の割合が高く、「身体+知的」「難病」「強度行動障害」では「自家用車」の割合が高く、「精神のみ（うち入院）」は「タクシー」「徒歩（シニアカー、車椅子を含む）」の割合が高くなっている。

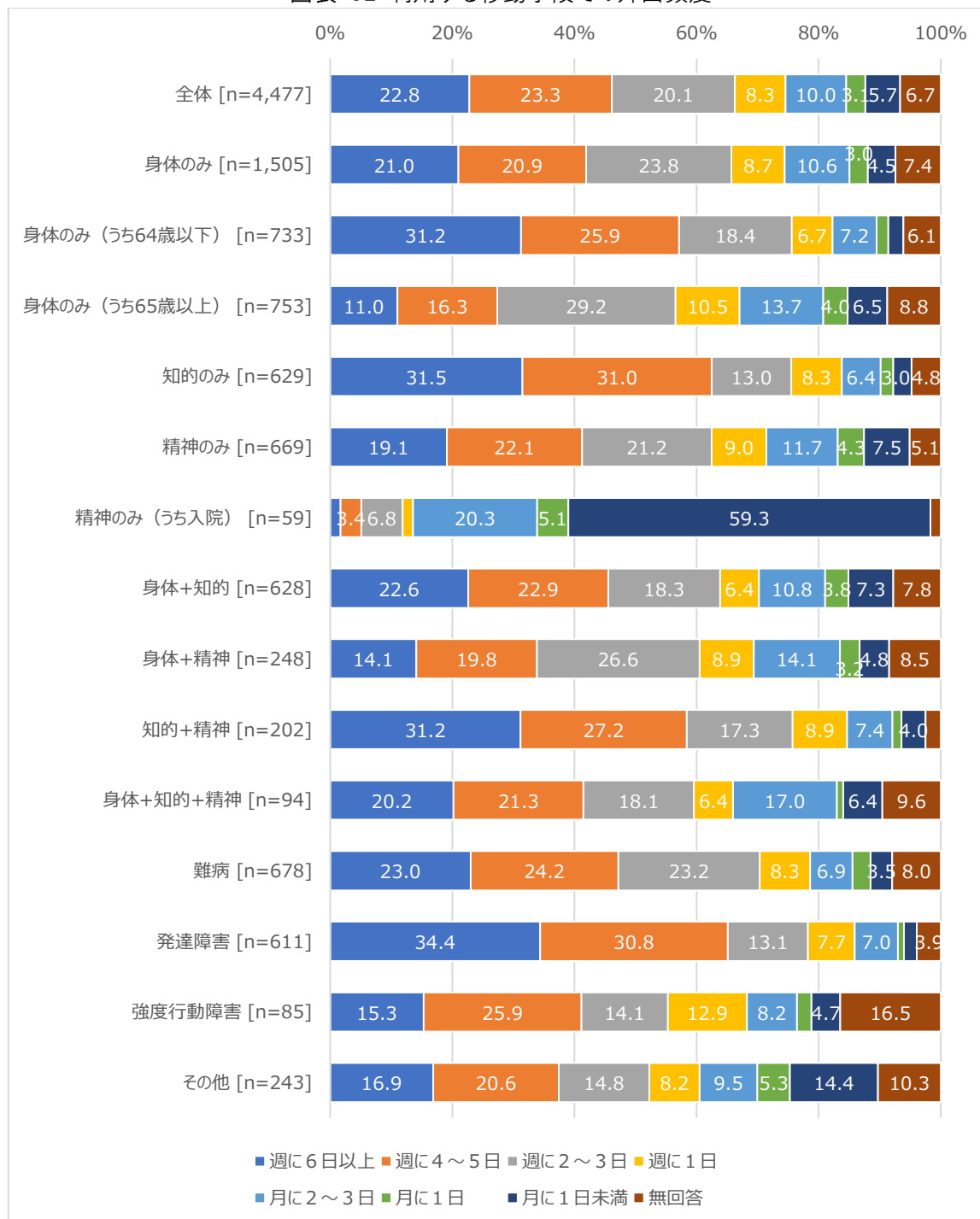
図表 31 外出時の最も利用する移動手段



②最も利用する移動手段での外出頻度

最も利用する移動手段での外出頻度について聞いたところ、「週に4～5日」が23.3%、「週に6日以上」が22.8%、「週に2～3日」が20.1%となっている。「週に6日以上」「週に4～5日」など頻度が多い状況は「身体のみ（うち64歳以下）」「知的のみ」「知的+精神」「発達障害」に高くなり、6割程度となっている。

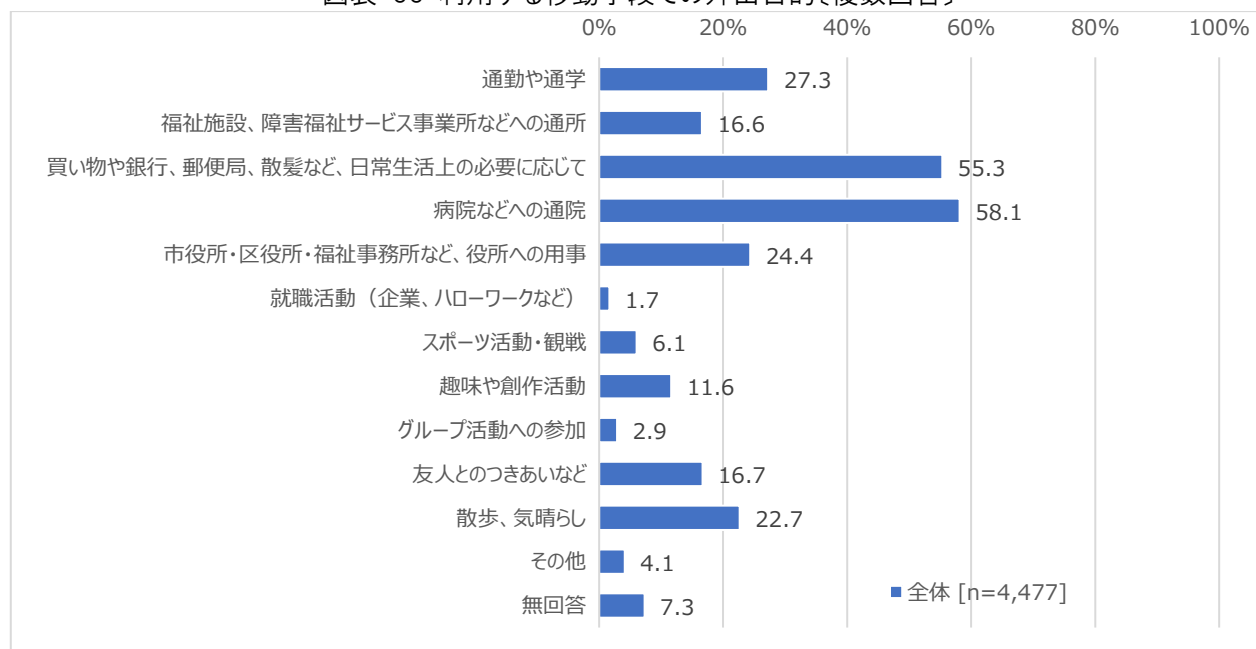
図表 32 利用する移動手段での外出頻度



③最も利用する移動手段での外出目的

最も利用する利用する移動手段での外出目的を聞いたところ、「病院などへの通院」の割合が 58.1%と最も高く、次いで、「買い物や銀行、郵便局、散髪など、日常生活上の必要に応じて」が 55.3%、「通勤や通学」が 27.3%、「市役所・区役所・福祉事務所など、役所への用事」が 24.4%、「散歩、気晴らし」が 22.7%等となっている。手帳所持・診断区分では「身体のみ（うち 64 歳以下）」「知的のみ」「知的+精神」「発達障害」が「通勤や通学」の割合が高くなり、「身体のみ（うち 65 歳以上）」「難病」は「病院などへの通院」の割合が他の属性と比べて高くなる。

図表 33 利用する移動手段での外出目的〔複数回答〕



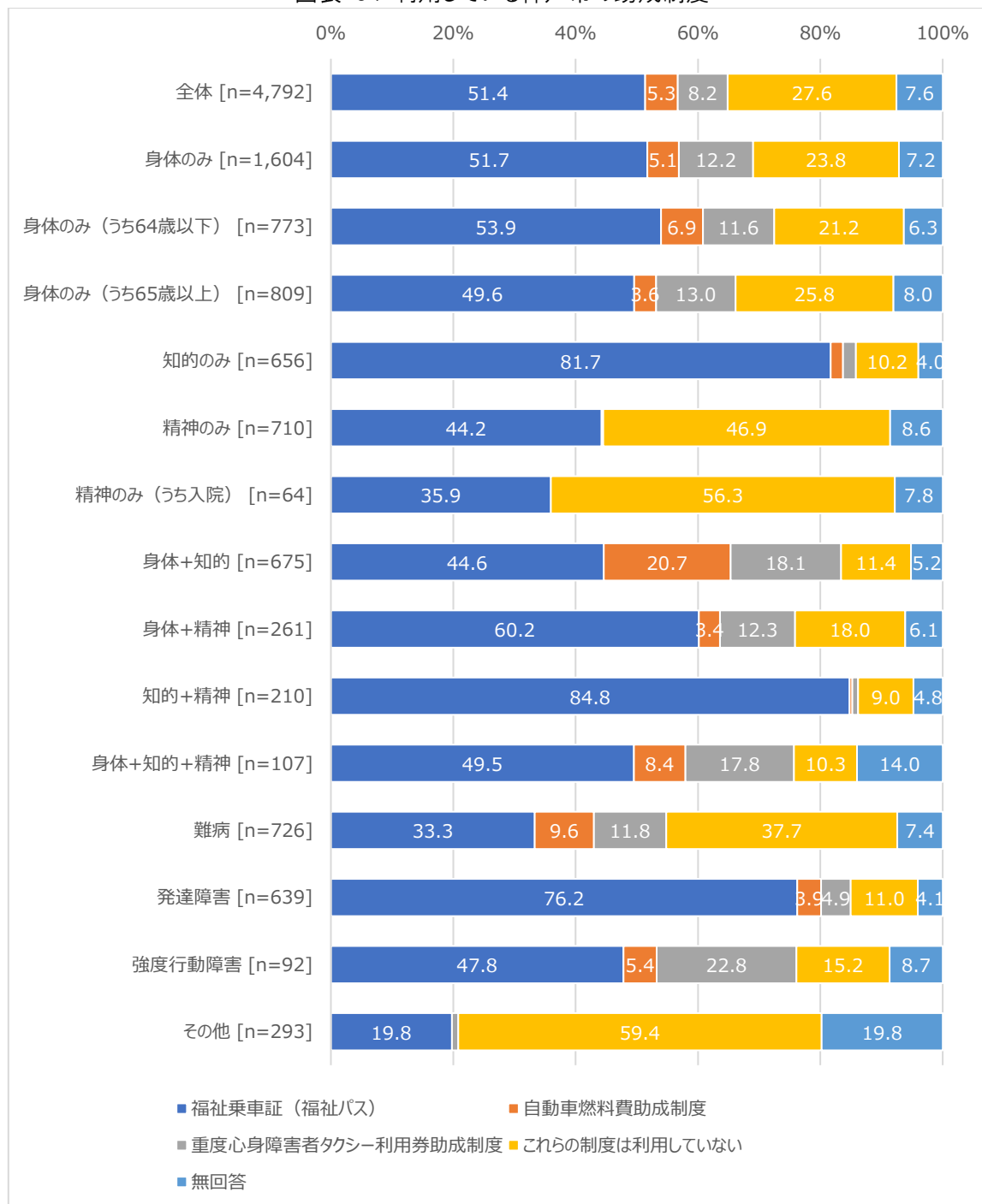
手帳所持・診断区分 (単位: %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち 64 歳以下)	身体のみ (うち 65 歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,477	1,505	733	753	629	669	59	628	248	202	94	678	611	85	243
通勤や通学	27.3	25.6	47.9	4.0	43.2	22.6	0.0	24.4	13.3	32.7	9.6	33.3	49.1	14.1	15.6
福祉施設、障害福祉サービス事業所などへの通所	16.6	6.9	8.0	5.8	31.6	6.6	1.7	39.6	9.7	36.6	35.1	12.5	30.3	34.1	4.1
買い物や銀行、郵便局、散髪など、日常生活上の必要に応じて	55.3	60.5	58.7	62.7	46.7	63.4	47.5	39.3	55.6	56.9	43.6	59.0	48.9	42.4	56.0
病院などへの通院	58.1	65.2	58.7	72.0	35.9	57.2	13.6	56.8	66.5	62.4	63.8	68.3	46.0	61.2	53.9
市役所・区役所・福祉事務所など、役所への用事	24.4	29.6	28.1	31.2	12.2	30.2	3.4	12.3	37.9	27.2	21.3	27.6	16.4	20.0	19.8
就職活動（企業、ハローワークなど）	1.7	1.3	2.3	0.3	0.6	3.7	1.7	0.6	3.2	2.5	2.1	1.2	2.6	0.0	1.6
スポーツ活動・観戦	6.1	7.0	8.0	6.1	7.6	4.8	0.0	4.5	4.4	6.9	5.3	6.8	8.2	2.4	2.1
趣味や創作活動	11.6	10.8	14.1	8.0	16.4	11.2	8.5	7.6	12.5	10.9	6.4	14.0	16.7	3.5	8.6
グループ活動への参加	2.9	2.4	1.8	3.1	2.7	2.2	1.7	3.7	4.4	3.5	3.2	3.5	3.3	5.9	2.5
友人とのつきあいなど	16.7	20.2	23.3	17.7	14.1	17.3	5.1	8.1	15.3	18.3	7.4	19.8	17.2	7.1	14.0
散歩、気晴らし	22.7	20.2	20.9	19.9	23.4	22.1	28.8	28.2	21.8	22.3	22.3	22.7	26.5	29.4	24.7
その他	4.1	3.2	2.3	4.0	4.6	4.5	6.8	5.4	5.6	3.5	9.6	3.4	2.9	2.4	3.7
無回答	7.3	7.3	6.5	8.0	5.6	7.6	22.0	7.0	11.7	3.5	10.6	7.4	4.9	12.9	11.9

④利用している神戸市の助成制度

外出に関し利用している神戸市の助成制度を聞いたところ、「福祉乗車証（福祉パス）」が 51.4%、「重度心身障害者タクシー利用券助成制度」が 8.2%、「自動車燃料費助成制度」が 5.3%となっている。一方、「これらの制度は利用していない」は 27.6%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的+精神」「知的のみ」「発達障害」で「福祉乗車証（福祉パス）」の割合が高くなっている。また「精神のみ」「精神のみ（うち入院）」では「これらの制度は利用していない」の割合が高くなる。

なお、「難病（特定医療費（指定難病）受給等のみ）」は制度利用対象外となるため、「これらの制度は利用していない」の割合が高くなっている。

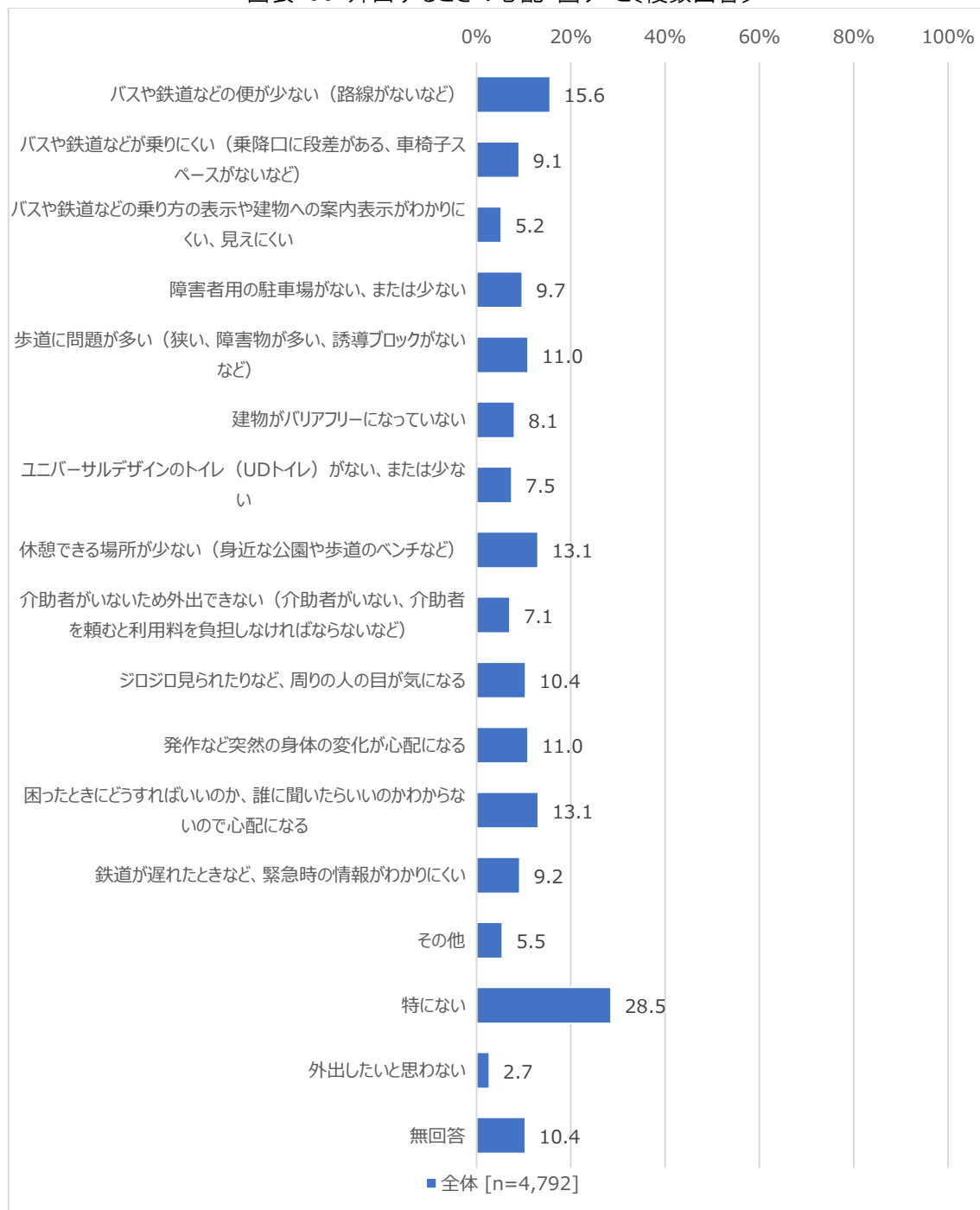
図表 34 利用している神戸市の助成制度



⑤外出するときの心配・困りごと

外出するときの心配・困りごととしては、「バスや鉄道などの便が少ない(路線がないなど)」が15.6%、「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」「困ったときにどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配になる」がいずれも13.1%等となっている。一方、「特にない」は28.5%となっている。

図表 35 外出するときの心配・困りごと〔複数回答〕



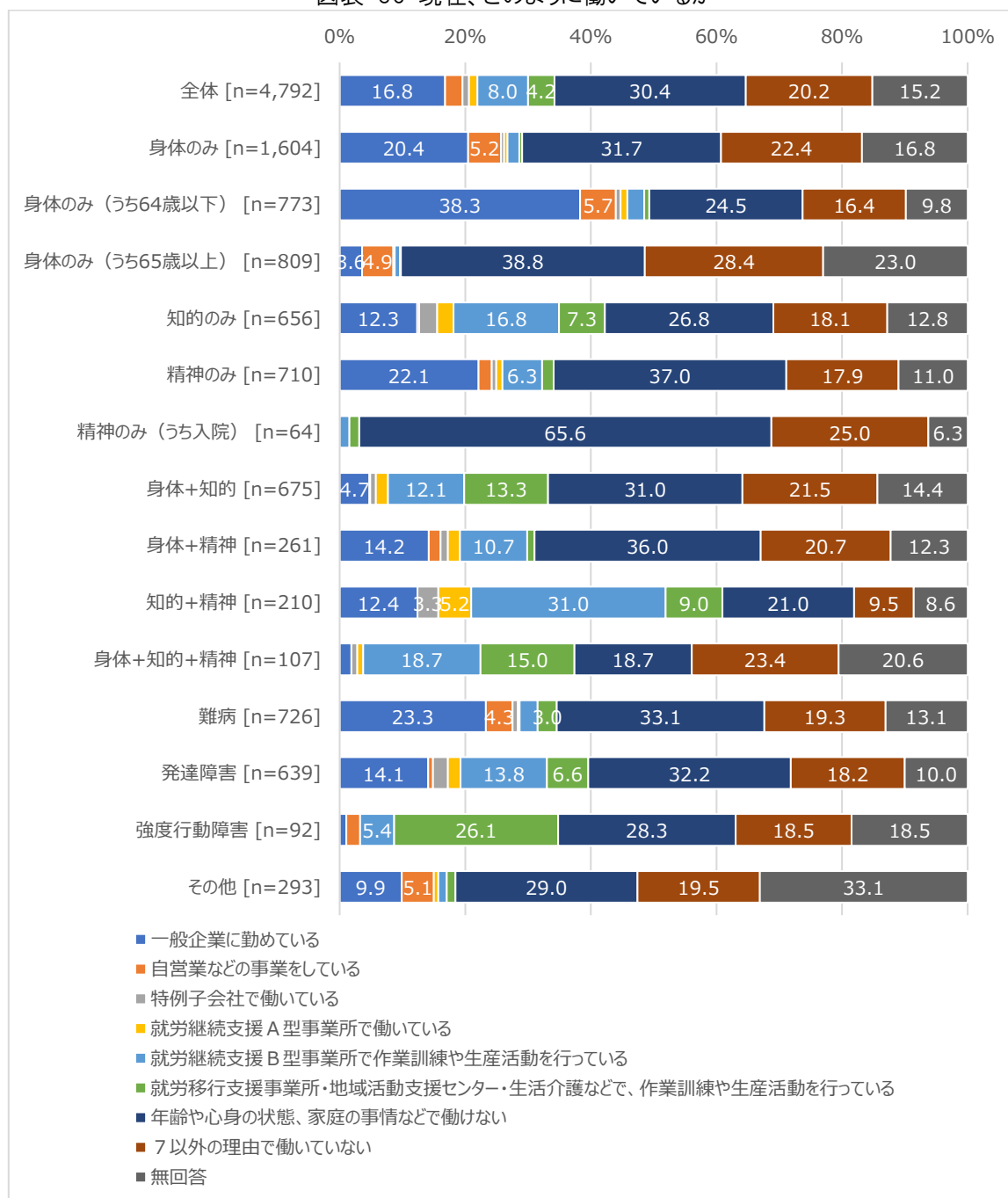
手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
バスや鉄道などの便が少ない（路線がないなど）	15.6	15.4	16.0	14.7	16.3	19.0	10.9	9.2	18.4	21.4	16.8	15.3	17.5	14.1	14.3
バスや鉄道などが乗りにくい（乗降口に段差がある、車椅子スペースがないなど）	9.1	11.4	10.6	12.1	2.4	3.8	4.7	19.1	12.3	3.3	13.1	11.0	4.9	6.5	5.8
バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい、見えにくい	5.2	4.8	5.7	4.1	6.9	4.5	7.8	6.7	5.7	7.1	1.9	4.7	6.7	4.3	4.1
障害者用の駐車場がない、または少ない	9.7	13.3	16.2	10.5	3.5	1.1	0.0	23.4	11.5	2.4	12.1	14.6	5.9	13.0	1.7
歩道に問題が多い（狭い、障害物が多い、誘導ブロックがないなど）	11.0	13.9	15.7	12.0	5.2	5.2	0.0	20.0	18.8	4.8	6.5	12.5	6.7	13.0	3.8
建物がバリアフリーになっていない	8.1	10.6	12.9	8.4	0.8	3.1	1.6	18.8	10.7	0.5	6.5	12.3	3.1	6.5	5.1
ユニバーサルデザインのトイレ（UD トイレ）がない、または少ない	7.5	6.7	8.9	4.6	5.5	2.0	1.6	22.5	6.5	3.3	9.3	11.0	6.4	12.0	2.0
休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）	13.1	15.7	13.6	17.9	6.6	14.2	12.5	12.0	18.4	11.4	8.4	14.0	10.5	8.7	10.6
介助者がいないため外出できない（介助者がいない、介助者を頼むと利用料を負担しなければならないなど）	7.1	6.1	5.6	6.6	8.7	2.7	9.4	13.9	5.4	8.1	15.9	7.0	9.1	19.6	6.1
ジロジロ見られたりなど、周りの人の目が気になる	10.4	3.9	6.2	1.7	18.8	13.8	17.2	15.6	11.1	21.4	14.0	6.7	23.0	28.3	5.8
発作など突然の身体の変化が心配になる	11.0	8.3	9.3	6.9	6.7	13.9	10.9	15.9	19.9	15.2	25.2	13.2	11.1	15.2	4.8
困ったときにどうすればいいのかわからないのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配になる	13.1	7.7	8.9	6.4	24.1	11.5	18.8	15.6	15.7	30.5	14.0	8.7	26.3	16.3	8.5
鉄道が遅れたときなど、緊急時の情報がわかりにくい	9.2	5.6	7.4	4.1	19.4	6.9	9.4	11.7	6.9	18.6	10.3	4.8	21.3	13.0	5.5
その他	5.5	4.4	5.0	4.0	5.6	4.9	10.9	8.9	5.7	6.7	12.1	5.2	7.5	14.1	3.4
特になし	28.5	29.9	30.7	29.5	31.3	34.2	25.0	13.3	23.0	22.9	12.1	29.3	24.6	14.1	33.8
外出したいと思わない	2.7	3.1	1.8	4.2	2.1	3.8	6.3	2.2	1.5	1.9	1.9	2.5	1.4	5.4	3.4
無回答	10.4	10.3	8.5	12.0	7.2	9.9	7.8	9.2	10.7	7.1	19.6	9.2	5.9	12.0	21.2

(7) 就労状況について

①現在、どのように働いているか

現在の就労状況について聞いたところ、働いている人については、「一般企業に勤めている」が 16.8% となっている。一方、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」は 30.4% となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「一般企業に勤めている」は「身体のみ（うち 64 歳以下）」が 4 割程度と高く、「精神のみ」「難病」も 2 割程度を占める。また「就労継続支援 A 型事業所で働いている」の回答割合は総じて低いが「知的+精神」が 5.2% となる。「就労継続支援 B 型事業所で作業訓練や生産活動を行っている」についても「知的+精神」が 3 割程度と他の属性に比べて高くなっている。「就労移行支援事業所・地域活動支援センター・生活介護などで作業訓練や生産活動を行っている」については「身体+知的」「身体+知的+精神」「強度行動障害」が他の属性と比べて高くなる。

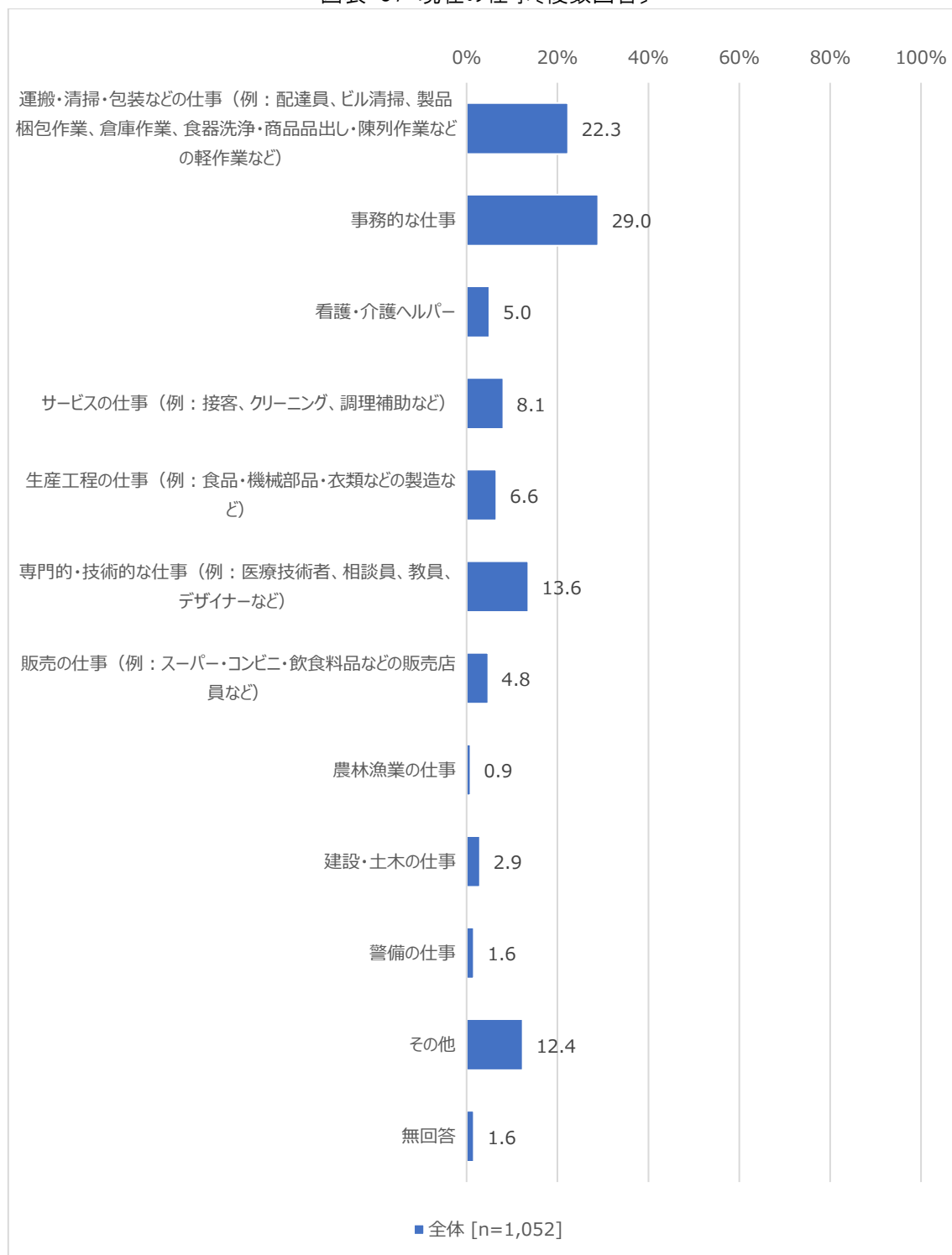
図表 36 現在、どのように働いているか



②現在の仕事

就労をしている人（A型事業所含む）に、現在の仕事の内容を聞いたところ、「事務的な仕事」が29.0%、「運搬・清掃・包装などの仕事（例：配達員、ビル清掃、製品梱包作業、倉庫作業、食器洗浄・商品品出し・陳列作業などの軽作業など）」が22.3%等となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体のみ（64歳以下）」「身体+精神」「難病」は「事務的な仕事」の割合が高く、「知的のみ」「身体+知的」「知的+精神」「発達障害」は「運搬・清掃・包装などの仕事」の割合が高くなる。

図表 37 現在の仕事〔複数回答〕



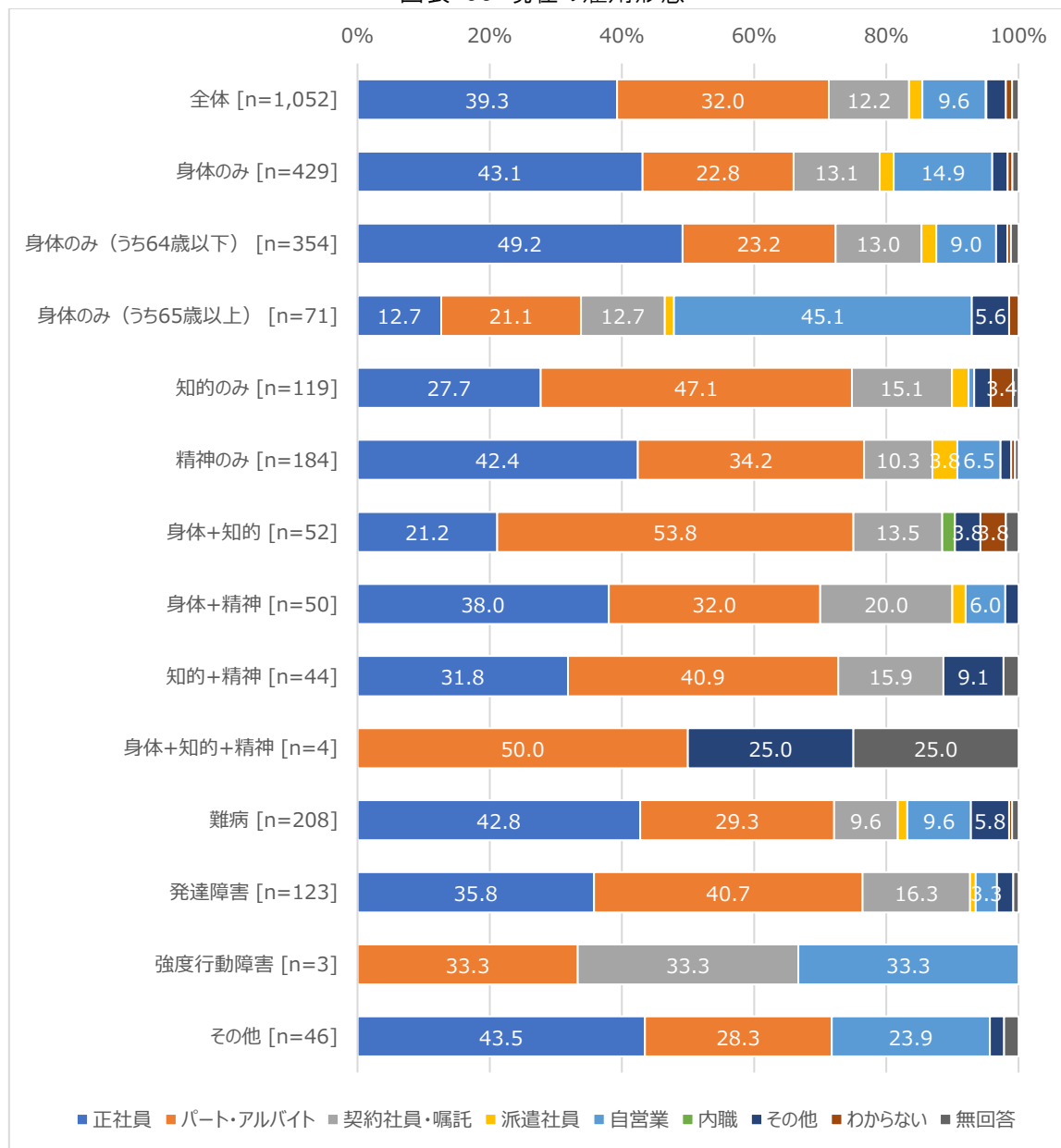
※本問は「その他」の割合が比較的高くなっているが、回答としては、営業職、管理職、ドライバー、不動産管理など多様な回答が見られる。

手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	1,052	429	354	71	119	184	52	50	44	4	208	123	3	46
運搬・清掃・包装などの仕事（例：配達員、ビル清掃、製品梱包作業、倉庫作業、食器洗浄・商品品出し・陳列作業などの軽作業など）	22.3	13.3	14.4	7.0	50.4	21.7	55.8	16.0	43.2	25.0	10.6	40.7	33.3	17.4
事務的な仕事	29.0	38.9	41.2	26.8	10.1	27.7	7.7	46.0	18.2	0.0	34.6	21.1	33.3	17.4
看護・介護ヘルパー	5.0	2.8	2.5	4.2	3.4	10.9	3.8	4.0	4.5	0.0	4.3	4.9	0.0	6.5
サービスの仕事（例：接客、クリーニング、調理補助など）	8.1	6.1	6.5	4.2	10.1	9.2	7.7	12.0	4.5	25.0	9.1	9.8	33.3	15.2
生産工程の仕事（例：食品・機械部品・衣類などの製造など）	6.6	3.7	4.0	2.8	16.0	7.1	5.8	4.0	9.1	25.0	5.8	13.8	0.0	4.3
専門的・技術的な仕事（例：医療技術者、相談員、教員、デザイナーなど）	13.6	16.3	14.7	25.4	1.7	16.8	1.9	6.0	2.3	0.0	18.3	5.7	0.0	15.2
販売の仕事（例：スーパー・コンビニ・飲食品などの販売店員など）	4.8	4.0	4.0	4.2	5.9	4.9	5.8	8.0	4.5	0.0	3.8	3.3	0.0	4.3
農林漁業の仕事	0.9	0.7	0.3	2.8	0.0	0.5	1.9	0.0	2.3	0.0	0.5	0.8	33.3	4.3
建設・土木の仕事	2.9	4.4	4.2	5.6	0.0	3.3	1.9	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	4.3
警備の仕事	1.6	2.3	2.5	1.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.3	0.0	1.0	0.8	0.0	2.2
その他	12.4	12.4	11.3	16.9	10.9	10.9	13.5	10.0	18.2	0.0	17.3	8.1	0.0	8.7
無回答	1.6	2.3	1.7	5.6	0.8	2.2	1.9	0.0	0.0	25.0	0.5	1.6	0.0	0.0

③現在の雇用形態

就労をしている人（A型事業所含む）の現在の雇用形態は、「正社員」が39.3%、「パート・アルバイト」が32.0%等となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体のみ（うち64歳以下）」「精神のみ」「身体+精神」「難病」は「正社員」の割合が高く、「知的のみ」「身体+知的」「知的+精神」「発達障害」は「パート・アルバイト」の割合が高い。

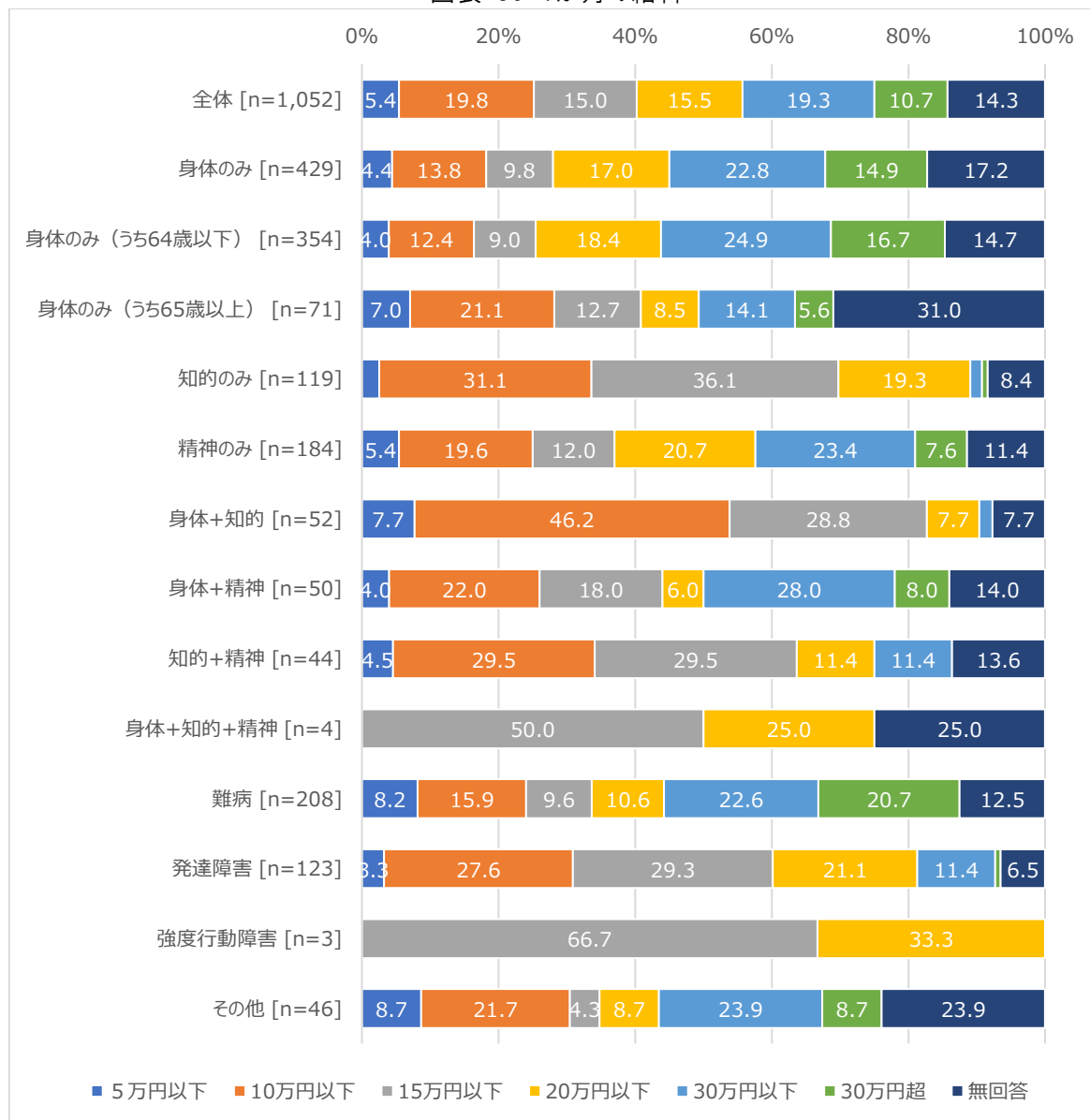
図表 38 現在の雇用形態



④ 1 か月の給料

就労をしている人（A型事業所含む）に、1か月の給料の額を聞いたところ、「10万円以下」が19.8%、「30万円以下」が19.3%となっている。平均額は192,828円である。手帳所持・診断区分で見ると、「難病」「身体のみ（64歳以下）」が20万円台となり、「知的のみ」「身体+知的」「知的+精神」「発達障害」は10万円台前半となっている。

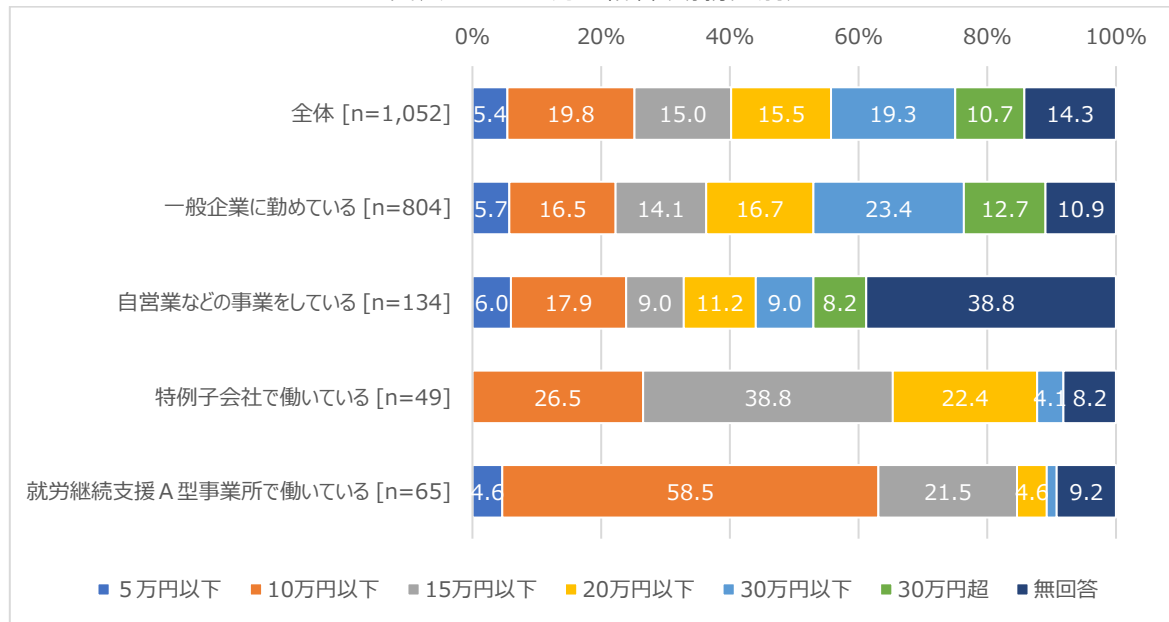
図表 39 1か月の給料



1か月の給料 (単位: 円)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	902	355	302	49	109	163	48	43	38	3	182	115	3	35
平均額	192,828	221,437	229,573	169,163	131,569	183,067	106,917	190,605	129,763	153,333	236,280	142,209	158,333	188,429

勤務先別で1か月の給料の額を見ると、一般企業に勤めている人で、給料の比較的高い人の多い傾向が見られる。「就労継続支援A型事業所で働いている」人は10万円を切っている。

図表 40 1か月の給料(勤務先別)

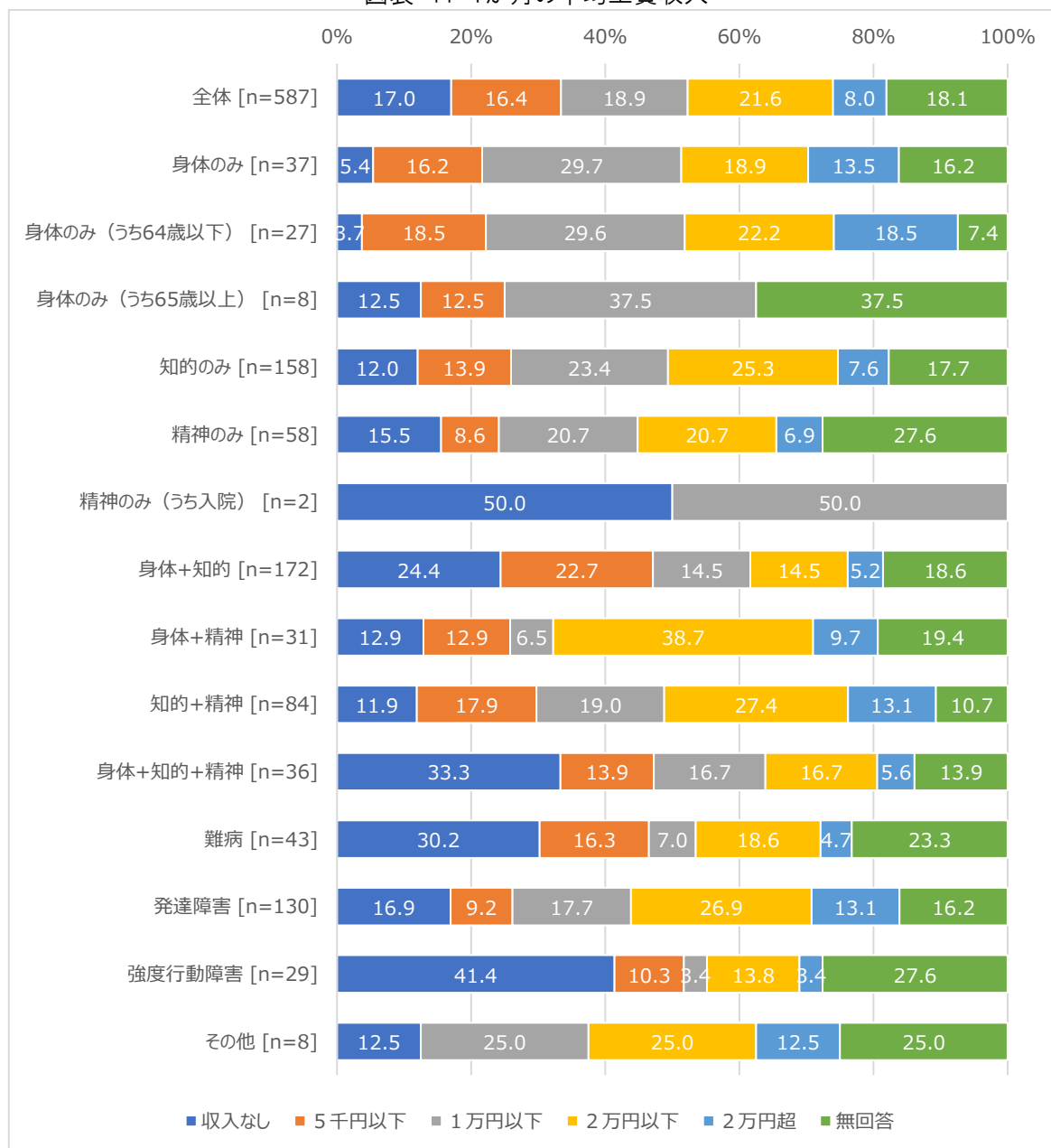


1か月の給料 (単位：円)	全体	一般企業に勤めてい る	自営業などの事業を している	特例子会社で働いて いる	就労継続支援A型 事業所で働いている
n=	902	716	82	45	59
平均額	192,828	203,415	198,732	136,089	99,424

⑤工賃収入の有無・1か月の平均工賃収入

B型事業所等で生産活動等に従事している人に、工賃収入の有無と、1か月の平均工賃収入について聞いたところ、「2万円以下」が21.6%、「1万円以下」が18.9%等となっている。平均額は12,691円である。また、工賃の「収入なし」は17.0%となっている。

図表 41 1か月の平均工賃収入

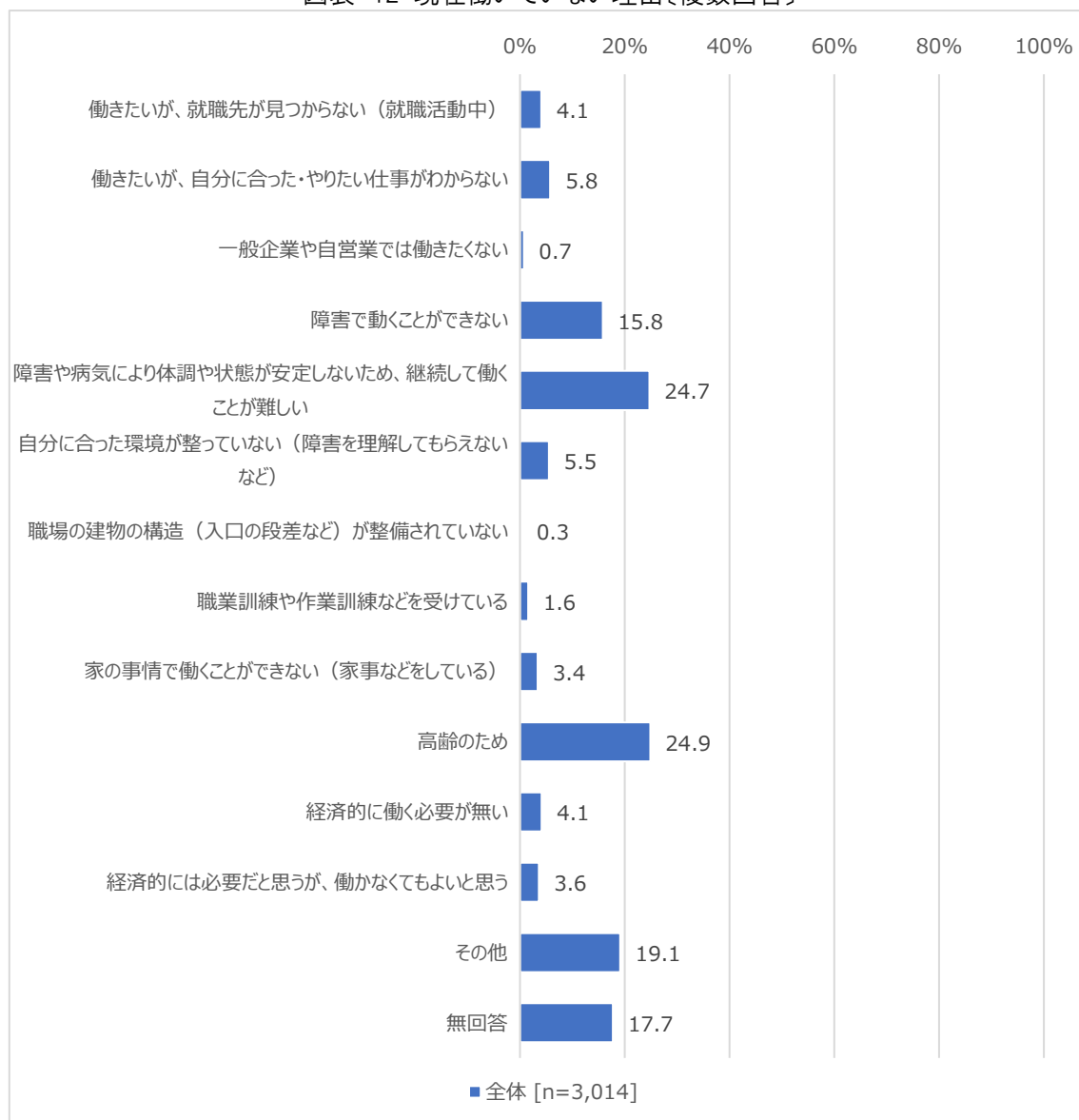


1か月の工賃 (単位：円)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	381	29	24	4	111	33	1	98	21	65	19	20	87	9	5
平均額	12,691	12,828	13,458	8,500	12,606	12,656	10,000	10,776	12,857	13,500	16,684	12,350	15,391	12,667	25,200

⑥現在働いていない理由

現在働いていない人に、その理由を聞いたところ、「高齢のため」が 24.9%、「障害や病気により体調や状態が安定しないため、継続して働くことが難しい」が 24.7%、「障害で働くことができない」が 15.8%等となっている。

図表 42 現在働いていない理由〔複数回答〕



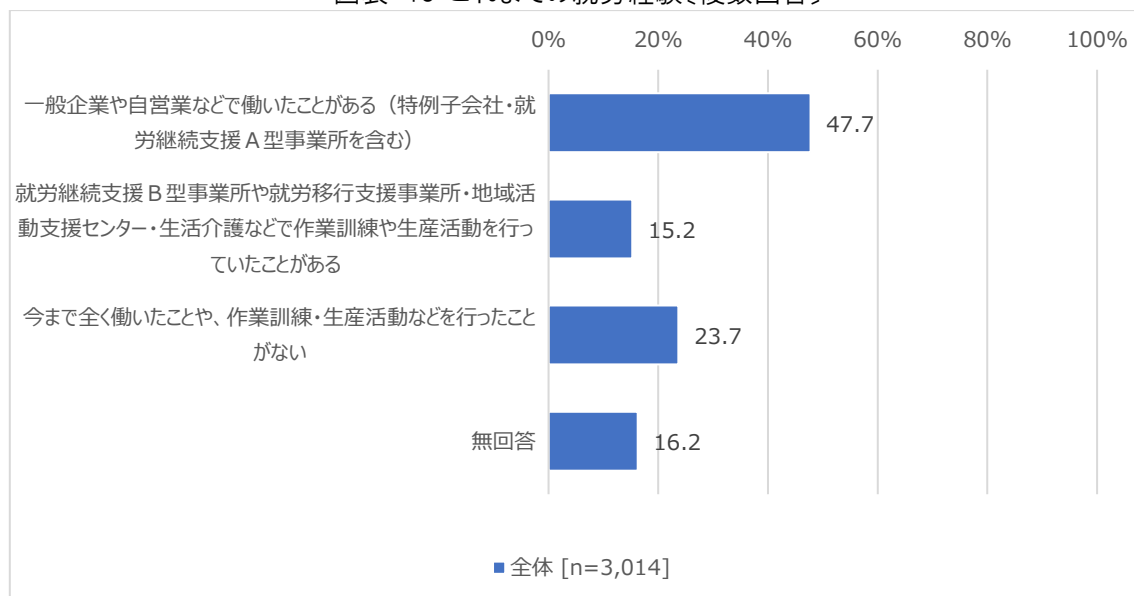
※本問は「その他」の割合が比較的高くなっているが、回答としては、学生、定年退職、入院中などの回答が多くなっている。

手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	3,014	905	343	552	453	448	60	526	179	148	81	423	452	72	150
働きたいが、就職先が見つからない（就職活動中）	4.1	4.2	7.9	2.0	2.9	5.4	3.3	1.1	7.3	8.8	7.4	3.5	3.3	1.4	5.3
働きたいが、自分に合った・やりたい仕事が見つからない	5.8	3.9	7.6	1.4	5.5	7.8	5.0	4.0	10.1	14.2	9.9	4.5	8.4	5.6	3.3
一般企業や自営業では働きたくない	0.7	0.0	0.0	0.0	1.5	0.4	0.0	0.4	1.1	5.4	0.0	0.0	0.9	2.8	0.7
障害で働くことができない	15.8	16.1	21.6	12.9	8.2	8.9	15.0	30.8	20.7	7.4	21.0	17.5	7.7	19.4	9.3
障害や病気により体調や状態が安定しないため、継続して働くことが難しい	24.7	19.8	30.3	13.2	13.9	43.3	55.0	16.2	39.1	45.3	28.4	24.1	19.7	29.2	22.7
自分に合った環境が整っていない（障害を理解してもらえないなど）	5.5	2.1	4.4	0.7	7.5	5.4	10.0	6.5	8.9	17.6	9.9	4.3	11.3	9.7	2.0
職場の建物の構造（入口の段差など）が整備されていない	0.3	0.6	1.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
職業訓練や作業訓練などを受けている	1.6	0.8	2.0	0.0	2.6	1.1	0.0	1.9	1.7	4.7	2.5	0.5	2.7	2.8	0.7
家の事情で働くことができない（家事などを行っている）	3.4	4.0	6.1	2.7	1.1	5.8	0.0	1.3	4.5	3.4	2.5	4.7	1.5	0.0	2.0
高齢のため	24.9	42.2	6.4	64.9	7.9	25.9	13.3	5.7	24.6	7.4	12.3	29.8	1.5	5.6	40.0
経済的に働く必要が無い	4.1	6.7	5.0	8.0	1.1	5.4	3.3	1.0	3.4	0.0	0.0	5.4	0.4	1.4	6.7
経済的には必要だと思うが、働かなくてもよいと思う	3.6	5.1	2.6	6.5	0.7	4.9	1.7	0.8	6.7	3.4	2.5	4.5	0.7	1.4	3.3
その他	19.1	11.6	23.6	4.2	43.5	9.6	13.3	28.1	6.7	18.9	17.3	20.1	46.5	37.5	12.7
無回答	17.7	15.6	15.5	15.4	21.0	15.4	16.7	22.2	15.6	16.2	19.8	15.8	19.0	15.3	18.0

⑦これまでの就労経験

現在働いていない人に、これまでの就労経験を聞いたところ、「一般企業や自営業などで働いたことがある（特例子会社・就労継続支援 A 型事業所を含む）」が 47.7%、「今まで全く働いたことや、作業訓練・生産活動などを行ったことがない」が 23.7%、「就労継続支援 B 型事業所や就労移行支援事業所・地域活動支援センター・生活介護などで作業訓練や生産活動を行っていたことがある」が 15.2%となっている。

図表 43 これまでの就労経験〔複数回答〕

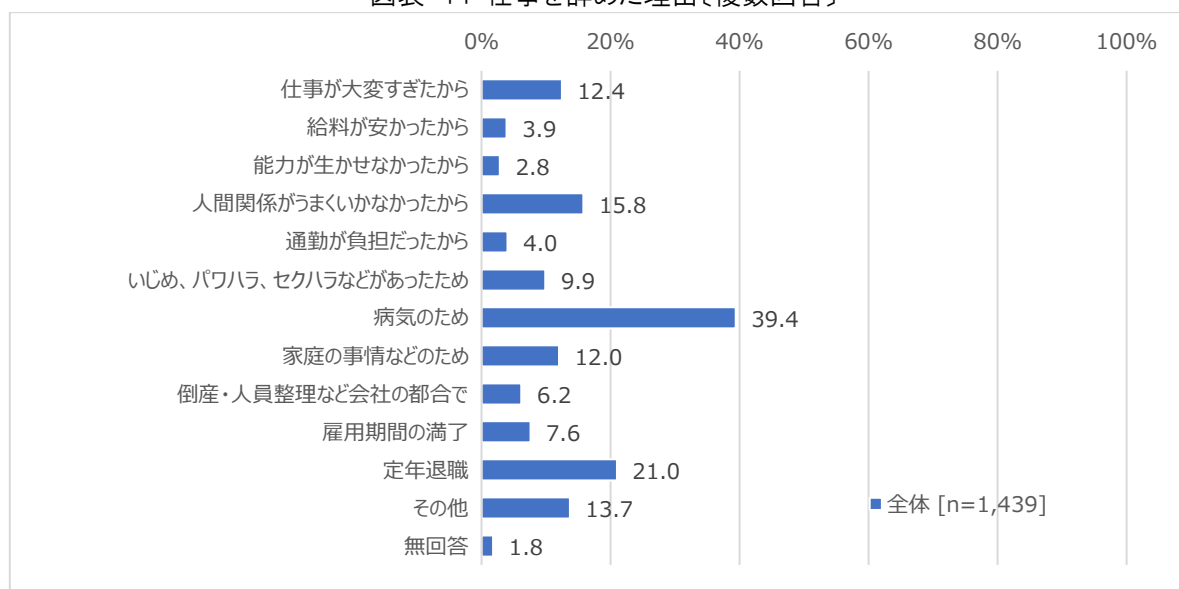


手帳所持・診断区分 (単位 : %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち 64 歳以下)	身体のみ (うち 65 歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	3,014	905	343	552	453	448	60	526	179	148	81	423	452	72	150
一般企業や自営業などで働いたことがある（特例子会社・就労継続支援 A 型事業所を含む）	47.7	68.1	55.1	76.4	15.0	71.4	51.7	8.4	68.2	35.8	27.2	57.9	15.7	8.3	62.0
就労継続支援 B 型事業所や就労移行支援事業所・地域活動支援センター・生活介護などで作業訓練や生産活動を行っていたことがある	15.2	2.3	3.8	1.3	27.2	12.3	23.3	24.5	10.6	48.0	33.3	5.9	24.3	31.9	8.0
今まで全く働いたことや、作業訓練・生産活動などを行ったことがない	23.7	14.9	29.2	6.2	39.3	9.8	25.0	49.0	9.5	18.9	27.2	25.1	45.8	41.7	14.0
無回答	16.2	15.1	12.2	16.7	22.3	12.5	5.0	20.2	15.6	6.1	18.5	12.5	19.7	18.1	16.7

⑧仕事を辞めた理由

以前に一般企業や自営業等で働いたことのある人に、仕事を辞めた理由を聞いたところ、「病気のため」が39.4%、「定年退職」が21.0%等となっている。職場環境に関わる理由では「人間関係がうまくいかなかったから」「仕事が大変すぎたから」「いじめ・パワハラ・セクハラなどがあったから」の割合が高くなり、「給料が安かったから」「能力が生かせなかったから」「通勤が負担だったから」という回答割合は低くなっている。手帳所持・診断区分で見ると、「仕事が大変すぎたから」は「知的+精神」「発達障害」に高くなり、「人間関係がうまくいかなかったから」は「知的のみ」「知的+精神」「身体+知的+精神」「発達障害」に高く、「いじめ・パワハラ・セクハラなどがあったから」は「精神のみ」「身体+知的」「身体+精神」「知的+精神」「発達障害」が高くなる。

図表 44 仕事を辞めた理由〔複数回答〕



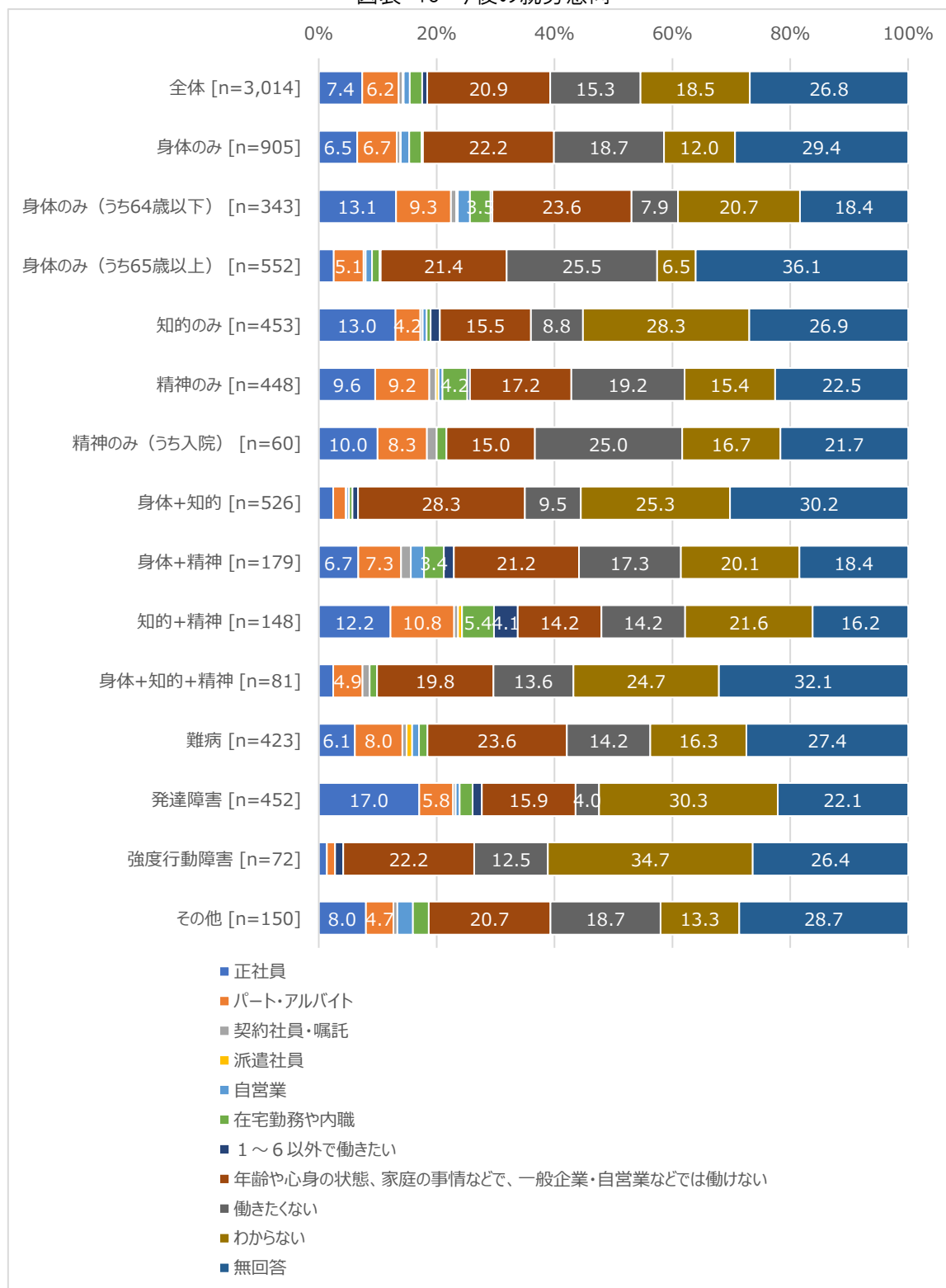
手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他	
n＝	1,439	616	189	422	68	320	31	44	122	53	22	245	71	6	93
仕事が大変すぎたから	12.4	6.0	13.2	2.8	29.4	17.2	6.5	11.4	13.1	47.2	22.7	8.2	38.0	16.7	8.6
給料が安かったから	3.9	2.9	4.8	2.1	5.9	4.4	3.2	0.0	4.9	11.3	4.5	1.2	8.5	0.0	6.5
能力が生かせなかったから	2.8	1.3	3.2	0.5	10.3	4.1	12.9	6.8	3.3	5.7	9.1	2.0	12.7	0.0	1.1
人間関係がうまくいかなかったから	15.8	6.5	13.2	3.3	36.8	21.3	19.4	25.0	19.7	60.4	45.5	6.5	53.5	33.3	15.1
通勤が負担だったから	4.0	3.1	5.3	2.1	5.9	3.4	3.2	2.3	7.4	13.2	4.5	2.4	7.0	0.0	2.2
いじめ、パワハラ、セクハラなどがあったため	9.9	3.7	7.9	1.7	11.8	18.4	9.7	20.5	18.0	24.5	4.5	5.7	25.4	0.0	3.2
病気のため	39.4	38.6	57.1	30.3	14.7	49.4	35.5	29.5	54.1	37.7	31.8	41.6	39.4	33.3	29.0
家庭の事情などのため	12.0	13.5	13.2	13.5	10.3	11.9	12.9	0.0	7.4	17.0	0.0	12.7	8.5	0.0	11.8
倒産・人員整理など会社の都合で	6.2	5.5	7.4	4.7	17.6	3.4	0.0	6.8	5.7	11.3	13.6	6.1	9.9	0.0	6.5
雇用期間の満了	7.6	8.1	6.9	8.8	10.3	6.6	6.5	6.8	6.6	7.5	9.1	9.0	11.3	16.7	3.2
定年退職	21.0	28.1	5.3	38.4	10.3	12.2	0.0	11.4	18.0	0.0	9.1	29.4	4.2	16.7	21.5
その他	13.7	14.6	15.3	14.2	10.3	14.4	29.0	18.2	8.2	9.4	9.1	10.6	14.1	16.7	17.2
無回答	1.8	1.8	1.1	2.1	1.5	1.9	3.2	2.3	0.0	1.9	0.0	2.9	1.4	0.0	2.2

※本問は「その他」の割合が比較的高くなっているが、回答としては、結婚退職、高齢のため（定年ではなく）などの回答が多くなっている。

⑨今後の就労意向

現在働いていない人に、今後の就労移行について聞いたところ、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで、一般企業・自営業などでは働けない」が 20.9%、「わからない」が 18.5%、「働きたくない」が 15.3% 等となっている。就労希望者については、「正社員」が 7.4%となっている。

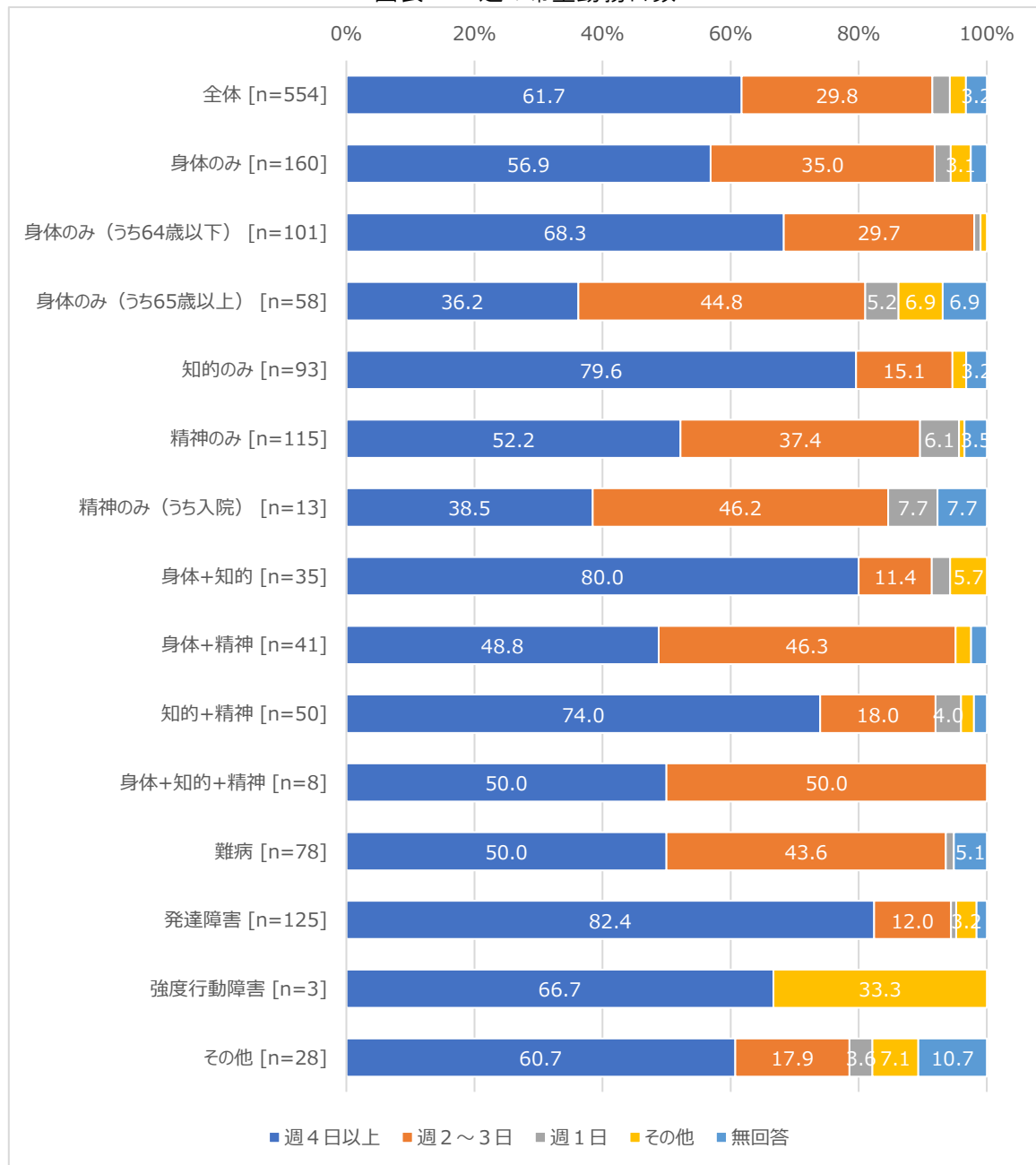
図表 45 今後の就労意向



⑩週の希望勤務日数

現在働いておらず、今後の就労意向のある人に、希望する週の勤務日数を聞いたところ、「週4日以上」が61.7%、「週2～3日」が29.8%となっている。

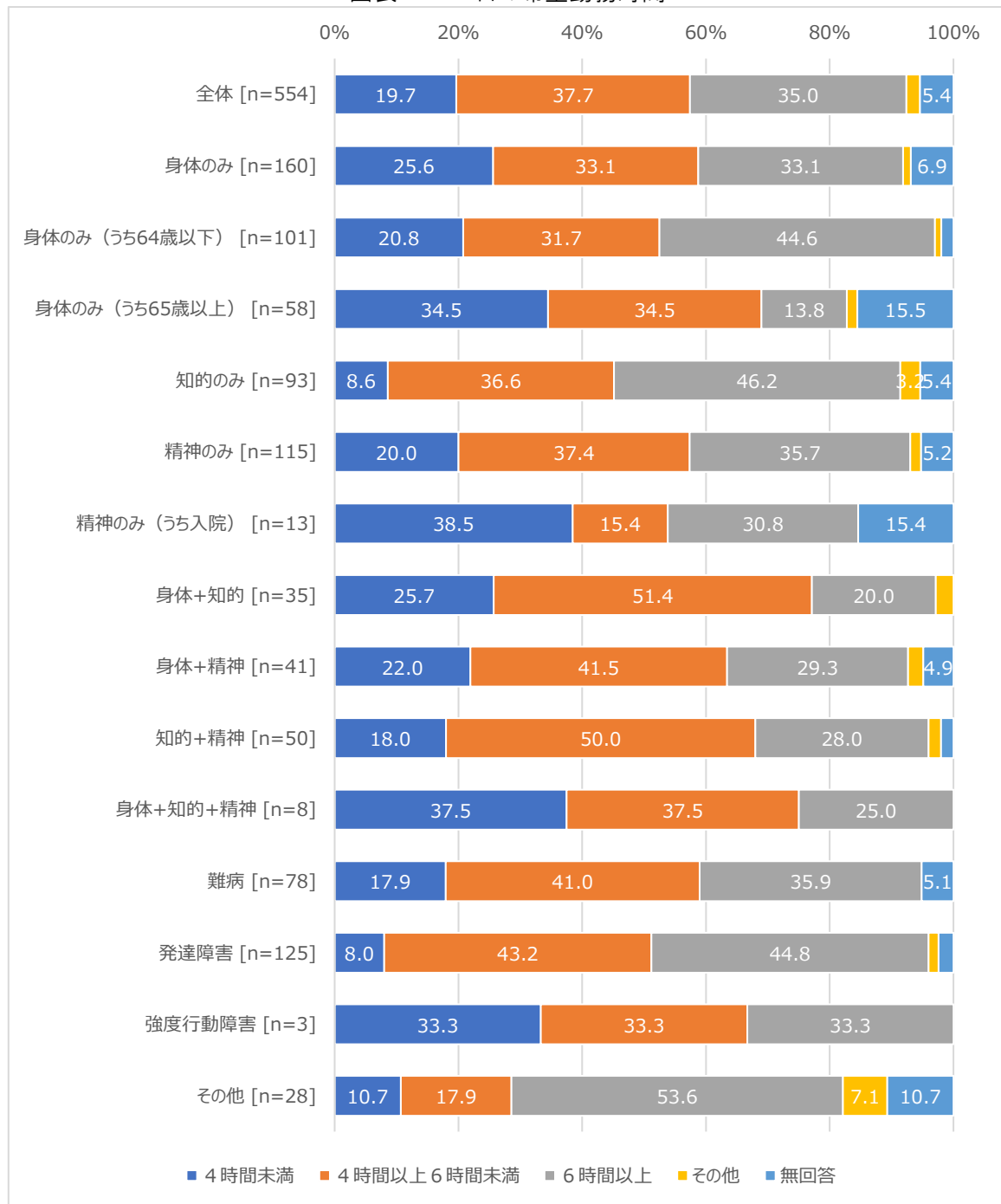
図表 46 週の希望勤務日数



⑪一日の希望勤務時間

現在働いておらず、今後の就労意向のある人に、一日の希望勤務時間を聞いたところ、「4時間以上6時間未満」が37.7%、「6時間以上」が35.0%、「4時間未満」が19.7%となっている。

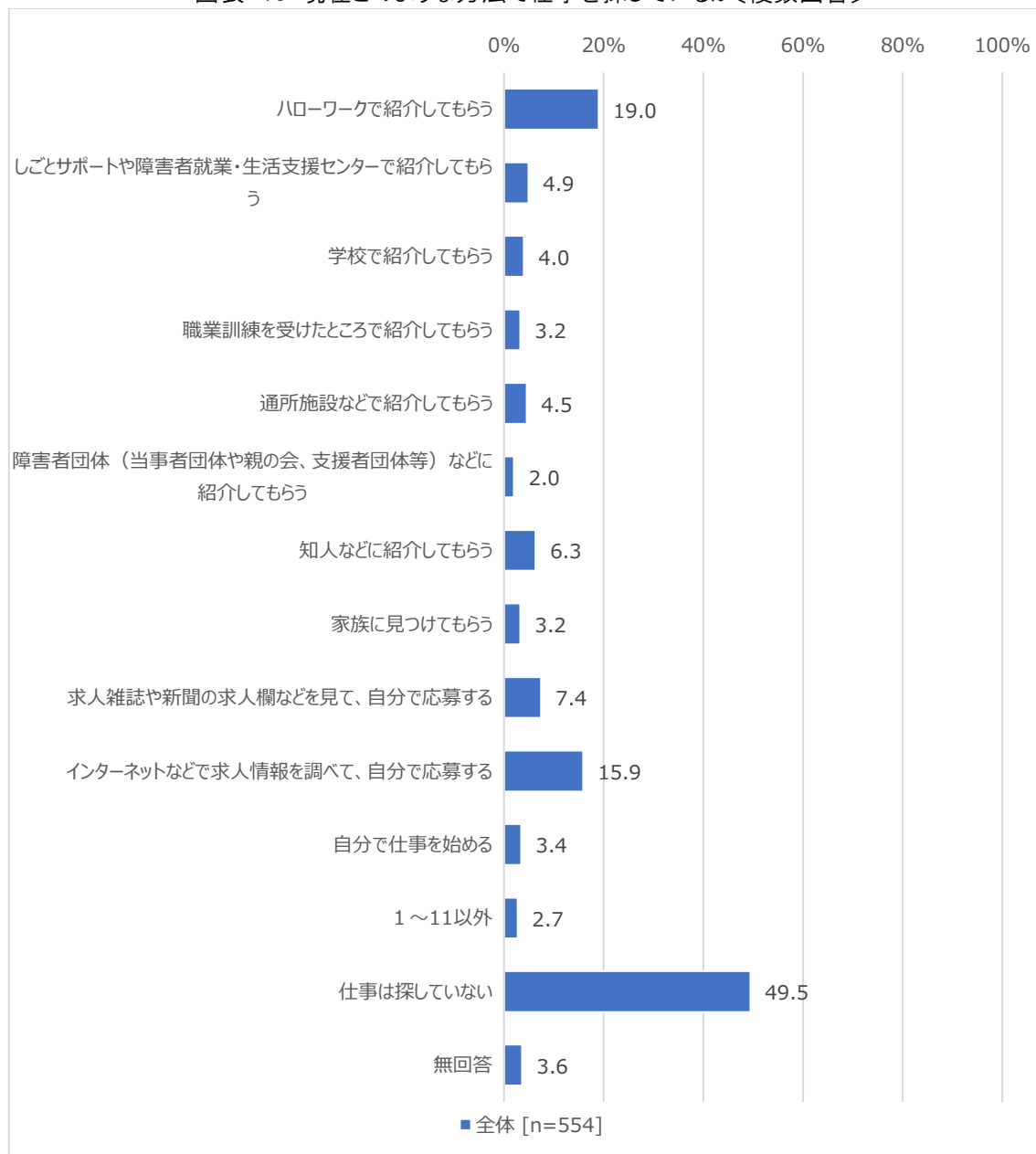
図表 47 一日の希望勤務時間



⑫現在どのような方法で仕事を探しているか

現在働いておらず、今後の就労意向のある人に、現在どのような方法で仕事を探しているかを聞いたところ、「仕事は探していない」が49.5%となっている。仕事を探している人については、「ハローワークで紹介してもらう」が19.0%、「インターネットなどで求人情報を調べて、自分で応募する」が15.9%等となっている。

図表 48 現在どのような方法で仕事を探しているか〔複数回答〕

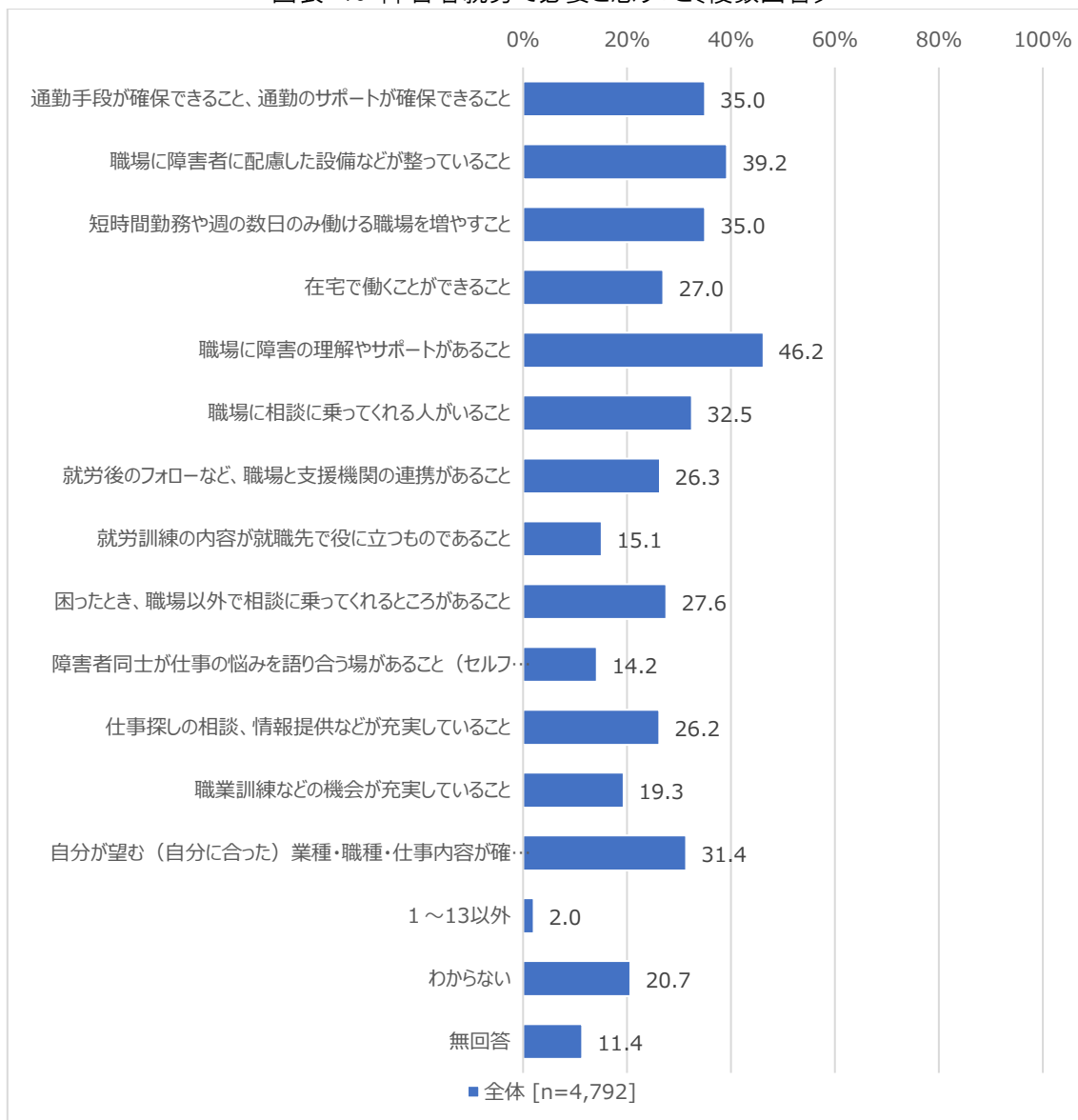


手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	554	160	101	58	93	115	13	35	41	50	8	78	125	3	28
ハローワークで紹介してもらう	19.0	20.6	23.8	15.5	12.9	18.3	15.4	14.3	22.0	26.0	25.0	20.5	16.0	66.7	25.0
しごとサポートや障害者就業・生活支援センターで紹介してもらう	4.9	3.8	3.0	5.2	6.5	2.6	15.4	5.7	4.9	12.0	12.5	0.0	5.6	33.3	3.6
学校で紹介してもらう	4.0	1.9	2.0	1.7	10.8	0.9	0.0	2.9	2.4	10.0	0.0	2.6	10.4	0.0	3.6
職業訓練を受けたところで紹介してもらう	3.2	2.5	3.0	1.7	3.2	2.6	0.0	8.6	4.9	6.0	0.0	3.8	3.2	0.0	0.0
通所施設などで紹介してもらう	4.5	1.3	2.0	0.0	7.5	6.1	0.0	2.9	2.4	6.0	12.5	1.3	8.0	0.0	7.1
障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）などに紹介してもらう	2.0	0.6	1.0	0.0	1.1	2.6	7.7	2.9	2.4	4.0	12.5	1.3	2.4	33.3	0.0
知人などに紹介してもらう	6.3	7.5	4.0	13.8	5.4	7.0	15.4	5.7	4.9	4.0	0.0	3.8	3.2	33.3	7.1
家族に見つけてもらう	3.2	1.9	3.0	0.0	3.2	4.3	0.0	0.0	2.4	4.0	25.0	3.8	4.8	0.0	3.6
求人雑誌や新聞の求人欄などを見て、自分で応募する	7.4	11.9	12.9	10.3	1.1	7.0	15.4	0.0	4.9	8.0	0.0	11.5	2.4	33.3	10.7
インターネットなどで求人情報を調べて、自分で応募する	15.9	13.1	16.8	6.9	6.5	23.5	7.7	8.6	19.5	22.0	25.0	17.9	13.6	0.0	10.7
自分で仕事を始める	3.4	4.4	6.9	0.0	1.1	2.6	23.1	0.0	9.8	6.0	0.0	3.8	3.2	0.0	3.6
1～11 以外	2.7	1.9	2.0	1.7	3.2	1.7	7.7	5.7	4.9	4.0	12.5	2.6	2.4	0.0	0.0
仕事は探していない	49.5	51.3	49.5	53.4	57.0	45.2	38.5	57.1	51.2	32.0	37.5	48.7	52.8	33.3	57.1
無回答	3.6	3.8	2.0	6.9	2.2	4.3	7.7	2.9	7.3	2.0	0.0	5.1	0.8	0.0	3.6

⑬障害者就労で必要と思うこと

今後、神戸市で障害のある人が就労していくために、どのようなことが必要だと思うかを聞いたところ、「職場に障害の理解やサポートがあること」の割合が46.2%と最も高く、次いで、「職場に障害者に配慮した設備などが整っていること」が39.2%、「通勤手段が確保できること、通勤のサポートが確保できること」「短時間勤務や週の数日のみ働ける職場を増やすこと」がいずれも35.0%等となっている。

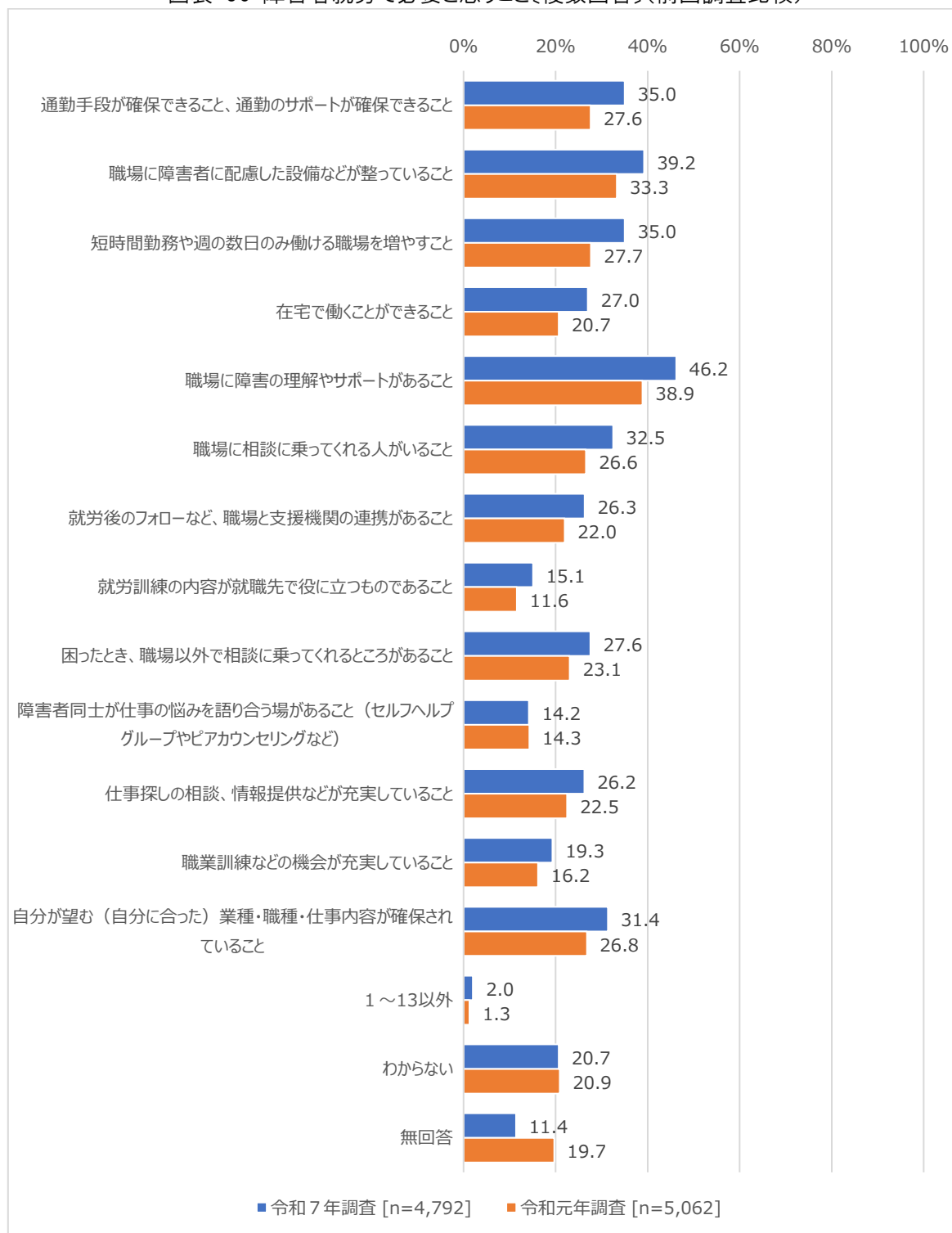
図表 49 障害者就労で必要と思うこと〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
通勤手段が確保できること、通勤のサポートが確保できること	35.0	35.5	40.0	31.6	35.2	29.0	26.6	39.1	38.7	34.3	40.2	43.4	38.7	38.0	23.2
職場に障害者に配慮した設備などが整っていること	39.2	40.7	50.1	32.4	41.6	29.6	15.6	46.1	37.5	43.8	39.3	46.4	49.8	41.3	22.2
短時間勤務や週の数日のみ働ける職場を増やすこと	35.0	34.2	40.8	27.9	30.9	37.6	18.8	34.8	38.7	43.8	31.8	44.6	40.1	33.7	22.9
在宅で働くことができること	27.0	32.0	41.1	23.6	15.7	27.0	10.9	24.1	31.8	26.2	19.6	39.9	25.4	15.2	20.1
職場に障害の理解やサポートがあること	46.2	43.0	55.8	31.5	59.1	42.5	28.1	52.6	42.1	55.7	43.9	49.7	67.4	45.7	22.9
職場に相談に乗ってくれる人がいること	32.5	27.1	36.1	18.8	44.5	33.4	28.1	33.9	28.7	55.2	32.7	32.2	51.3	29.3	17.7
就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携があること	26.3	20.0	25.1	15.6	37.2	25.2	17.2	35.3	22.2	35.7	28.0	29.1	44.4	29.3	14.7
就労訓練の内容が就職先で役に立つものであること	15.1	12.7	14.7	10.9	17.2	15.1	7.8	19.1	12.3	21.4	17.8	16.5	23.0	18.5	9.6
困ったとき、職場以外で相談に乗ってくれるところがあること	27.6	23.0	28.8	17.8	33.1	29.4	20.3	31.7	29.9	44.3	25.2	28.9	40.2	22.8	14.7
障害者同士が仕事の悩みを語り合う場があること (セルフヘルプグループやピアカウンセリングなど)	14.2	13.4	14.4	12.7	13.9	14.1	9.4	16.1	13.0	20.5	18.7	16.5	19.1	13.0	9.2
仕事探しの相談、情報提供などが充実していること	26.2	26.2	33.4	19.5	28.7	28.0	25.0	25.2	22.6	29.0	25.2	31.8	36.8	22.8	16.0
職業訓練などの機会が充実していること	19.3	16.7	19.1	14.5	25.0	17.5	12.5	23.4	17.6	20.0	20.6	22.5	30.8	16.3	12.3
自分が望む（自分に合った）業種・職種・仕事内容が確保されていること	31.4	28.7	36.7	21.5	39.2	31.8	29.7	30.8	31.8	42.4	26.2	32.9	46.3	28.3	20.8
1～13 以外	2.0	1.8	2.5	1.2	1.8	2.3	1.6	3.0	2.3	2.4	4.7	2.6	3.0	5.4	1.4
わからない	20.7	19.6	14.9	24.0	17.5	24.6	39.1	21.9	20.3	16.2	20.6	16.8	12.2	23.9	29.4
無回答	11.4	13.2	4.7	20.5	7.6	7.7	4.7	12.6	8.8	5.2	15.0	7.9	5.5	12.0	25.3

今後、神戸市で障害のある人が就労していくために、どのようなことが必要だと思うかという問について、前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「職場に障害の理解やサポートがあること」や「通勤手段が確保できること、通勤のサポートが確保できること」「短時間勤務や週の数日のみ働ける職場を増やすこと」等で、前回調査と比べて高い割合となっている。

図表 50 障害者就労で必要と思うこと〔複数回答〕（前回調査比較）

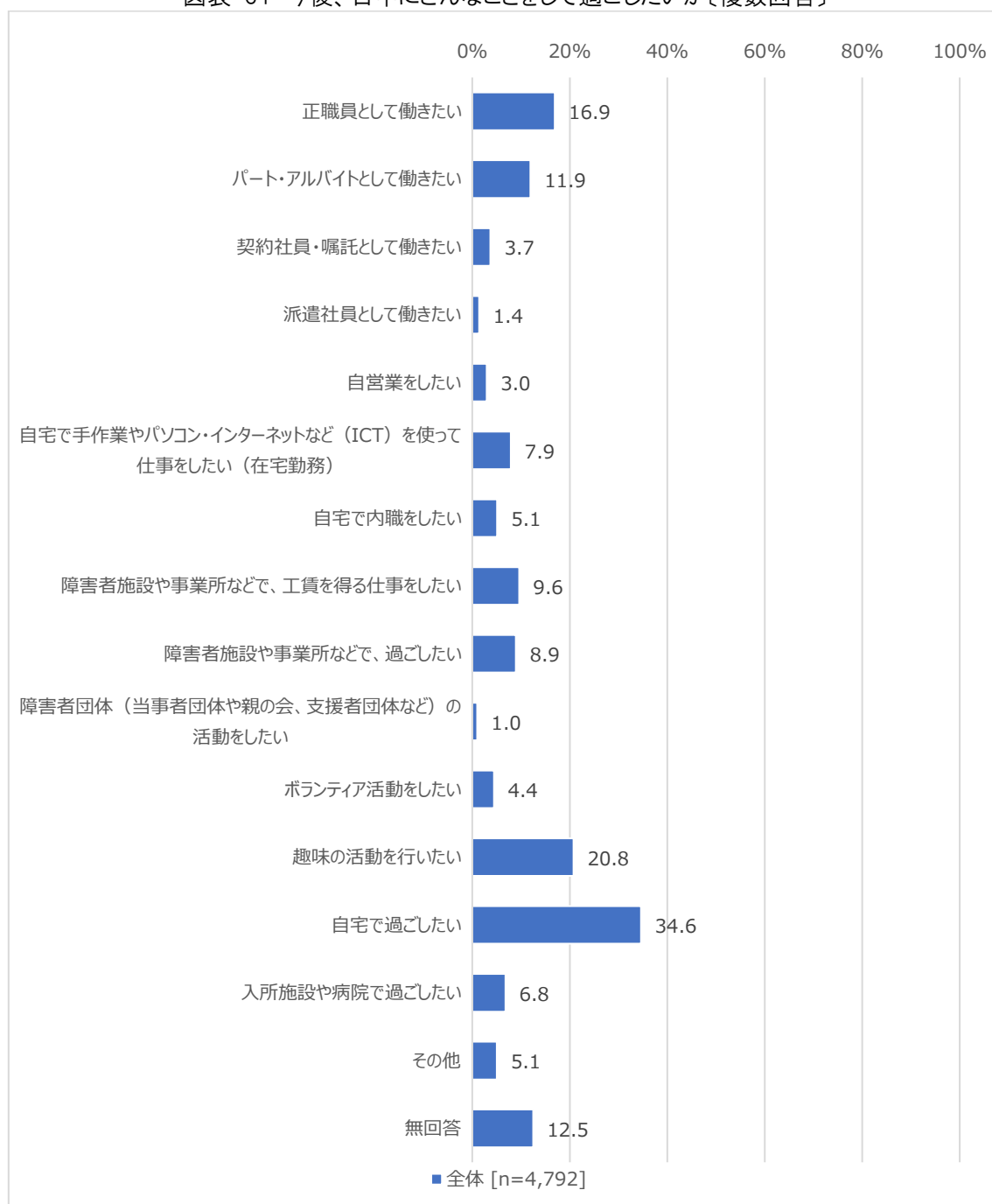


(8) 日中活動などについて

①今後、日中にどんなことをして過ごしたいか

今後、日中にどんなことをして過ごしたいかを聞いたところ、「自宅で過ごしたい」の割合が 34.6% と最も高く、次いで、「趣味の活動を行いたい」が 20.8%、「正職員として働きたい」が 16.9%等となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「正社員で働きたい」は「身体のみ（うち 64 歳以下）」「発達障害」の 3 割が回答している。「身体のみ（64 歳以下）」は「自宅で手作業やパソコン・インターネットなど（ICT）を使って仕事をしたい（在宅勤務）」の意向も他の属性と比べて高くなる。「障害者施設や事業所などで、工賃を得る仕事をしたい」は「知的のみ」「知的+精神」で高くなり、「障害者施設や事業所などで、過ごしたい」は「身体+知的」「身体+知的+精神」「強度行動障害」で高くなっている。

図表 51 今後、日中にどんなことをして過ごしたいか〔複数回答〕

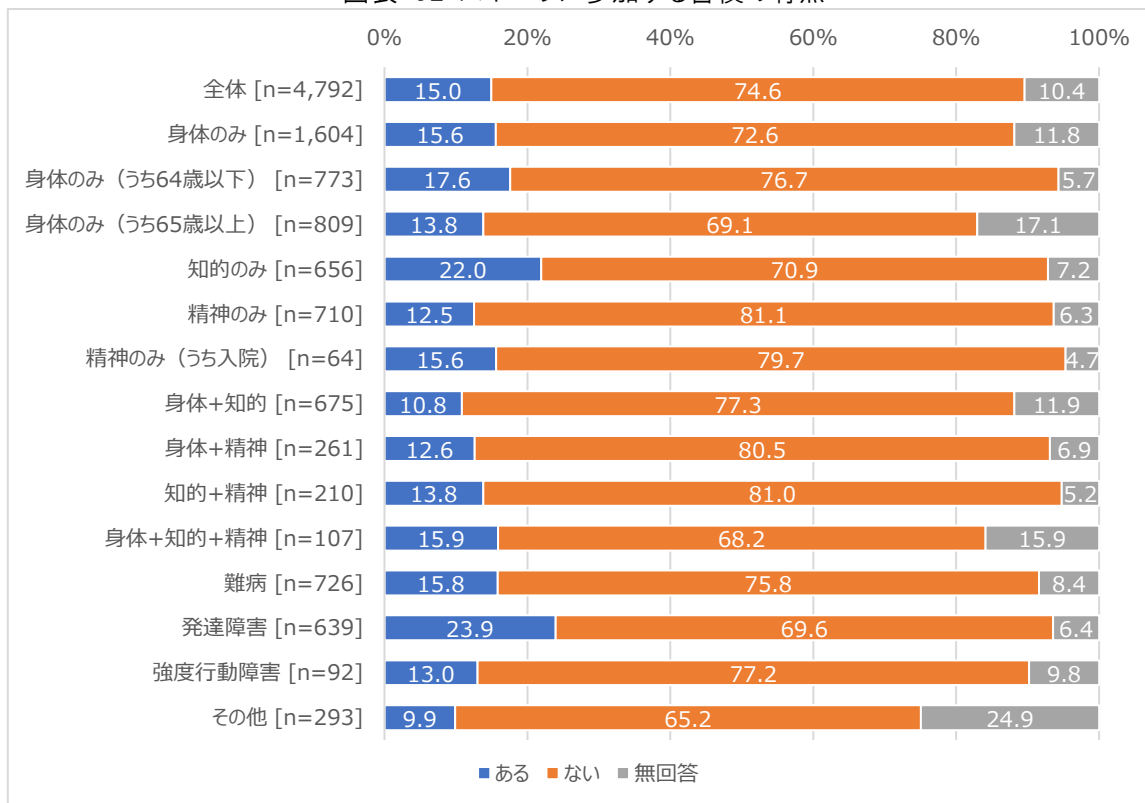


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
正職員として働きたい	16.9	16.6	32.6	1.5	24.5	20.4	12.5	7.6	13.0	21.9	9.3	17.5	31.8	5.4	12.6
パート・アルバイトとして働きたい	11.9	11.0	16.0	6.2	11.4	17.3	10.9	6.2	13.8	12.9	8.4	13.5	12.7	3.3	10.2
契約社員・嘱託として働きたい	3.7	4.1	6.7	1.5	4.9	3.7	4.7	1.6	3.8	4.8	3.7	4.3	5.6	1.1	2.0
派遣社員として働きたい	1.4	1.5	2.3	0.7	1.4	2.1	1.6	0.6	0.8	1.4	1.9	1.9	1.1	1.1	1.4
自営業をしたい	3.0	4.3	6.7	2.1	1.2	3.9	3.1	0.6	1.9	1.0	0.0	4.3	2.3	2.2	4.1
自宅で手作業やパソコン・インターネットなど（ICT）を使って仕事をしたい（在宅勤務）	7.9	9.3	15.3	3.6	6.1	10.3	1.6	3.1	11.9	11.4	1.9	10.3	11.0	3.3	6.1
自宅で内職をしたい	5.1	4.6	5.0	4.2	4.1	7.6	4.7	2.8	5.0	9.0	4.7	5.1	4.7	3.3	5.1
障害者施設や事業所などで、工賃を得る仕事をしたい	9.6	2.4	3.5	1.2	21.6	5.9	15.6	18.4	10.3	28.1	17.8	5.2	19.1	18.5	2.7
障害者施設や事業所などで、過ごしたい	8.9	1.6	2.1	1.1	14.9	2.3	9.4	33.2	1.5	12.4	22.4	6.9	11.1	31.5	2.7
障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体など）の活動をしたい	1.0	0.9	1.4	0.4	1.2	0.3	0.0	1.8	2.3	2.9	0.9	0.7	1.3	3.3	0.0
ボランティア活動をしたい	4.4	5.4	4.7	6.2	2.7	6.2	3.1	1.3	6.9	4.8	0.9	5.0	4.4	5.4	2.0
趣味の活動を行いたい	20.8	22.6	25.0	20.8	17.5	27.3	35.9	13.5	22.6	19.0	14.0	23.7	22.5	17.4	13.7
自宅で過ごしたい	34.6	42.2	31.6	52.4	17.1	42.0	34.4	28.3	41.8	21.9	28.0	39.3	19.1	22.8	30.0
入所施設や病院で過ごしたい	6.8	4.3	2.7	5.8	6.4	6.5	35.9	13.9	3.8	6.7	10.3	5.9	4.7	20.7	10.2
その他	5.1	4.9	5.3	4.4	8.5	3.1	0.0	6.2	6.1	3.8	2.8	5.5	8.6	7.6	4.1
無回答	12.5	13.2	7.6	17.9	14.2	5.9	0.0	14.2	10.0	9.0	15.0	10.1	10.0	17.4	24.6

②スポーツや文化芸術に参加する習慣の有無

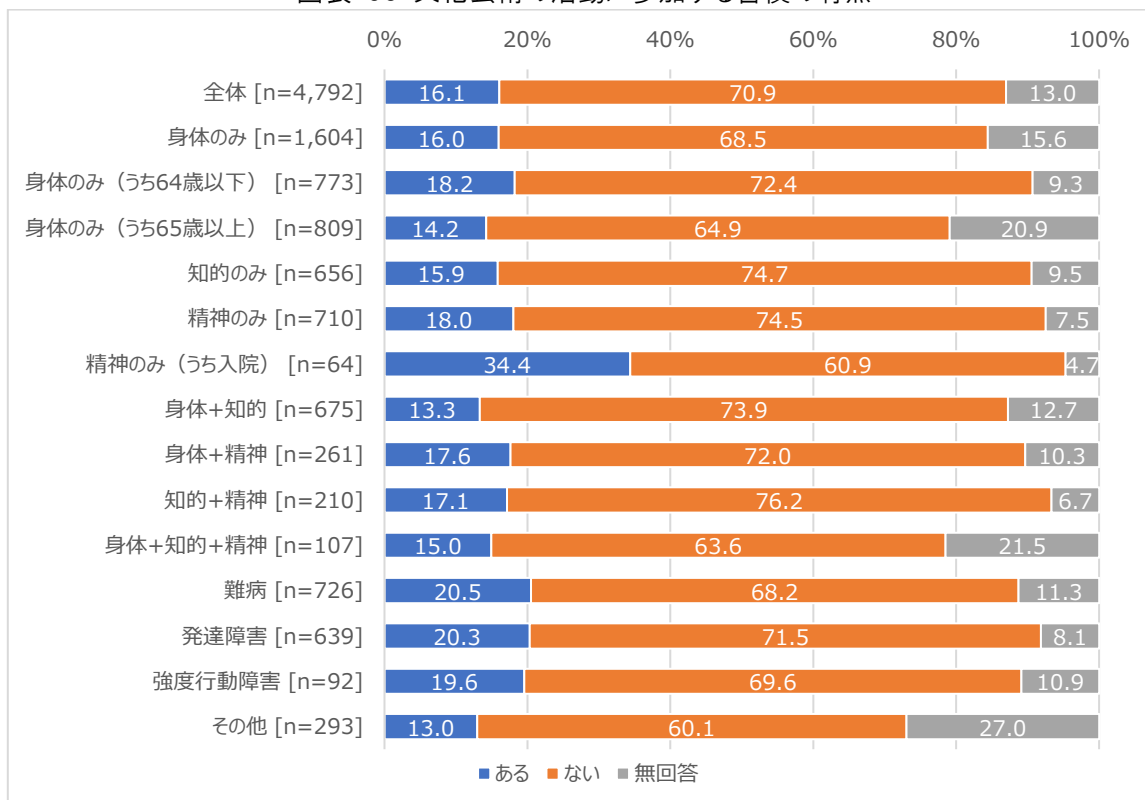
スポーツに参加する習慣の有無は、「ない」が74.6%、「ある」が15.0%となっている。

図表 52 スポーツに参加する習慣の有無



文化芸術の活動に参加する習慣の有無は、「ない」が70.9%、「ある」が16.1%となっている。

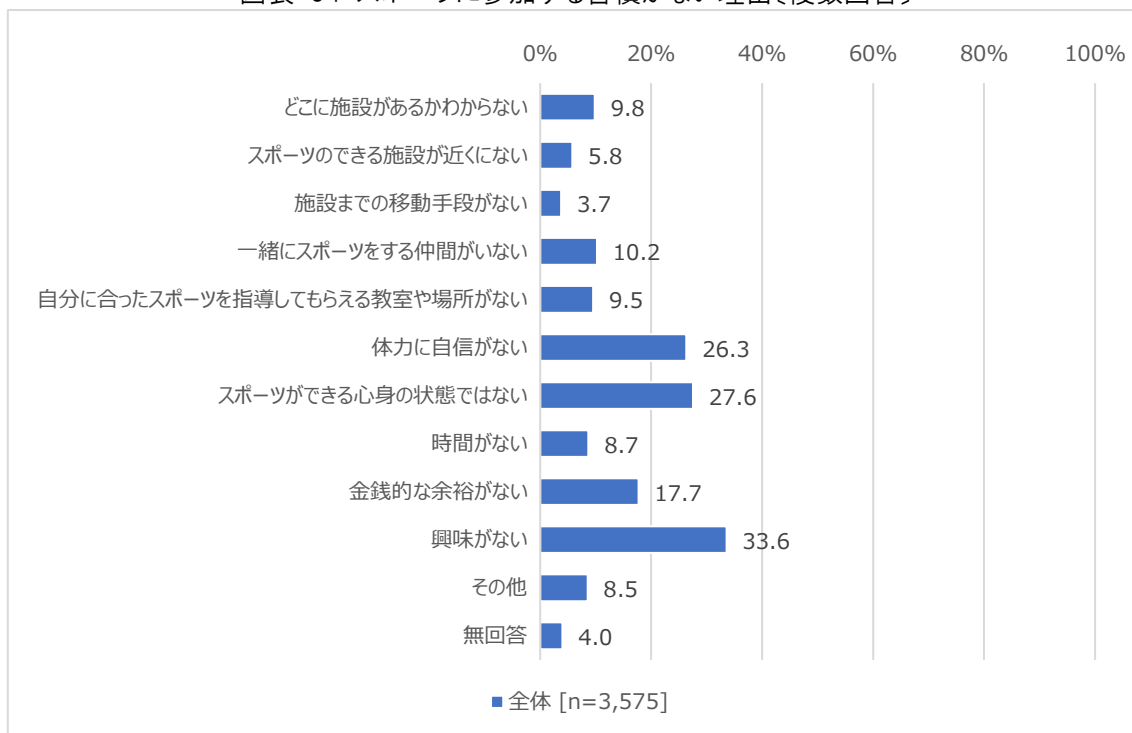
図表 53 文化芸術の活動に参加する習慣の有無



③スポーツや文化芸術に参加する習慣がない理由

スポーツに参加する習慣がないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「興味がない」が33.6%、「スポーツができる心身の状態ではない」が27.6%、「体力に自信がない」が26.3%等となっている。

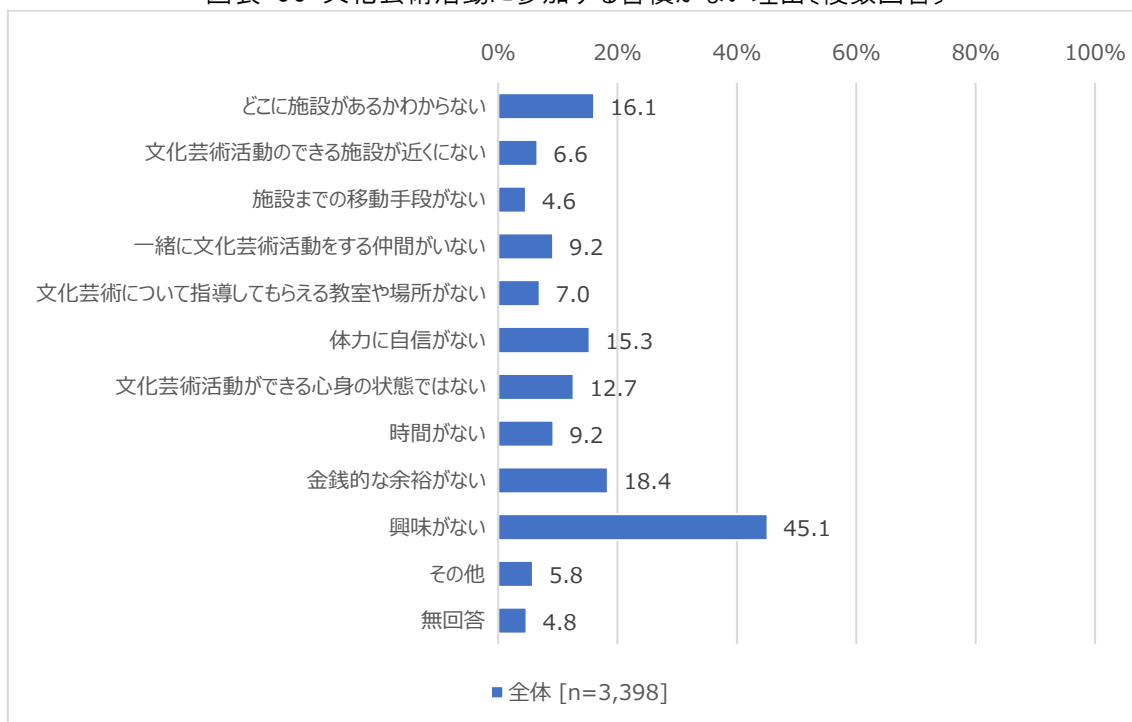
図表 54 スポーツに参加する習慣がない理由〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	3,575	1,164	593	559	465	576	51	522	210	170	73	550	445	71	191
どこに施設があるかわからない	9.8	8.8	10.8	6.6	12.0	10.8	13.7	9.2	7.6	16.5	12.3	7.5	12.6	5.6	9.4
スポーツのできる施設が近くにない	5.8	4.2	5.1	3.2	7.7	4.9	0.0	7.5	5.2	7.6	9.6	4.0	7.9	1.4	6.3
施設までの移動手段がない	3.7	3.7	3.4	3.9	3.7	3.0	3.9	4.4	5.7	2.4	6.8	2.9	3.1	4.2	4.7
一緒にスポーツをする仲間がいない	10.2	6.6	9.3	3.8	12.5	15.8	7.8	9.0	9.5	16.5	8.2	8.5	17.1	9.9	8.9
自分に合ったスポーツを指導してもらえる教室や場所がない	9.5	5.8	6.2	5.4	18.1	6.3	3.9	16.7	7.1	11.2	12.3	5.8	17.5	12.7	5.2
体力に自信がない	26.3	29.6	24.3	34.9	15.7	33.2	31.4	13.8	37.1	22.9	26.0	31.5	16.4	15.5	27.7
スポーツができる心身の状態ではない	27.6	33.8	32.5	34.7	11.6	22.4	13.7	40.0	34.3	13.5	31.5	34.0	15.3	38.0	22.5
時間がない	8.7	9.3	14.3	3.8	7.5	11.8	3.9	4.4	6.7	10.0	0.0	10.5	11.0	1.4	5.2
金銭的な余裕がない	17.7	16.2	19.2	12.7	12.9	29.3	7.8	5.4	27.6	22.4	15.1	15.8	17.1	9.9	20.4
興味がない	33.6	27.5	26.5	28.4	46.7	41.8	54.9	20.5	28.6	54.1	24.7	23.3	46.5	22.5	42.4
その他	8.5	8.8	7.3	10.4	8.4	5.6	5.9	12.3	9.0	4.7	15.1	10.0	7.9	15.5	6.3
無回答	4.0	4.4	3.4	5.5	3.7	3.8	2.0	4.6	5.2	2.4	6.8	2.5	4.3	7.0	3.7

文化芸術活動に参加する習慣がないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「興味がない」が45.1%、「金銭的な余裕がない」が18.4%等となっている。

図表 55 文化芸術活動に参加する習慣がない理由〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位: %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	3,398	1,098	560	525	490	529	39	499	188	160	68	495	457	64	176
どこに施設があるかわからない	16.1	15.1	17.9	12.2	18.0	16.6	20.5	14.6	12.8	20.6	14.7	14.7	21.7	17.2	18.8
文化芸術活動のできる施設が近くにない	6.6	6.3	6.8	5.5	5.7	5.5	5.1	7.8	10.6	8.1	8.8	5.7	6.6	7.8	5.7
施設までの移動手段がない	4.6	5.0	3.9	5.9	4.1	3.2	7.7	6.0	8.0	1.3	10.3	4.4	3.5	4.7	4.5
一緒に文化芸術活動をする仲間がいない	9.2	8.3	8.6	7.8	9.2	11.3	7.7	7.8	10.1	11.9	10.3	8.5	10.5	10.9	7.4
文化芸術について指導してもらえる教室や場所がない	7.0	4.6	5.5	3.2	12.7	5.5	2.6	10.0	6.9	5.6	8.8	6.5	10.9	12.5	3.4
体力に自信がない	15.3	21.3	13.6	29.5	5.9	17.0	12.8	9.2	22.9	8.1	14.7	18.4	4.8	15.6	14.8
文化芸術活動ができる心身の状態ではない	12.7	10.0	8.0	11.8	4.9	14.4	12.8	26.7	20.2	6.9	11.8	15.4	7.4	17.2	8.5
時間がない	9.2	10.3	15.7	4.6	7.1	13.2	5.1	3.6	9.6	9.4	1.5	10.9	10.5	3.1	7.4
金銭的な余裕がない	18.4	18.4	20.9	15.6	11.8	31.2	7.7	6.2	29.3	21.3	10.3	16.0	14.7	10.9	18.2
興味がない	45.1	41.0	41.6	39.6	56.3	47.6	51.3	34.5	42.6	65.0	39.7	39.0	56.9	31.3	50.0
その他	5.8	5.6	4.8	6.7	6.1	3.0	5.1	11.4	5.3	0.6	11.8	7.5	5.0	17.2	4.0
無回答	4.8	5.8	3.9	8.0	3.7	4.0	0.0	4.8	5.3	3.1	7.4	2.6	2.0	7.8	6.3

(9) 相談支援の利用について

①障害者のための福祉サービスの情報入手手段

障害者のための福祉サービスの情報をどのような手段で得ているかを聞いたところ、「各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「医療機関、主治医」が 21.2%等となっている。

図表 56 障害者のための福祉サービスの情報入手手段〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）	30.1	30.9	35.6	26.8	30.3	26.6	18.8	33.3	38.7	34.3	38.3	32.6	33.0	27.2	17.1
その他の市の窓口（児童相談所、療育センター、障害者福祉センター、在宅障害者福祉センターなど）	9.3	8.9	10.3	7.3	12.0	6.8	1.6	14.2	9.6	6.7	10.3	9.0	14.6	9.8	5.1
障害者相談支援センター	7.6	4.4	6.0	2.8	9.0	4.2	3.1	16.3	12.3	15.7	20.6	5.9	10.3	14.1	2.0
障害者相談支援センター以外の相談支援事業所（計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所、神戸市難病相談支援センター）	6.4	2.4	2.8	2.0	10.4	2.3	4.7	17.9	3.1	13.8	19.6	6.6	11.3	22.8	0.7
その他の相談窓口（社会福祉協議会、こうべ市民福祉振興協会、難病相談室など）	1.0	0.7	0.4	1.1	1.1	1.1	1.6	0.9	0.4	0.5	2.8	1.7	0.9	2.2	0.3
ハローワークや障害者職業センター	3.5	2.8	4.9	0.9	3.8	6.1	1.6	2.1	3.4	5.7	4.7	4.0	4.9	1.1	2.7
しごとサポート	1.2	0.4	0.8	0.0	2.6	1.3	1.6	1.6	0.8	4.3	0.9	0.4	3.0	1.1	0.3
医療機関、主治医	21.2	20.4	18.9	21.6	12.0	35.9	75.0	16.4	23.0	26.2	18.7	25.6	21.9	19.6	15.7
市の広報紙・パンフレットなど	13.8	17.8	15.1	20.6	8.4	11.5	4.7	12.0	16.5	7.1	11.2	17.9	10.0	10.9	8.2
福祉施設や障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）などの機関紙・パンフレットなど	5.4	2.8	2.8	2.8	9.8	2.3	1.6	11.6	5.0	8.1	12.1	4.5	8.6	13.0	2.7
テレビやラジオ	8.0	10.3	6.5	14.1	4.0	9.4	10.9	3.3	7.7	4.8	7.5	9.2	3.9	7.6	9.9
新聞や雑誌	7.3	10.5	7.1	13.7	2.1	7.9	9.4	3.1	10.3	2.9	9.3	8.5	3.0	2.2	6.1
ファックス	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
パソコンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	10.2	11.9	18.0	5.8	9.5	11.8	0.0	6.2	13.4	5.7	4.7	14.6	12.5	4.3	4.8
携帯電話・スマートフォンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	14.5	16.2	23.5	9.3	14.6	16.3	0.0	11.0	15.3	11.4	5.6	18.0	17.7	5.4	7.2
家族や親戚	15.6	14.9	14.0	15.8	21.3	13.5	12.5	17.8	11.1	24.3	13.1	13.1	26.8	23.9	10.6
友人・知人、仲間	12.5	10.8	11.6	10.1	14.8	8.6	10.9	23.6	10.0	11.4	15.9	14.3	16.3	20.7	4.4
福祉施設などの職員	12.4	7.0	5.8	8.2	20.6	7.7	7.8	23.6	6.1	27.6	22.4	9.0	16.9	28.3	8.5
ホームヘルパーやボランティアなど、介助を頼んでいる人・団体	5.1	5.3	4.0	6.6	3.8	3.1	3.1	7.3	10.7	6.2	6.5	6.3	3.0	8.7	3.1
点字情報	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
音声コードやその他読み取り機能などの利用	0.3	0.5	0.6	0.4	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.9	0.0	0.2	1.1	0.7
手話通訳	0.5	1.1	1.3	0.9	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.5	0.9	0.0	0.2	2.2	0.0
1～22 以外	3.2	2.4	2.3	2.5	3.4	3.2	6.3	4.4	3.1	3.8	3.7	4.1	4.4	1.1	2.0
サービスについて情報を得る手段がない	7.5	7.7	8.3	7.3	6.7	9.2	6.3	4.3	6.5	3.8	3.7	6.6	5.5	1.1	13.0
無回答	10.6	11.8	6.9	16.1	8.2	8.0	4.7	7.3	8.4	5.2	11.2	7.4	5.0	13.0	30.7

障害者のための福祉サービスの情報をどのような手段で得ているかについて、年齢別で見ると、「市の広報紙・パンフレットなど」は年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表 57 障害者のための福祉サービスの情報入手手段〔複数回答〕(年齢別)

年齢区分 (単位：%)	全体	18歳 未満	18～ 29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳 以上
n=	4,792	567	428	355	460	757	803	750	576
各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）	30.1	31.6	31.5	34.4	34.3	33.9	31.1	25.7	22.0
その他の市の窓口（児童相談所、療育センター、障害者福祉センター、在宅障害者福祉センターなど）	9.3	23.1	7.5	8.2	7.4	8.5	6.5	7.7	6.4
障害者相談支援センター	7.6	2.8	12.9	15.5	15.9	9.2	6.4	3.2	2.8
障害者相談支援センター以外の相談支援事業所（計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所、神戸市難病相談支援センター）	6.4	8.6	16.4	15.2	9.8	5.2	2.9	2.1	1.4
その他の相談窓口（社会福祉協議会、こうべ市民福祉振興協会、難病相談室など）	1.0	0.2	0.7	0.6	0.9	1.1	0.7	1.7	1.9
ハローワークや障害者職業センター	3.5	0.4	5.4	5.1	5.9	6.7	4.2	1.2	0.5
しごとサポート	1.2	0.0	3.7	2.8	2.0	1.6	1.0	0.1	0.0
医療機関、主治医	21.2	22.9	20.3	17.7	20.9	21.0	21.8	22.4	20.5
市の広報紙・パンフレットなど	13.8	8.6	9.8	11.3	11.1	14.5	15.2	20.9	15.1
福祉施設や障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）などの機関紙・パンフレットなど	5.4	5.5	7.9	9.9	10.9	6.2	3.5	2.7	2.1
テレビやラジオ	8.0	1.6	5.6	3.9	5.0	7.3	9.6	12.7	13.2
新聞や雑誌	7.3	2.1	2.6	2.5	4.8	6.7	8.5	13.2	12.8
ファックス	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.1	0.1	0.0
パソコンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	10.2	13.4	10.3	11.8	13.5	13.5	11.7	5.7	2.8
携帯電話・スマートフォンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	14.5	21.7	18.7	16.3	16.3	18.0	16.8	8.1	3.5
家族や親戚	15.6	24.0	27.1	20.3	12.4	10.7	11.0	11.1	18.4
友人・知人、仲間	12.5	23.1	17.8	15.8	11.7	10.6	9.1	10.4	8.2
福祉施設などの職員	12.4	16.4	21.3	16.9	12.0	10.4	10.1	7.5	12.2
ホームヘルパーやボランティアなど、介助を頼んでいる人・団体	5.1	3.0	4.0	5.6	5.0	4.2	5.6	4.9	8.2
点字情報	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
音声コードやその他読み取り機能などの利用	0.3	0.2	0.0	0.3	0.4	0.3	0.5	0.4	0.2
手話通訳	0.5	0.2	0.2	0.0	0.7	1.1	0.9	0.1	0.5
1～22 以外	3.2	6.5	3.3	2.0	2.6	1.7	3.4	2.4	3.6
サービスについて情報を得る手段がない	7.5	5.6	4.7	7.6	7.0	8.1	9.6	8.3	7.3
無回答	10.6	7.4	3.3	4.5	6.5	7.4	9.5	15.6	22.0

障害者のための福祉サービスの情報をどのような手段で得ているかについて、居住形態別で見ると、グループホームや入所施設等では、「福祉施設などの職員」の割合が高くなっている。

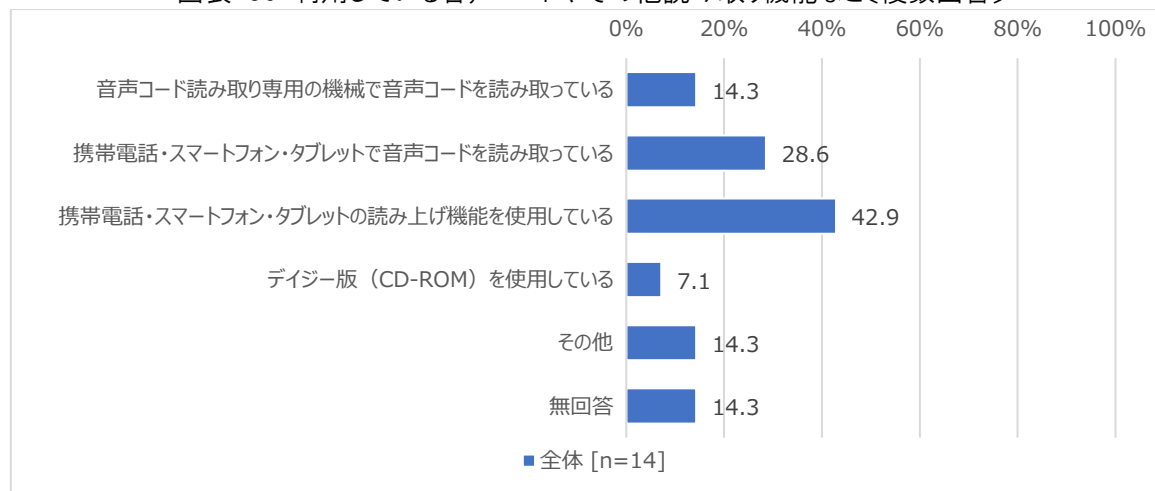
図表 58 障害者のための福祉サービスの情報入手手段〔複数回答〕(居住形態別)

居住区分 (単位：％)	全体	持家	公社・公団 (都市再生機構) などの賃貸住宅	営住宅 市営住宅・県営住宅などの公営住宅	民間の賃貸住宅・借家	グループホーム	児童の入所施設	障害者支援施設	高齢者向け施設	救護施設	病院 (精神科病院を含む)	その他
n＝	4,792	2,738	203	501	695	121	10	100	110	17	171	43
各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）	30.1	30.9	31.5	32.7	32.7	26.4	10.0	28.0	14.5	0.0	21.1	25.6
その他の市の窓口（児童相談所、療育センター、障害者福祉センター、在宅障害者福祉センターなど）	9.3	10.0	10.8	9.4	9.4	8.3	10.0	5.0	4.5	5.9	2.9	4.7
障害者相談支援センター	7.6	7.2	8.4	9.4	6.6	16.5	0.0	19.0	2.7	5.9	4.1	9.3
障害者相談支援センター以外の相談支援事業所（計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所、神戸市難病相談支援センター）	6.4	6.6	4.4	5.0	6.6	15.7	0.0	15.0	0.9	0.0	4.7	7.0
その他の相談窓口（社会福祉協議会、こうべ市民福祉振興協会、難病相談室など）	1.0	1.0	2.0	1.4	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.6	0.0
ハローワークや障害者職業センター	3.5	3.6	3.9	3.6	5.2	0.8	0.0	1.0	1.8	0.0	1.2	2.3
しごとサポート	1.2	1.2	1.5	1.8	0.7	2.5	0.0	0.0	0.9	0.0	1.2	2.3
医療機関、主治医	21.2	20.9	21.7	18.0	21.9	14.9	30.0	10.0	12.7	35.3	52.0	16.3
市の広報紙・パンフレットなど	13.8	16.3	17.2	12.2	11.1	5.0	0.0	7.0	10.0	0.0	5.3	4.7
福祉施設や障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）などの機関紙・パンフレットなど	5.4	5.8	3.9	3.6	3.5	13.2	0.0	15.0	6.4	5.9	2.3	11.6
テレビやラジオ	8.0	8.2	9.9	10.0	6.6	3.3	0.0	3.0	9.1	11.8	7.0	2.3
新聞や雑誌	7.3	8.5	7.9	7.2	4.5	1.7	0.0	4.0	5.5	5.9	7.6	7.0
ファックス	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パソコンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	10.2	12.7	9.9	5.4	11.7	1.7	0.0	2.0	1.8	0.0	1.2	4.7
携帯電話・スマートフォンでのインターネット（メール、SNS やウェブサイトの閲覧）	14.5	16.0	15.3	10.4	19.7	4.1	10.0	1.0	1.8	5.9	4.1	18.6
家族や親戚	15.6	17.5	17.2	10.2	13.4	15.7	20.0	9.0	13.6	0.0	17.0	14.0
友人・知人、仲間	12.5	14.2	14.8	9.6	11.4	9.1	0.0	10.0	3.6	5.9	8.8	14.0
福祉施設などの職員	12.4	9.7	8.9	11.0	10.6	47.9	60.0	42.0	30.0	58.8	9.4	27.9
ホームヘルパーやボランティアなど、介助を頼んでいる人・団体	5.1	4.5	4.9	9.0	4.9	10.7	0.0	6.0	1.8	5.9	2.3	7.0
点字情報	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声コードやその他読み取り機能などの利用	0.3	0.3	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手話通訳	0.5	0.6	0.0	1.2	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1～22 以外	3.2	3.4	2.0	2.2	3.6	1.7	10.0	1.0	4.5	5.9	4.1	2.3
サービスについて情報を得る手段がない	7.5	7.0	6.9	7.6	7.9	5.0	10.0	5.0	20.9	5.9	8.8	9.3
無回答	10.6	8.3	10.3	16.4	10.9	7.4	30.0	16.0	15.5	11.8	10.5	7.0

②利用している音声コードやその他読み取り機能など

情報入手手段として「音声コードやその他読み取り機能などの利用」を回答した人に、利用しているものを聞いたところ、「携帯電話・スマートフォン・タブレットの読み上げ機能を使用している」が42.9%、「携帯電話・スマートフォン・タブレットで音声コードを読み取っている」が28.6%等となっている。

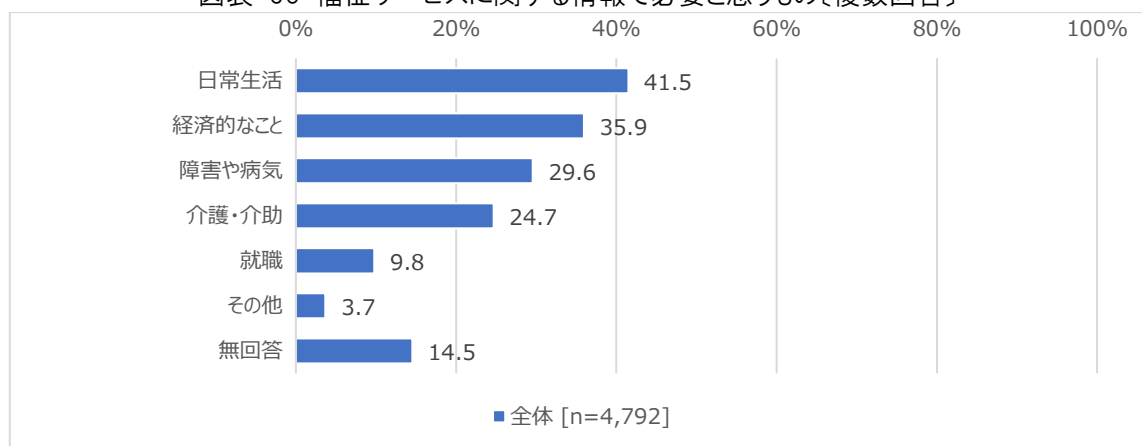
図表 59 利用している音声コードやその他読み取り機能など〔複数回答〕



③福祉サービスに関する情報で必要と思うもの

福祉サービスに関する情報で必要と思う情報について聞いたところ、「日常生活」の割合が41.5%と最も高く、次いで、「経済的なこと」が35.9%となっている。

図表 60 福祉サービスに関する情報で必要と思うもの〔複数回答〕

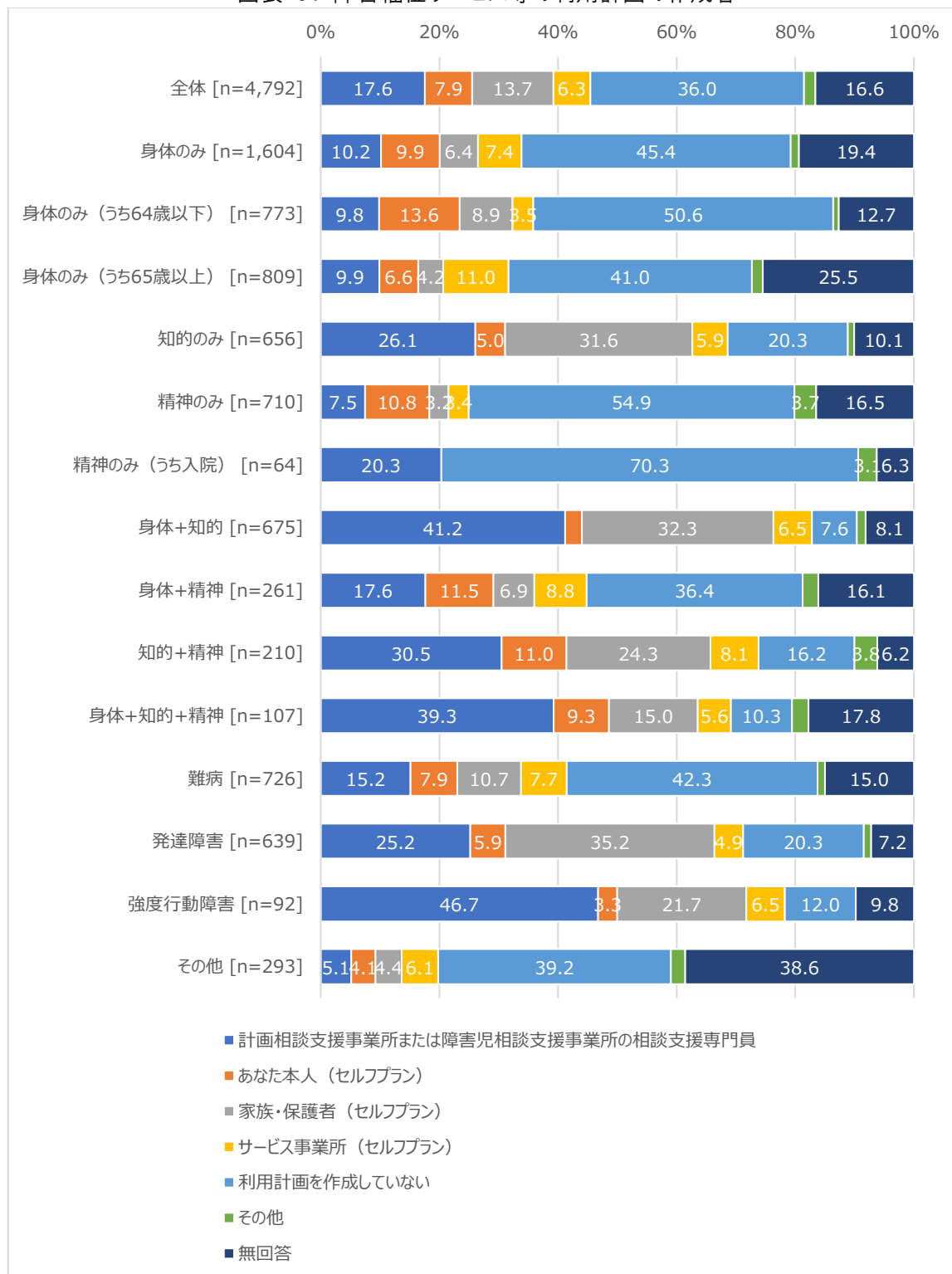


手帳所持・診断区分 (単位: %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
日常生活	41.5	40.1	42.0	38.6	48.2	38.7	40.6	48.0	36.0	53.8	46.7	36.0	47.6	45.7	30.0
経済的なこと	35.9	35.2	45.7	25.2	33.8	49.4	54.7	25.6	43.7	44.3	24.3	36.1	41.2	20.7	26.3
障害や病気	29.6	30.6	32.9	28.2	20.7	34.5	35.9	27.3	43.7	28.6	30.8	40.5	25.7	37.0	17.4
介護・介助	24.7	24.7	16.3	32.8	20.3	14.4	20.3	47.4	19.5	15.7	37.4	28.4	18.0	43.5	19.8
就職	9.8	6.2	11.5	1.4	19.8	12.7	6.3	5.8	13.0	15.2	6.5	7.9	23.3	7.6	6.1
その他	3.7	3.4	4.3	2.6	6.1	2.4	3.1	3.6	2.7	5.7	4.7	3.2	6.1	8.7	3.8
無回答	14.5	15.6	10.5	20.4	12.3	10.4	3.1	12.4	12.3	9.0	15.0	11.0	7.8	12.0	32.8

④障害福祉サービス等の利用計画の作成者

障害福祉サービス等の利用計画の作成者について聞いたところ、「利用計画を作成していない」が36.0%となっており、計画を作成している人では、「計画相談支援事業所または障害児相談支援事業所の相談支援専門員」が17.6%、「家族・保護者（セルフプラン）」が13.7%、「あなた本人（セルフプラン）」が7.9%となっている。

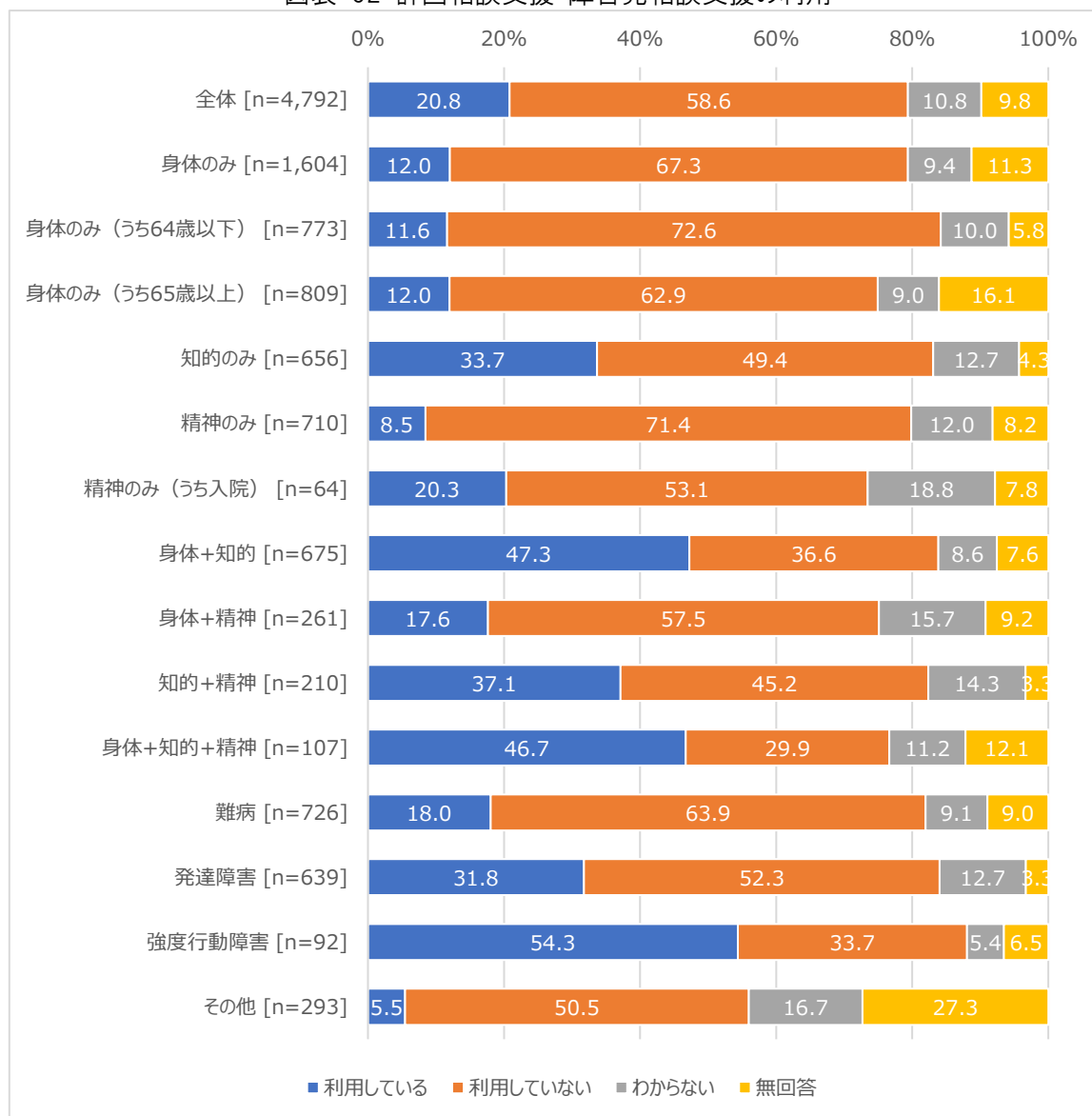
図表 61 障害福祉サービス等の利用計画の作成者



⑤計画相談支援・障害児相談支援の利用

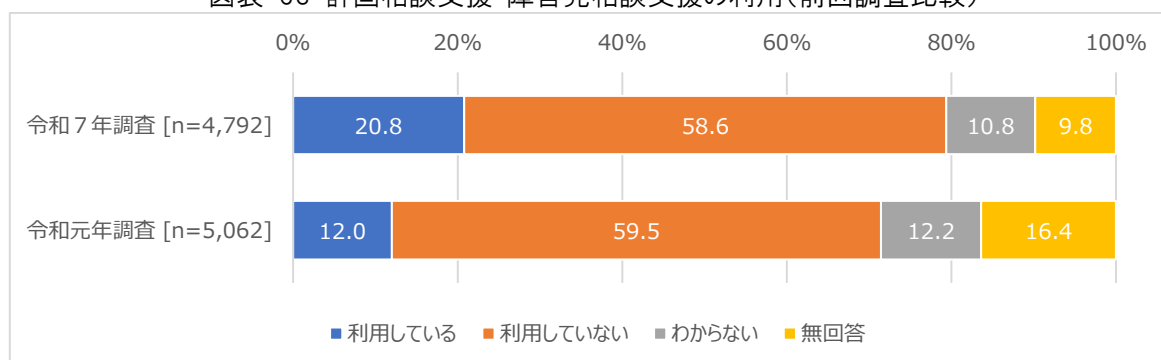
現在、計画相談支援・障害児相談支援を利用しているかどうかを聞いたところ、「利用していない」が58.6%、「利用している」が20.8%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体+知的」「強度行動障害」等で「利用している」の割合が高くなっている。

図表 62 計画相談支援・障害児相談支援の利用



前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「利用している」の割合が上昇している。

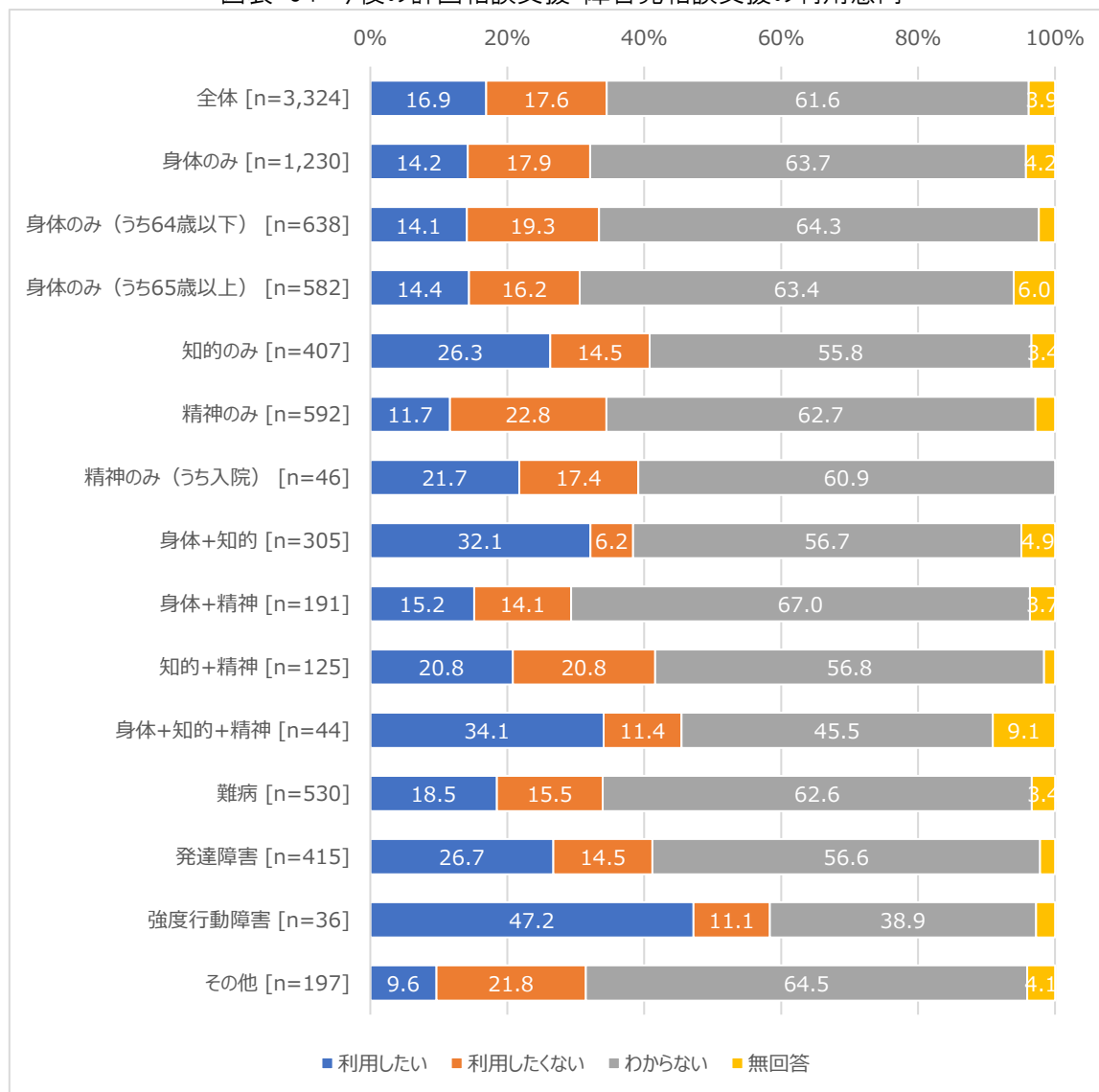
図表 63 計画相談支援・障害児相談支援の利用(前回調査比較)



⑥今後の計画相談支援・障害児相談支援の利用意向

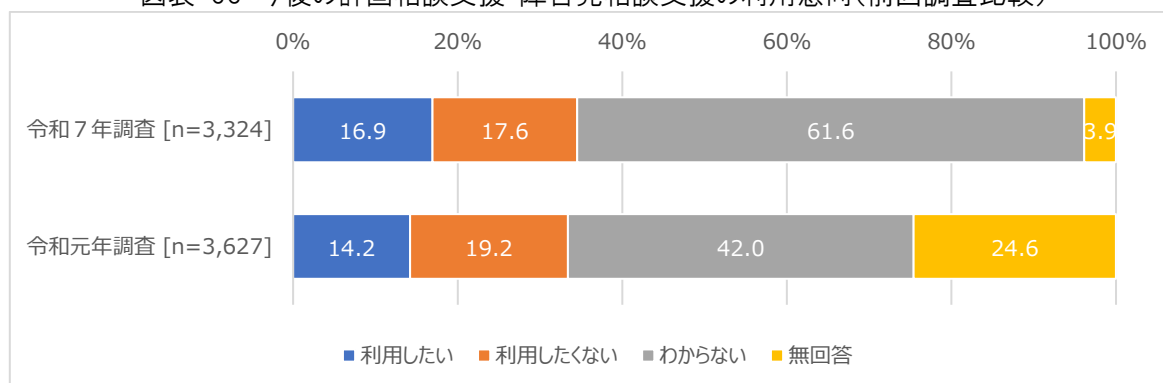
計画相談支援・障害児相談支援を利用していない人に、今後の利用意向を聞いたところ、「わからない」が61.6%、「利用したくない」が17.6%、「利用したい」が16.9%となっている。

図表 64 今後の計画相談支援・障害児相談支援の利用意向



前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「利用したい」「利用したくない」のいずれもそれほど大きな変化はない。

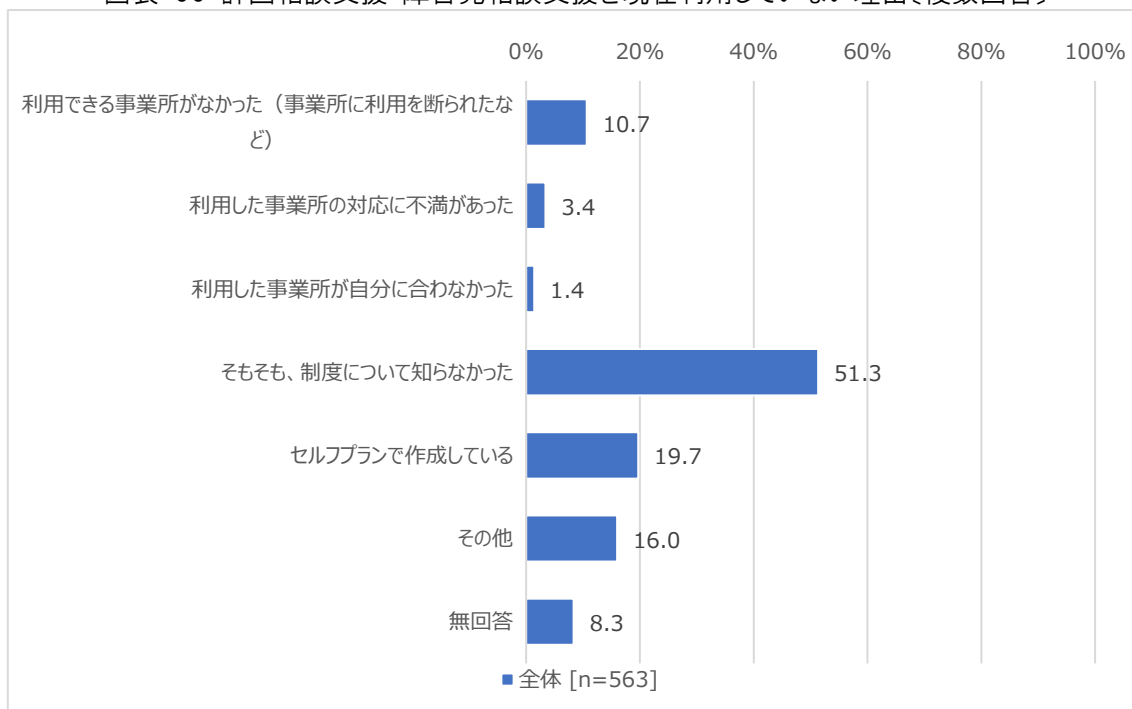
図表 65 今後の計画相談支援・障害児相談支援の利用意向（前回調査比較）



⑦計画相談支援・障害児相談支援を現在利用していない理由

計画相談支援・障害児相談支援を利用したいが、現在利用していない人に、その理由を聞いたところ、「そもそも、制度について知らなかった」の割合が51.3%と高くなっている。

図表 66 計画相談支援・障害児相談支援を現在利用していない理由〔複数回答〕



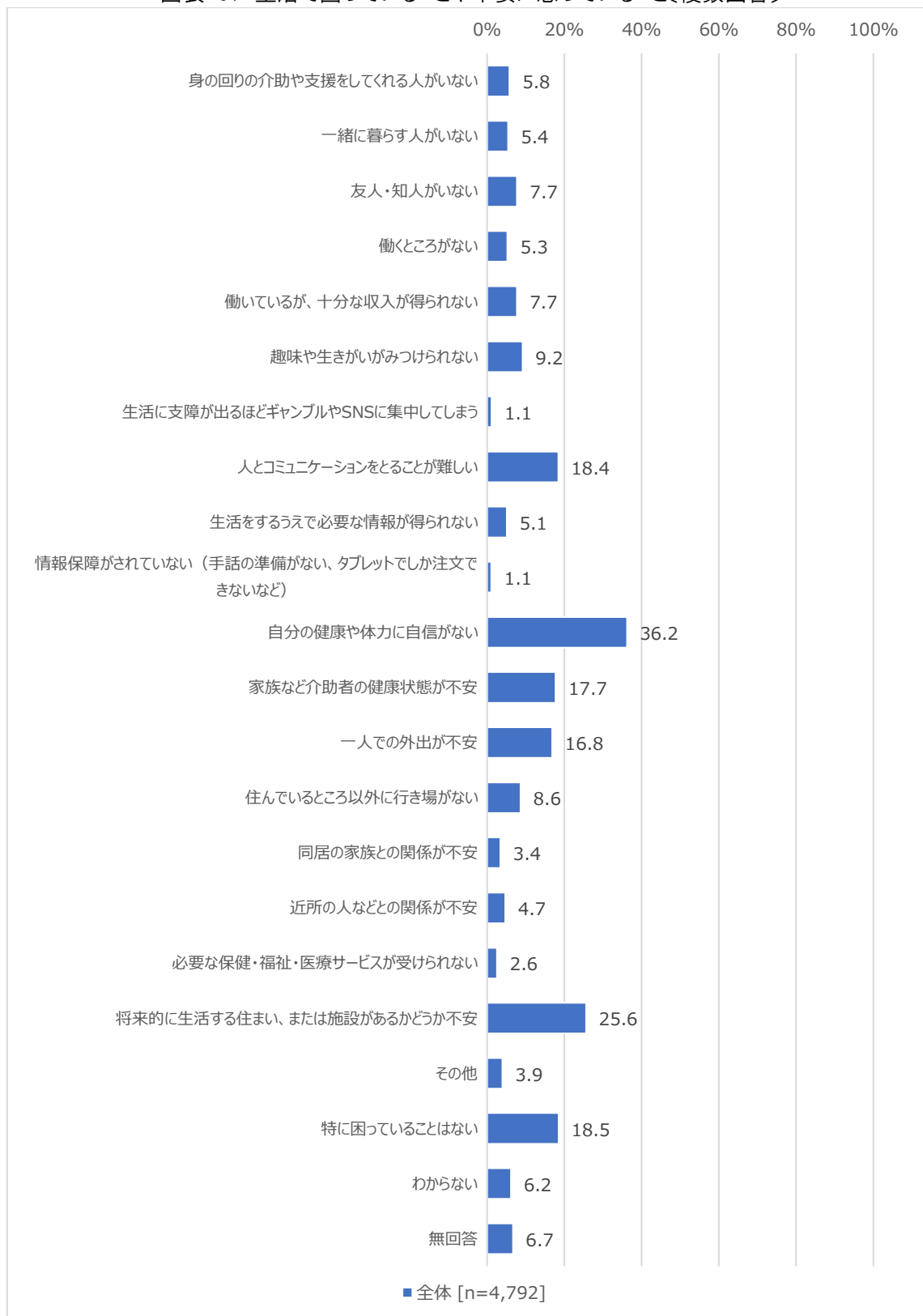
手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	563	175	90	84	107	69	10	98	29	26	15	98	111	17	19
利用できる事業所がなかった（事業所に利用を断られたなど）	10.7	2.9	1.1	4.8	13.1	5.8	0.0	25.5	6.9	11.5	40.0	10.2	13.5	17.6	5.3
利用した事業所の対応に不満があった	3.4	1.1	1.1	1.2	3.7	2.9	0.0	6.1	6.9	11.5	0.0	3.1	2.7	5.9	0.0
利用した事業所が自分に合わなかった	1.4	1.1	1.1	1.2	0.0	4.3	0.0	1.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そもそも、制度について知らなかった	51.3	72.6	72.2	72.6	35.5	53.6	40.0	28.6	69.0	26.9	26.7	57.1	40.5	41.2	68.4
セルフプランで作成している	19.7	6.3	8.9	3.6	37.4	4.3	10.0	40.8	10.3	30.8	26.7	13.3	36.0	17.6	0.0
その他	16.0	9.7	12.2	7.1	21.5	23.2	60.0	19.4	3.4	23.1	6.7	15.3	18.0	5.9	10.5
無回答	8.3	8.6	5.6	11.9	6.5	11.6	0.0	4.1	10.3	7.7	13.3	6.1	6.3	23.5	15.8

※本問は「その他」の割合が比較的高くなっているが、回答としては、まだ必要ない、わからない等の回答が見られる。

⑧生活で困っていることや不安に思っていること

生活で困っていることや不安に思っていることを聞いたところ、「自分の健康や体力に自信がない」の割合が36.2%と最も高く、次いで、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」が25.6%、「家族など介助者の健康状態が不安」が17.7%、「一人での外出が不安」が16.8%等となっている。一方、「特に困っていることはない」は18.5%となっている。

図表 67 生活で困っていることや不安に思っていること〔複数回答〕



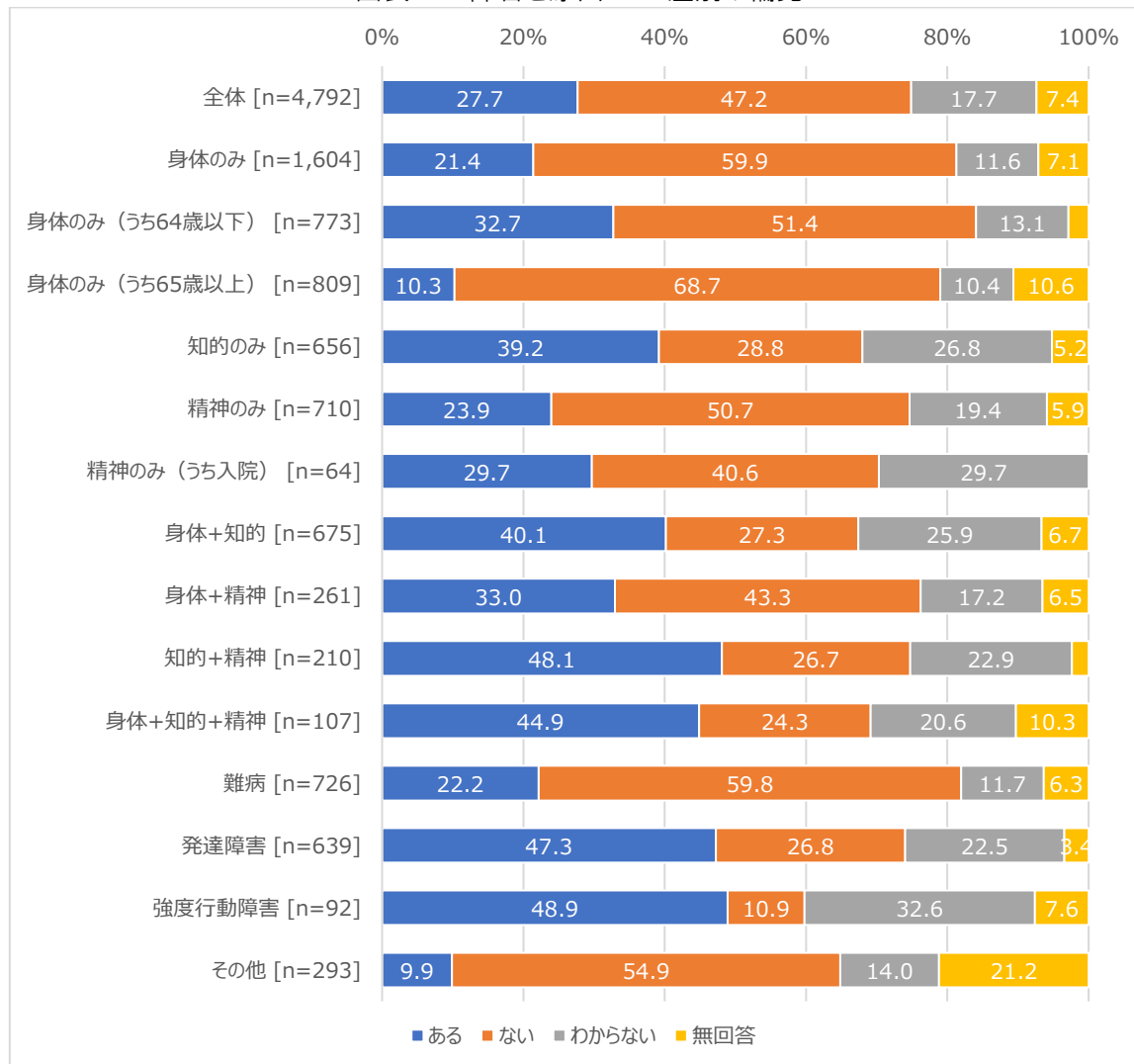
手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
身の回りの介助や支援をしてくれる人がいない	5.8	5.5	6.1	5.1	4.1	8.2	18.8	6.2	9.6	4.8	8.4	4.1	5.6	14.1	4.4
一緒に暮らす人がいない	5.4	5.5	6.0	5.2	2.9	8.6	10.9	1.9	6.9	9.5	6.5	4.3	4.2	5.4	6.5
友人・知人がいない	7.7	4.9	5.3	4.4	9.0	12.1	7.8	6.4	10.7	17.6	9.3	5.2	15.2	10.9	7.2
働くところがない	5.3	4.2	6.6	2.0	3.7	9.6	9.4	1.8	10.3	9.5	9.3	4.8	6.3	3.3	5.8
働いているが、十分な収入が得られない	7.7	5.9	10.6	1.2	7.3	11.5	4.7	5.9	11.5	15.7	7.5	7.7	10.5	1.1	4.1
趣味や生きがいが見つけれない	9.2	6.7	7.4	6.1	5.6	18.0	14.1	7.7	14.2	13.8	12.1	7.2	10.8	17.4	7.8
生活に支障が出るほどギャンブルや SNS に集中してしまう	1.1	0.6	0.8	0.4	1.4	2.3	1.6	0.6	1.5	3.8	0.9	0.6	3.6	0.0	0.7
人とコミュニケーションをとることが難しい	18.4	7.3	8.8	5.8	35.7	22.1	14.1	25.0	18.0	43.3	21.5	9.2	43.7	34.8	10.6
生活をするうえで必要な情報が得られない	5.1	4.3	5.0	3.6	5.9	4.5	7.8	6.4	6.5	11.4	4.7	3.9	7.8	6.5	4.1
情報保障がされていない（手話の準備がない、タブレットでしか注文できないなど）	1.1	1.7	2.5	1.1	0.5	0.4	3.1	1.3	3.8	0.0	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0
自分の健康や体力に自信がない	36.2	43.0	40.9	45.2	13.6	48.3	40.6	22.7	55.9	34.8	33.6	47.5	21.3	29.3	30.0
家族など介助者の健康状態が不安	17.7	16.1	14.6	17.6	15.7	12.0	9.4	35.0	19.2	18.1	29.0	21.5	19.9	33.7	6.5
一人での外出が不安	16.8	14.7	12.3	16.9	23.3	15.5	25.0	19.4	25.3	20.5	17.8	15.2	26.1	35.9	10.9
住んでいるところ以外に行き場がない	8.6	6.0	6.3	5.8	7.3	12.8	12.5	9.8	14.6	12.9	15.9	4.5	11.0	18.5	9.2
同居の家族との関係が不安	3.4	2.6	3.0	2.1	3.2	6.2	1.6	1.9	4.2	8.1	1.9	2.1	5.9	4.3	2.7
近所の人などとの関係が不安	4.7	2.0	2.2	1.7	4.1	9.7	6.3	3.9	9.2	14.3	0.9	2.9	8.0	6.5	3.1
必要な保健・福祉・医療サービスが受けられない	2.6	2.2	2.8	1.4	2.1	2.5	7.8	4.3	5.0	2.4	3.7	3.3	2.7	6.5	1.0
将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安	25.6	17.2	21.2	13.3	34.8	23.7	29.7	44.1	22.6	35.7	37.4	24.1	42.1	33.7	14.3
その他	3.9	2.8	4.0	1.6	3.8	5.4	9.4	5.6	4.6	3.8	9.3	5.6	5.8	4.3	1.7
特に困っていることはない	18.5	23.3	23.7	23.1	17.8	13.7	6.3	11.3	13.0	10.0	5.6	20.5	11.3	5.4	21.8
わからない	6.2	4.5	4.7	4.3	9.1	4.9	7.8	8.0	5.7	8.1	7.5	4.4	7.2	7.6	8.9
無回答	6.7	7.1	3.8	10.1	4.4	4.1	0.0	7.6	5.0	2.4	9.3	5.4	3.1	8.7	17.7

(10) 障害のある人に対する差別や理解などについて

①障害を原因とした差別や偏見

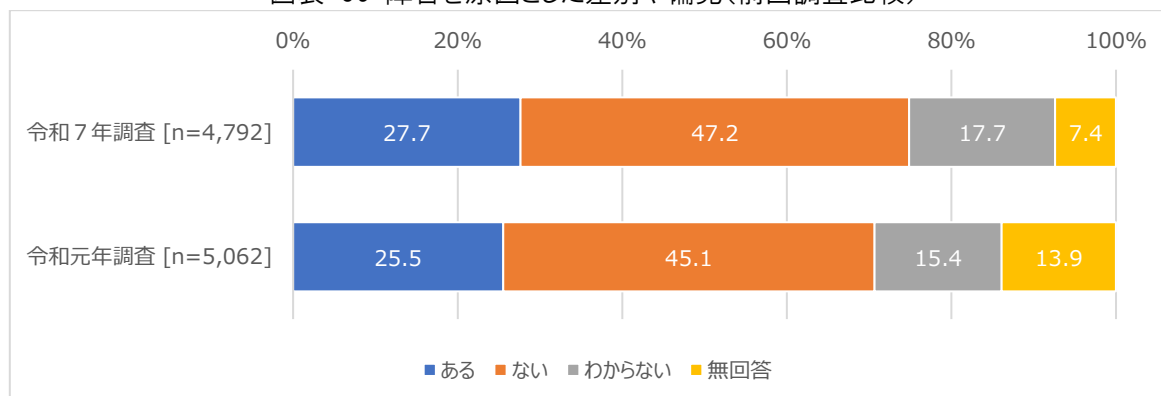
これまでに障害を原因とした差別や偏見を受けたことはあるかどうかを聞いたところ、「ない」が47.2%、「ある」が27.7%となっている。

図表 68 障害を原因とした差別や偏見



前回調査（令和元年）と比較すると、それほど変化は見られない結果となっている。

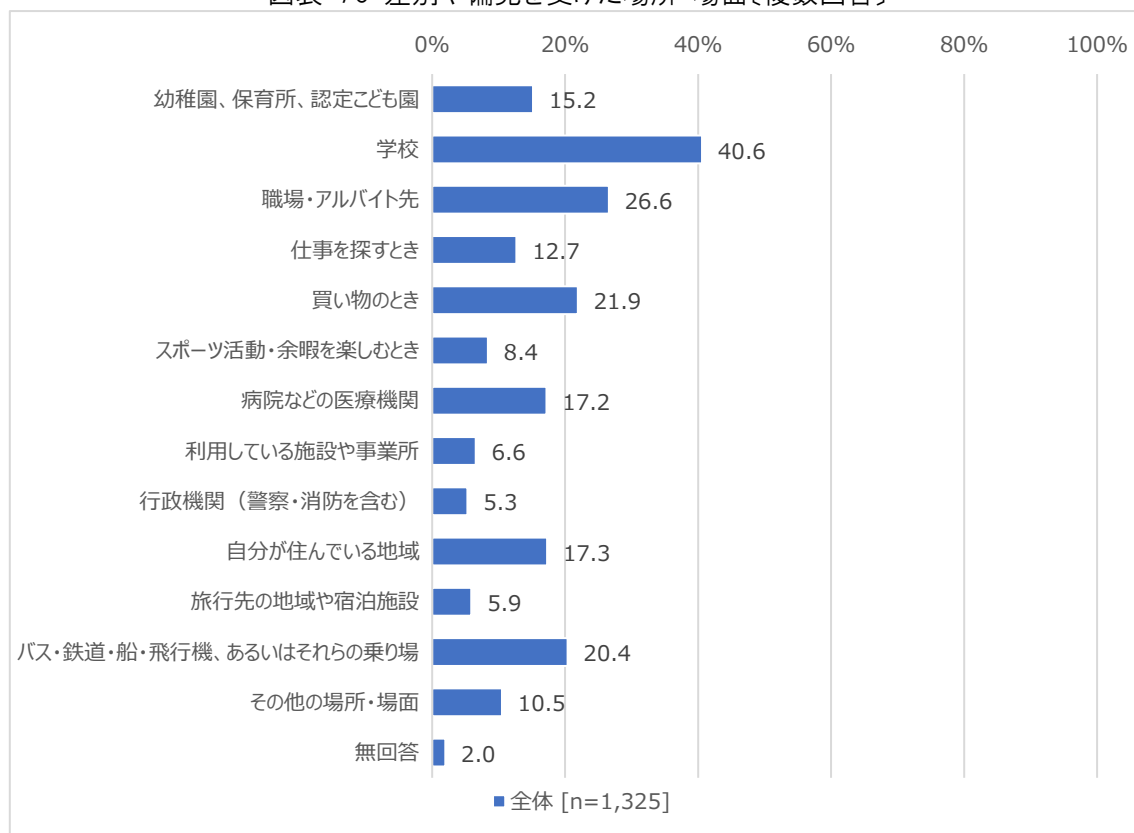
図表 69 障害を原因とした差別や偏見（前回調査比較）



②差別や偏見を受けた場所・場面

差別や偏見を受けたことのある人に、差別や偏見を受けた場所・場面について聞いたところ、「学校」の割合が40.6%と最も高く、次いで、「職場・アルバイト先」が26.6%、「買い物のとき」が21.9%、「バス・鉄道・船・飛行機、あるいはそれらの乗り場」が20.4%等となっている。

図表 70 差別や偏見を受けた場所・場面〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	1,325	343	253	83	257	170	19	271	86	101	48	161	302	45	29
幼稚園、保育所、認定こども園	15.2	9.3	11.1	4.8	23.3	7.6	10.5	20.3	4.7	17.8	31.3	13.7	28.5	24.4	10.3
学校	40.6	29.7	33.6	19.3	61.1	20.0	15.8	48.7	12.8	62.4	52.1	24.8	59.9	44.4	41.4
職場・アルバイト先	26.6	34.7	36.8	25.3	14.0	45.3	26.3	12.5	40.7	25.7	12.5	32.3	15.9	4.4	27.6
仕事を探すとき	12.7	20.7	20.9	19.3	3.1	19.4	15.8	5.9	18.6	11.9	4.2	11.8	6.6	2.2	24.1
買い物のとき	21.9	22.7	21.7	25.3	25.7	10.0	5.3	26.6	18.6	16.8	31.3	21.1	19.2	48.9	24.1
スポーツ活動・余暇を楽しむとき	8.4	8.7	8.3	9.6	10.5	3.5	0.0	11.8	7.0	5.0	6.3	9.3	10.9	17.8	3.4
病院などの医療機関	17.2	14.9	13.4	18.1	14.8	22.9	63.2	18.5	22.1	12.9	18.8	13.7	13.9	26.7	17.2
利用している施設や事業所	6.6	4.4	3.6	4.8	7.0	6.5	15.8	7.4	9.3	10.9	8.3	5.6	7.6	6.7	0.0
行政機関（警察・消防を含む）	5.3	6.4	5.9	8.4	2.7	6.5	5.3	2.2	9.3	8.9	14.6	6.8	5.0	11.1	0.0
自分が住んでいる地域	17.3	13.1	12.3	16.9	15.6	19.4	5.3	21.0	22.1	18.8	16.7	19.3	13.6	24.4	24.1
旅行先の地域や宿泊施設	5.9	6.4	5.5	9.6	6.2	1.8	0.0	10.3	3.5	2.0	6.3	8.1	3.3	17.8	3.4
バス・鉄道・船・飛行機、あるいはそれらの乗り場	20.4	19.8	18.6	24.1	24.1	8.8	0.0	25.5	18.6	20.8	22.9	23.0	21.9	37.8	17.2
その他の場所・場面	10.5	9.6	10.7	6.0	7.0	17.1	10.5	12.2	12.8	9.9	8.3	9.3	9.6	6.7	3.4
無回答	2.0	1.5	0.4	4.8	1.2	2.9	5.3	2.2	3.5	1.0	2.1	0.6	1.0	4.4	6.9

これまでに受けた差別や偏見の内容について自由記入で聞いたところ、延べ 691 件の回答があった。内容としては、障害に対する理解不足が最も多く、いじめ、窓口・学校・病院等の対応、暴力・言葉の暴力なども多くなっている。

特に、他者から奇異な目で見られることや、障害に対する無配慮・無理解、誤った理解、職場等での偏見・理解不足・不当な扱い、障害に対するからかいや陰口、無視などのいじめ行為、医療機関や交通機関等での対応、障害に対する無神経な言葉・言葉の暴力などをあげる内容が多くなっている。

図表 71 差別や偏見の内容

主な内容		件数
理解不足	奇異な目、白い目、変な目、嫌な目で見られる 障害に対する無配慮、無理解 障害に対する誤った理解 職場等での偏見や理解不足、不当な扱い 外見でわからない場合に障害者だと認識してもらえない 障害者に対するやっかみや反感（障害で優遇されている等） 話を聞いてもらえない、対等に話をされない など	249
いじめ	仲間外れ、無視される、避けられる からかわれる、笑われる、物を隠される 陰口を言われる 職場等におけるハラスメント など	113
窓口・学校・病院等の対応	医療機関での対応 交通機関での対応 保育所・学校等での対応 各種窓口等での対応 障害による相手の態度の変化 など	95
暴力・言葉の暴力	障害に対する無神経な言葉、言葉の暴力 身体的な暴力 など	88
拒否	入店やサービス利用等の拒否 入園、入学、一時保育等の拒否 など	47
その他	上記以外の差別・偏見 差別・偏見に関することも含めた幅広い意見や不安感 内容が判断できないもの、思い出したくない、言いたくない、覚えていない等の回答 など	99

③日常生活での悩みや差別・偏見等に関する相談先

日常生活での悩みや困ったことがあった場合や、差別・偏見を受けた場合に、どこに相談をしたり助けを求めようと考えているか聞いたところ、「家族や親戚などの身内」の割合が60.9%と最も高く、次いで、「病院などの医療関係者（主治医、看護師、相談員など）」が23.7%、「友人・知人」が21.9%等となっている。

図表 72 日常生活での悩みや差別・偏見等に関する相談先〔複数回答〕

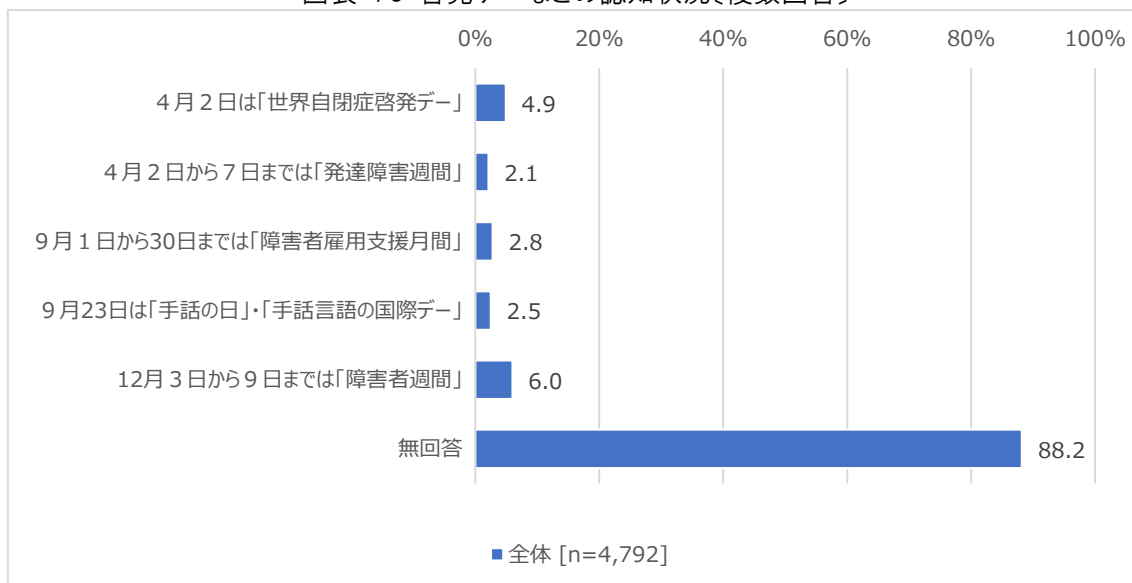


手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,791	1,604	773	809	656	710	64	675	261	209	107	726	639	92	293
家族や親戚などの身内	60.9	61.3	64.8	58.6	69.2	56.1	34.4	65.5	54.8	60.8	56.1	64.9	76.1	59.8	41.6
友人・知人	21.9	25.6	30.8	21.0	17.8	24.8	17.2	15.6	21.1	15.3	16.8	23.1	18.9	16.3	16.7
障害者仲間	5.7	5.0	7.6	2.6	5.3	3.9	10.9	11.1	6.1	7.7	7.5	5.9	7.8	7.6	3.1
学校の先生または職場の上司	9.8	4.9	10.0	0.1	29.0	3.0	0.0	17.9	3.1	10.0	6.5	8.7	30.5	9.8	3.1
病院などの医療関係者（主治医、看護師、相談員など）	23.7	22.1	20.6	23.4	13.3	39.7	56.3	16.0	33.0	25.4	21.5	27.5	22.8	20.7	19.8
福祉施設などの職員	15.4	7.9	6.5	9.4	27.3	9.4	9.4	29.2	12.6	28.7	29.0	10.9	23.0	38.0	10.2
ホームヘルパーやガイドヘルパーなど	6.3	6.5	4.9	8.2	4.7	3.0	0.0	10.4	10.7	10.0	7.5	5.2	5.2	13.0	6.5
障害者相談支援センター	9.1	8.4	9.8	7.3	11.1	5.4	4.7	14.4	10.3	11.0	15.0	9.2	9.4	13.0	5.5
障害者相談支援センター以外の相談支援事業所 (計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所、神戸市難病相談支援センター)	4.5	1.8	1.9	1.7	7.3	2.3	3.1	11.4	2.7	8.6	7.5	4.7	6.9	16.3	1.0
神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口	5.0	5.2	6.2	4.3	3.0	5.1	1.6	5.0	5.0	4.8	6.5	7.3	3.8	4.3	2.7
その他の相談窓口（社会福祉協議会、市民福祉振興協会、難病相談室など）	2.4	2.3	1.4	3.2	0.8	2.8	3.1	1.0	1.9	1.9	1.9	4.7	1.4	2.2	2.0
しごとサポート	1.1	0.4	0.8	0.0	2.4	1.4	0.0	1.2	0.8	2.9	2.8	0.7	2.5	0.0	0.0
各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）	7.8	8.7	8.3	9.3	5.3	9.6	0.0	7.0	8.4	7.7	8.4	9.8	5.3	6.5	3.1
民生委員・児童委員	2.0	3.1	0.3	5.9	0.6	2.5	1.6	0.4	1.5	1.4	0.0	1.8	0.5	3.3	2.0
身体障害者相談員、知的障害者相談員、精神障害者相談員	1.7	0.9	0.9	1.0	2.3	1.5	3.1	1.8	3.4	2.4	5.6	0.8	1.3	3.3	1.7
警察、法務局、その他の行政機関	4.0	4.9	4.9	5.1	2.6	5.5	4.7	1.8	4.6	3.3	0.9	5.0	3.8	0.0	3.1
弁護士（会）	3.9	4.9	5.6	4.4	1.7	4.8	6.3	2.1	4.2	2.9	0.9	6.1	2.3	5.4	3.1
障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）、ボランティアなど	1.9	1.1	1.2	1.0	2.9	1.1	0.0	4.0	0.8	3.3	1.9	2.2	2.0	2.2	0.3
1～18 以外	2.3	1.7	2.1	1.4	3.2	3.7	4.7	3.0	1.5	1.9	0.9	1.5	3.0	4.3	1.4
相談したり助けを求める先がない・思いつかない	8.3	8.7	10.7	6.8	6.4	10.6	15.6	5.5	10.7	10.0	2.8	7.9	5.9	4.3	11.3
無回答	10.1	12.6	6.9	17.3	5.5	6.8	1.6	8.6	9.2	3.8	11.2	9.0	4.2	6.5	26.3

④啓発デーなどの認知状況

啓発デーなどについて知っているかどうかを聞いたところ、いずれも知っている人は数%となっている。

図表 73 啓発デーなどの認知状況〔複数回答〕

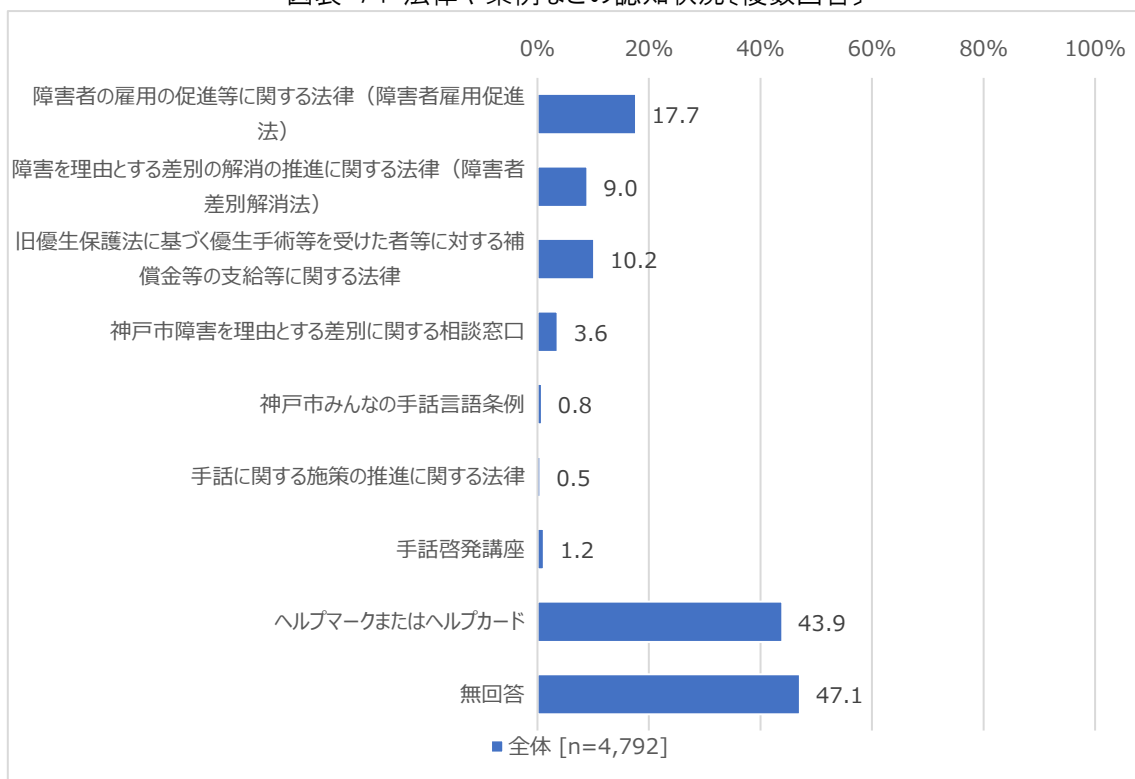


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
4月2日は「世界自閉症啓発デー」	4.9	2.1	3.4	0.9	12.2	3.0	1.6	7.0	3.1	11.9	4.7	3.6	16.3	16.3	2.0
4月2日から7日までは「発達障害週間」	2.1	1.2	1.7	0.7	4.3	2.3	1.6	1.9	1.5	7.1	0.9	1.1	6.6	7.6	1.0
9月1日から30日までは「障害者雇用支援月間」	2.8	3.4	5.0	1.9	2.9	1.5	0.0	2.8	2.3	4.8	2.8	1.9	3.8	4.3	2.4
9月23日は「手話の日」・「手話言語の国際デー」	2.5	2.9	4.8	1.0	2.3	1.7	1.6	3.0	2.3	3.3	1.9	1.9	3.3	3.3	1.7
12月3日から9日までは「障害者週間」	6.0	6.7	8.3	5.1	4.6	3.1	1.6	10.1	6.1	9.5	7.5	5.4	5.5	7.6	3.8
無回答	88.2	89.5	85.8	93.2	82.8	93.4	98.4	82.7	88.9	80.0	86.9	91.0	78.1	76.1	94.2

⑤法律や条例などの認知状況

法律や条例などについて知っているかどうかを聞いたところ、「ヘルプマークまたはヘルプカード」を知っている割合が43.9%と高くなっている。また、「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」が17.7%となっている。

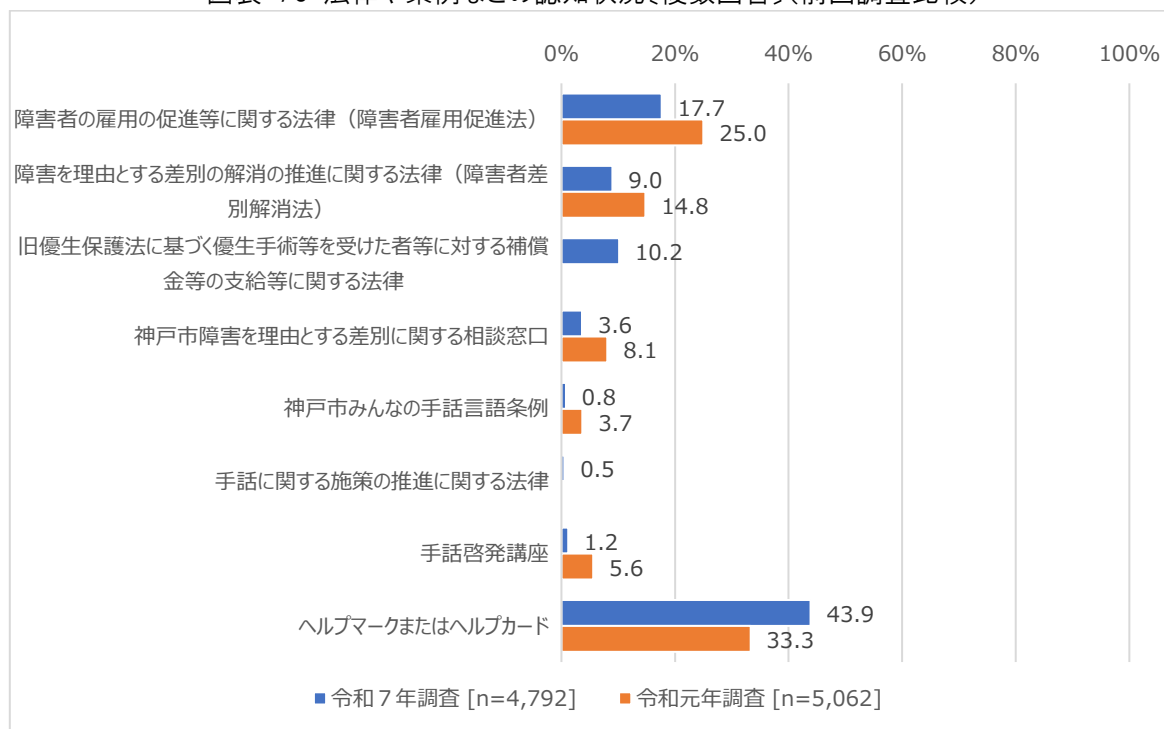
図表 74 法律や条例などの認知状況〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）	17.7	21.9	30.0	14.2	13.0	15.9	1.6	16.3	20.7	18.6	11.2	22.2	20.8	9.8	8.9
障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）	9.0	8.9	12.9	5.1	7.6	8.0	1.6	11.4	13.0	14.3	9.3	9.8	13.8	9.8	4.1
旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者等に対する補償金等の支給等に関する法律	10.2	11.1	14.0	8.5	5.8	9.9	1.6	11.0	13.8	11.9	12.1	14.2	10.0	4.3	4.8
神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口	3.6	3.4	4.1	2.7	3.2	3.1	3.1	3.6	7.3	6.2	5.6	3.7	2.8	5.4	2.7
神戸市みんなの手話言語条例	0.8	0.9	1.4	0.4	0.5	0.3	0.0	1.3	1.9	0.5	1.9	0.7	0.3	1.1	0.3
手話に関する施策の推進に関する法律	0.5	0.7	0.9	0.5	0.3	0.3	0.0	1.0	0.4	0.5	0.0	0.3	0.3	1.1	0.3
手話啓発講座	1.2	1.3	1.6	1.1	0.9	1.1	0.0	1.6	0.8	0.5	0.9	1.4	0.9	1.1	0.7
ヘルプマークまたはヘルプカード	43.9	41.8	51.4	33.3	52.3	36.9	6.3	56.1	41.8	57.6	54.2	47.1	61.0	55.4	20.1
無回答	47.1	47.4	35.2	58.5	42.2	53.4	90.6	38.1	45.2	34.8	38.3	42.6	31.0	39.1	71.7

前回調査（令和元年）と比較すると、「ヘルプマークまたはヘルプカード」については、認知している人の割合が上昇している。

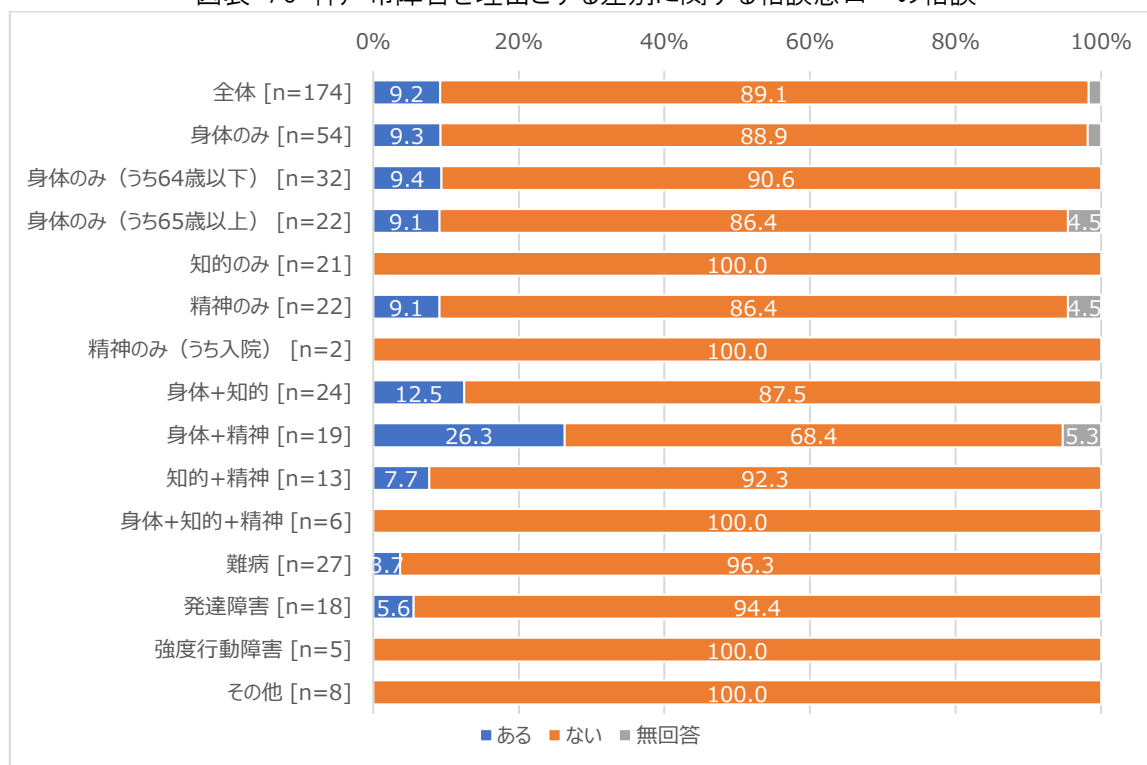
図表 75 法律や条例などの認知状況〔複数回答〕（前回調査比較）



⑥神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口への相談

「神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口」を知っていると回答した人に、窓口へ相談したことがあるかどうかを聞いたところ、「ない」が89.1%、「ある」が9.2%となっている。

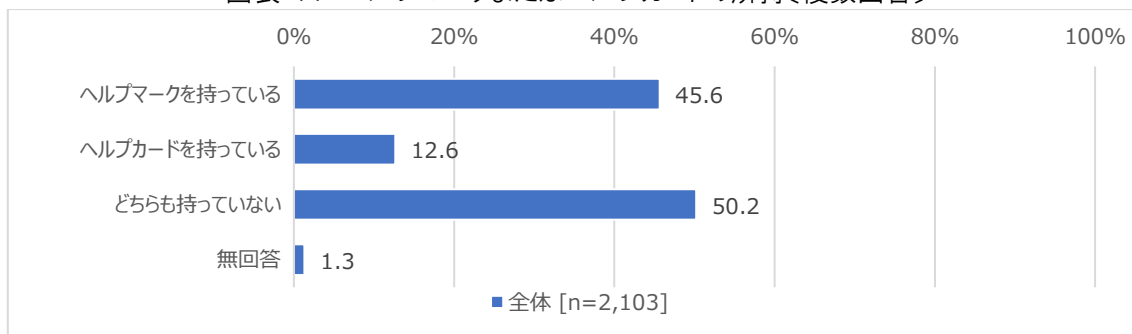
図表 76 神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口への相談



⑦ヘルプマークまたはヘルプカードの所持

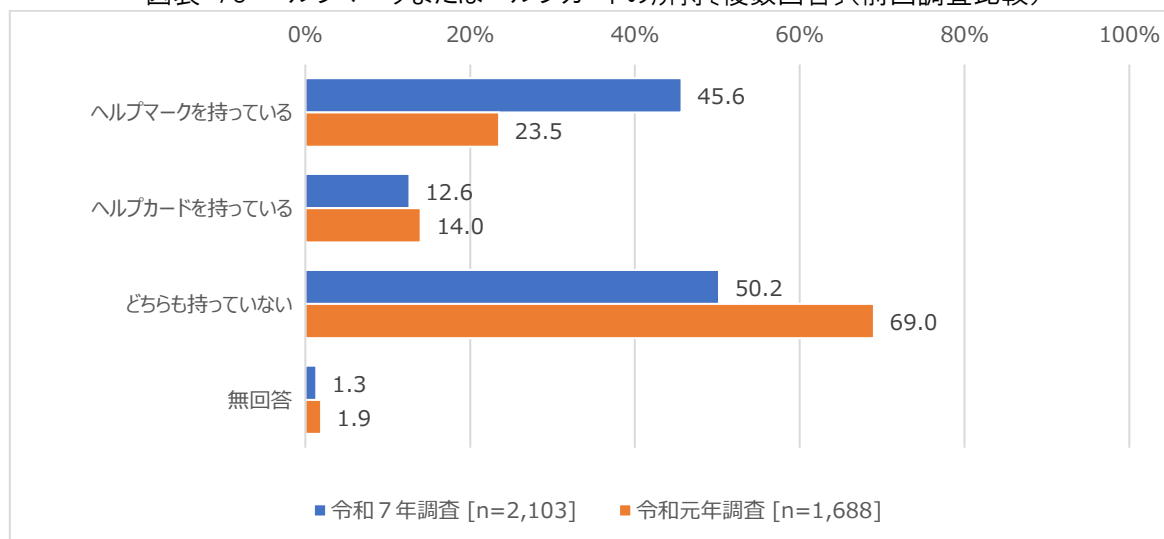
「ヘルプマークまたはヘルプカード」を知っていると回答した人に、持っているかどうかを聞いたところ、「どちらも持っていない」が50.2%、「ヘルプマークを持っている」が45.6%、「ヘルプカードを持っている」が12.6%となっている。前回調査（令和元年）と比較すると、「ヘルプマークを持っている」の割合が大きく上昇している。

図表 77 ヘルプマークまたはヘルプカードの所持〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位: %)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	2,103	671	397	269	343	262	4	379	109	121	58	342	390	51	59
ヘルプマークを持っている	45.6	43.2	43.6	42.4	52.2	27.1	50.0	54.9	60.6	57.0	70.7	46.2	59.5	70.6	20.3
ヘルプカードを持っている	12.6	11.0	12.8	8.6	14.9	3.4	50.0	15.3	18.3	24.0	19.0	11.7	14.4	23.5	8.5
どちらも持っていない	50.2	52.5	52.1	53.2	43.1	70.6	25.0	38.8	37.6	39.7	27.6	49.7	35.9	21.6	76.3
無回答	1.3	1.3	1.3	1.5	1.2	1.1	0.0	2.6	0.0	0.8	0.0	1.2	1.3	2.0	0.0

図表 78 ヘルプマークまたはヘルプカードの所持〔複数回答〕(前回調査比較)

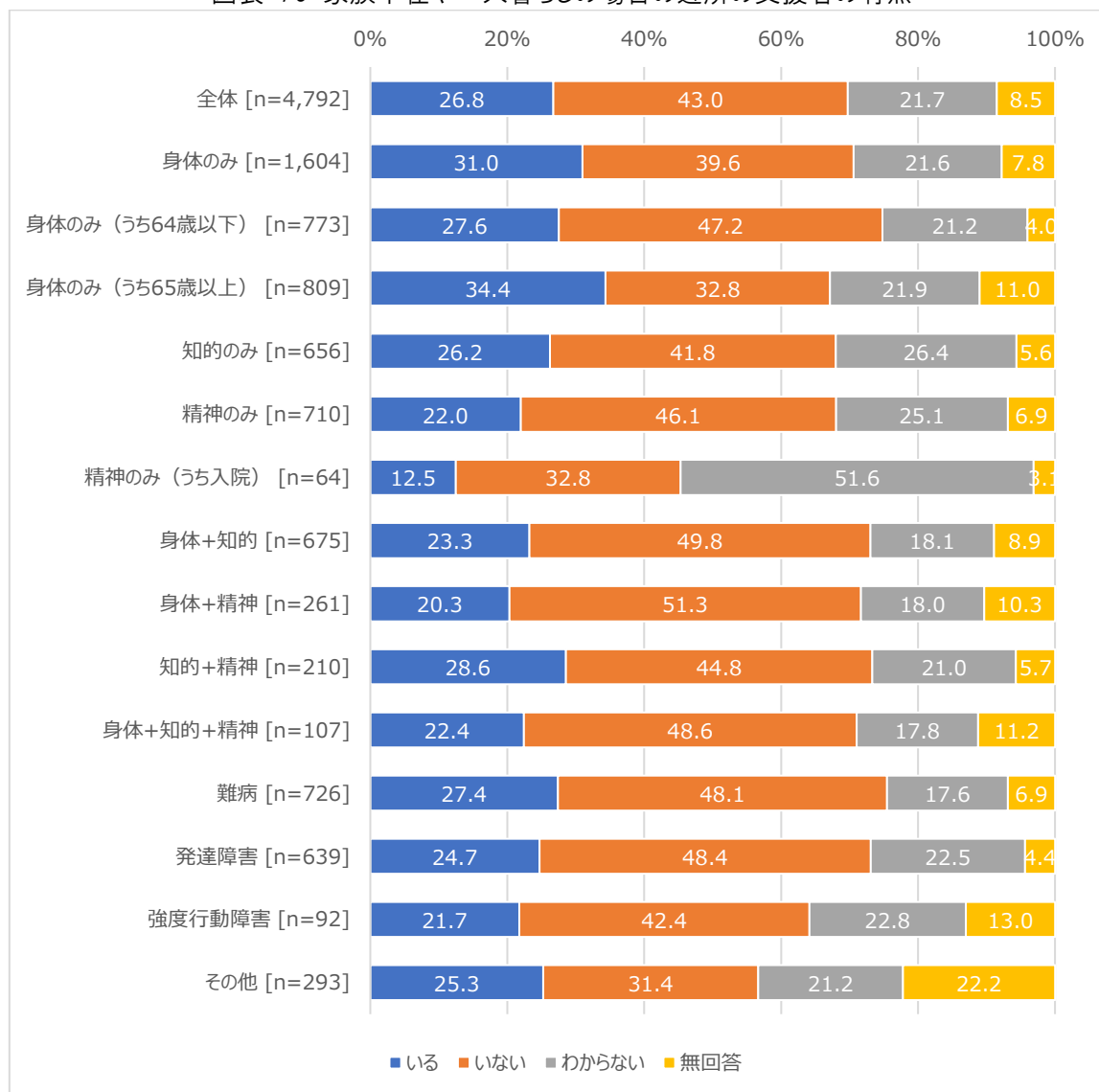


(11) 災害時のことについて

①近所の支援者の有無

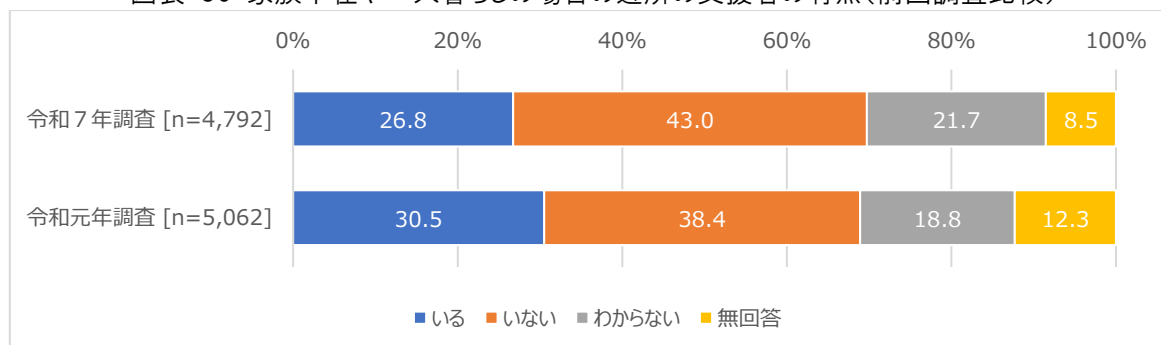
家族不在や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいるかどうかを聞いたところ、「いない」が43.0%、「いる」が26.8%、「わからない」が21.7%となっている。

図表 79 家族不在や一人暮らしの場合の近所の支援者の有無



前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「いる」がやや減少しているものの、それほど大きな変化は見られない。

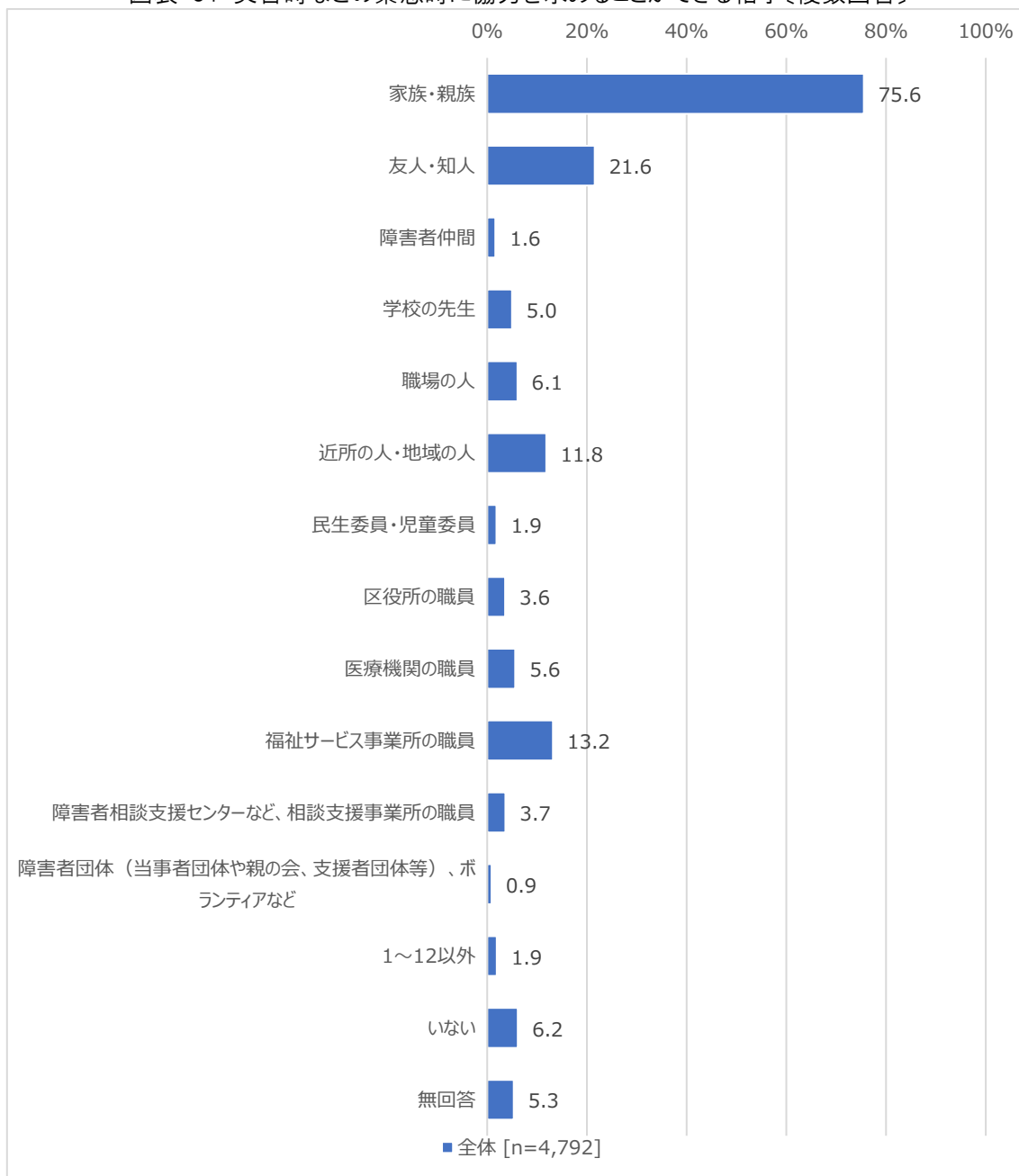
図表 80 家族不在や一人暮らしの場合の近所の支援者の有無（前回調査比較）



②災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手

災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手について聞いたところ、「家族・親族」の割合が75.6%と高くなっている。

図表 81 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手〔複数回答〕

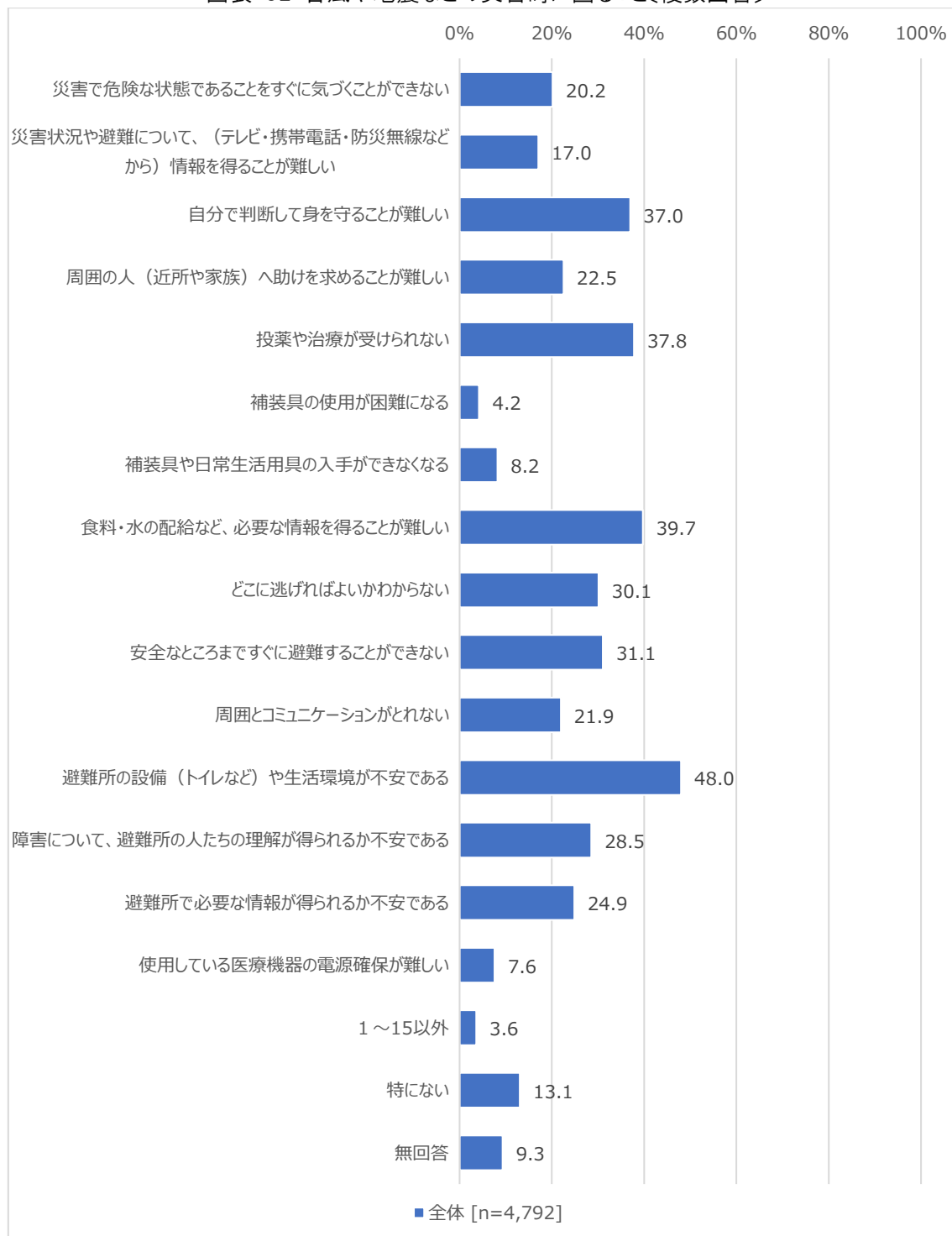


手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
家族・親族	75.6	80.4	82.8	78.4	81.4	67.0	29.7	79.6	66.3	68.6	69.2	83.3	85.8	76.1	55.3
友人・知人	21.6	27.8	32.3	23.6	15.2	24.8	4.7	11.0	21.5	13.3	8.4	23.7	16.1	8.7	17.1
障害者仲間	1.6	1.4	2.3	0.6	2.4	1.0	1.6	1.8	1.5	3.3	3.7	1.0	2.3	3.3	1.0
学校の先生	5.0	3.2	6.5	0.0	17.5	0.8	0.0	6.2	0.8	4.8	1.9	4.0	18.9	6.5	1.7
職場の人	6.1	5.1	9.8	0.7	9.6	6.8	1.6	3.9	3.4	10.0	5.6	6.5	8.3	1.1	2.4
近所の人・地域の人	11.8	14.7	11.5	17.9	9.9	10.6	1.6	8.9	12.6	10.0	6.5	12.8	8.0	9.8	7.8
民生委員・児童委員	1.9	3.1	0.6	5.4	0.5	1.7	0.0	0.9	1.5	1.9	1.9	1.8	0.6	4.3	2.0
区役所の職員	3.6	3.2	2.6	3.8	2.3	6.3	3.1	1.5	6.9	4.3	1.9	3.0	2.7	2.2	3.8
医療機関の職員	5.6	4.7	5.8	3.8	3.0	9.9	45.3	4.9	7.7	6.7	4.7	6.9	3.3	3.3	7.8
福祉サービス事業所の職員	13.2	8.4	6.1	10.5	23.5	7.2	6.3	24.6	8.8	22.4	25.2	9.5	19.6	33.7	7.8
障害者相談支援センターなど、相談支援事業所の職員	3.7	1.5	2.1	0.9	5.9	2.5	1.6	8.1	3.1	7.1	14.0	2.5	6.9	14.1	0.3
障害者団体（当事者団体や親の会、支援者団体等）、ボランティアなど	0.9	0.4	0.6	0.2	1.2	1.0	1.6	1.2	0.4	4.3	0.9	0.3	1.6	3.3	0.0
1～12 以外	1.9	1.7	0.9	2.3	1.8	2.4	3.1	2.1	2.7	3.3	6.5	1.4	1.7	2.2	0.3
いない	6.2	5.2	6.5	4.0	2.9	10.1	15.6	3.1	11.9	5.7	5.6	5.8	3.4	2.2	12.3
無回答	5.3	4.3	2.3	5.9	3.2	4.6	9.4	4.9	6.9	2.9	7.5	4.5	2.7	3.3	17.1

③台風や地震などの災害時に困ること

台風や地震などの災害時に困ることとしては、「避難所の設備（トイレなど）や生活環境が不安である」の割合が48.0%と最も高く、次いで、「食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい」が39.7%、「投薬や治療が受けられない」が37.8%、「自分で判断して身を守ることが難しい」が37.0%、「安全なところまですぐに避難することができない」が31.1%等となっている。手帳所持・診断区分でみると、「知的のみ」「身体+知的」「身体+知的+精神」「発達障害」では「自分で判断して身を守る行動をとることが難しい」が5割強～7割、「身体+知的」ではさらに「避難場所の設備や生活環境が不安である」が6割と高くなっている。また「強度行動障害」は全般に困りごとの割合が高くなる。

図表 82 台風や地震などの災害時に困ること〔複数回答〕

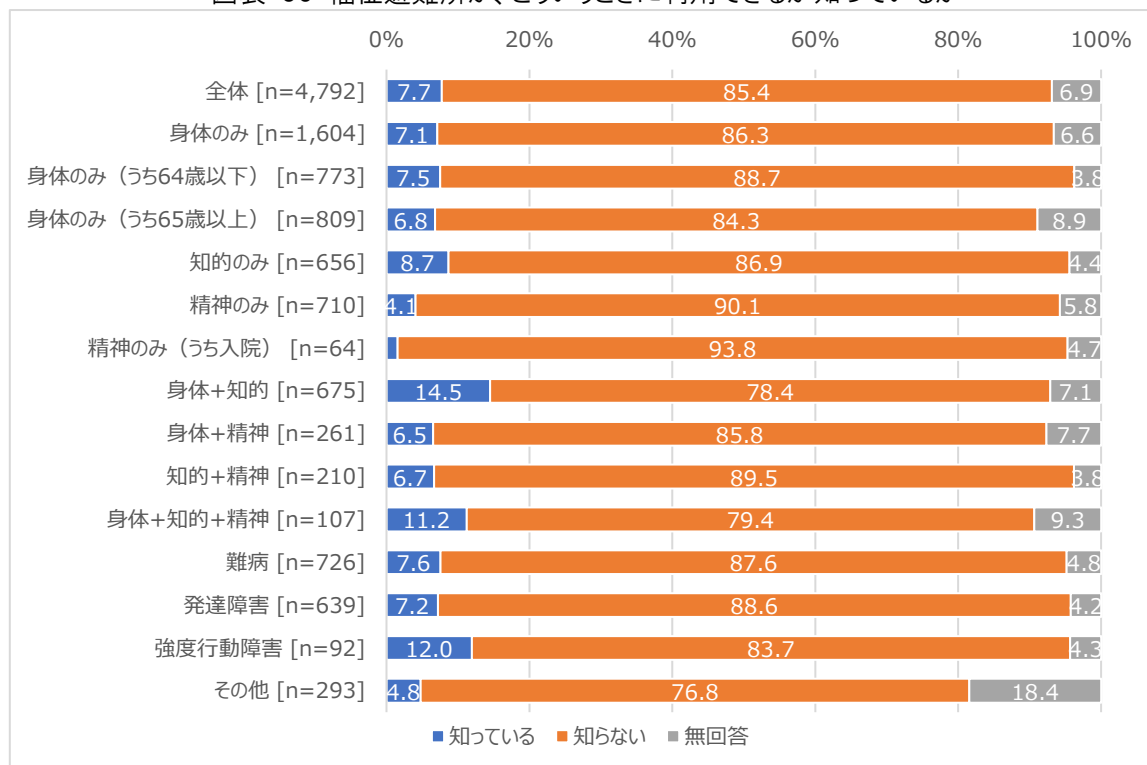


手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
災害で危険な状態であることをすぐに気づくことができない	20.2	12.6	12.4	12.6	30.9	10.0	25.0	43.7	14.2	27.6	39.3	14.3	31.9	45.7	15.7
災害状況や避難について、(テレビ・携帯電話・防災無線などから) 情報を得ることが難しい	17.0	10.3	10.7	9.6	27.7	8.7	23.4	37.9	10.3	20.5	32.7	12.7	27.1	40.2	11.9
自分で判断して身を守ることが難しい	37.0	25.7	23.7	27.8	57.5	19.2	29.7	71.7	30.7	49.0	67.3	33.1	57.1	60.9	24.2
周囲の人(近所や家族)へ助けを求めることが難しい	22.5	14.8	15.7	13.8	28.8	18.7	21.9	41.2	20.7	32.4	43.9	20.1	36.0	47.8	16.7
投薬や治療が受けられない	37.8	38.5	38.0	39.2	18.8	43.4	29.7	41.8	54.0	39.0	52.3	53.7	27.5	47.8	24.9
補装具の使用が困難になる	4.2	5.1	6.2	4.1	1.1	1.3	1.6	9.2	6.5	3.3	6.5	5.4	2.7	10.9	3.1
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	8.2	9.5	11.1	8.0	5.0	3.0	3.1	16.7	10.7	5.7	9.3	10.9	6.4	16.3	4.8
食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい	39.7	33.4	30.8	35.2	52.6	32.1	40.6	56.9	38.7	53.3	49.5	33.6	55.6	66.3	28.3
どこに逃げればよいかわからない	30.1	20.3	21.6	19.0	44.8	28.9	48.4	43.1	29.5	48.1	37.4	24.5	48.2	51.1	23.5
安全なところまですぐに避難することができない	31.1	31.6	29.2	33.7	30.8	14.6	26.6	56.9	32.6	31.4	43.0	33.6	35.5	53.3	16.7
周囲とコミュニケーションがとれない	21.9	9.9	12.0	7.8	41.6	16.6	12.5	43.1	17.2	36.7	34.6	15.6	45.2	53.3	13.7
避難所の設備(トイレなど)や生活環境が不安である	48.0	47.0	45.3	48.8	46.5	45.5	35.9	60.0	48.3	50.5	55.1	52.6	54.1	62.0	34.8
障害について、避難所の人たちの理解が得られるか不安である	28.5	19.1	23.7	15.1	42.8	18.5	18.8	54.5	28.7	51.0	43.0	26.6	49.9	60.9	7.5
避難所で必要な情報が得られるか不安である	24.9	17.4	20.1	15.2	37.5	20.3	18.8	37.5	27.6	36.2	29.9	21.8	41.9	43.5	18.4
使用している医療機器の電源確保が難しい	7.6	8.9	10.6	7.0	2.4	3.1	4.7	15.7	12.6	2.9	12.1	14.9	4.2	7.6	5.5
1～15以外	3.6	3.4	4.7	2.3	2.3	3.8	6.3	4.9	5.7	4.8	7.5	4.3	4.4	12.0	2.0
特にない	13.1	14.5	16.7	12.1	13.1	17.7	23.4	5.2	7.7	10.0	5.6	11.3	9.7	9.8	15.4
無回答	9.3	9.4	5.3	13.1	6.1	8.7	9.4	6.7	10.3	4.8	7.5	8.1	5.0	6.5	24.9

④福祉避難所の認知状況

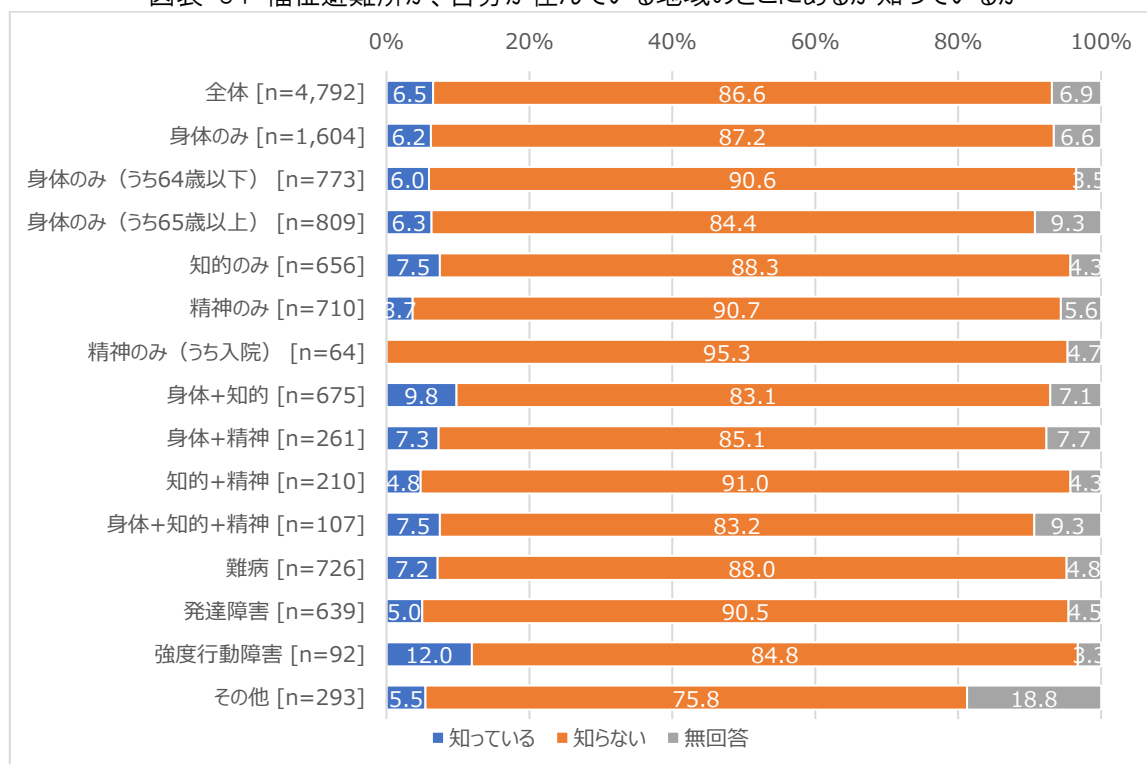
福祉避難所について、どういうときに利用できるか知っているかどうかを聞いたところ、「知らない」が85.4%、「知っている」が7.7%となっている。

図表 83 福祉避難所が、どういうときに利用できるか知っているか



福祉避難所が、自分が住んでいる地域のどこにあるか知っているかどうかを聞いたところ、「知らない」が86.6%、「知っている」が6.5%となっている。

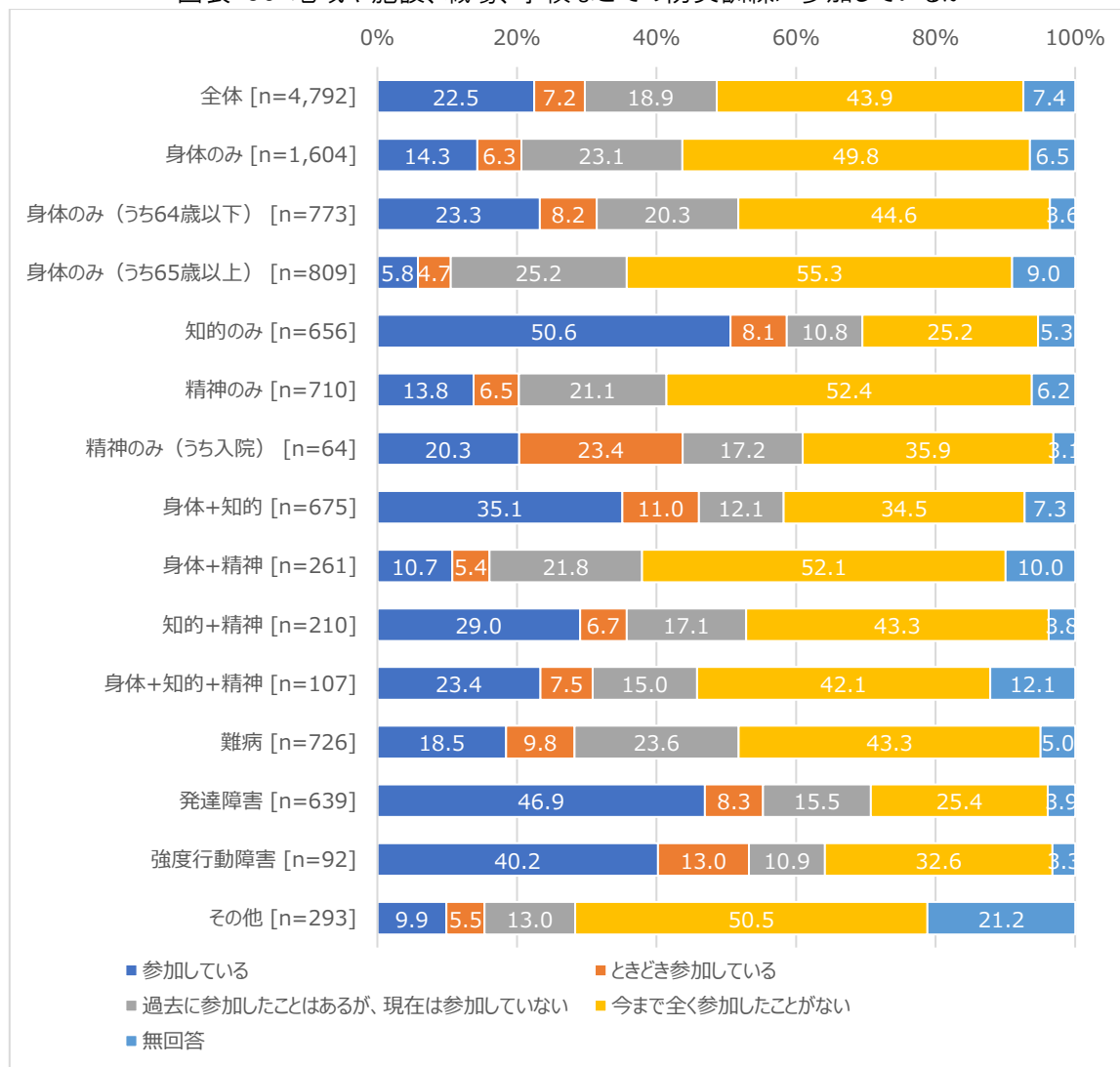
図表 84 福祉避難所が、自分が住んでいる地域のどこにあるか知っているか



⑤地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加しているか

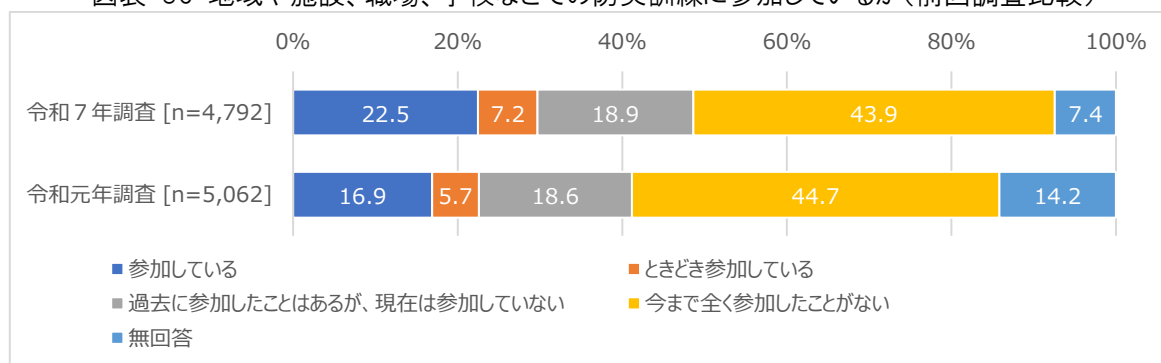
地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加しているかどうかを聞いたところ、「今まで全く参加したことがない」が43.9%、「参加している」が22.5%、「過去に参加したことはあるが、現在は参加していない」が18.9%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的のみ」「発達障害」「強度行動障害」等で「参加している」の割合が高くなっている。

図表 85 地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加しているか



前回調査（令和元年）の結果と比較すると、「参加している」の割合が上昇している。

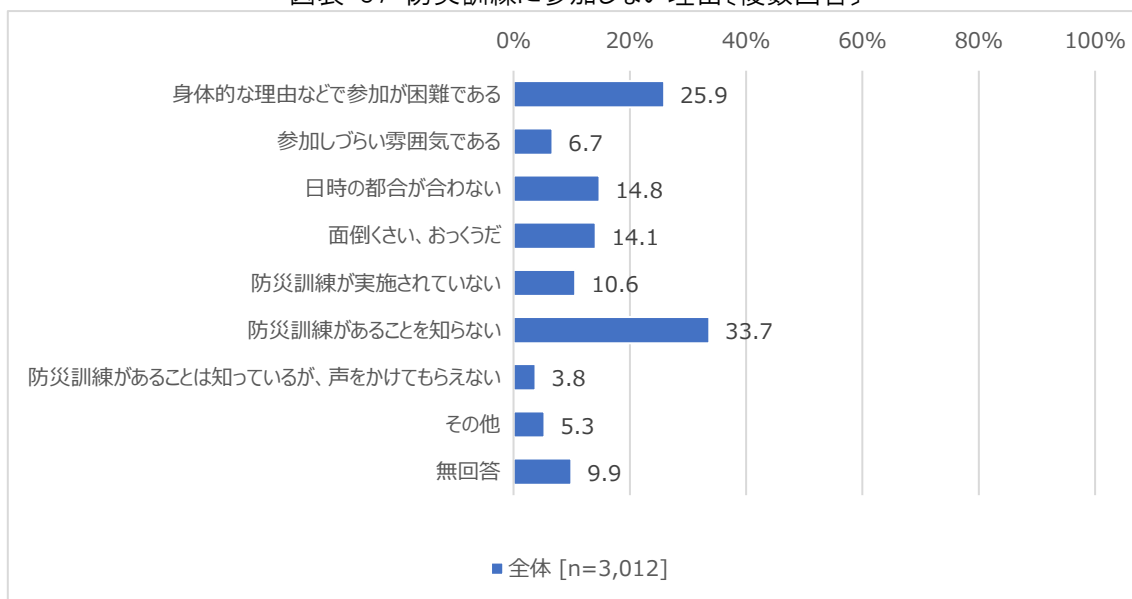
図表 86 地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加しているか（前回調査比較）



⑥防災訓練に参加しない理由

防災訓練に「過去に参加したことはあるが、現在は参加していない」と回答した人に、防災訓練に参加しない理由を聞いたところ、「防災訓練があることを知らない」の割合が33.7%と最も高く、次いで、「身体的な理由などで参加が困難である」が25.9%となっている。

図表 87 防災訓練に参加しない理由〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	3,012	1,169	502	651	236	522	34	315	193	127	61	485	261	40	186
身体的な理由などで参加が困難である	25.9	33.6	27.1	38.2	10.2	14.2	11.8	37.5	31.6	8.7	39.3	30.5	11.1	32.5	23.1
参加しづらい雰囲気である	6.7	3.8	5.8	2.5	8.1	7.3	0.0	6.0	12.4	15.7	21.3	5.6	11.5	10.0	6.5
日時の都合が合わない	14.8	14.4	20.9	9.5	14.4	14.8	2.9	11.1	11.4	21.3	8.2	17.5	16.5	10.0	15.6
面倒くさい、おっくうだ	14.1	10.9	11.0	10.9	11.9	21.6	11.8	7.3	11.9	26.0	9.8	15.1	16.9	7.5	15.6
防災訓練が実施されていない	10.6	9.3	9.8	9.2	11.9	13.2	20.6	9.8	11.4	12.6	11.5	10.7	12.6	17.5	10.8
防災訓練があることを知らない	33.7	30.7	34.9	28.0	37.3	37.7	38.2	29.5	38.9	40.9	29.5	30.5	39.1	25.0	33.9
防災訓練があることは知っているが、声をかけてもらえない	3.8	2.7	2.8	2.8	3.0	6.1	14.7	3.2	3.6	6.3	6.6	2.1	5.4	5.0	4.8
その他	5.3	5.3	5.4	5.2	8.1	4.4	2.9	5.1	4.7	3.9	8.2	4.3	6.1	10.0	6.5
無回答	9.9	11.1	8.4	12.9	11.4	7.5	8.8	12.7	8.3	5.5	11.5	8.5	6.9	15.0	9.1

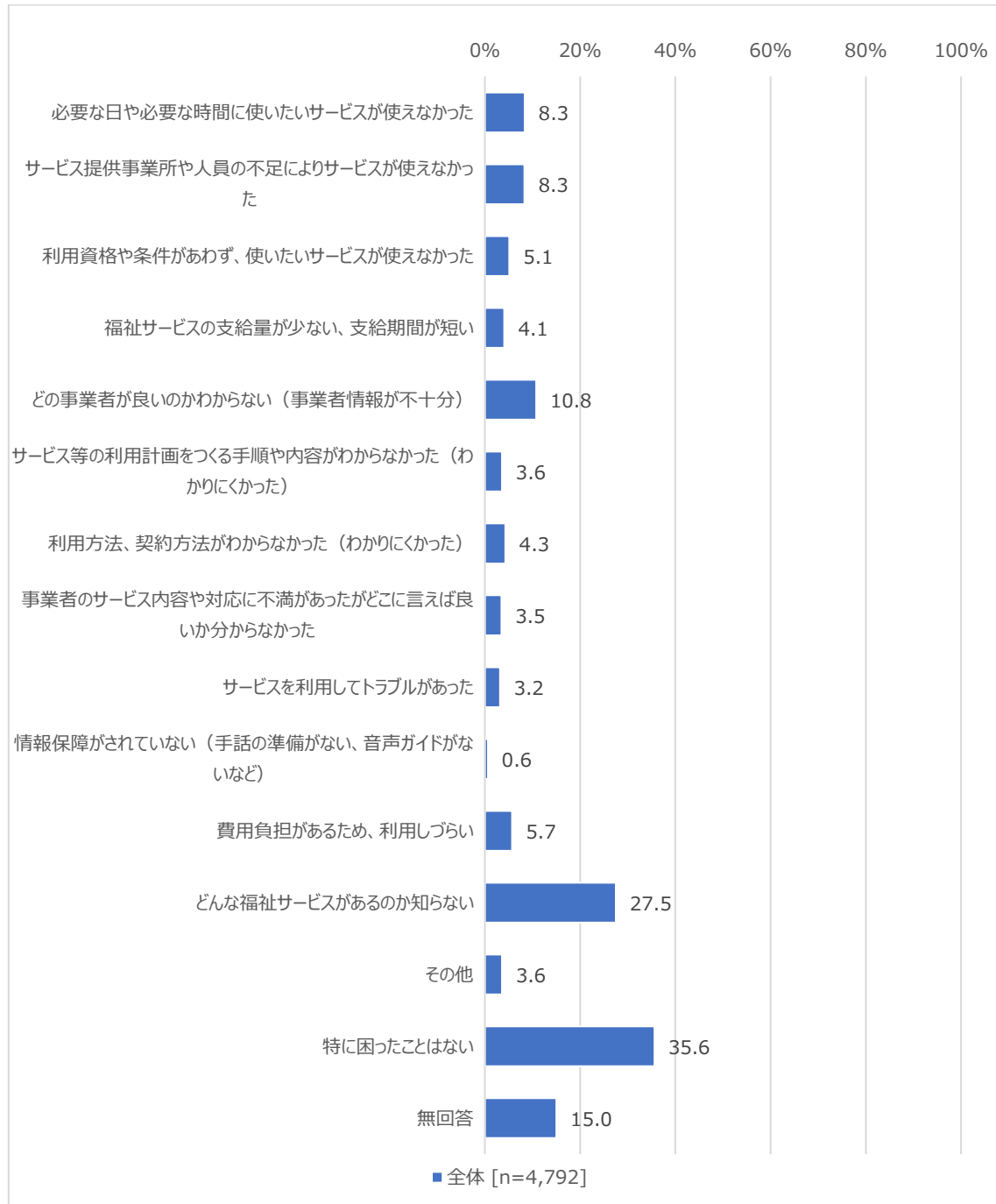
(12) 福祉サービスについて

①福祉サービスを受けたときなどに困ったことはあるか

福祉サービスを受けたときなどに、何か困ったことがあるかどうかを聞いたところ、「特に困ったことはない」が35.6%となっている。困ったこととしては、「どんな福祉サービスがあるのか知らない」が27.5%、「どの事業者が良いのかわからない（事業者情報が不十分）」が10.8%等となっている。

「強度行動障害」は全般に困りごとの割合が高くなっている。

図表 88 福祉サービスを受けたときなどに困ったことはあるか〔複数回答〕



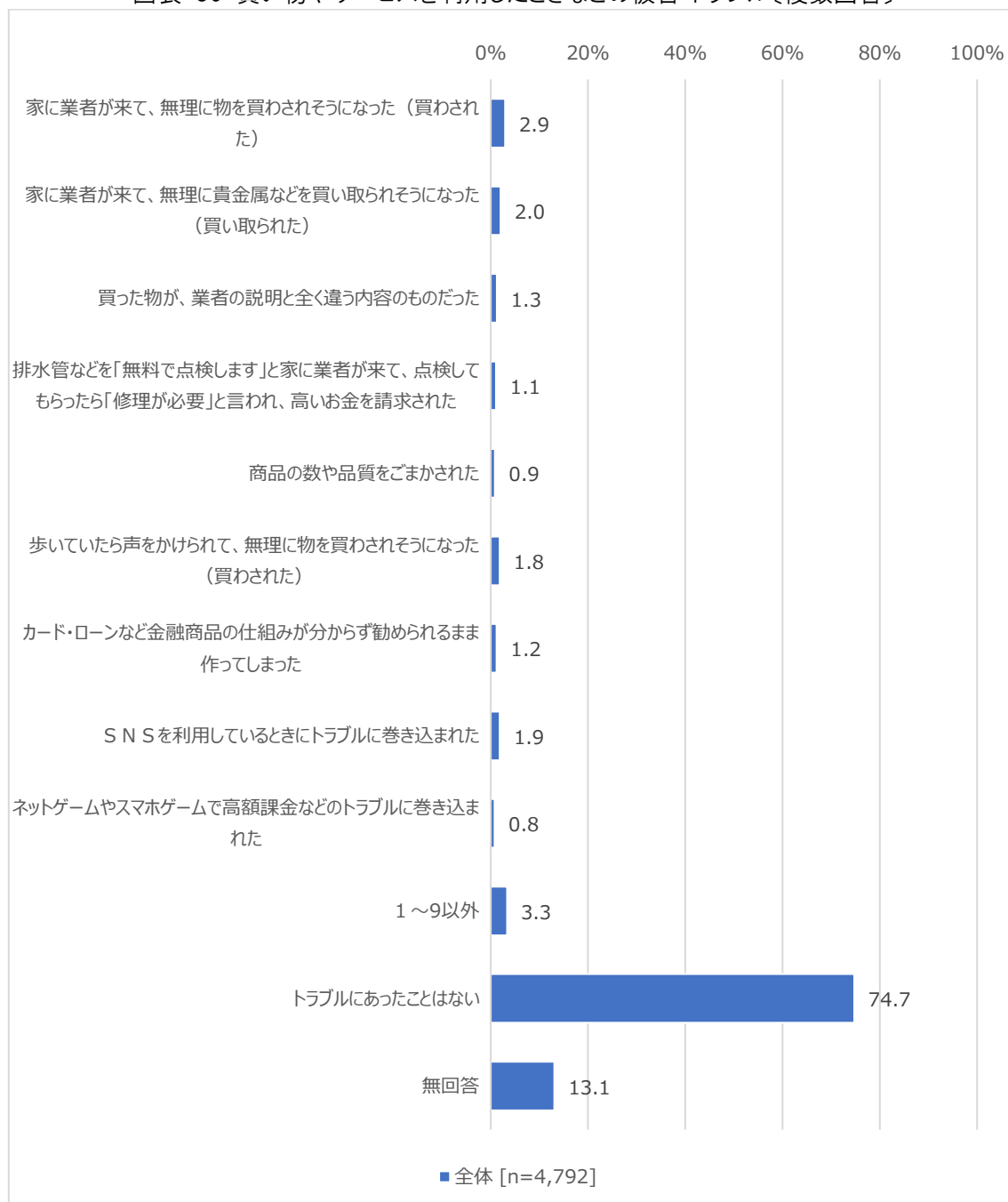
手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
必要な日や必要な時間に使いたいサービスが使えなかった	8.3	4.6	5.4	3.7	12.3	4.4	6.3	22.7	7.3	9.0	16.8	10.7	15.5	26.1	1.0
サービス提供事業所や人員の不足によりサービスが使えなかった	8.3	3.3	4.8	2.0	11.6	2.7	3.1	26.1	5.4	12.9	22.4	10.1	14.6	30.4	2.7
利用資格や条件があわず、使いたいサービスが使えなかった	5.1	4.5	5.8	3.3	4.4	4.2	1.6	9.6	4.6	6.2	12.1	7.4	7.8	16.3	2.0
福祉サービスの支給量が少ない、支給期間が短い	4.1	3.2	3.8	2.7	3.7	2.7	4.7	8.6	4.6	7.1	5.6	5.2	6.4	10.9	1.7
どの事業者が良いのかわからない（事業者情報が不十分）	10.8	6.8	7.6	6.1	15.9	8.5	12.5	20.1	10.7	15.2	20.6	10.7	20.5	23.9	5.5
サービス等の利用計画をつくる手順や内容がわからなかった（わかりにくかった）	3.6	3.0	3.2	2.7	5.3	3.0	3.1	5.0	5.7	4.8	2.8	4.0	5.5	9.8	1.7
利用方法、契約方法がわからなかった（わかりにくかった）	4.3	4.2	4.5	3.8	4.1	4.2	4.7	5.9	6.9	4.8	3.7	3.9	4.7	4.3	3.1
事業者のサービス内容や対応に不満があったがどこに言えば良いかわからなかった	3.5	2.2	3.1	1.4	4.6	3.0	9.4	6.2	4.6	7.1	6.5	2.6	5.6	14.1	1.0
サービスを利用してトラブルがあった	3.2	1.8	2.1	1.5	3.4	2.4	10.9	5.0	6.1	9.0	11.2	3.6	6.6	13.0	0.7
情報保障がされていない（手話の準備がない、音声ガイドがないなど）	0.6	1.1	1.7	0.5	0.3	0.1	0.0	0.7	1.5	0.0	0.9	0.4	0.2	1.1	0.0
費用負担があるため、利用しづらい	5.7	5.2	5.8	4.8	6.3	6.8	6.3	5.2	4.6	10.5	8.4	6.1	7.7	6.5	3.4
どんな福祉サービスがあるのか知らない	27.5	30.3	32.2	28.7	22.6	35.6	28.1	16.3	33.3	24.3	21.5	30.7	26.9	20.7	25.6
その他	3.6	2.7	2.8	2.5	4.1	3.7	7.8	6.4	2.7	2.9	6.5	4.1	4.4	5.4	2.4
特に困ったことはない	35.6	38.6	43.1	34.5	40.1	35.9	40.6	27.4	32.6	33.3	19.6	32.0	34.3	23.9	33.8
無回答	15.0	16.0	8.4	22.6	9.0	13.9	3.1	12.0	16.5	9.0	16.8	14.9	6.1	10.9	31.1

(13) 消費生活について

①買い物やサービスを利用したときなどの被害・トラブル

買い物やサービスを利用したときなどに、何か被害や消費者トラブルにあったことはあるかどうかを聞いたところ、「トラブルにあったことはない」の割合が74.7%と高くなっている。被害や消費者トラブルについてはいずれも数%の回答となっている。

図表 89 買い物やサービスを利用したときなどの被害・トラブル〔複数回答〕



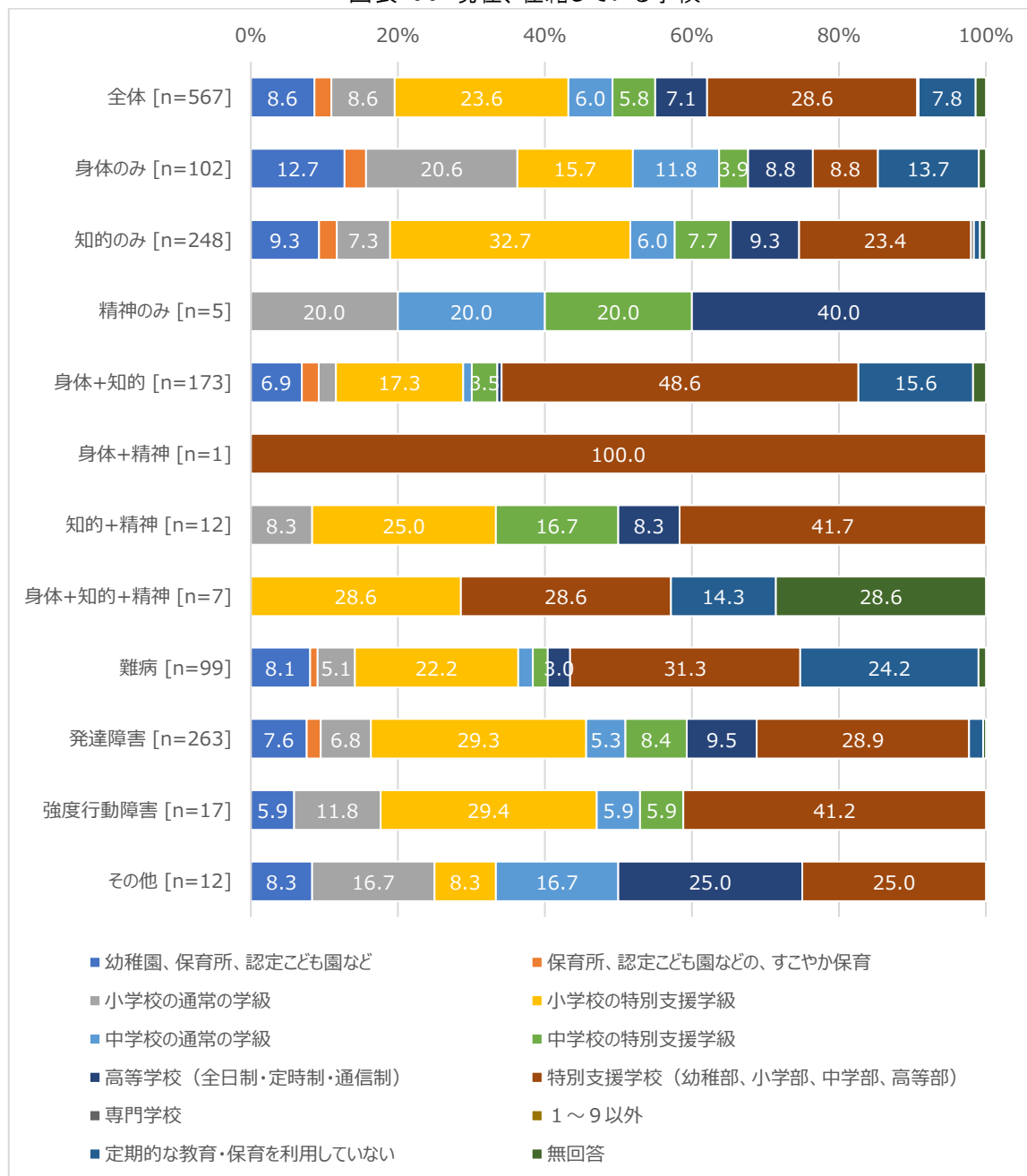
手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	4,792	1,604	773	809	656	710	64	675	261	210	107	726	639	92	293
家に業者が来て、無理に物を買わされそうになった (買わされた)	2.9	2.7	2.6	2.8	1.4	4.5	6.3	1.9	6.9	1.4	5.6	2.9	2.0	2.2	3.4
家に業者が来て、無理に貴金属などを買い取られそうになった (買い取られた)	2.0	2.1	1.4	2.7	0.2	4.2	3.1	1.0	4.2	2.4	1.9	2.5	1.4	1.1	1.7
買った物が、業者の説明と全く違う内容のものだった	1.3	1.2	1.4	1.0	0.2	2.8	3.1	0.3	1.9	1.9	1.9	1.5	1.3	1.1	1.7
排水管などを「無料で点検します」と家に業者が来て、点検してもらったら「修理が必要」と言われ、高いお金を請求された	1.1	1.2	1.0	1.4	0.3	1.5	0.0	0.7	1.5	1.4	0.9	1.0	1.1	1.1	1.4
商品の数や品質をごまかされた	0.9	0.9	0.8	0.9	0.3	1.7	4.7	0.1	0.8	1.9	0.9	1.2	1.7	1.1	0.3
歩いていたら声をかけられて、無理に物を買わされそうになった (買わされた)	1.8	0.9	1.3	0.4	2.4	3.5	4.7	0.9	3.4	5.2	0.0	1.4	3.3	0.0	1.0
カード・ローンなど金融商品の仕組みが分からず勧められるまま作ってしまった	1.2	0.5	0.1	0.9	0.9	2.3	0.0	0.3	3.4	5.2	2.8	0.8	2.8	1.1	0.7
S N Sを利用しているときにトラブルに巻き込まれた	1.9	1.3	1.4	1.2	1.5	3.1	3.1	0.7	4.6	5.7	1.9	1.4	4.5	3.3	0.7
ネットゲームやスマホゲームで高額課金などのトラブルに巻き込まれた	0.8	0.4	0.6	0.2	0.8	0.8	1.6	0.9	0.8	3.3	3.7	0.3	2.3	1.1	0.0
1～9 以外	3.3	3.1	3.0	3.2	3.7	3.9	7.8	2.8	5.4	3.8	4.7	3.4	3.8	3.3	0.3
トラブルにあったことはない	74.7	76.6	81.5	72.6	80.2	70.7	75.0	77.9	65.9	72.4	64.5	78.2	76.2	77.2	65.2
無回答	13.1	12.3	8.0	15.8	10.4	11.1	3.1	14.8	12.3	9.5	19.6	10.6	8.3	15.2	26.6

(14) 障害児の状況

①現在、在籍している学校

18歳未満の障害児について、現在、在籍している学校は、「特別支援学校（幼稚部、小学部、中学部、高等部）」が28.6%、「小学校の特別支援学級」が23.6%、「幼稚園、保育所、認定こども園など」「小学校の通常の学級」がいずれも8.6%、「定期的な教育・保育を利用していない」が7.8%、「高等学校（全日制・定時制・通信制）」が7.1%となっている。

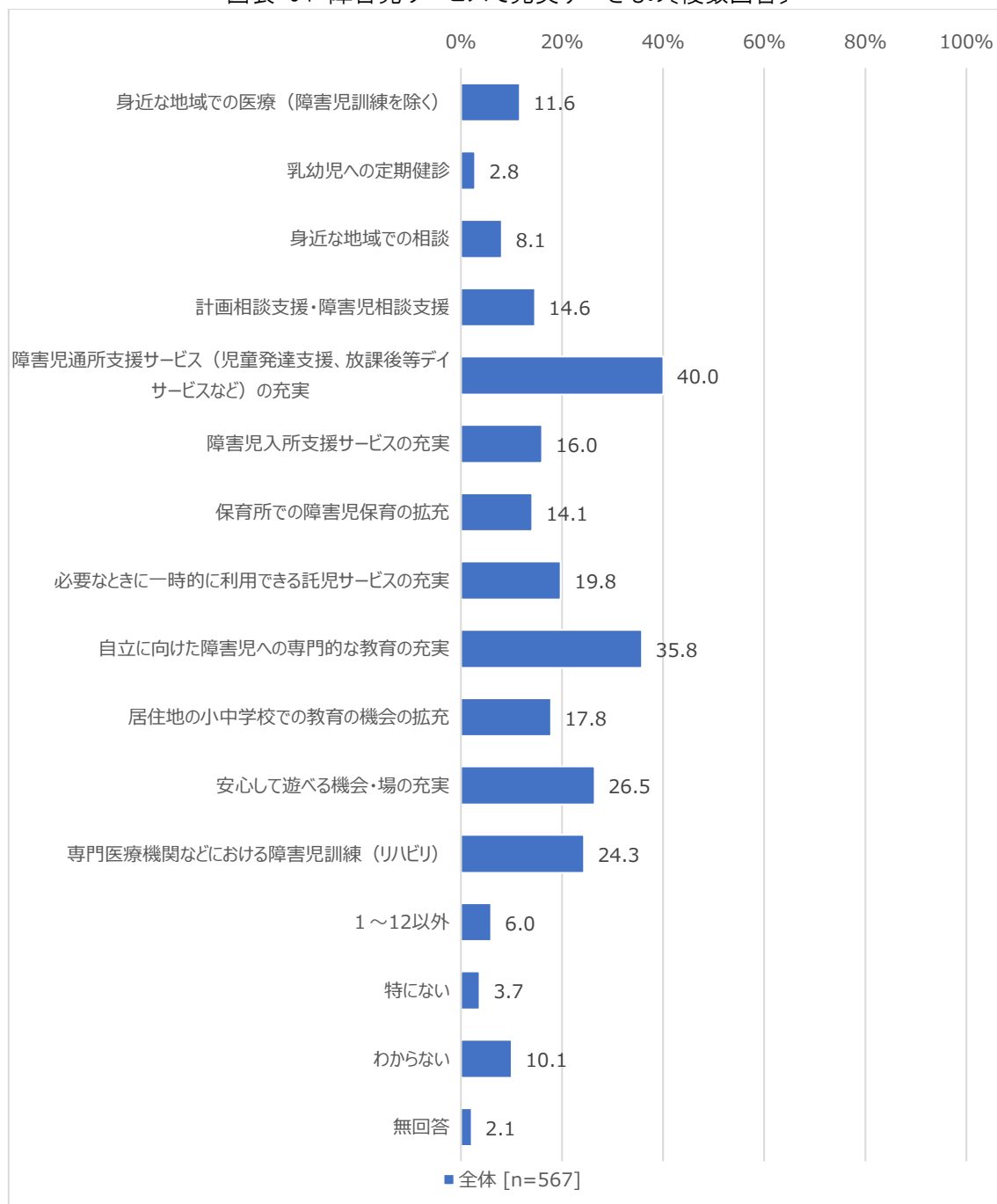
図表 90 現在、在籍している学校



②障害児サービスで充実すべきもの

障害児向けのサービスについて、神戸市においてどのようなサービスを充実させるべきと思うかを聞いたところ、「障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実」の割合が40.0%と最も高く、次いで、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」が35.8%、「安心して遊べる機会・場の充実」が26.5%、「専門医療機関などにおける障害児訓練（リハビリ）」が24.3%等となっている。

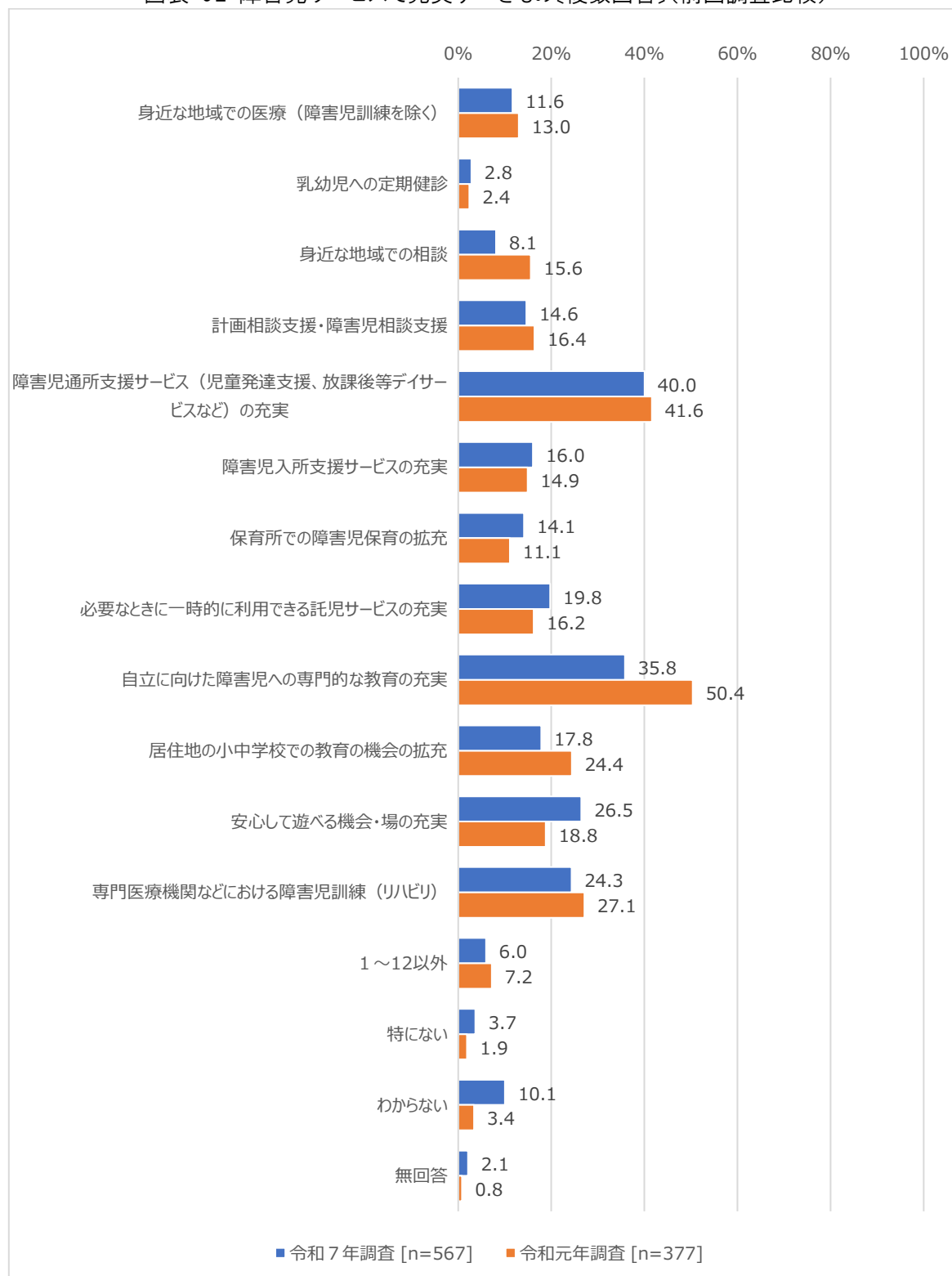
図表 91 障害児サービスで充実すべきもの〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：%)	全体	身体のみ	知的のみ	精神のみ	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n=	567	102	248	5	173	1	12	7	99	263	17	12
身近な地域での医療（障害児訓練を除く）	11.6	16.7	12.1	0.0	9.2	0.0	0.0	14.3	16.2	11.8	5.9	8.3
乳幼児への定期健診	2.8	2.9	3.6	20.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.4	0.0	0.0
身近な地域での相談	8.1	5.9	12.9	0.0	4.6	0.0	0.0	0.0	5.1	8.7	17.6	0.0
計画相談支援・障害児相談支援	14.6	3.9	16.1	20.0	20.2	0.0	16.7	0.0	17.2	14.4	41.2	8.3
障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実	40.0	30.4	39.5	40.0	49.7	0.0	25.0	28.6	45.5	40.3	58.8	25.0
障害児入所支援サービスの充実	16.0	3.9	10.5	20.0	32.4	0.0	16.7	14.3	25.3	12.5	23.5	0.0
保育所での障害児保育の拡充	14.1	22.5	8.1	0.0	19.7	0.0	16.7	0.0	22.2	10.3	5.9	0.0
必要なときに一時的に利用できる託児サービスの充実	19.8	17.6	18.5	40.0	24.3	0.0	25.0	0.0	28.3	20.2	29.4	0.0
自立に向けた障害児への専門的な教育の充実	35.8	29.4	46.8	20.0	27.2	0.0	33.3	14.3	20.2	44.1	52.9	25.0
居住地の小中学校での教育の機会の拡充	17.8	29.4	17.3	0.0	11.6	0.0	16.7	0.0	12.1	14.8	29.4	33.3
安心して遊べる機会・場の充実	26.5	34.3	26.2	20.0	21.4	0.0	16.7	42.9	24.2	27.4	41.2	41.7
専門医療機関などにおける障害児訓練（リハビリ）	24.3	24.5	19.4	0.0	32.4	0.0	8.3	71.4	31.3	20.9	23.5	25.0
1～12 以外	6.0	3.9	4.4	0.0	10.4	0.0	0.0	14.3	10.1	3.8	5.9	0.0
特になし	3.7	3.9	3.6	0.0	1.7	0.0	8.3	0.0	2.0	3.8	0.0	16.7
わからない	10.1	8.8	11.7	20.0	6.9	100.0	25.0	0.0	5.1	13.7	5.9	8.3
無回答	2.1	2.9	0.8	0.0	2.9	0.0	8.3	14.3	2.0	1.1	0.0	0.0

障害児向けのサービスで充実させると思うものについて、前回調査（令和元年）と比較したところ、「障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実」についてはほぼ同じ割合、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」は割合が減少し、「安心して遊べる機会・場の充実」は割合が上昇している。

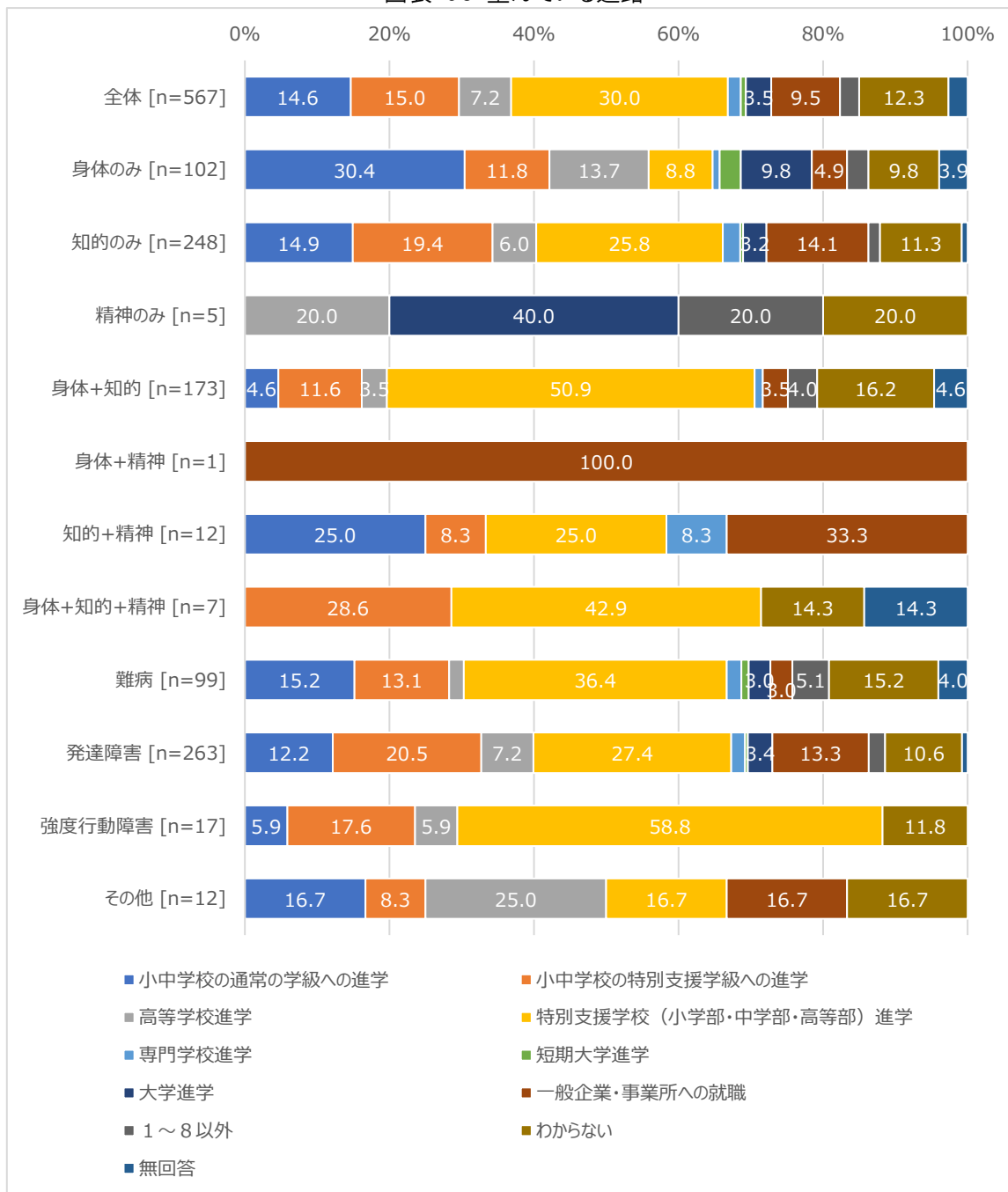
図表 92 障害児サービスで充実すべきもの〔複数回答〕（前回調査比較）



③望んでいる進路

現在、望んでいる進路としては、「特別支援学校（小学部・中学部・高等部）進学」が 30.0%、「小中学校の特別支援学級への進学」が 15.0%、「小中学校の通常の学級への進学」が 14.6%等となっている。

図表 93 望んでいる進路

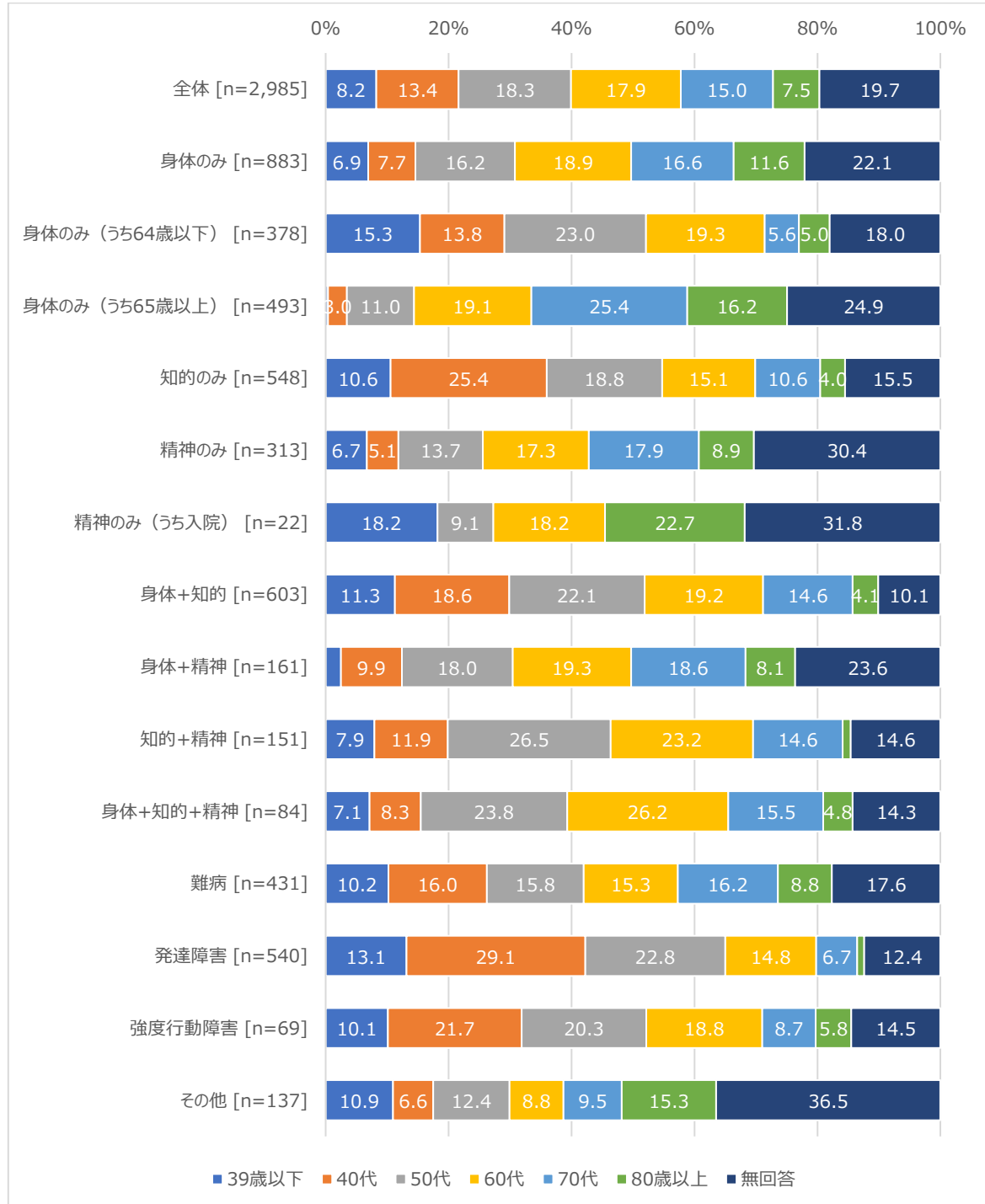


(15) 介助・介護・支援者の状況

① 介助・介護・支援者の年齢

調査対象者を介助・介護・支援している人について、年齢を聞いたところ、「50代」が18.3%、「60代」が17.9%、「70代」が15.0%等で、50代以上の割合が高くなっている。

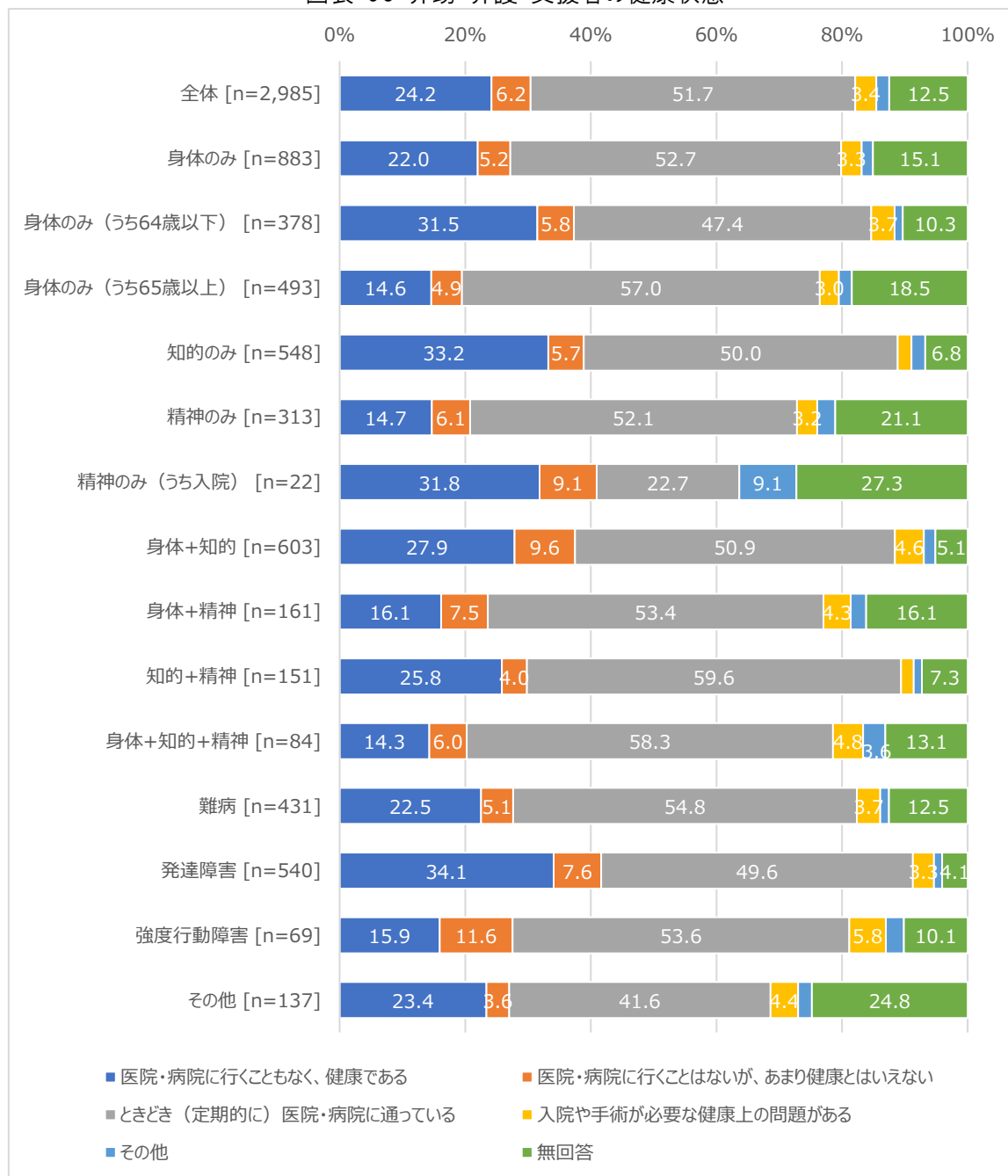
図表 94 介助・介護・支援者の年齢



② 介助・介護・支援者の健康状態

調査対象者を介助・介護・支援している人の健康状態は、「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」の割合が 51.7%と高くなっている。

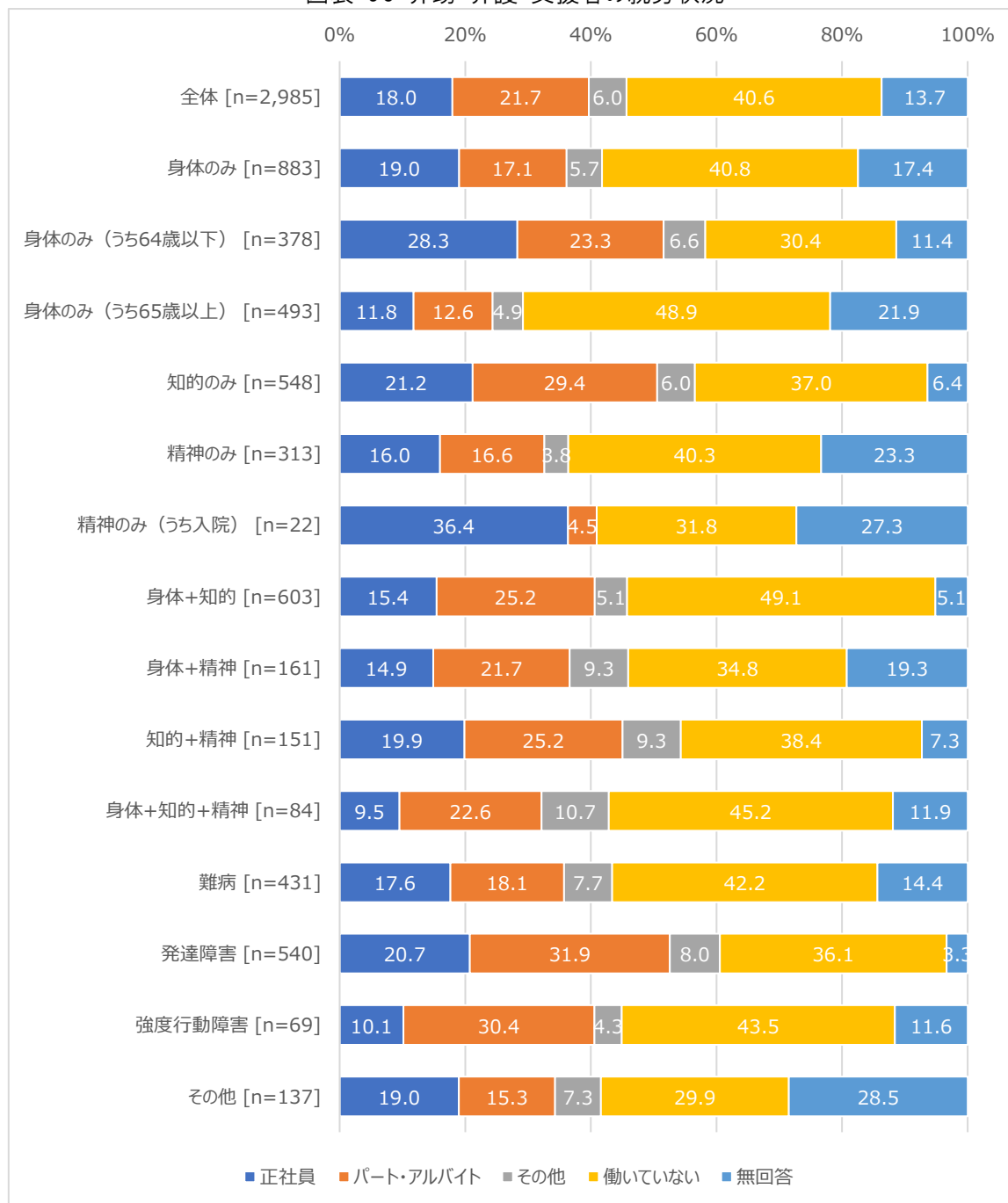
図表 95 介助・介護・支援者の健康状態



③ 介助・介護・支援者の就労状況

調査対象者を介助・介護・支援している人の就労状況は、「働いていない」が40.6%、「パート・アルバイト」が21.7%、「正社員」が18.0%となっている。

図表 96 介助・介護・支援者の就労状況

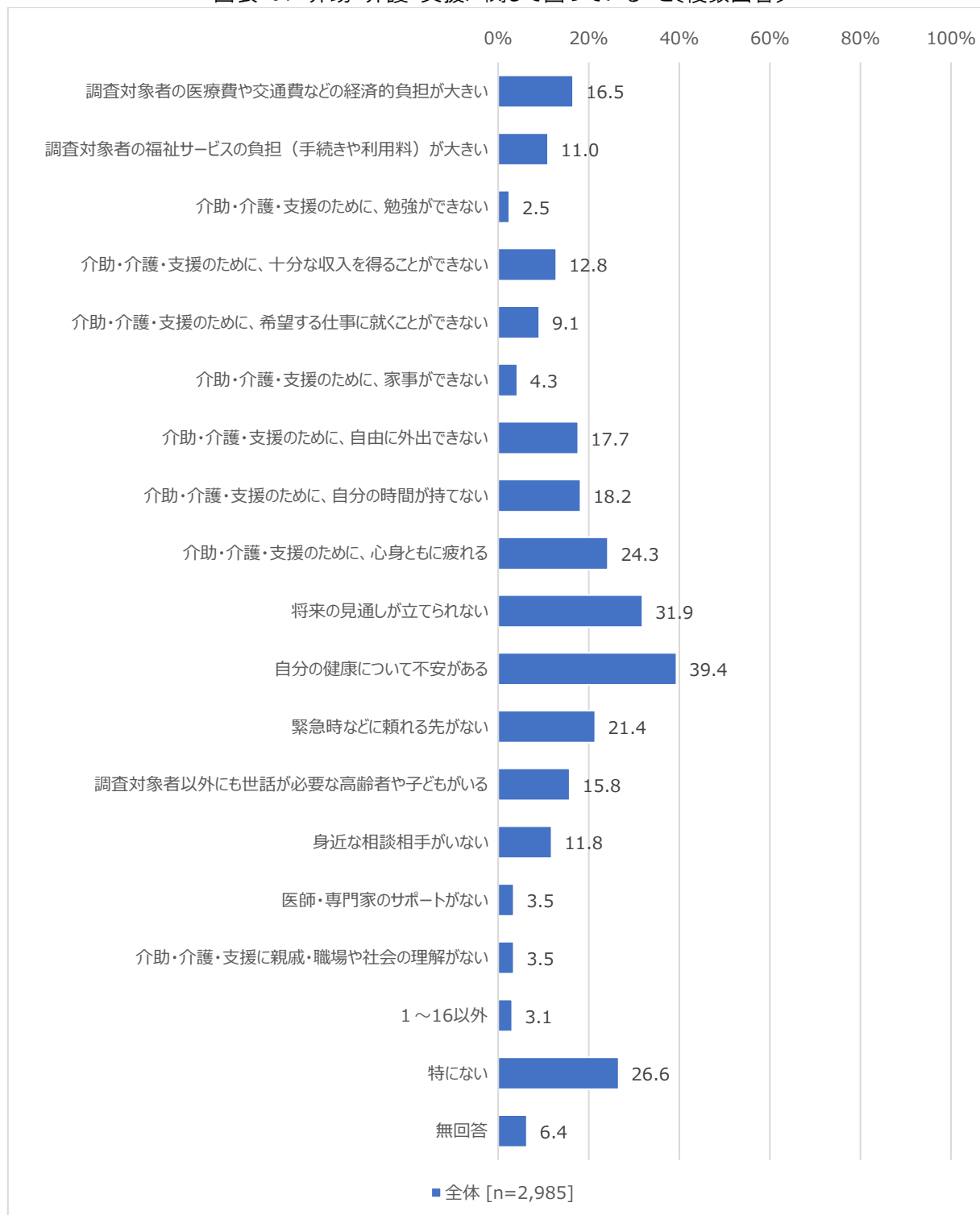


④介助・介護・支援に関して困っていること

介助・介護・支援に関して困っていることを聞いたところ、「自分の健康について不安がある」の割合が39.4%と最も高く、次いで、「将来の見通しが立てられない」が31.9%、「介助・介護・支援のために、心身ともに疲れる」が24.3%、「緊急時などに頼れる先がない」が21.4%等となっている。

「強度行動障害」では全般に困りごとが高くなっている。

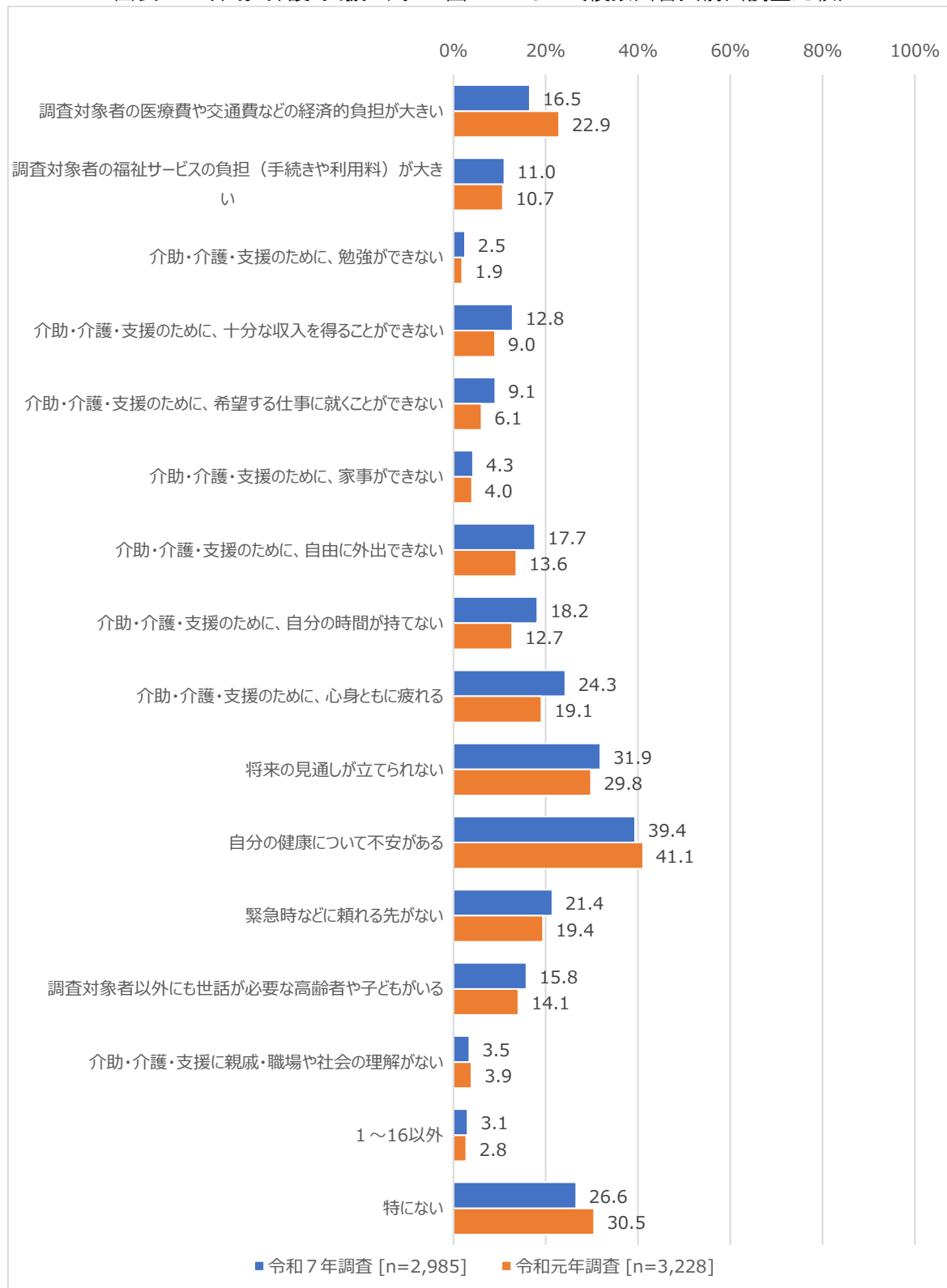
図表 97 介助・介護・支援に関して困っていること〔複数回答〕



手帳所持・診断区分 (単位：％)	全体	身体のみ	身体のみ (うち64歳以下)	身体のみ (うち65歳以上)	知的のみ	精神のみ	精神のみ (うち入院)	身体＋知的	身体＋精神	知的＋精神	身体＋知的＋精神	難病	発達障害	強度行動障害	その他
n＝	2,985	883	378	493	548	313	22	603	161	151	84	431	540	69	137
調査対象者の医療費や交通費などの経済的負担が大きい	16.5	17.8	22.0	15.0	12.4	15.7	22.7	16.1	22.4	15.9	31.0	26.0	19.1	24.6	10.2
調査対象者の福祉サービスの負担（手続きや利用料）が大きい	11.0	9.7	12.2	7.9	11.5	5.8	13.6	14.4	7.5	15.9	21.4	14.8	16.9	18.8	7.3
介助・介護・支援のために、勉強ができない	2.5	1.5	2.6	0.6	2.4	1.0	0.0	3.8	6.2	3.3	2.4	4.2	4.1	5.8	1.5
介助・介護・支援のために、十分な収入を得ることができない	12.8	9.5	15.1	5.3	14.4	7.3	0.0	22.2	9.9	13.2	15.5	17.4	20.9	29.0	6.6
介助・介護・支援のために、希望する仕事に就くことができない	9.1	5.8	9.3	3.0	10.9	3.2	0.0	19.7	2.5	9.3	9.5	14.4	15.9	15.9	2.9
介助・介護・支援のために、家事ができない	4.3	2.6	3.7	1.8	4.2	2.9	4.5	8.0	4.3	2.6	8.3	5.6	6.3	7.2	2.2
介助・介護・支援のために、自由に外出できない	17.7	14.0	15.3	13.2	16.8	7.3	4.5	33.8	9.9	15.2	33.3	23.7	22.8	33.3	5.8
介助・介護・支援のために、自分の時間が持てない	18.2	14.9	16.9	13.8	19.2	9.9	9.1	31.2	12.4	15.9	27.4	21.8	24.8	40.6	8.8
介助・介護・支援のために、心身ともに疲れる	24.3	19.0	18.8	19.7	25.9	17.6	31.8	35.5	19.9	31.1	36.9	30.6	31.1	42.0	16.1
将来の見通しが立てられない	31.9	19.7	26.2	15.0	45.4	24.3	40.9	44.9	26.1	42.4	48.8	31.6	50.2	53.6	15.3
自分の健康について不安がある	39.4	34.8	35.7	34.1	37.8	35.8	22.7	50.4	39.1	38.4	51.2	45.0	40.7	65.2	31.4
緊急時などに頼れる先がない	21.4	14.2	18.5	10.8	24.1	15.3	4.5	33.8	16.1	29.1	31.0	22.3	30.0	49.3	14.6
調査対象者以外にも世話が必要な高齢者や子どもがいる	15.8	11.0	15.6	7.7	22.6	12.5	4.5	22.9	8.1	14.6	22.6	14.6	24.6	26.1	8.8
身近な相談相手がいない	11.8	9.3	12.2	7.3	12.6	17.6	4.5	10.4	11.8	18.5	16.7	11.1	16.1	13.0	8.8
医師・専門家のサポートがない	3.5	2.5	2.6	2.4	5.8	3.2	4.5	3.2	3.1	4.0	2.4	3.5	5.2	4.3	1.5
介助・介護・支援に親戚・職場や社会の理解がない	3.5	2.5	3.7	1.6	3.5	3.2	4.5	4.1	5.6	6.0	7.1	4.4	4.8	7.2	0.0
1～16 以外	3.1	2.2	3.2	1.4	4.4	1.0	4.5	4.6	3.7	3.3	4.8	3.0	4.3	5.8	1.5
特になし	26.6	33.0	29.9	35.1	23.0	30.4	31.8	14.6	31.7	23.8	13.1	22.7	14.3	11.6	40.9
無回答	6.4	7.8	2.9	11.0	4.2	8.3	4.5	5.0	6.2	6.0	4.8	4.4	3.9	5.8	10.9

介助・介護・支援に関して困っていることについて、前回調査（令和元年）の結果と比較したところ、「自分の健康について不安がある」「将来の見通しが立てられない」については、それほど変化はなく、「介助・介護・支援のために、心身ともに疲れる」は上昇傾向が見られる。

図表 98 介助・介護・支援に関して困っていること〔複数回答〕（前回調査比較）



(16) 意見・要望

自由意見は延べ 2,345 件の記入があった。意見の種類としては、将来の不安に関すること、経済的負担に関すること、情報提供・相談に関すること、受け皿の不足に関することなどが多くなっている。

図表 99 自由意見集約結果

意見の種類	件数
親亡き後・将来の不安（居住/支援体制/費用/後見等）	210
経済的負担の軽減（医療費・紙おむつ・交通費・入所/住宅・年金/生活保護水準等）	180
情報提供・相談先が分かりにくい／伴走支援を求める（制度・選択肢・進路・避難・施設情報・リスト化・Q&A 整備等）	175
受け皿不足（ショートステイ・緊急/夜間レスパイト・生活介護・GH/入所・18 歳以降の居場所）	170
教育・学校での支援強化（加配/支援員・グレー層支援・移行期/進路・学習機会・いじめ/暴力対応）	150
移動・交通支援（タクシー券・スクールバス・運賃割引・駐車優遇・歩道/道路の安全）	140
制度基準・対象の見直し（等級・所得制限・年齢要件・在宅でも利用/遡及適用）	130
人材不足・処遇改善（学校支援員・ヘルパー・看護職・介護職）	120
雇用・就労支援と賃金（難病雇用助成・手帳なしの就労場・A/B 間の中間・最低賃金確保・工賃引上げ等）	115
サービスの質・透明性・監査（計画相談の不備、工賃/減額、虐待・不正不安、事業所都合優先、情報開示）	110
バリアフリー・ユニバーサルデザイン（歩道段差・トイレ・駅設備・ベンチ/屋根・案内表示）	110
医療の質・連携・説明/受診拠点・予防接種情報・診断書費用	100
行政窓口の対応改善・標準化（知識差・説明の分かりやすさ・手話/筆談等の配慮・開庁運用）	100
手続きの簡素化・ワンストップ化・デジタル化/更新頻度緩和（郵送・オンライン・マイナンバー連携等）	95
ポジティブ・感謝（現行支援が役立っている／今は要望なし）	95
アンケート・調査票に関する改善要望（分量・設問適合性・オンライン回答化・フィードバック）	85
住まい・住宅支援（バリアフリー改修/新築支援、家賃助成、住み替え、市営住宅、シェア型住まい）	80
家族/介護者支援・家事援助・見守り（小修繕・戸別ごみ収集・金銭管理支援等）	70
障害理解の促進・差別の解消（公共交通/地域/企業の啓発・研修）	65
防災・災害時配慮（避難先・医療機器電源・情報伝達の可聴性/広報）	45

※自由意見については、各意見内容から要望などの重要な要素を抽出して分類し、件数の集計を行った（1つの意見に複数要素が含まれる場合はそれぞれ計上）。

具体的な施策・事業等としての要望では、下記のようなものが多く見られた。

図表 100 具体的な施策・事業等として多く見られる内容

施策・事業等の要望	件数
グループホーム・入所先の不足（重度対応・小規模家庭的・女性向け含む）	95
ショートステイ/レスパイトの不足（特に医療的ケア児・重度者、緊急・夜間）	85
等級・所得制限・年齢要件の見直し（B2・69 歳未満医療・特児手当・補装具等）	60
18 歳以降の居場所/タ～夜間サービスの不足	40
公共空間の UD（トイレ・エレベーター・ベンチ/屋根・案内表示・段差解消）	35
タクシー券・運賃助成（枚数増、1 回使用枚数上限引上げ、介護タクシー、スクールバス）	32
加配・支援員の不足（保育園・幼稚園・小中支援級・交流学級）	28
相談・家族会・親の会/横のつながりの場の整備	26
グレーゾーン/支援級に当てはまりにくい児の支援・進路情報	22
事業所・施設の監査/質管理の強化（抜き打ち、情報開示、苦情対応）	20
紙おむつ・ストマ等の給付減額への復元/増額要望	18
スクールバス/通学支援（看護師同乗、送迎支援、登下校サポート）	15
防災時の要配慮者対応（福祉避難所の事前認定、機器電源、情報音声の聞き取り）	15
計画相談・相談支援の質不均一/セルフプラン偏重の是正	14
家事・小修繕・戸別収集などの「小さな実務支援」	10

3 調査結果まとめ

(1) 暮らしに関する結果と考察

①日常生活の状況

- 障がい者本人の年齢は、50 代以上の割合が高くなっている。手帳所持・診断区分で見ると、「発達障害」「知的のみ」「身体+知的」で「18 歳未満」の割合が高くなっている。
- 介助・支援の状況は、「介助・支援を受ける必要はない」が 34.1%、「家族や親戚から介助・介護・支援を受けている」が 40.3%となっている。手帳所持・診断区分別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「発達障害」で介助・支援を受けている人の割合が 6 割以上と高くなっており、特に「身体+知的」において各介助・支援について各項目の割合が高くなっている。
- 全体の傾向として、区役所などの手続き、パソコン、金銭管理などの事務的な作業、食事のしたく、洗濯、外出・買い物、掃除などの家事について、「介助が必要（一部介助が必要・すべて介助が必要）」とする人が多くっており、生活援助サービスの需要が高いといえる。
- 福祉サービスを受けたときなどに困ったこととしては、「どんな福祉サービスがあるのか知らない」が 27.5%と突出して高くなった。他は「どの事業者が良いのかわからない（事業者情報が不十分）」が 10.8%、「必要な日や必要な時間に使いたいサービスが使えなかった」「サービス提供事業所や人員の不足によりサービスが使えなかった」がともに 8.3%となる。サービス利用において事業者とのマッチング（コーディネート）機能が必要であると考えられる。
- 介助・支援の程度について、「一部介助が必要」「すべて介助が必要」を回答した人の割合を年齢区分で見ると、18 歳未満で割合が高く、また高齢の年齢層では年齢が上がるほど割合の高くなる傾向が見られる。障害支援区分認定、医療的ケアとともに「身体+知的」「身体+知的+精神」において認定・利用割合が高くなり、区分 6 が多い。療育手帳の A の割合が 4 割であることから若年者に重度障がいが多いと推察される。居住区分では、入所施設やグループホーム等の居住者で割合が高くなる傾向が見られ、重度障がい者の入所が多い状況にある。
- 同居者については「精神のみ」「身体+精神」は「一人で暮らしている」割合が他の手帳所持・診断区分に比べて高くなっている。また当該属性は「民間の賃貸住宅・借家」の割合が高くなっていることから、一人暮らしで民間賃貸等に居住している割合が、他の手帳所持・診断区分より高いといえる。「知的+精神」「身体+知的+精神」はグループホームが 1 割程度と高くなっている。
- 現在の住まいで困っていることでは、「老朽化している（古くなっている）」「家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難」「風呂が使いにくい（または、風呂がない）」があげられている。「老朽化」は全手帳所持・診断区分に共通した困りごとであるが、「家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難」「風呂が使いにくい（または、風呂がない）」などは「身体」の障がいが含まれる方の困りごととして高くなっている。
- 入所施設やグループホームで暮らしている人に、施設のサービスを受ける中での困りごとを聞いたと

ころ、「身の回りのことが自分では十分にできない」「外出の機会が少ない」「健康状態に不安がある」「将来の生活に何となく不安を感じる」が高い割合となっている。

- 将来の住まいと介助・介護・支援のあり方についての希望としては、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」が最も高くなるが、「精神のみ」「精神のみ（うち入院）」「身体+精神」「知的+精神」など精神障がいを含む方に「地域で独立した生活がしたい（家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい）」の希望が他の手帳所持・診断区分と比べて高くなっている。
- グループホームや施設での生活を希望する人に、入所・入居の希望時期を聞いたところ、「具体的な時期はわからないが、将来的に入所・入居したい」が77.0%と高くなっているが、「精神のみ（うち入院）」は他の手帳所持・診断区分と比べて具体的な入所・入居希望時期を回答している割合が高い。
- 自分が自宅・地域で生活するために必要な条件については、「主治医や医療機関が近くにあること」「生活するのに必要な収入が十分あること」「安心して住み続けられる家があること」「安心して利用できる相談員や相談窓口があること」「家族と同居できること」となっている。

②社会参加の状況

- 地域活動に参加するために必要だと思うことについては、「家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること」「休日にも利用でき、気軽に立ち寄れる場所（喫茶店など）があること」「地域のイベントなどで地域の人と交流し、顔見知りになること」「地域活動の中で障害を理由とした差別などがないこと」となっている。また、地域活動支援センターについては、「センターを知らなかった」という人が44.1%と高く認知度に課題がある。
- 外出時に最も利用する移動手段としては、「バス・鉄道などの公共交通機関」が4割、次いで「自家用車」となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的のみ」「精神のみ」「精神+身体」「知的+精神」「発達障害」で「バス・鉄道などの公共交通機関」の割合が高く、「身体+知的」「難病」では「自家用車」の割合が高く、「精神のみ（うち入院）」は「タクシー」「徒歩（シニアカー、車椅子を含む）」の割合が高くなっている。
- 最も利用する移動手段での外出頻度で「週に6日以上」「週に4～5日」など頻度が多い状況をみると「身体のみ（うち64歳以下）」「知的のみ」「知的+精神」「発達障害」に高くなり、「バス・鉄道などの公共交通機関」の回答割合が高い属性と重なる。
- 最も利用する移動手段での外出目的では、「病院などへの通院」が最も高く、次いで「買い物や銀行、郵便局、散髪など、日常生活上の必要に応じて」となる。先の設問にあった「バス・鉄道などの公共交通機関」の回答割合が高く、外出頻度も多い属性であった「身体のみ（うち64歳以下）」「知的のみ」「知的+精神」「発達障害」は「通勤や通学」の割合が他の属性に比べて高くなる。
- 外出に関し利用している神戸市の助成制度では、「福祉乗車証（福祉パス）」が半数を占めている。手帳所持・診断区分で見ると、「知的+精神」「知的のみ」「発達障害」で「福祉乗車証（福祉パス）」の割合が高くなっており、先の設問と併せてみると外出頻度の高い属性からの利用が多いといえる。また「精神のみ」「精神のみ（うち入院）」では「これらの制度は利用していない」の割合が高くなる。

- 外出するときの心配・困りごとは「特にない」が3割程度と最も高いが、意見としては「バスや鉄道などの便が少ない（路線がないなど）」「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」「困ったときにどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配になる」などがあげられた。

(2) 就労についての結果と考察

- 現在の就労状況では、働いている人については、「一般企業に勤めている」が16.8%となっている。一方、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」は3割を占めている。手帳所持・診断区分で見ると、「一般企業に勤めている」は「身体のみ（うち64歳以下）」が4割程度と高く、「精神のみ」「難病」も2割程度を占める。
- 就労をしている人（A型事業所含む）の現在の仕事の内容では、「事務的な仕事」、「運搬・清掃・包装などの仕事」が高くなる。手帳所持・診断区分で見ると、「身体のみ（64歳以下）」「身体+精神」「難病」は「事務的な仕事」の割合が高く、「知的のみ」「身体+知的」「知的+精神」「発達障害」は「運搬・清掃・包装などの仕事」の割合が高くなる。
- 就労をしている人（A型事業所含む）の現在の雇用形態は、「正社員」「パート・アルバイト」が高くなる。手帳所持・診断区分で見ると、「身体のみ（うち64歳以下）」「精神のみ」「身体+精神」「難病」は「正社員」の割合が高く、「知的のみ」「身体+知的」「知的+精神」「発達障害」は「パート・アルバイト」の割合が高い。
- 1か月の給料の額を聞いたところ、「10万円以下」が19.8%、「30万円以下」が19.3%となっており、平均額は192,828円である。雇用形態が「正社員」となる属性の平均額は相対的に高くなり、勤務先別で1か月の給料の額を見ると、一般企業に勤めている人で、給料の比較的高い人の多い傾向が見られる。他方、「就労継続支援A型事業所で働いている」人は10万円を切っている。但し令和6年度の就労継続支援A型事業所の給与について、全国平均が91,451円/月であることから平均より上にあるといえる。
- 以前に一般企業や自営業等で働いたことのある人に、仕事を辞めた理由を聞いたところ、「病気のため」や「定年退職」が最も高くなるが、職場環境に関わる理由では「人間関係がうまくいかなかったから」「仕事が大変すぎたから」「いじめ・パワハラ・セクハラなどがあったから」の割合が高くなる。「給料が安かったから」「能力が生かせなかったから」「通勤が負担だったから」という回答割合は低く、職場環境に課題があることが浮き彫りになっている。
- 現在働いておらず、今後の就労意向のある人に、希望する週の勤務日数を聞いたところ、「週4日以上」が6割、「週2～3日」が3割となっている。また一日の希望勤務時間を聞いたところ、「4時間以上6時間未満」「6時間以上」がそれぞれ3割強となっている。
- B型事業所等で生産活動の従事している人の1か月の平均工賃収入について聞いたところ、「2万円以下」が21.6%、「1万円以下」が18.9%等となっている。平均額は12,691円である。また、工賃の「収入なし」は17.0%となっている。令和6年度における全国平均工賃（月額）は24,141円/月

であり、差があるといえる。福祉的就労での工賃確保・向上について検討が求められる。

- 今後、神戸市で障害のある人が就労していくために、どのようなことが必要だと思うかという意見では、「職場に障害の理解やサポートがあること」「職場に障害者に配慮した設備などが整っていること」「通勤手段が確保できること、通勤のサポートが確保できること」「短時間勤務や週の数日のみ働ける職場を増やすこと」などがあげられている。
- 会社勤務で正社員となることが収入面などからは望ましく見えるが、職場環境次第のところもあり、現状において、障がいの属性によっては一般就労を望まない人が多くなる場合もあることがわかる。今後、日中にどんなことをして過ごしたいかを聞いたところ、「自宅で過ごしたい」が最も多くなるが、手帳所持・診断区分で見ると、「身体のみ（うち 64 歳以下）」「発達障害」の 3 割が「正社員で働きたい」と回答している。多様な選択ができる環境を整えていくことが求められている。

(3) 相談支援についての結果と考察

- 障害者のための福祉サービスの情報をどのような手段で得ているかを聞いたところ、「各区保健福祉部（福祉事務所、保健所）」「医療機関、主治医」が高くなっている。年齢別で見ると、「市の広報紙・パンフレットなど」は年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。居住形態別で見ると、グループホームや入所施設等では、「福祉施設などの職員」の割合が高くなっている。
- 情報入手手段として「音声コードやその他読み取り機能などの利用」を回答した人に、利用しているものを聞いたところ、「携帯電話・スマートフォン・タブレットの読み上げ機能を使用している」が 4 割程度と最も高い。次いで「携帯電話・スマートフォン・タブレットで音声コードを読み取っている」が 3 割程度となる。福祉サービスに関する情報で必要と思う情報については、「日常生活」に関する情報の意向が高く、次いで「経済的なこと」となる。
- 障害福祉サービス等の利用計画については、「利用計画を作成していない」が 36.0%となっており、計画を作成している人では、「計画相談支援事業所または障害児相談支援事業所の相談支援専門員」が 17.6%、「家族・保護者（セルフプラン）」が 13.7%、「あなた本人（セルフプラン）」が 7.9%となっている。
- 計画相談支援・障害児相談支援を利用しているかについては、「利用していない」が 58.6%、「利用している」が 20.8%となっている。手帳所持・診断区分で見ると、「身体+知的」等で「利用している」の割合が高くなっている。利用していない割合は前回調査結果とほぼ変わっていない。計画相談支援・障害児相談支援を利用したいが、現在利用していない人に、その理由を聞いたところ、「そもそも、制度について知らなかった」が 51.3%と多くなっている。
- サービス利用は「知らない」ことでつながっていないことが多く、相談相手やツールなど情報提供についての工夫が求められる。
- 生活で困っていることや不安に思っていることでは、「自分の健康や体力に自信がない」が 36.2%と最も多く、次いで、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」が 25.6%、「家族など介助者の健康状態が不安」が 17.7%、「一人での外出が不安」が 16.8%等となっている。

- 介護・介助者の年齢を聞いたところ、50代以上の割合が高くなっており、健康状態は、「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」が51.7%と多くなっている。介助・介護・支援に関して困っていることは「自分の健康について不安がある」「将来の見通しが立てられない」「介助・介護・支援のために、心身ともに疲れる」「緊急時などに頼れる先がない」などとなっている。前回調査（令和元年）の結果と比較したところ、「介助・介護・支援のために、心身ともに疲れる」は上昇傾向が見られた。このような実態から、介護・介助の負担を軽減する支援機能、また将来の生活についての不安を解消する施策へのニーズは極めて高いといえる。

（4）差別・偏見についての結果と考察

- これまでに障害を原因とした差別や偏見を受けたことはあるかどうかを聞いたところ、「ない」が47.2%、「ある」が27.7%となっており、前回調査からあまり変わっていない。
- 差別や偏見を受けたことのある人に、差別や偏見を受けた場所・場面について聞いたところ、「学校」が40.6%と最も多く、次いで、「職場・アルバイト先」が26.6%、「買い物するとき」が21.9%、「バス・鉄道・船・飛行機、あるいはそれらの乗り場」が20.4%となる。自由意見をみると、障害に対する理解不足が最も多く、いじめ、窓口・学校・病院等の対応、暴力・言葉の暴力なども多くなっている。特に、他者から奇異な目で見られることや、障害に対する無配慮・無理解、誤った理解、職場等での偏見・理解不足・不当な扱い、障害に対するからかいや陰口、無視などのいじめ行為、医療機関や交通機関等での対応、障害に対する無神経な言葉・言葉の暴力などをあげる内容が多くなっている。
- 法律や条例などについて知っているか聞いたところ、「ヘルプマークまたはヘルプカード」が43.9%と多くなっている。また、「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」が17.7%となっている。前回に比べて「ヘルプマークまたはヘルプカード」を知っている割合、「ヘルプマーク」を持っている割合がともに高くなっている。
- 差別や偏見がある状況があまり変わっていない実態があり、いっそうの働きかけ・啓発が求められている。

（5）災害対応などについての結果と考察

- 家族不在や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいるかどうかを聞いたところ、「いない」が43.0%、「いる」が26.8%、「わからない」が21.7%となっている。前回調査と比べると「いる」がやや減少しているが大きな変化は見られない。
- 台風や地震などの災害時に困ることとしては、「避難所の設備（トイレなど）や生活環境が不安である」「食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい」「投薬や治療が受けられない」「自分で判断して身を守ることが難しい」「安全なところまですぐに避難することができない」などが高くなる。
- 福祉避難所について、どういうときに利用できるか、またどこにあるか知っているかを聞いたところ、「知らない」が8割を超えている。前回調査より「知らない」割合が高くなっている。

- 地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加しているかどうかを聞いたところ、「今まで全く参加したことがない」が43.9%、「参加している」が22.5%、「過去に参加したことはあるが、現在は参加していない」が18.9%となっている。防災訓練に「過去に参加したことはあるが、現在は参加していない」と回答した人に、防災訓練に参加しない理由を聞いたところ、「防災訓練があることを知らない」が33.7%と最も多い。
- ここでも「知らない」という回答が多くなり、情報をいかに伝えるか、参加を促す地域での関係性をどのように作っていくかが課題となっている。

(6) 障がい児についての結果と考察

- 神戸市において障がい児サービスで充実すべきものが何かを聞いたところ、「障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実」が40.0%と最も多く、次いで、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」が35.8%、「安心して遊べる機会・場の充実」が26.5%、「専門医療機関などにおける障害児訓練（リハビリ）」が24.3%となる。
- 障がい児向けのサービスで充実させるべきと思うものについて、前回調査（令和元年）と比較したところ、「障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実」についてはほぼ同じ割合、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」は割合が減少し、「安心して遊べる機会・場の充実」は割合が上昇している。

